

高齢者実態調査の実施状況について

1 調査目的

「第9期 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画」（よこはま地域包括ケア計画）策定のための基礎的資料を得るため、高齢者の生活実態、介護保険サービスの利用状況・利用意向、介護サービス事業所・介護施設等の運営状況、介護従事者の現状や意識などについて、調査を実施しました。

2 調査期間

令和4年10月～12月

3 調査の実施状況

調査の分類		対象者数	回収状況 (回収率)
市民向け調査	1 高齢者一般調査（65歳以上で要介護認定を受けていない） 2 一般調査（40歳以上64歳以下） 3 介護保険在宅サービス利用者調査（要支援） 4 介護保険在宅サービス利用者調査（要介護） 5 介護保険サービス未利用者調査（要支援・要介護） 6 小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護利用者調査 7 定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者調査 8 特別養護老人ホーム入所申込者調査	18,795人	11,089人 (59.0%)
事業所向け調査	9 特別養護老人ホーム調査 10 介護老人保健施設調査 11 介護サービス事業所（居住系）調査 12 介護サービス事業所（訪問・通所系）調査 13 居宅介護支援事業所調査 14 地域ケアプラザ調査 15 医療機関調査（認知症に関する調査）	7,653か所	3,560か所 (46.5%)
従事者向け調査	16 ケアマネジャー調査 17 訪問介護員（ホームヘルパー）調査 18 施設介護職員調査 19 外国人介護職員調査		4,690人 ※

※ 従事者向け調査については、母数を把握していないため、回収率の算出は行わない

4 高齢者実態調査の調査結果（抜粋）

現行の第8期計画の施策体系ごとに、調査結果を整理しました。

■調査結果について

※グラフ・表中の「n」はアンケートの有効回収数を示しています。

※比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。

※複数回答のグラフ・表は、回答数が少ない選択肢等を省略している場合があります。

I 地域共生社会の実現に向けた地域づくりを目指して

① 地域活動への参加状況

問 あなた（あて名ご本人）はこの1年間に、個人・団体で次のような地域活動やボランティアに参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

この1年で参加した地域活動について、「全く参加していない」は“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに前回から大幅に増加している。

調査結果報告書 43 頁参照

【経年比較（全く参加していない）】

		(%)			
		R4	R1	H28	H25
		2022年	2019年	2016年	2013年
02	一般40～64歳	71.0	54.8	58.2	40.8
01	高齢者一般	57.7	38.8	42.8	30.3

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

※ “高齢者一般”…65歳以上で要介護認定を受けていない方

② 参加・利用してみたい活動

問 次のうち、参加・利用してみたいと思うものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

“一般 40～64 歳” “高齢者一般” とともに、「特にない」を除き、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が最も多く、次いで、“高齢者一般” では「仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場」、 “一般 40～64 歳” では「地域貢献となるボランティア」が多くなっている。

年齢別でみると、「地域貢献となるボランティア」は、年齢が若いほど割合が多い傾向がある。

調査結果報告書 46 頁参照

		(%)										
		有効回収数 (n)	ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	地域貢献となるボランティア	パソコンやインターネットなどの学習ができる場	鑑賞等(書道、俳句等)を中心とした仲間と集まる場	文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術)	仕事等の知識や経験を活かしたボランティア	農作業を中心とした仲間との活動の場	社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	特にない
02	一般40～64歳	(1,397)	32.6	17.3	30.6	15.5	14.5	16.0	12.7	3.1	33.7	
01	高齢者一般	(2,733)	37.2	18.3	17.7	16.2	13.9	7.8	6.9	2.0	33.1	
■年齢別												
一般 40 ～ 64 歳	40～44歳	(203)	28.6	14.8	36.9	12.3	12.3	15.8	11.8	2.0	32.5	
	45～49歳	(275)	34.9	17.1	32.4	12.7	15.3	17.5	10.5	4.4	31.6	
	50～54歳	(326)	31.0	19.6	31.6	14.4	14.7	15.3	16.0	3.7	35.6	
	55～59歳	(289)	28.4	14.5	28.4	15.9	11.8	17.3	13.8	2.1	37.4	
	60～64歳	(301)	38.9	18.9	25.9	20.6	17.6	14.3	10.6	3.0	30.9	
高 齢 者 一 般	65～69歳	(629)	42.0	17.3	20.5	18.0	15.6	9.9	8.6	2.4	33.7	
	70～74歳	(807)	36.8	18.8	20.1	18.7	13.8	9.3	7.6	2.5	33.7	
	75～79歳	(623)	39.5	19.9	18.0	13.8	14.9	7.7	5.8	1.6	31.8	
	80～84歳	(453)	31.3	18.1	13.7	15.7	11.9	5.3	7.1	2.0	32.0	
	85歳以上	(218)	30.7	14.7	7.8	9.6	11.0	1.8	2.3	0.5	34.9	

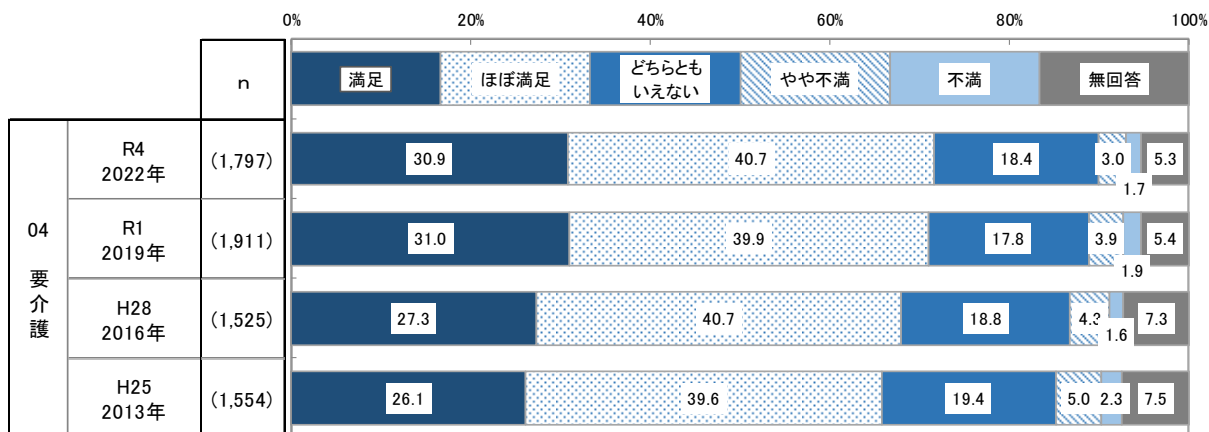
Ⅱ 地域生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して

① 介護サービスの満足度

問 現在受けている介護サービスの質に、満足していますか。 (〇はひとつ)

「満足」と「ほぼ満足」を合計した『満足』は、71.6%となっている。
過去の結果と比較すると、『満足』は微増となっている。

調査結果報告書 67 頁参照



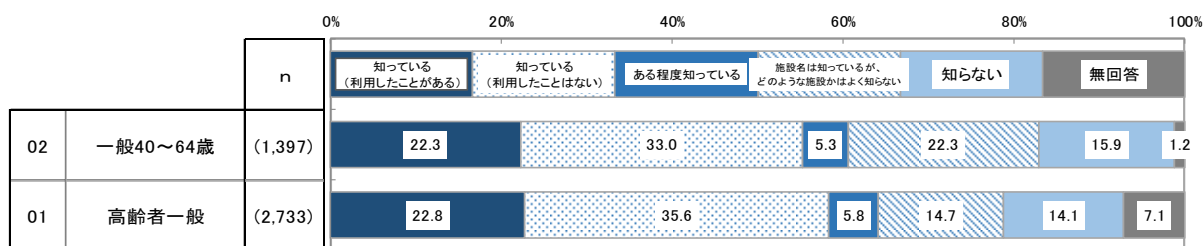
② 地域ケアプラザの認知度

問 あなたは、地域ケアプラザを知っていますか。 (〇はひとつ)

「知っている (利用したことがある)」「知っている (利用したことはない)」「ある程度知っている」を合計した『知っている』は、“一般 40～64 歳”では 60.6%、“高齢者一般”では 64.2%となっている。

過去の結果と比較すると、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”ともに「施設名は知っているが、どのような施設かはよく知らない」「知らない」が減少している。

調査結果報告書 83 頁参照



【経年比較】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
知っている (利用したことがある)	22.3	17.6	16.4	22.8	20.7	22.4
知っている (利用したことはない)	33.0			35.6		
ある程度知っている	5.3	25.2	30.7	5.8	33.2	24.1
施設名は知っているが、 どのような施設かはよく知らない	22.3	35.8	31.3	14.7	26.6	27.4
知らない	15.9	20.4	20.4	14.1	15.9	16.8

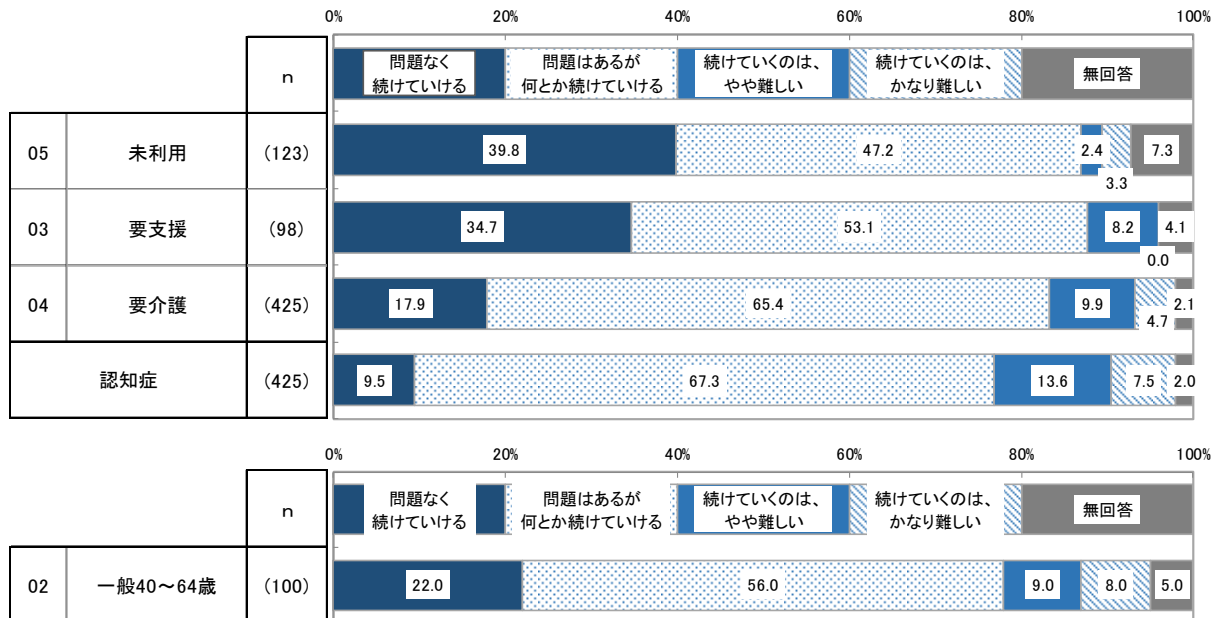
③ 介護者の仕事と介護の両立

問 今後も働きながら介護を続けていけそうですか。 (あてはまるものすべてに○)

全ての対象者で「問題はあるが何とか続けていける」が最も多くなっている。

一方で、「続けていくのはかなり難しい」「続けていくのは、やや難しい」の合計は、“認知症”で21.1%と最も多くなっている。

調査結果報告書 97 頁参照



※ “未利用” …介護保険サービスの利用が確認できなかった要介護認定者

※ “認知症” …市民向け調査の回答結果から、「認知症を治療中」または「認知症と診断されたことがある」と回答した方の結果を抽出・集計

※ 「未利用者」～「認知症」は調査対象者を介護している方が回答

※ 「一般 40～64 歳」は調査対象者のうち、家族等の介護をしている方が回答

Ⅲ ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して

① 介護が必要になった場合の暮らし方の希望

問 あなた（あて名ご本人）は、介護サービスの利用と住まいについて、どのようにお考えですか。最も近いものをお選びください。（〇はひとつ）

“一般 40～64 歳” “高齢者一般” “要支援” “要介護” “認知症” とともに「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が最も多く、“要介護”では 54.4% となっている。次いで「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が 2 割～3 割となっている。

調査結果報告書 106 頁参照

	02 一般40～64歳 (1,397)	01 高齢者一般 (2,733)	05 未利用 (1,797)	03 要支援 (547)	04 要介護 (1,797)	認知症 (647)
介護が必要になっても、介護サービスを利用せずに、 家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	3.2	3.8	17.7	9.1		5.3
介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、 できるだけ自宅で暮らしたい	38.4	46.6	29.3	40.4	54.4	43.3
バリアフリー化された高齢者向け住宅などに住み替えて、 在宅介護サービスを受けながら暮らしたい	7.0	2.2	1.7	1.8	0.9	0.9
日中、ケアの専門家が建物に常駐し、 安否確認サービスと生活相談サービスを提供する、 「サービス付き高齢者向け住宅」に入居したい	6.4	3.8	1.8	2.0	0.5	0.5
健康なうちから将来介護を受けられる 老人ホームなどに入所したい	2.6	1.9	2.3	1.5	1.1	1.5
できる限り自宅で暮らしたいが、 介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの 介護施設に入りたい	26.5	23.4	29.3	24.9	25.9	28.0
すでに介護施設等に入所・入居申込みをしている	0.1	0.1	0.4	0.2	0.9	1.7
その他	0.9	0.6		0.9		-
わからない	10.7	6.5	8.9	7.5	10.3	12.7
無回答	4.2	11.1	8.6	11.7	6.0	6.2

	02 一般40～64歳 (1,397)	01 高齢者一般 (2,733)	05 未利用 (1,797)	03 要支援 (547)	04 要介護 (1,797)	認知症 (647)
自宅で暮らしたい	41.6	50.4	47.0	49.5	54.4	48.5
自宅以外の施設等で暮らしたい	43.5	32.0	35.5	31.3	29.3	32.6
わからない	10.7	6.5	8.9	7.5	10.3	12.7
無回答	4.2	11.1	8.6	11.7	6.0	6.2

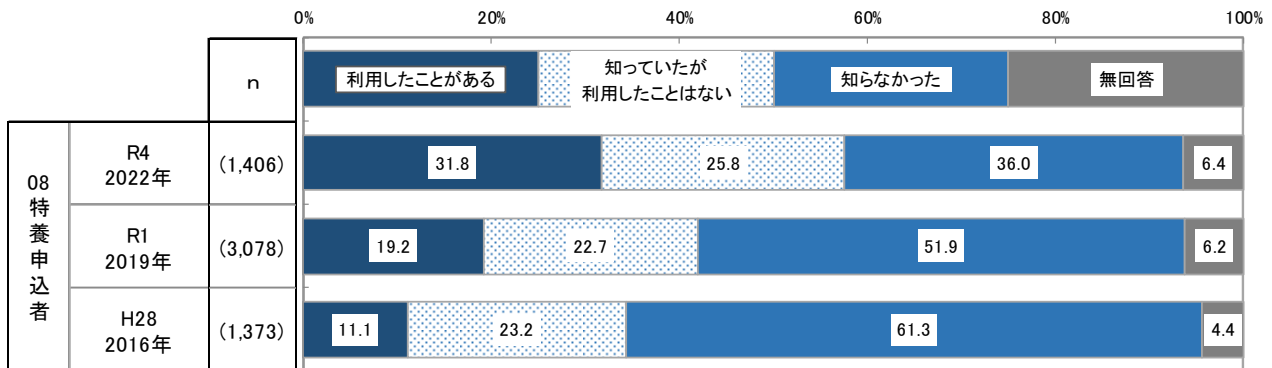
② 高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況

問 「高齢者施設・住まいの相談センター」で高齢者の施設や住まいについての相談を受け付けています。利用したことがありますか。 (〇はひとつ)

“特養申込者”のうち、「利用したことがある」は31.8%となっており、「知らなかった」は36.0%となっている。

過去の結果と比較すると、「利用したことがある」は増加している。

調査結果報告書 116 頁参照



IV 安心の介護を提供するために

① 施設（事業所）職員の不足状況

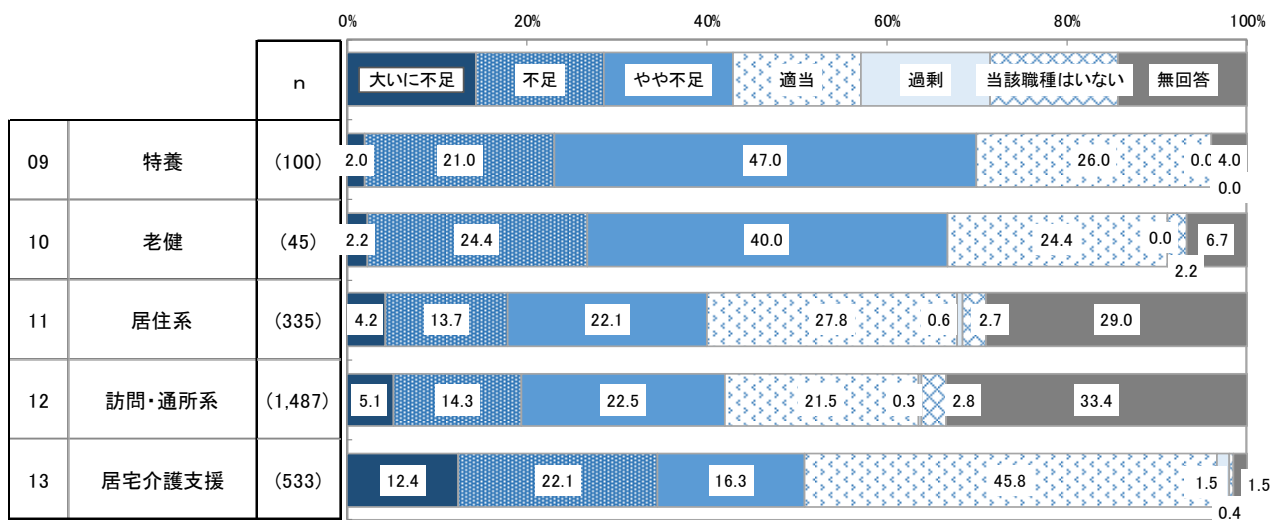
問 貴施設（事業所）では、従業員の過不足の状況はいかがですか。「不足している」とは、募集を必要としていることを指します。 (〇はひとつ)

“特養”“老健”では、「大いに不足」「不足」「やや不足」を合計した『不足』が、約7割と大半を占めている。

一方で、“居宅介護支援”では、『不足』は50.8%と“特養”“老健”に比べて少ないものの、「大いに不足」が12.4%と全ての対象施設（事業所）の中で最も多くなっている。

過去の結果と比較すると、「大いに不足」「不足」「やや不足」の合計は、“老健”“居住系”“訪問・通所系”では減少しているものの、“居宅介護支援”では大幅に増加している。

調査結果報告書 121 頁参照



【経年比較（大いに不足・不足・やや不足の合計）】

(%)

		R4	R1
		2022年	2019年
09	特養	70.0	67.4
10	老健	66.6	72.5
11	居住系	40.0	50.3
12	訪問・通所系	41.9	48.8
13	居宅介護支援	50.8	31.8

② 介護職のイメージ【新規】

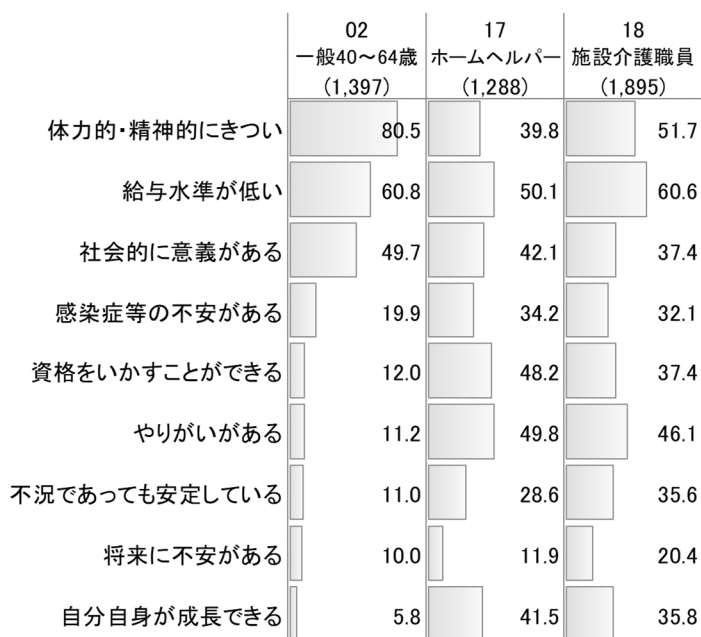
問 介護職に対するイメージとしてあてはまるものを選択してください。
(あてはまるものすべてに○)

“一般 40～64 歳”では「体力的・精神的にきつい」が 80.5%と最も多く、次いで「給与水準が低い」が 60.8%となっている。

一方で、“ホームヘルパー”“施設介護職員”では「体力的・精神的にきつい」は4割～5割程度となっており、市民とのギャップが伺える。

また、「資格をいかすことができる」「やりがいがある」「自分自身が成長できる」についても、“一般 40～64 歳”と、“ホームヘルパー”“施設介護職員”ではギャップが伺える。

調査結果報告書 124 頁参照

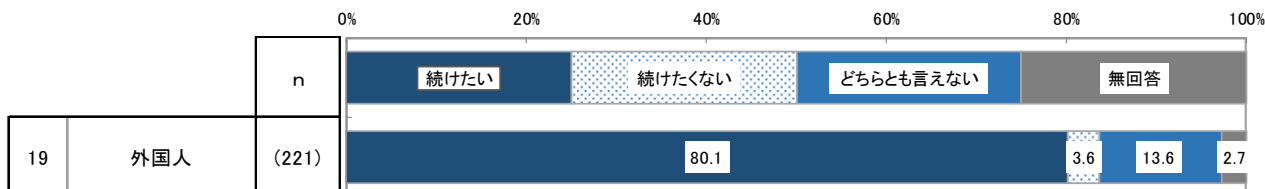


③ 外国人介護職員の今後の就労継続意向

問 あなたは日本で介護の仕事が続けたいですか。(○はひとつ)

就労を「続けたい」が 80.1%と大半を占めており、「続けたくない」は 3.6%となっている。

調査結果報告書 131 頁参照



④ 介護職員が労働条件や労働環境で抱えている悩みの内容

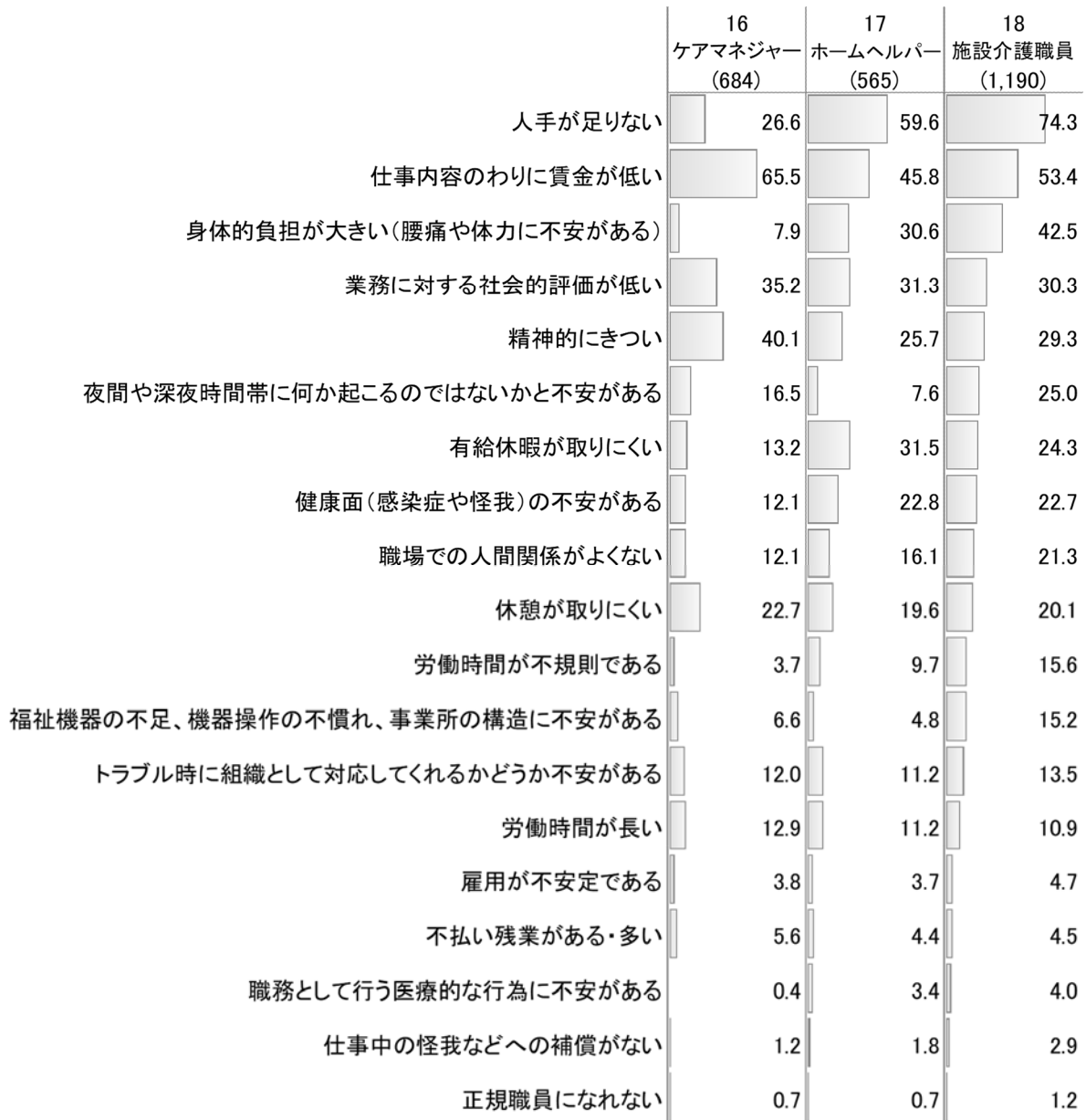
問 労働条件や労働環境のどこに悩みや不満を感じていますか。

(あてはまるものすべてに○)

“ケアマネジャー”では「仕事内容のわりに賃金が低い」が65.5%と最も多く、次いで「精神的にきつい」が40.1%となっている。

“ホームヘルパー”“施設介護職員”では、「人手が足りない」が約6割～7割と最も多く、次いで「仕事内容のわりに賃金が低い」が約5割となっている。

調査結果報告書 134 頁参照



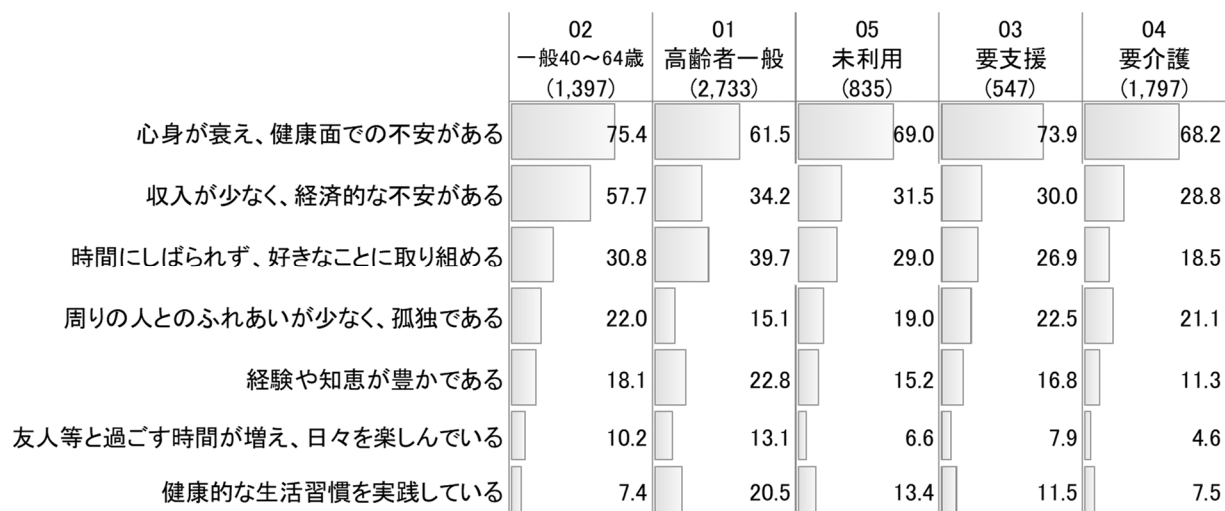
V 地域包括ケア実現のために

① 高齢期のイメージ【新規】

問 あなた（あて名ご本人）が「高齢期」と聞いて思い浮かべることは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

全ての対象者で「心身が衰え、健康面での不安がある」が最も多くなっている。また、“一般 40～64 歳”では「収入が少なく、経済的な不安がある」が 57.7%となっている。

調査結果報告書 156 頁参照

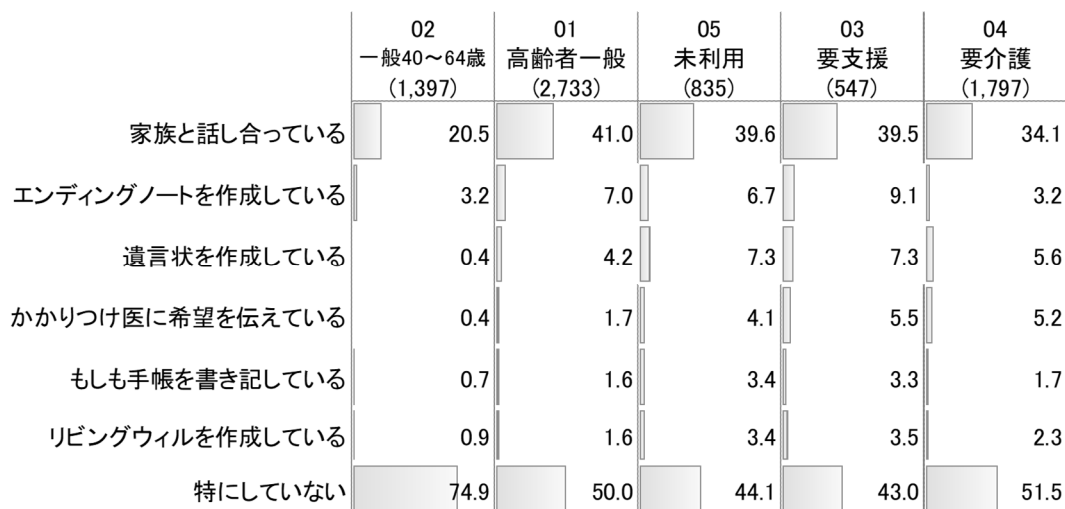


② 人生の最終段階に向けた心づもり

問 あなたは、病気で意思疎通ができなくなった場合や死が近い場合に備えて、延命措置や看取りなどに関するご自身の希望について、どのように意思表示をしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

全ての対象者で延命措置や看取りなどに関する意思表示を「特にしていない」が最も多くなっている。実施されている取組の中では、「家族と話し合っている」が最も多く、“高齢者一般”で 41.0%、“未利用”で 39.6%となっている。

調査結果報告書 159 頁参照



③ デジタル機器の使用経験【新規】

問 あなた（あて名ご本人）は、デジタル機器（パソコン・タブレット・スマートフォン）を使った経験がありますか。（あてはまるものすべてに○）

“一般40～64歳”では「メール」「LINE（ライン）等の無料通話アプリ」や「ネットショッピング」などの項目で8割を上回っており、特に「メール」については95.6%と高い割合となっている。

一方で、“高齢者一般”では、「メール」は72.4%となっており、そのほかで経験が5割を上回っている項目は「LINE（ライン）等の無料通話アプリ」となっている。また、“一般40～64歳”“高齢者一般”以外の対象者では、経験が5割を上回る項目はなかった。

調査結果報告書 171 頁参照

	02 一般40～64歳 (1,397)	01 高齢者一般 (2,733)	05 未利用 (835)	03 要支援 (547)	04 要介護 (1,797)	06 小多機・看多機 (483)	07 定期巡回 (233)
メール	95.6	72.4	42.8	45.0	26.3	20.1	16.3
LINE(ライン)等の無料通話アプリ	89.8	57.6	28.3	34.9	15.4	13.5	8.2
近所の病院や歯科医院などの検索	81.4	39.9	16.5	11.5	7.0	3.7	2.1
ネットショッピング	85.0	34.9	11.3	10.6	6.6	3.9	2.1
アプリの取得	82.4	32.5	8.1	7.3	4.5	2.5	0.9
行政のオンライン申請・申込 (新型コロナウイルスワクチン接種の予約など)	69.4	31.2	7.7	5.7	4.6	1.0	1.7
フリーWi-Fiへの接続	69.6	27.1	8.1	7.1	4.6	1.9	2.1
二次元バーコードの表示・読み取り	78.5	27.0	5.7	5.5	2.9	1.2	0.9
地域防災拠点など防災に関する検索	37.8	13.2	5.1	3.1	2.1	0.8	0.4

VI 自然災害・感染症対策

① 平時から実施している防災対策【新規】

問 平時から実施している防災対策は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

“要支援”では「備蓄をする」が最も多く、次いで「何もしていない」となっている。「何もしていない」は“要支援”で26.9%に対し、“要介護”では42.4%となっている。

調査結果報告書 175 頁参照

	03 要支援 (547)	04 要介護 (1,797)
備蓄をする	47.0	33.8
地域防災拠点の確認	21.4	17.0
周りの人と話し合う	18.1	12.8
防災に関するHPや資料を読む	20.3	12.4
地域の防災訓練の参加	12.4	7.6
マイタイムライン等の作成	1.5	0.7
何もしていない	26.9	42.4

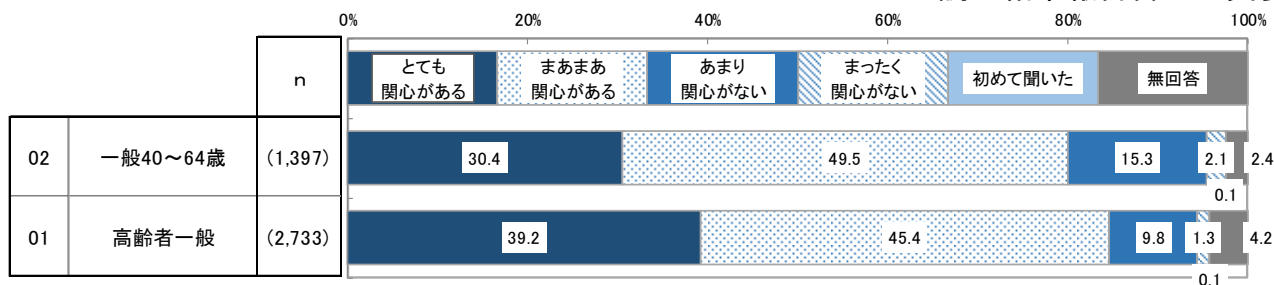
○ 認知症施策の推進

① 認知症への関心度

問 あなた（あて名ご本人）は、認知症について、どの程度関心がありますか。
（○はひとつ）

「とても関心がある」と「まあまあ関心がある」を合計した『関心がある』は、“一般40～64歳”では79.9%、“高齢者一般”では84.6%となっている。

調査結果報告書 176 頁参照



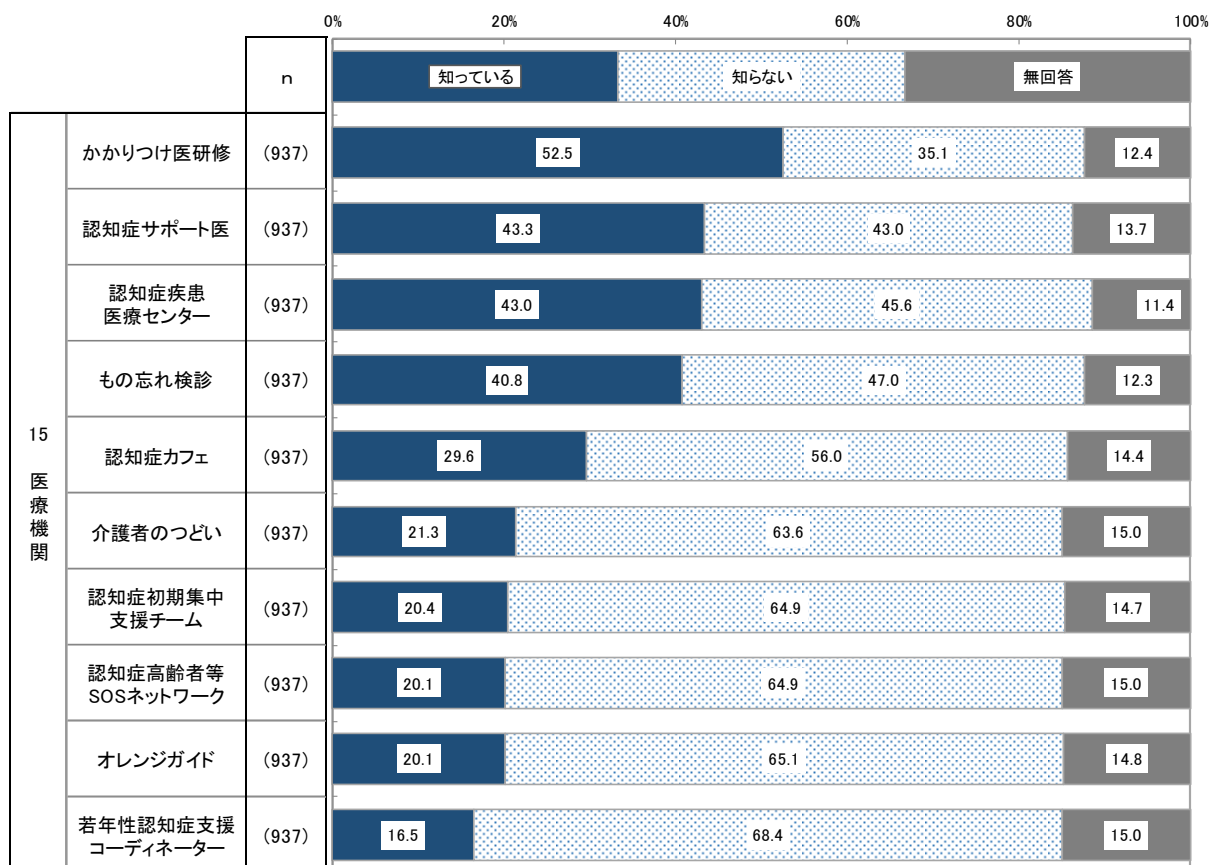
② 医療機関における市の認知症施策の認知度

問 横浜市の取組として、知っているものを選んでください。
（○はひとつ）

「知っている」が最も多いのは「かかりつけ医研修」で52.5%となっており、次いで「認知症サポート医」「認知症疾患医療センター」「もの忘れ検診」といった医療機関に関連の強い施策となっている。

一方で、「認知症カフェ」「介護者のつどい」「認知症高齢者等 SOS ネットワーク」といった福祉的側面の施策については3割以下となっている。

調査結果報告書 191 頁参照



横浜市 高齢者実態調査

調査結果報告書

令和5年3月

横浜市

-目次

第1章 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査対象および方法、回収状況	2
3. 調査内容	5
4. 報告書の見方	7
第2章 調査結果の基本属性	10
1. 回答者の属性	10
第3章 第8期計画の施策体系に基づく調査結果	26
I. 地域共生社会の実現に向けた地域づくりを目指して	26
1 介護予防・健康づくり	26
2 社会参加	38
3 生活支援	58
II. 地域生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して	63
1 在宅介護・リハビリテーション	63
2 在宅医療・看護	78
3 保健・福祉	83
4 医療・介護・保健福祉の連携	98
III. ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して	106
1 個々の状況に応じた施設・住まいの整備・供給	106
2 相談体制・情報提供の充実	116
IV. 安心の介護を提供するために	119
1 新たな介護人材の確保	119
2 介護人材の定着支援	133
3 専門性の向上	144
V. 地域包括ケア実現のために	154
1 高齢期の暮らしについて、準備・行動できる市民を増やすために	154
2 高齢者にやさしい安心のまちづくり・ICT を活用した環境整備	162
3 介護サービスの適正な量の提供及び質の向上	165
4 高齢者が適切な制度・サービスを選択できるための広報、情報提供	169
5 苦情相談体制の充実	172
VI. 自然災害・感染症対策	175
1 緊急時に備えた体制整備・物資調達	175

認知症施策の推進.....	176
1 正しい知識・理解の普及.....	176
2 予防・社会参加.....	179
3 医療・介護.....	183
4 認知症の人の権利.....	187
5 認知症に理解ある共生社会の実現.....	188

第1章 調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

令和5年度に行う、『第9期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画』の策定に向けて、市内に居住する高齢者の健康づくりや生活状況、介護保険サービスの利用状況や今後の利用意向等を確認するとともに、市内の介護サービス事業所・介護福祉施設の運営状況や介護従事者の意見を把握し、次期計画策定に必要な基礎資料を作成するため、調査を実施しました。

2. 調査対象および方法、回収状況

① 市民向け調査

対象地域：横浜市に居住する市民

抽出方法：調査区分に該当する母集団から無作為抽出法（一部、全数調査）

調査期間：令和4年10月13日（木）～令和4年10月31日（月）

調査方法：郵送配布、郵送回収（02調査はWEB回収を併用）

調査種別による対象者の考え方、回収数は下記の表の通り

番号	調査票名称	対象者の考え方	対象数	回収数	回収率
01	高齢者一般調査 (65歳以上)	令和4年10月1日時点で、65歳以上の市民で要介護認定を受けていない方【標本調査】	4,000人	2,596人	64.9%
02	一般調査 (40歳以上64歳以下)	令和4年10月1日時点で、40～64歳の市民【標本調査】	3,000人	1,472人	49.1%
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	令和4年7月に介護保険サービス等を利用した要支援1・2の認定者【標本調査】	1,000人	691人	69.1%
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	令和4年7月に介護保険サービス等を利用した要介護1～5の認定者【標本調査】	4,000人	2,228人	55.7%
05	介護保険サービス未利用者調査	令和4年2月～7月に介護保険サービスの利用が確認できなかった要介護認定者【標本調査】	2,000人	1,318人	65.9%
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	令和4年7月に小規模多機能型居宅介護サービスもしくは看護小規模多機能型居宅介護サービスを利用した要介護認定者【標本調査】	1,100人	595人	54.1%
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者調査	令和4年7月に定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを利用した要介護認定者【全数調査】	695人	278人	40.0%
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	令和4年9月時点で特別養護老人ホーム入所申込受付センターに申し込みをしている方【標本調査】	3,000人	1,911人	63.7%
合計			18,795人	11,089人	59.0%

② 事業所向け調査

対象地域：横浜市にて介護保険サービス等を実施している事業所

抽出方法：全数調査

調査期間：令和4年11月14日（月）～令和4年12月9日（金）

調査方法：郵送配布、WEB回収

調査種別による対象者の考え方、回収数は下記の表の通り

番号	調査票 名称	対象者の 考え方	対象数	回収数	回収率
09	特別養護老人ホーム調査	市内の特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 【全数調査】	166件	100件	60.2%
10	介護老人保健施設調査	市内の介護老人保健施設 【全数調査】	87件	45件	51.7%
11	介護サービス事業所（居住系）調査	市内の特定施設、認知症高齢者グループホーム、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム 【全数調査】	786件	337件	42.9%
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	市内の在宅介護サービス事業所 ※居宅療養管理指導、福祉用具貸与、福祉用具販売単独事業所を除く 【全数調査】	2,793件	1,487件	53.2%
13	居宅介護支援事業所調査	市内の居宅介護支援事業所 【全数調査】	888件	534件	60.1%
14	地域ケアプラザ調査	市内の地域ケアプラザ 【全数調査】	143件	118件	82.5%
15	医療機関調査（認知症に関する調査）	市内の医療機関（病院・診療所） ※美容外科・皮膚科、小児科、産婦人科等の単科を除く 【全数調査】	2,790件	939件	33.7%
合計			7,653件	3,560件	46.5%

③ 従事者向け調査

対象地域：横浜市にて介護保険サービス等を実施している事業所に従事している職員

抽出方法：事業所ごとに最大 10 名に調査依頼

調査期間：令和 4 年 11 月 14 日（月）～令和 4 年 12 月 9 日（金）

調査方法：施設（事業所）から従事者へ配布、WEB 回収

調査種別による対象者の考え方、回収数は下記の表の通り

番号	調査票名称	対象者の考え方	対象数	回収数	回収率
16	ケアマネジャー調査	市内の居宅介護支援事業所で就労しているケアマネジャー 【標本調査】	3,679 人	1,286 人	35.0%
17	訪問介護員（ホームヘルパー）調査	市内の在宅介護サービス事業所で就労しているホームヘルパー 【標本調査】		1,288 人	
18	施設介護職員調査	市内の特別養護老人ホーム等で就労している介護職員 【標本調査】		1,895 人	
19	外国人介護職員調査	市内の特別養護老人ホーム等で就労している外国籍の介護職員 【標本調査】		221 人	
合計				4,690 人	

備考：17～19 調査については、対象者の母数を把握していないため、回収率の算出は行わない。

3. 調査内容

① 市民向け調査

番号	調査票名称	調査内容
01	高齢者一般調査（65歳以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・地域生活の状況 ・介護予防に関すること ・認知症に関すること
02	一般調査（40歳以上64歳以下）	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいや介護等に関する情報 ・今後（老後）への備えに関すること ・介護保険制度に関すること ・介護に関すること 等
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・地域生活の状況 ・介護予防に関すること ・介護サービス等に関すること ・今後（老後）への備えに関すること ・通院、リハに関すること ・介護保険制度に関すること ・介護者に関すること 等
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・認知症予防に関すること ・介護サービス等に関すること ・今後（老後）への備えに関すること ・通院、リハに関すること ・介護保険制度に関すること ・介護者に関すること 等
05	介護保険サービス未利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・地域生活の状況 ・介護・認知症予防に関すること ・介護サービス等に関すること ・今後（老後）への備えに関すること ・通院、リハに関すること ・介護保険制度に関すること ・介護者に関すること 等

番号	調査票名称	調査内容
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・小規模多機能等サービスの利用状況、満足度 ・介護者に関すること 等
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・定期巡回等サービスの利用状況、満足度 ・介護者に関すること 等
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・介護サービスに関すること ・介護保険制度に関すること ・特養の利用意向、相談対応 ・介護者に関すること 等

② 事業所向け調査

番号	調査票名称	調査内容
09	特別養護老人ホーム調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制、人材確保について
10	介護老人保健施設調査	<ul style="list-style-type: none"> ・入退所者の状況 ・サービスの実施状況 ・質の向上に関する取組
11	介護サービス事業所（居住系）調査	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の状況 ・介護ロボットの導入状況 ・市の支援事業の活用状況 等
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制、人材確保について ・サービスの実施状況 ・質の向上に関する取組 等
13	居宅介護支援事業所調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制、人材確保について ・質の向上に関する取組 ・サービスの実施状況 等
14	地域ケアプラザ調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制 ・ケアプラザ業務の取組状況 ・地域ケア会議に関すること 等
15	医療機関調査（認知症に関する調査）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・認知症診療の実施状況 ・市の認知症施策の認知度 等

③ 従事者向け調査

番号	調査票名称	調査内容
16	ケアマネジャー調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職場環境に関すること ・キャリアに関すること ・勤務実態 ・サービスに関すること ・地域ケア会議に関すること ・ケアマネ業務に関すること 等
17	訪問介護員（ホームヘルパー）調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職場環境に関すること ・キャリアに関すること ・勤務実態 ・給与に関すること ・サービス提供に関すること 等
18	施設介護職員調査	
19	外国人介護職員調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職場環境に関すること ・キャリアに関すること 等

4. 報告書の見方

【共通事項】

- ・グラフ・表中の「n」はアンケートの有効回収数を示しています。
- ・比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・グラフ・表として示したもののうち、無回答の回答数が0の場合は「無回答」の表示を省略しています。また、設問文・選択肢の文章を、意味が変わらない程度に簡略化してある場合があります。
- ・複数回答のグラフ・表は、「無回答」や回答数が少ない選択肢の一部を省略している場合があります。
- ・調査票及び単純集計表は、別途まとめている資料編に掲載しています。

【認知症の人の回答の集計方法について】

- ・市民向け調査の回答結果から、「認知症を治療中」もしくは「認知症と診断されたことがある」と回答した方の結果を抽出、合算し、「認知症の人」の回答として集計しています。
- ・グラフや表では「認知症」と標記しています。

【02「一般調査（40歳以上64歳以下）」について】

- ・調査対象について、H28調査・H25調査時は対象者の条件を「55歳～64歳」として実施していたため、今回調査時の「40～64歳」と条件が異なっています。

【報告書の記載について】

- ・第2章以降では、以下の調査結果（図表、文章）において略称を用いています。

番号	調査票の名称	略称
01	高齢者一般調査（65歳以上）	⇒ 高齢者一般
02	一般調査（40歳以上64歳以下）	⇒ 一般40～64歳
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	⇒ 要支援
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	⇒ 要介護
05	介護保険サービス未利用者調査	⇒ 未利用
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	⇒ 小多機・看多機
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者調査	⇒ 定期巡回
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	⇒ 特養申込者
	01～08のうち、認知症の人の回答結果	⇒ 認知症
09	特別養護老人ホーム調査	⇒ 特養
10	介護老人保健施設調査	⇒ 老健
11	介護サービス事業所（居住系）調査	⇒ 居住系
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	⇒ 訪問・通所系
13	居宅介護支援事業所調査	⇒ 居宅介護支援
14	地域ケアプラザ調査	⇒ ケアプラザ
15	医療機関調査（認知症に関する調査）	⇒ 医療機関
16	ケアマネジャー調査	⇒ ケアマネジャー
17	訪問介護員（ホームヘルパー）調査	⇒ ホームヘルパー
18	施設介護職員調査	⇒ 施設介護職員
19	外国人介護職員調査	⇒ 外国人介護職員

第2章 調査結果の基本属性

第2章 調査結果の基本属性

1. 回答者の属性

① 調査票の記入者

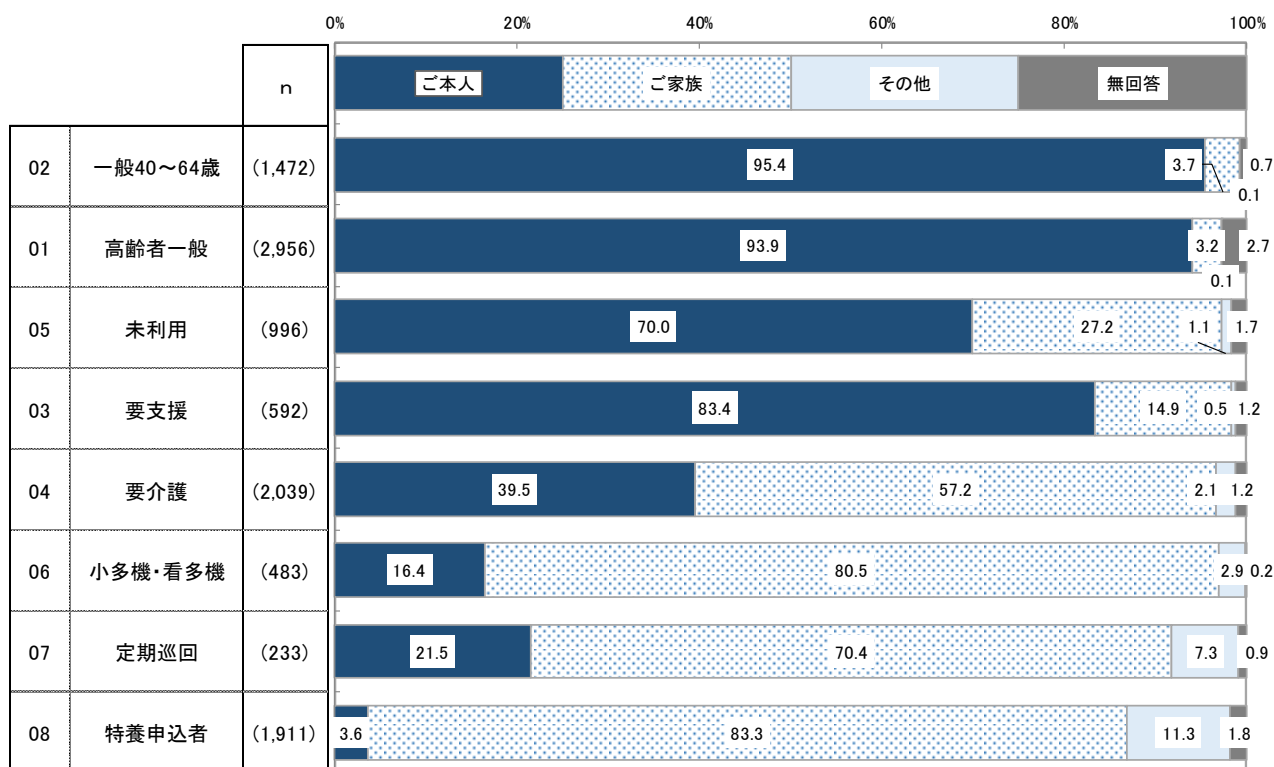
問 この調査票を記入するのはどなたですか。(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	1	1	2	2	2	2	2	1											

調査票の記入者は、“一般40～64歳”“高齢者一般”で「ご本人」が9割以上となっており、“未利用”“要支援”で約7～8割となっている。

一方で、“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”“特養申込者”といった、介護サービスを必要としている人では、「ご本人」は4割を下回っており、「ご家族」が5割以上となっている。

図表 1-① 記入者



② 性別

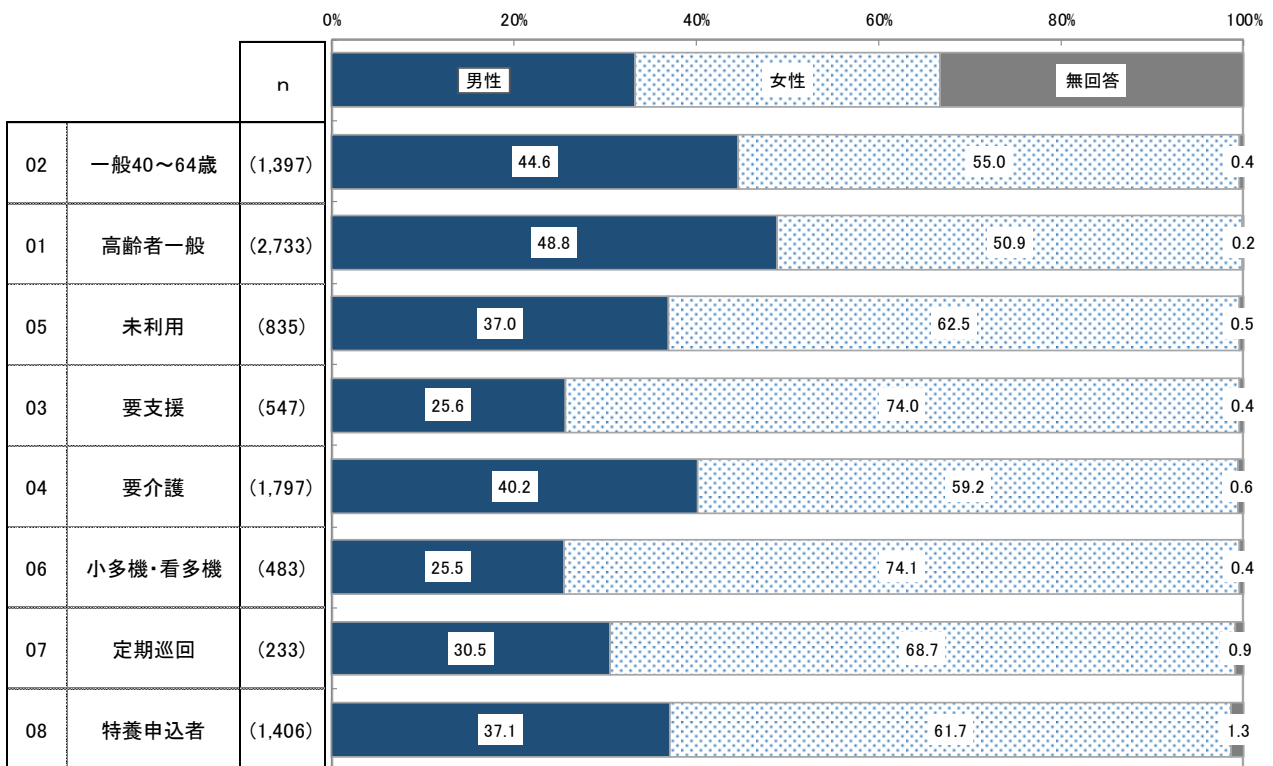
問 あなた（あて名ご本人）の性別をお答えください。

（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	3	3	4	4	4	3	3	3												

性別は、全体を通じて「女性」が半数以上を占めており、特に“未利用”“要支援”“小多機・看多機”“定期巡回”“特養申込者”では、「女性」が6割以上となっている。

図表 1-② 性別



③ 年齢

問 あなた（あて名ご本人）の年齢（令和4年10月1日現在）をお答えください。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	4	4	5	5	5	4	4	4												

対象者の年齢は、“一般 40～64 歳”では、5 歳刻みで偏りが少ないものの、“高齢者一般”では「65 歳～79 歳」がボリュームゾーンとなっており、75.3%を占めている。

一方で、“未利用”“要支援”“要介護”など、何らかの介護認定を受けている／介護サービスを利用している対象では「80 歳以上」がボリュームゾーンとなっており、7 割を占めている。

図表 1-③ 年齢

		有効回収数 (n)	40 歳	45 歳	50 歳	55 歳	60 歳	65 歳	70 歳	75 歳	80 歳	85 歳	90 歳	95 歳以上	無回答
02	一般40～64歳	(1,397)	14.5	19.7	23.3	20.7	21.5								0.2
01	高齢者一般	(2,733)						23.0	29.5	22.8	16.6	6.1	1.7	0.1	0.1
05	未利用	(835)			1.4			3.4	7.9	15.1	28.6	28.1	12.6	2.6	0.2
03	要支援	(547)			2.7			2.7	8.4	12.4	24.1	30.2	15.7	3.7	-
04	要介護	(1,797)			2.8			3.8	9.3	11.9	20.0	27.0	17.0	8.0	0.2
06	小多機・看多機	(483)			3.9			3.1	6.4	7.0	21.9	28.4	19.9	8.9	0.4
07	定期巡回	(233)			3.0			4.3	6.9	7.3	20.6	25.8	23.6	8.2	0.4
08	特養申込者	(1,406)			2.6			2.2	5.4	11.2	21.5	28.7	19.0	8.5	1.0

④ 現在の居住地区

問 あなた（あて名ご本人）のお住まいの区はどちらですか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	5	5	6	6	6	5	5	5											

居住地区は、調査対象による大きな偏りはなく、各区で同様の水準となっている。

ただし、“一般40～64歳”では「港北区」が10.0%、“定期巡回”では、「南区」が12.4%と、1割を上回っている。

図表 1-④ 居住地区

		(有効回収数)	居住地区 (%)									
			青葉区	旭区	泉区	磯子区	神奈川区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区
02	一般40～64歳	(1,397)	6.9	5.1	4.7	3.4	6.7	6.0	6.1	10.0	3.9	2.6
01	高齢者一般	(2,733)	7.6	7.4	4.5	5.2	6.0	6.5	7.4	7.4	4.6	3.2
05	未利用	(835)	8.4	9.0	4.9	6.2	5.4	8.6	8.3	8.0	4.3	3.4
03	要支援	(547)	8.2	7.5	4.9	4.2	7.7	7.3	6.8	6.6	6.2	3.1
04	要介護	(1,797)	6.6	8.6	4.6	4.2	7.0	6.0	6.7	8.3	3.1	3.1
06	小多機・看多機	(483)	4.6	8.5	7.2	2.3	6.8	6.8	6.2	7.7	5.2	-
07	定期巡回	(233)	7.7	7.3	2.6	9.9	5.6	5.6	3.4	5.6	3.9	1.3
08	特養申込者	(1,406)	5.4	5.5	4.0	4.5	6.5	5.7	6.8	4.7	3.1	4.4

		(有効回収数)	居住地区 (%)									
			都筑区	鶴見区	戸塚区	中区	西区	保土ヶ谷区	緑区	南区	市外	無回答
02	一般40～64歳	(1,397)	5.7	7.4	8.9	4.7	2.9	5.3	4.9	4.8	-	-
01	高齢者一般	(2,733)	4.5	6.3	7.8	3.3	2.0	5.5	5.1	5.3	-	-
05	未利用	(835)	3.2	2.0	7.2	3.4	3.2	4.9	4.1	5.4	-	0.1
03	要支援	(547)	7.1	0.5	6.8	2.6	2.2	6.0	5.7	6.6	-	-
04	要介護	(1,797)	3.5	7.2	7.0	4.9	2.2	6.5	4.1	6.5	-	0.1
06	小多機・看多機	(483)	6.2	8.1	7.7	3.7	0.8	6.4	5.2	6.4	-	0.2
07	定期巡回	(233)	1.3	7.7	6.4	4.7	5.2	6.0	3.4	12.4	-	-
08	特養申込者	(1,406)	3.3	7.4	6.8	4.5	2.8	6.0	3.9	8.1	5.2	1.4

⑤ 世帯構成

問 あなた（あて名ご本人）の世帯の状況をお選びください。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	7	7	8	8	8	7	7	7												

世帯構成は、“要支援”“定期巡回”“特養申込者”で「ひとり暮らし」が3割以上となっており、特に“定期巡回”では51.1%となっている。“高齢者一般”では「夫婦二人暮らし（どちらも65歳以上）」が42.8%と最も多く、“未利用”では36.9%となっている。“要介護”“小多機・看多機”では「子や孫など同居」が最も多くなっている。

“一般40～64歳”では、「子や孫など同居」が39.2%と最も高く、「親と同居」「親及び子など同居」の合計は22.7%となっている。

図表 1-⑤ 世帯構成

		(%)							
		有効回収数 (n)	ひとり暮らし	夫婦二人暮らし (どちらも65歳以上)	夫婦二人暮らし (片方だけ65歳以上)	子や孫など同居	その他 (全員が65歳以上)	その他	無回答
01	高齢者一般	(2,733)	17.3	42.8	4.3	30.5	1.4	2.0	1.6
05	未利用	(835)	25.6	36.9	0.6	31.1	0.8	2.4	2.5
03	要支援	(547)	37.8	27.6	0.4	27.1	0.7	3.7	2.7
04	要介護	(1,797)	20.6	27.9	1.1	43.9	1.1	2.7	2.6
06	小多機・看多機	(483)	26.1	17.2	0.4	50.3	0.8	4.3	0.8
07	定期巡回	(233)	51.1	12.4	1.7	28.8	-	4.7	1.3
08	特養申込者	(1,406)	30.9	20.0	0.8	34.9	1.4	9.7	2.3

		(%)							
		有効回収数 (n)	ひとり暮らし	夫婦二人暮らし	子や孫など同居	親と同居	親及び子など同居	その他	無回答
02	一般40～64歳	(1,397)	10.7	22.8	39.2	11.7	11.0	4.1	0.4

⑥ 住まいの形態

問 あなた（あて名ご本人）のお住まいは、次のどれにあてはまりますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	9	8	9	9	9	8	8	8											

住まいの形態は、“高齢者一般”“未利用”“要支援”“要介護”“小多機・看多機”では「一戸建て（持ち家）」が最も多く、半数を上回っている。

一方で、“一般40～64歳”“定期巡回”“特養申込者”では「一戸建て（持ち家）」は半数を下回り、“一般40～64歳”では「マンション（持ち家）」、“定期巡回”では「公営住宅」、「特養申込者」では「有料老人ホーム」が他に比べて多くなっている。

図表 1-⑥ 住まいの形態

		有効回収数（n）												（%）	
			一戸建て（持ち家）	マンション（持ち家）	公営住宅	アパート（民間賃貸）	マンション（民間賃貸）	一戸建て（民間賃貸）	サービス付き高齢者住宅	有料老人ホーム	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	ホーム 認知症高齢者グループ	その他	無回答
02	一般40～64歳	(1,397)	44.0	34.5	1.8	7.2	9.4	1.9	0.0	0.0				1.1	0.1
01	高齢者一般	(2,733)	56.1	28.6	5.2	3.1	3.1	1.6	0.4	0.0				0.8	1.1
05	未利用	(835)	56.8	23.1	7.8	2.4	3.8	2.8	1.0	0.0				1.8	0.6
03	要支援	(547)	59.6	19.7	8.0	3.7	4.4	1.1	2.0	0.0				1.1	0.4
04	要介護	(1,797)	62.2	19.0	6.9	3.1	3.7	2.3	1.0	0.1				1.3	0.4
06	小多機・看多機	(483)	57.3	18.2	5.8	5.8	4.3	1.2	4.1	0.0				2.9	0.2
07	定期巡回	(233)	47.6	18.5	10.3	4.7	3.9	3.9	4.3	4.3				1.3	1.3
08	特養申込者	(1,406)	39.3	11.3	6.0	5.5	2.4	0.6	2.1	15.2	1.2	3.5	4.8	6.1	2.0

⑦ 定期的な収入の内容

問 あなた（あて名ご本人）は、定期的な収入をどこから得ていますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	11	10	11	11	11	10	10	10												

定期的な収入は、“一般40～64歳”では、「給与等」が79.7%と最も多くなっている。

“一般40～64歳”以外では、「公的年金や恩給」が約9割を占めている。一方で、“高齢者一般”では、「給与等」が19.9%と他に比べて多くなっている。

図表 1-⑦ 定期的な収入

		(%)						
		有効回収数 (n)	公的年金や恩給	給与等	土地・家屋の家賃収入	株式の配当	親族等からの仕送り	定期的な収入は得ていない
02	一般40～64歳	(1,397)	7.7	79.7	2.7	2.6	0.4	10.7
01	高齢者一般	(2,733)	90.1	19.9	5.9	5.5	0.4	1.3
05	未利用	(835)	94.5	3.5	4.3	3.4	0.7	1.7
03	要支援	(547)	91.6	1.5	5.3	2.6	0.5	1.8
04	要介護	(1,797)	93.2	1.8	6.6	1.7	0.9	1.9
06	小多機・看多機	(483)	90.9	1.2	6.6	2.7	2.1	3.7
07	定期巡回	(233)	88.8	0.9	5.6	3.0	1.3	3.0
08	特養申込者	(1,406)	90.8	1.1	4.3	0.6	2.4	1.9

⑧ 経済的な状況

問 あなた（あて名ご本人）は、現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

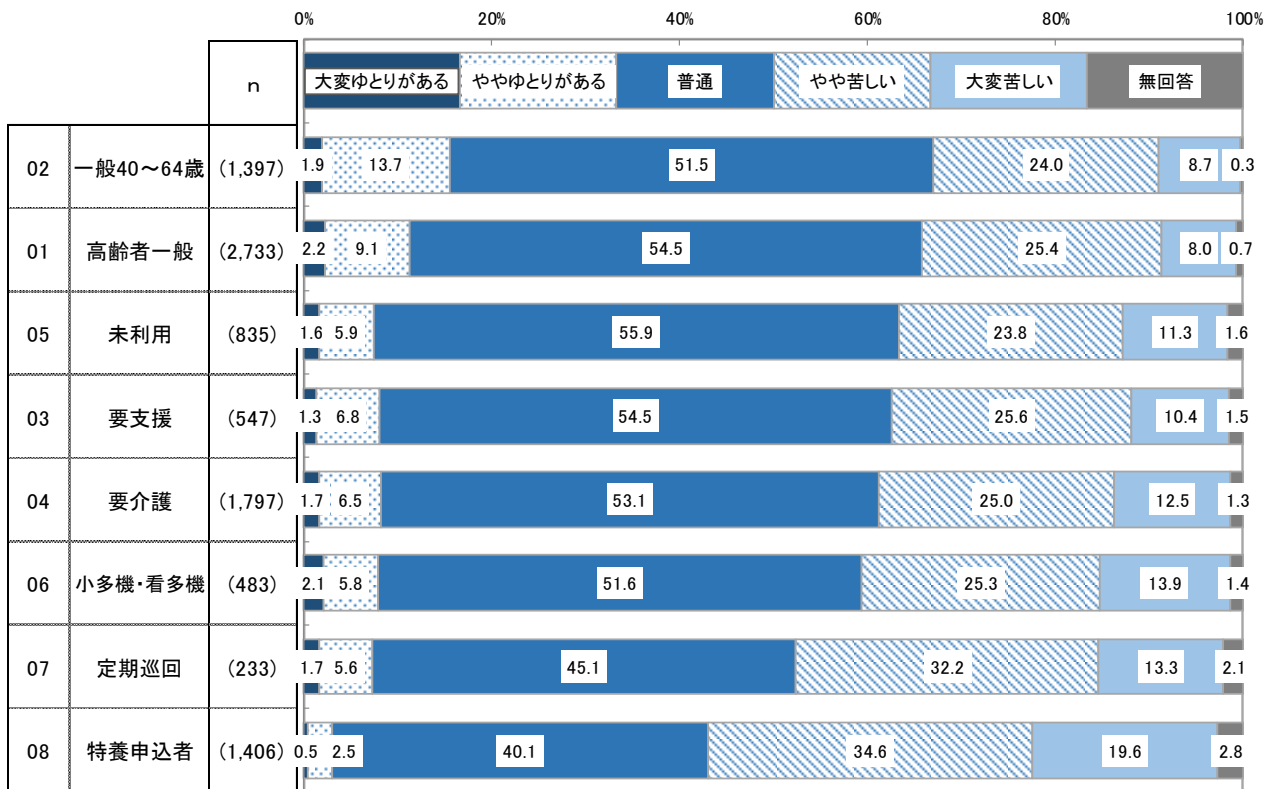
（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	14	13	14	14	14	13	13	15												

経済的な状況について、“高齢者一般”では「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」は11.3%となっており、「大変苦しい」「やや苦しい」は33.4%となっている。

また、“要支援”“要介護”や各種サービス利用となるにつれて『ゆとりがある』は低くなり、『苦しい』が高くなっている。“特養申込者”では『ゆとりがある』は3.0%、『苦しい』は54.2%となっている。

図表 1-⑧ 経済的な状況



⑨ 治療中の病気やけが

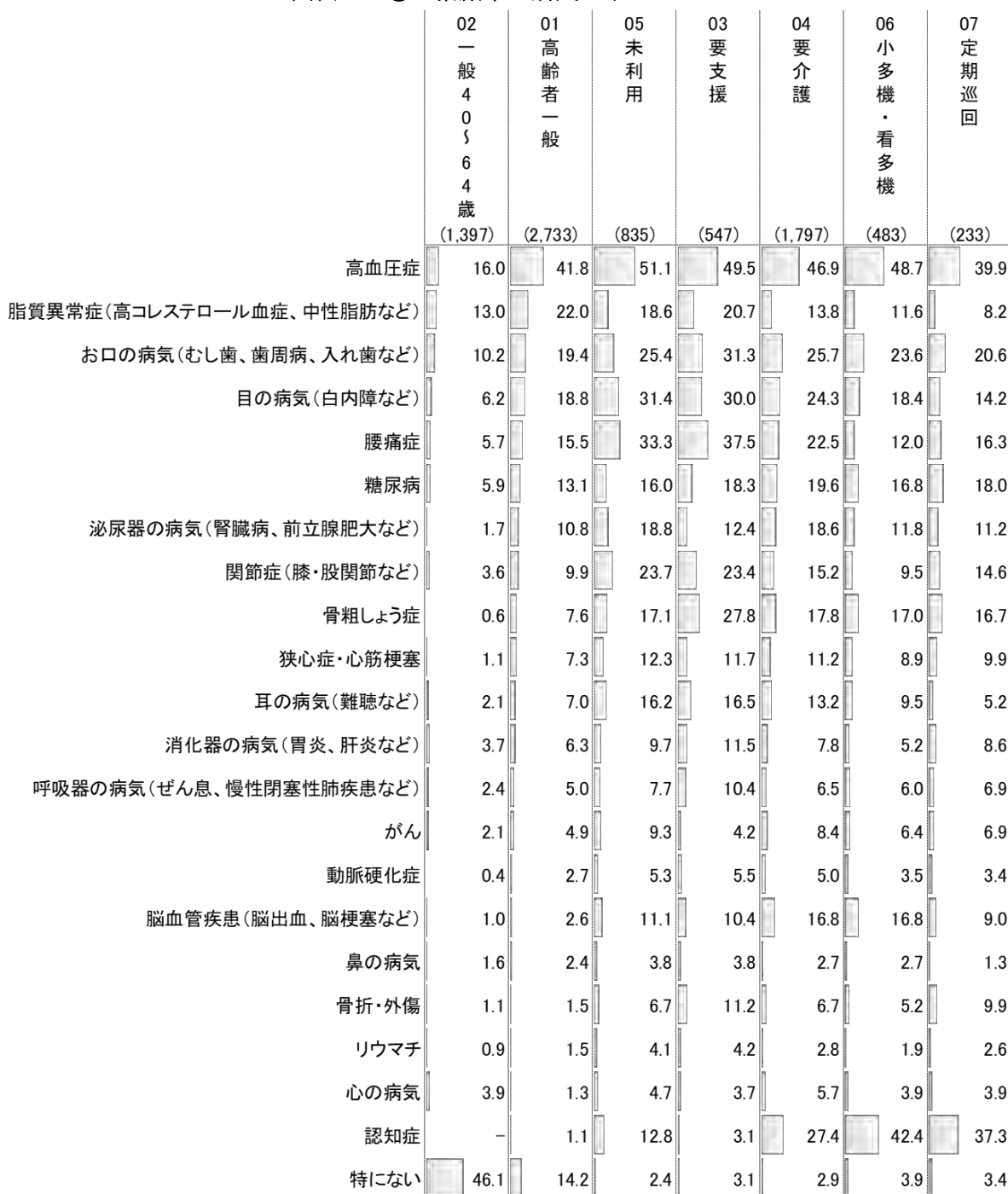
問 あなた（あて名ご本人）は、現在、治療中の病気やけがはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	22	22	23	20	20	15	15													

治療中の病気・けがについて、全ての対象者で「高血圧症」が最も多く、“一般40～64歳”以外では約4割から5割を占めている。

図表 1-⑨ 治療中の病気・けが



⑩ 認知症の有無

<調査 01～07>

問 あなたは、現在、治療中の病気やけがはありますか。 (〇はひとつ)

<調査 08>

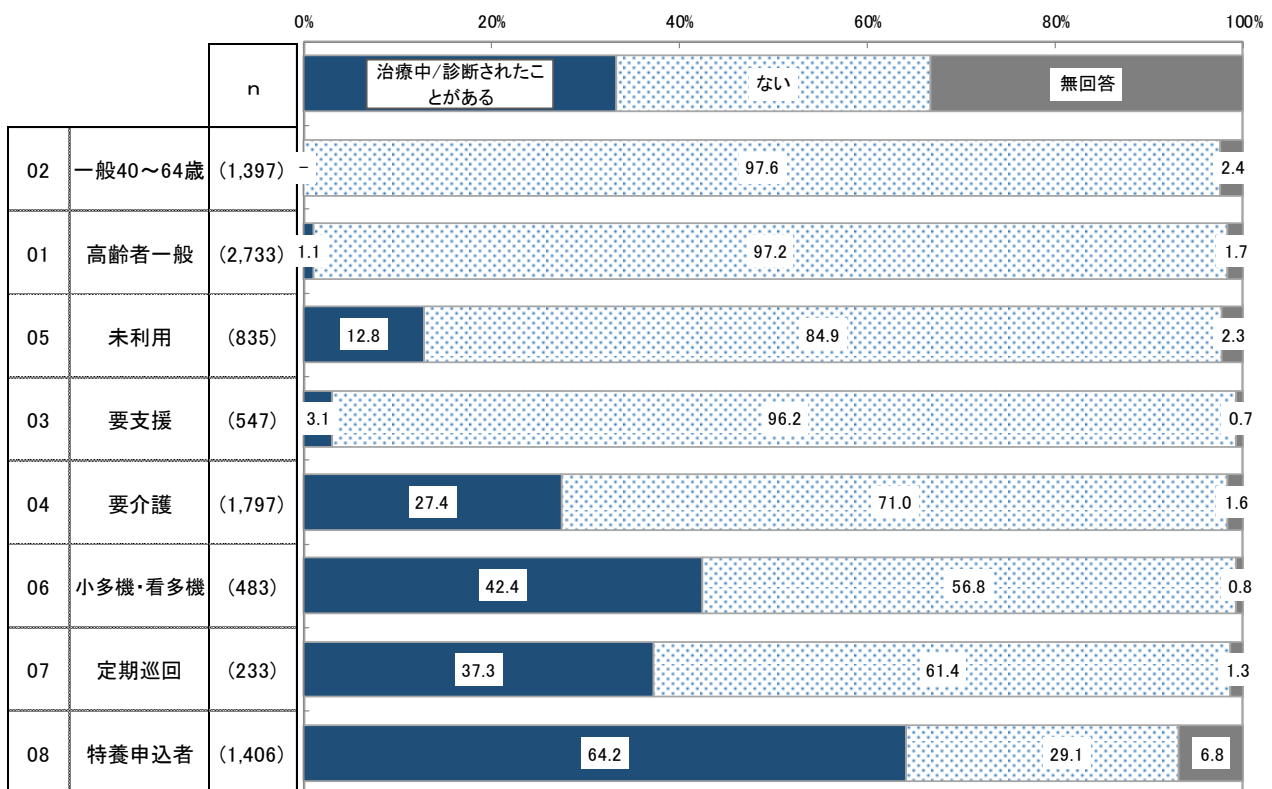
問 あなたは、医師から認知症と診断されたことがありますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	22	22	23	20	20	15	15	17											

認知症の有無について、“一般 40～64 歳” “高齢者一般” “要支援” では「治療中/診断されたことがある」は 1 割以下となっている。

一方で、“未利用” では 12.8% となっており、“要介護” “小多機・看多機” “定期巡回” では約 3 割から 4 割、“特養申込者” では 64.2% と半数を上回っている。

図表 1-⑩ 認知症の有無



⑪ 施設（事業所）の属性

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号																				

※回答施設（事業所）の ID から分類

“特養”では「ユニット型」が53.0%、“老健”では「従来型」が84.4%となっている。
 “居住系”では「認知症高齢者グループホーム」が48.1%と最も多くなっている。
 “訪問・通所系”“居宅介護支援”では「営利法人」が最も多く、次いで「社会福祉法人（社協以外）」となっている。
 “医療機関”では「診療所」が75.5%となっている。

図表 1-⑪ 施設（事業所）の属性

(%)

		(有効回収数)	ユニット型	従来型
09	特養	(100)	53.0	47.0
10	老健	(45)	15.6	84.4

(%)

		(有効回収数)	認知症高齢者グループホーム	住宅型有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム	サードセクター向け付き高
11	居住系	(335)	48.1	13.7	26.6	11.6

(%)

		(有効回収数)	営利法人	(社会福祉法人)	(社会福祉法人以外)	社団・財団	医療法人	(NPO)	生協	その他法人	非法人	その他
12	訪問・通所系	(1,487)	62.4	0.9	18.0	2.8	9.6	3.9	1.3	0.5	0.2	0.5
13	居宅介護支援	(533)	46.3	2.3	31.5	3.0	9.6	4.9	2.1	0.2	-	0.2

(%)

		(有効回収数)	病院	診療所	無回答
15	医療機関	(937)	5.0	75.5	19.5

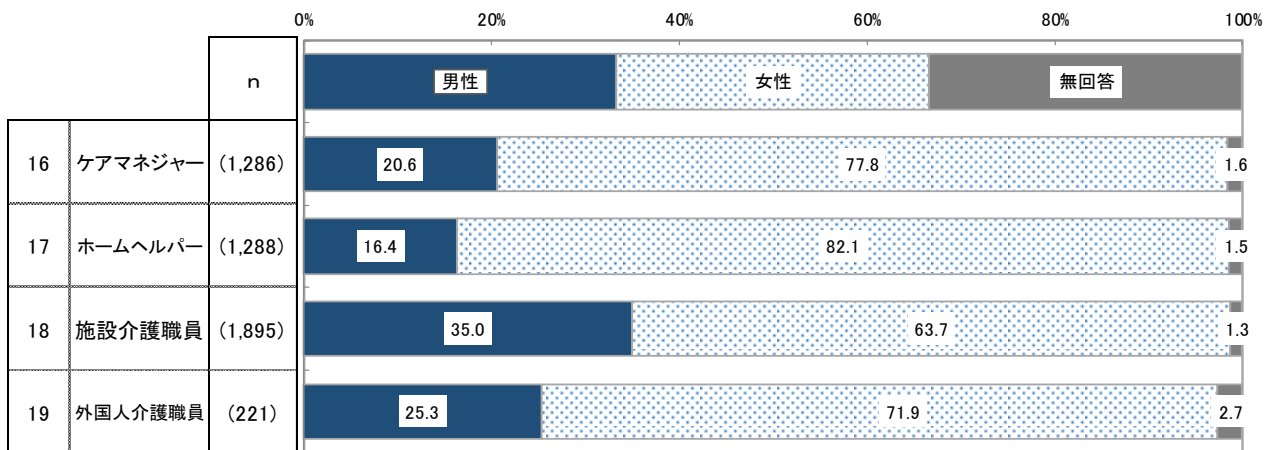
⑫ 介護サービス従事者の性別

問 あなたの性別をお選びください。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																1	1	1	1

介護サービス従事者の性別について、全ての職種で「女性」が6割以上と大半を占めており、特に“施設介護職員”を除く職種は、「女性」が7割以上となっている。

図表 1-⑫ 従事者の性別



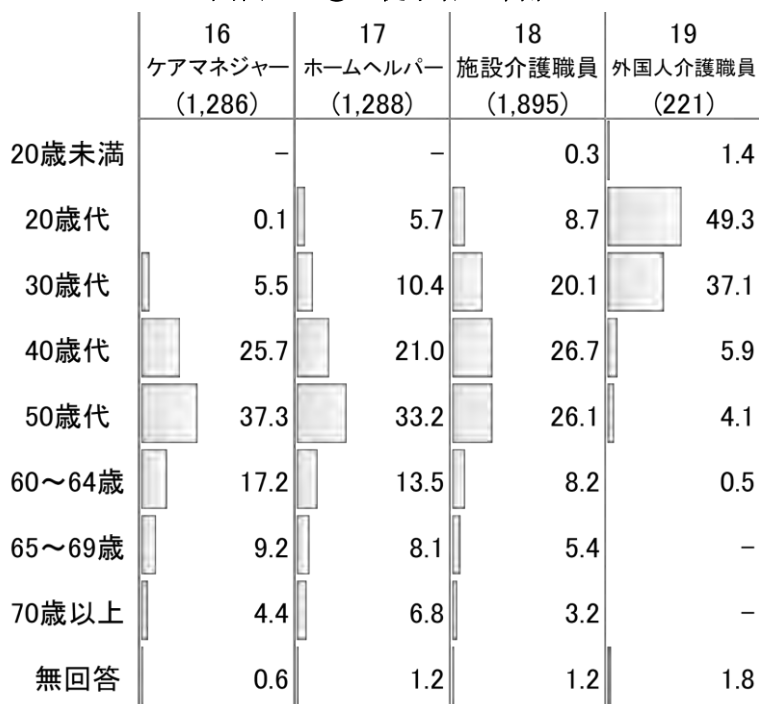
⑬ 介護サービス従事者の年齢

問 あなたの年齢をお選びください。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																2	2	2	2

介護サービス従事者の年齢について、“ケアマネジャー”“ホームヘルパー”では「50歳代」がボリュームゾーンとなっており、“ケアマネジャー”で37.3%、“ホームヘルパー”で33.2%となっている。一方で、“施設介護職員”は「40歳代」が26.7%と最も多く、“外国人介護職員”は「20歳代」が49.3%となっている。

図表 1-⑬ 従事者の年齢



⑭ 介護サービス従事者の経験年数

<調査票 16～18>

問 介護サービスの仕事に関わって（ケアマネジャー業務に従事して）からの通算の経験年数は、どのくらいですか。 (〇はひとつ)

<調査票 19>

問 日本で介護の仕事をはじめてからどのくらいですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																8	7	8	8

介護サービス従事者の経験年数について、“外国人介護職員”を除く職種で「10～20年未満」が最も高く、“ケアマネジャー”で37.9%、“ホームヘルパー”で42.5%、“施設介護職員”で42.1%となっている。一方、“外国人介護職員”では『3年未満』が62.0%と半数以上を占めている。

過去の結果と比較すると、全ての職種で「20年以上」の回答が増加している。

図表 1-⑭ 従事者の経験年数

	16 ケアマネジャー (1,286)	17 ホームヘルパー (1,288)	18 施設介護職員 (1,895)	19 外国人介護職員 (221)
1年未満	4.0	3.6	3.6	23.5
1～2年未満	3.3	3.9	3.6	21.3
2～3年未満	3.3	4.2	4.6	17.2
3～5年未満	12.5	8.9	8.3	15.4
5～7年未満	15.3	8.8	9.1	10.4
7～10年未満	16.5	15.4	17.0	5.4
10～20年未満	37.9	42.5	42.1	5.9
20年以上	7.2	12.7	11.4	-
無回答	0.1	0.2	0.2	0.9

【経年比較】

	16 ケアマネジャー		17 ホームヘルパー		18 施設介護職員	
	R4 (1,286)	R1 (1,655)	R4 (1,288)	R1 (875)	R4 (1,895)	R1 (1,046)
1年未満	4.0	4.4	3.6	2.7	3.6	5.1
1～2年未満	3.3	5.4	3.9	2.7	3.6	3.8
2～3年未満	3.3	7.9	4.2	4.5	4.6	6.3
3～5年未満	12.5	13.8	8.9	6.2	8.3	8.3
5～7年未満	15.3	16.3	8.8	12.7	9.1	10.2
7～10年未満	16.5	13.6	15.4	15.8	17.0	16.4
10～20年未満	37.9	35.8	42.5	46.9	42.1	42.8
20年以上	7.2	1.5	12.7	7.3	11.4	5.0

⑮ 外国人介護職員の出身地

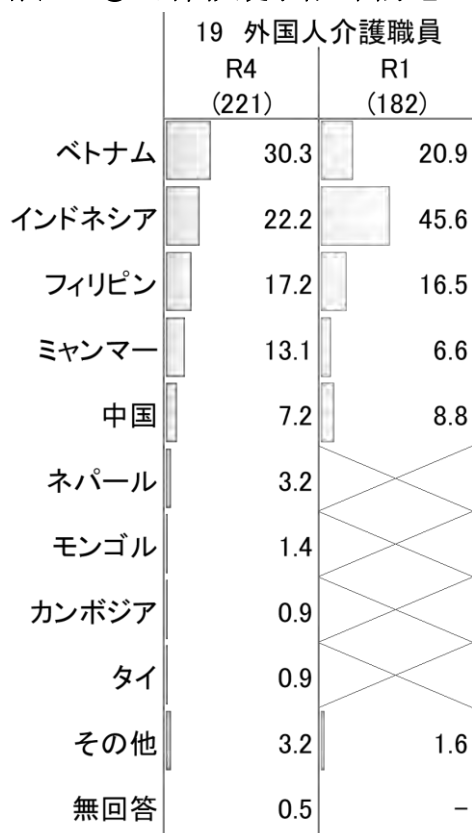
問 どの国・地域から来ましたか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号																				10

“外国人介護職員”の出身地について、「ベトナム」が30.3%と最も多く、次いで「インドネシア」が22.2%となっている。

過去の結果と比較すると、「インドネシア」が減少しており、「ベトナム」「ミャンマー」が増加している。

図表 1-⑮ 外国人従事者の出身地



第3章

第8期計画の施策体系に基づく調査結果

第3章 第8期計画の施策体系に基づく調査結果

I. 地域共生社会の実現に向けた地域づくりを目指して

1 介護予防・健康づくり

① 市民の健康感

問 あなた（あて名ご本人）はふだん、ご自分で健康だと思いますか。
現在の状況に最も近いものをお選びください。

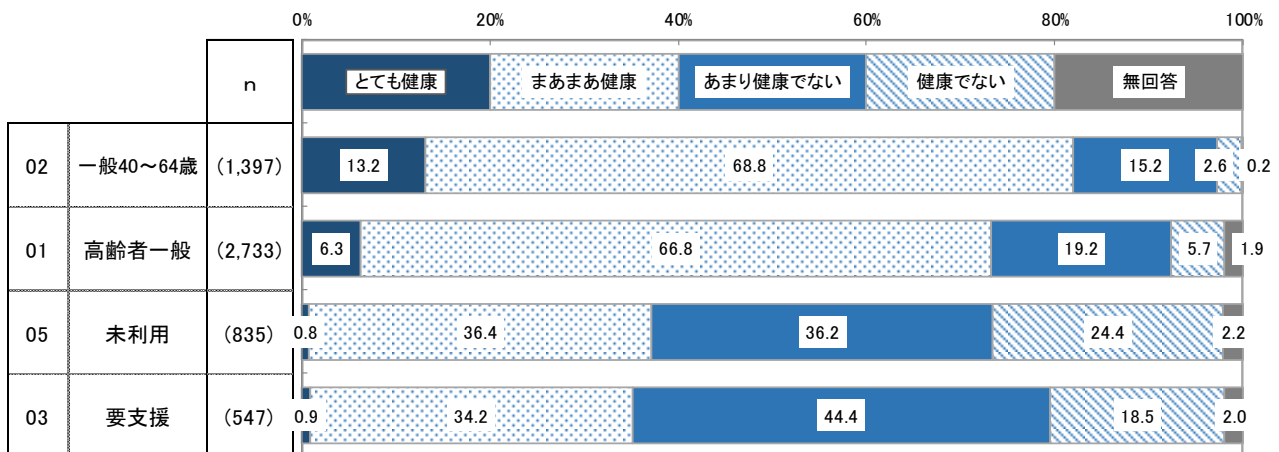
（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	17	17	19		16															

自身の健康感について、「とても健康」と「まあまあ健康」を合計した『健康である』は、“一般40～64歳”“高齢者一般”では7割以上となっている。一方で、“未利用”と“要支援”では「健康でない」「あまり健康でない」の合計が6割以上となっている。

過去の結果と比較してみると、令和元年度の結果から大きな変化は見られなかった。

図表 I-1-① 市民の健康感



【経年比較（とても健康+まあまあ健康）】

		（％）			
		R4	R1	H28	H25
		2022年	2019年	2016年	2013年
02	一般40～64歳	82.0	82.1	85.1	83.8
01	高齢者一般	73.1	72.9	73.5	74.0
05	未利用	37.2	36.0	36.6	29.6
03	要支援	35.1	31.9	38.4	30.7

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

② 3年前と比べた心身や生活の変化【新規】

問 3年前の2019年と比べて、あなたの生活状況におきた変化としてあてはまるものをお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	18	18																		

3年前からの心身の変化について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに、「体力や筋力が落ちた」が最も多く6割を上回っている。

“高齢者一般”では、“一般40～64歳”に比べて「病院に通院するようになった」「友人・知人が少なくなった」が多くなり、「あてはまるものはない」が少なくなる傾向がある。

図表 I-1-② 3年前からの変化

												(%)							
		有効回収数 (n)	体力や筋力が落ちた	病院に通院するようになった	友人・知人が少なくなった	気分が落ち込むことが多い	ケガや病気のために入院した	引越しをした	あてはまるものはない										
02	一般40～64歳	(1,397)	61.5	14.0	12.1	21.3	5.5	8.4	23.9										
01	高齢者一般	(2,733)	70.8	30.9	23.3	16.4	11.4	3.7	13.1										

③ 生活の状態

問 あなた（あて名ご本人）の現在の状況に最も近いものをお選びください。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	19	19	20	17	17															

生活の状態について、“一般40～64歳”と“高齢者一般”では「大きな病気や障害もなく、日常生活は自分で行える」と「日常生活はほぼ自立しており、ひとりで外出できる」を合わせた値は9割以上を占めている。一方で、“未利用”“要支援”“要介護”では「屋内での生活はおおむね自立しているが、介助がないと外出できない」の割合が多くなっている。

過去の結果と比較すると、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに大きな変化は見られない。

図表 I-1-③ 生活の状態

		有効回収数 (n)	大きな病気や障害もなく、日常生活は自分で行える	日常生活はほぼ自立しており、ひとりで外出できる	屋内での生活はおおむね自立しているが、介助がないと外出できない	屋内での生活は何らかの介助を要するが、座位を保つことができる	1日中ベッド上で過ごし、排せつ、食事、着替えなどの介助が必要	無回答
02	一般40～64歳	(1,397)	86.0	12.0	0.7	0.3	0.1	0.9
01	高齢者一般	(2,733)	56.2	38.2	2.6	0.1	0.1	2.7
05	未利用	(835)	10.2	52.9	29.6	4.0	0.8	2.5
03	要支援	(547)	8.4	49.0	38.4	1.8	-	2.4
04	要介護	(1,797)	3.8	15.6	46.9	22.3	8.0	3.3

【経年比較】

	02 一般40～64歳				01 高齢者一般			
	R4	R1	H28	H25	R4	R1	H28	H25
	2022年	2019年	2016年	2013年	2022年	2019年	2016年	2013年
大きな病気や障害もなく、日常生活は自分で行える	86.0	88.0	86.1	84.2	56.2	57.8	55.2	57.1
日常生活はほぼ自立しており、ひとりで外出できる	12.0	10.6	12.9	14.5	38.2	37.1	35.7	39.3
屋内での生活はおおむね自立しているが、介助がないと外出できない	0.7	0.4	0.6	1.0	2.6	2.4	5.7	2.4
屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つことができる	0.3	0.2	0.0	0.1	0.1	0.3	1.5	0.4
1日中ベッド上で過ごし、排せつ、食事、着替えなどの介助が必要	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.4	0.0

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

④ 介護予防の意識

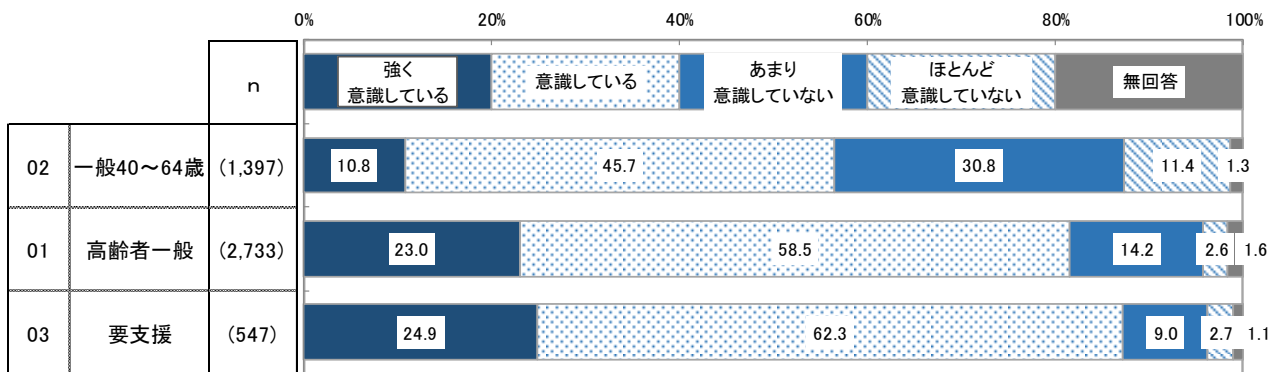
問 あなた（あて名ご本人）は、普段から介護予防のためにご自分の健康の維持・増進を意識していますか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	40	36	33																	

介護予防の意識について、「強く意識している」と「意識している」を合計した『意識している』は、“高齢者一般”と“要支援”では8割以上となっている。一方で、“一般40～64歳”では『意識している』は56.5%となっている。

過去の結果と比較すると、『意識している』の割合に大きな変化は見られない。

図表 I-1-④ 介護予防の意識



【経年比較（強く意識している＋意識している）】

		（％）		
		R4	R1	H28
		2022年	2019年	2016年
02	一般40～64歳	56.5	55.5	73.7
01	高齢者一般	81.5	82.5	82.4
03	要支援	87.2	83.9	86.3

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

⑤ 健康・予防のための取組

問 あなた（あて名ご本人）は、普段から健康や介護予防のために取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

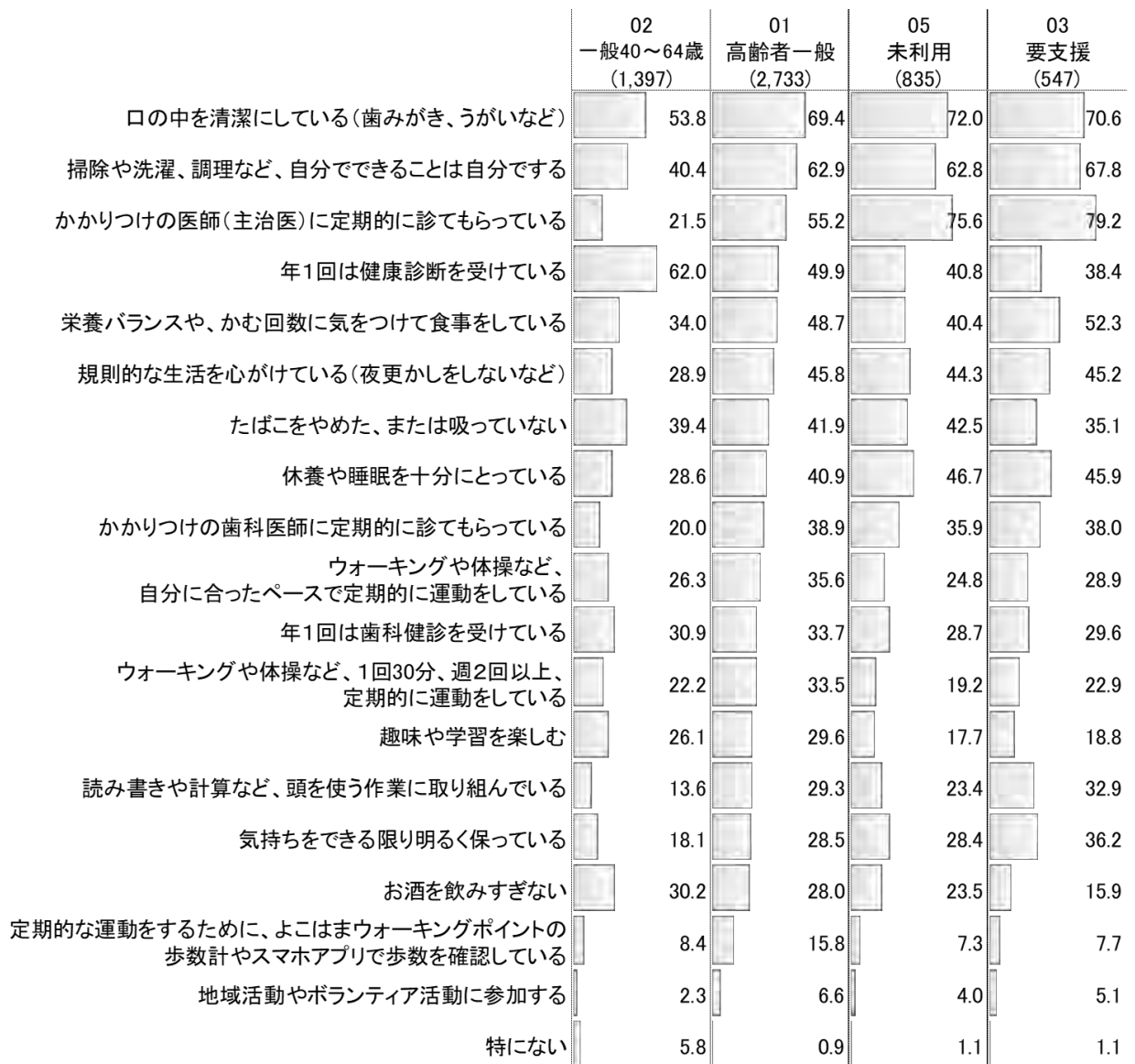
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	41	37	34		24														

健康や介護予防のための取組について、“高齢者一般”は「口の中を清潔にしている」が69.4%と最も多く、次いで「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が62.9%となっている。

“未利用”“要支援”では「かかりつけの医師に定期的に診てもらっている」が7割以上を占めているが、“一般40～64歳”では21.5%となっている。

過去の結果と比較すると、「栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている」は“要支援”では令和元年度に比べて多くなっているものの、“高齢者一般”“未利用”では少なくなっている。

図表 I-1-⑤ 健康・予防のための取組



【経年比較（高齢者一般調査の上位5項目）】

(%)

	02 一般40～64歳				01 高齢者一般			
	R4	R1	H28	H25	R4	R1	H28	H25
	2022年	2019年	2016年	2013年	2022年	2019年	2016年	2013年
口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)	53.8	55.3	60.4	57.5	69.4	70.9	68.6	67.4
掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする	40.4	44.0			62.9	65.9		
かかりつけの医師(主治医)に定期的に診てもらっている	21.5	21.8	33.2	32.0	55.2	57.2	60.6	60.6
年1回は健康診断を受けている	62.0	63.9	69.8	62.9	49.9	55.3	51.7	50.7
栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている	34.0	34.1	36.0	39.7	48.7	53.6	46.1	46.5

	05 未利用				03 要支援			
	R4	R1	H28	H25	R4	R1	H28	H25
	2022年	2019年	2016年	2013年	2022年	2019年	2016年	2013年
口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)	72.0	68.4	67.2	60.6	70.6	68.4	76.9	74.3
掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする	62.8	65.7			67.8	65.7		
かかりつけの医師(主治医)に定期的に診てもらっている	75.6	76.8	72.9	73.7	79.2	76.8	80.7	78.9
年1回は健康診断を受けている	40.8	42.7	37.8	35.4	38.4	42.7	46.0	41.8
栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている	40.4	46.1	42.1	44.2	52.3	46.1	49.2	49.4

※ “一般 40～64 歳” は、H28 調査以前は 55～64 歳が対象

⑥ 健康や介護予防に取り組むきっかけ

問 介護予防に取り組むこととなった主なきっかけは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	41-1	37-1	34-1		24-1														

健康や介護予防に取り組むきっかけについて、全ての対象者で「以前からの習慣で、自発的に」が最も多くなっている。次いで、“一般40～64歳”では「検査の結果が気になって」、 “高齢者一般” “要支援”では「医師等の専門家からの指導や助言」といった、医療機関からの指導や助言が多くなっている。

図表 I-1-⑥ 取組のきっかけ

	02 一般40～64歳 (1,397)	01 高齢者一般 (2,733)	05 未利用 (835)	03 要支援 (547)
以前からの習慣で、自発的に	57.6	57.6	47.8	43.9
医師等の専門家からの指導や助言	11.4	23.0	28.9	35.2
家族のアドバイスや一言	14.2	20.6	29.2	29.1
検査の結果(数字など)が気になって	19.0	19.8	14.8	19.5
新聞やテレビなどのマスコミの情報から	11.1	19.6	19.7	19.7
具体的に症状が現れたので	15.0	15.2	16.5	22.9
友人・知人からのアドバイスや一言	6.6	8.7	9.5	10.2
市の広報紙や回覧板などの情報から	1.4	6.5	8.9	9.8
となり近所の人からのアドバイスや一言	0.2	1.4	2.7	2.7

⑦ 今後の健康や介護予防の取組見込み

問 今後、健康や介護予防に取り組みたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号	41-2	37-2	34-2		24-2															

今後の健康や介護予防の取組意向について、“高齢者一般”では「きっかけがあれば取り組みたい」が48.0%と最も多くなっており、“一般40～64歳”では「もう少し歳をとったら取り組みたい」と「取り組むつもりはない」が最も多くなっている。

過去の結果と比較すると、「取り組むつもりはない」は“一般40～64歳”“未利用”“要支援”で増加しており、“高齢者一般”では「きっかけがあれば取り組みたい」が増加している。

図表 I-1-⑦ 今後の取組見込

		有効回収数 (n)	きっかけがあれば	もう少し歳をとったら	取り組むつもりはない
02	一般40～64歳	(81)	28.4	33.3	33.3
01	高齢者一般	(25)	48.0	16.0	32.0
05	未利用	(9)	11.1	-	77.8
03	要支援	(6)	16.7	-	66.7

【経年比較】

	02 一般40～64歳		01 高齢者一般	
	R4	R1	R4	R1
	2022年	2019年	2022年	2019年
きっかけがあれば取り組みたい	28.4	32.7	48.0	35.4
もう少し歳をとったら取り組みたい	33.3	39.4	16.0	22.9
取り組むつもりはない	33.3	21.2	32.0	37.5

	05 未利用		03 要支援	
	R4	R1	R4	R1
	2022年	2019年	2022年	2019年
きっかけがあれば取り組みたい	11.1	20.0	16.7	30.8
もう少し歳をとったら取り組みたい	0.0	5.0	0.0	7.7
取り組むつもりはない	77.8	55.0	66.7	30.8

⑧ ロコモティブシンドロームの認知度

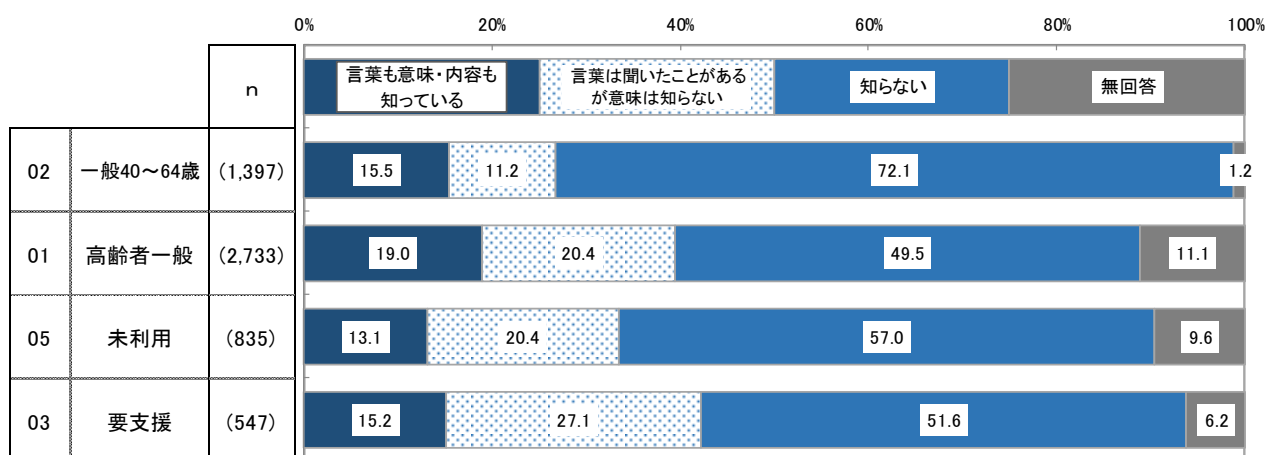
問 あなた（あて名ご本人）は、ロコモティブシンドロームを知っていますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	42-1	38-1	35-1		25-1														

ロコモティブシンドロームについて、「言葉も意味・内容も知っている」は“一般40～64歳”で15.5%、“高齢者一般”で19.0%となっている。「知らない」は“一般40～64歳”で72.1%と大半を占めており、“未利用”“要支援”においても5割以上となっている。

過去の結果と比較すると、「言葉も意味・内容も知っている」は“高齢者一般”では25.2%から19.0%と減少している。

図表 I-1-⑧ ロコモの認知度



【経年比較（言葉も意味・内容も知っている）】

(%)

		R4	R1	H28
		2022年	2019年	2016年
02	一般(40～64歳)	15.5	19.3	23.7
01	高齢者一般	19.0	25.2	22.0
05	未利用	13.1	13.9	14.9
03	要支援	15.2	14.4	17.0

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

⑨ 元気づくりステーションの認知度

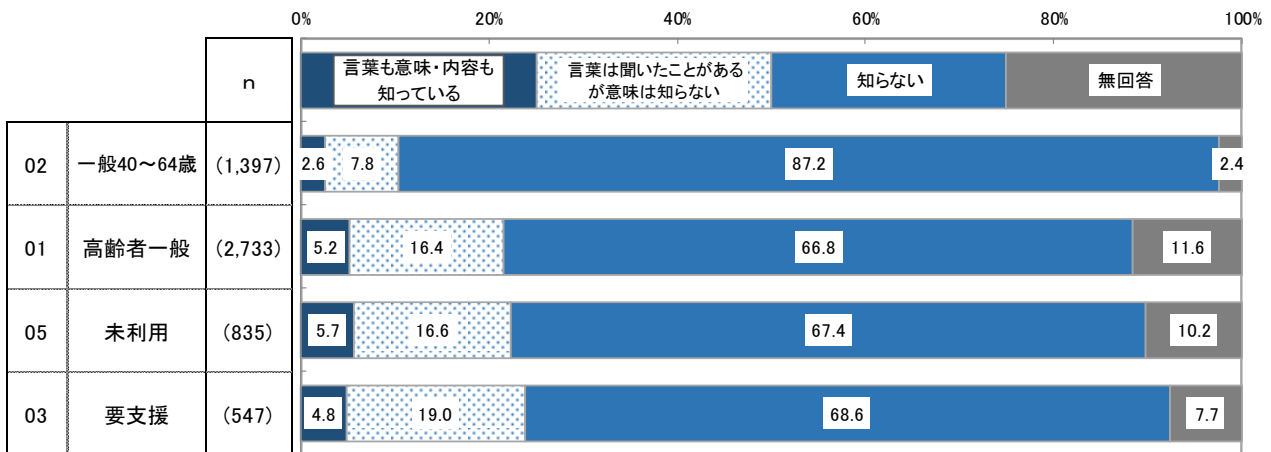
問 あなた（あて名ご本人）は、元気づくりステーションを知っていますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	42-2	38-2	35-2		25-2														

元気づくりステーションについて、「言葉も意味・内容も知っている」は、“一般40～64歳”では2.6%、“高齢者一般”で5.2%となっている。また、「知らない」は全ての対象者で6割以上を占めている。

過去の結果と比較すると、「言葉も意味・内容も知っている」は全ての対象で1割以下と横ばいとなっている。

図表 I-1-⑨ 元気づくりステーションの認知度



【経年比較（言葉も意味・内容も知っている）】

(%)

		R4	R1	H28
		2022年	2019年	2016年
02	一般(40～64歳)	2.6	1.3	3.4
01	高齢者一般	5.2	5.2	5.7
05	未利用	5.7	5.9	6.9
03	要支援	4.8	7.5	12.1

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

⑩ フレイルの認知度

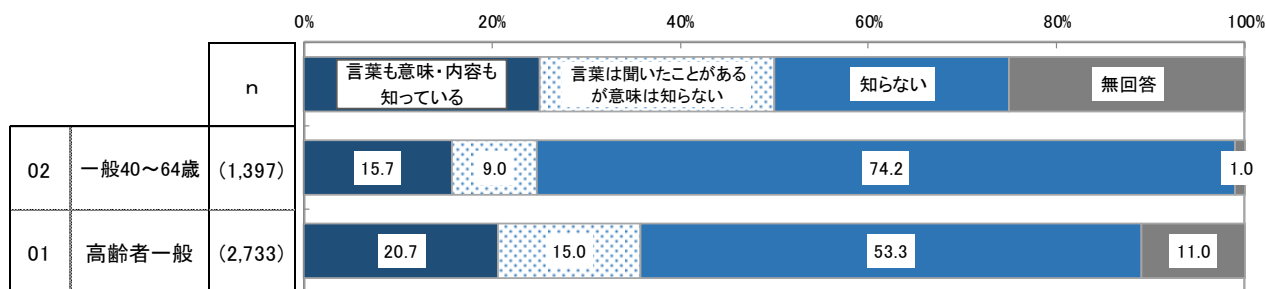
問 あなた（あて名ご本人）は、フレイルを知っていますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	42-3	38-3																		

フレイルについて、「言葉も意味・内容も知っている」は、“一般40～64歳”で15.7%、“高齢者一般”では20.7%となっている。

過去の結果と比較すると、「言葉も意味・内容も知っている」は、全ての対象で増加している。

図表 I-1-⑩ フレイルの認知度



【経年比較（言葉も意味・内容も知っている）】
(%)

		R4	R1
		2022年	2019年
02	一般(40～64歳)	15.7	9.2
01	高齢者一般	20.7	14.0

⑪ オーラルフレイルの認知度

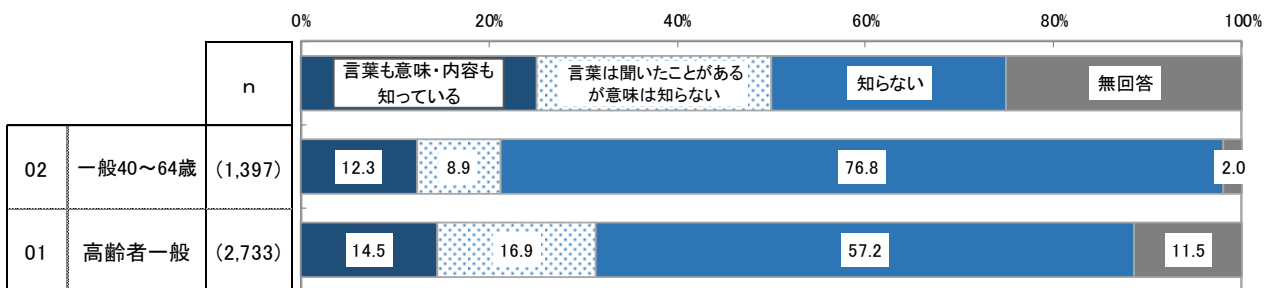
問 あなた（あて名ご本人）は、オーラルフレイルを知っていますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	42-4	38-4																	

オーラルフレイルについて、「言葉も意味・内容も知っている」は、“一般40～64歳”では12.3%、“高齢者一般”では14.5%となっている。

過去の結果と比較すると、「言葉も意味・内容も知っている」は、全ての対象で増加している。

図表 I-1-⑪ オーラルフレイルの認知度



【経年比較（言葉も意味・内容も知っている）】

(%)

		R4	R1
		2022年	2019年
02	一般(40～64歳)	12.3	6.2
01	高齢者一般	14.5	9.9

2 社会参加

① 就労状況

問 あなた（あて名ご本人）は現在、仕事をしていますか。また、どのくらいの頻度ですか。

（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	15	14																		

就労状況について、“高齢者一般”では「ほぼ毎日」は12.4%、「週に2～3日」は9.1%となっており、「月に数日」と合計した24.8%が、1か月に定期的に働いている。一方で、“一般40～64歳”では「ほぼ毎日」が65.1%となっている。

“高齢者一般”について、過去の結果と比較すると、「ほぼ毎日」「週に2～3日」「月に数日」の合計は、前回調査から大きな変化は見られなかった。

また、年齢別でみると、65～69歳では、「ほぼ毎日」が26.2%となっており、「週に2～3日」「月に数日」と合計した46.9%が1か月に定期的に働いている。

図表 I-2-① 就労状況

		有効回収数 (n)	ほぼ毎日	週に2～3日	月に数日	頻度は決まっていない	仕事はしていない	仕事はしたいが働いていない	無回答
02	一般40～64歳	(1,397)	65.1	12.9	1.8	3.4	12.0	4.8	0.1
01	高齢者一般	(2,733)	12.4	9.1	3.3	4.2	66.3	3.4	1.2

■ 高齢者一般

		有効回収数 (n)	ほぼ毎日	週に2～3日	月に数日	頻度は決まっていない	仕事はしていない	仕事はしたいが働いていない	無回答
経年比較	R4年度 (2022年度)	(2,733)	12.4	9.1	3.3	4.2	66.3	3.4	1.2
	R1年度 (2019年度)	(3,071)	12.3	10.0	2.9	3.6	64.7	4.9	1.5
	H28年度 (2016年度)	(2,108)	9.8	7.5	3.9	1.9	71.1	3.5	2.4
	H25年度 (2013年度)	(2,257)	9.5	6.6	4.3	3.2	74.3		2.1
年齢別比較	65～69歳	(629)	26.2	16.1	4.6	6.5	41.8	4.3	0.5
	70～74歳	(807)	13.3	10.8	4.5	4.0	61.2	5.3	1.0
	75～79歳	(623)	6.7	6.1	1.9	4.5	76.7	2.7	1.3
	80～84歳	(453)	4.6	4.6	2.0	2.2	83.7	1.3	1.5
	85歳以上	(218)	1.8	1.4	0.9	1.8	89.9	0.5	3.7

② 就労している理由

問 仕事をしている最も大きな理由は何ですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	15-2	14-2																		

就労している理由について、“一般 40～64 歳”では「生活費を得るため」が 76.0%と大半を占めている。一方で、“高齢者一般”では「生活費を得るため」が 42.0%と最も多く、次いで「経済的に余裕が欲しいから」が 17.2%、「生活に張りやりリズムができるから」が 15.5%となっている。

“高齢者一般”について、年齢別でみると、「生活費を得るため」は年齢が若い層で多い傾向にあり、65～69 歳では 50.9%、70～74 歳では 39.3%となっている。一方で、高齢になると、「生活に張りやりリズムができるから」が多くなる傾向があり、80～84 歳では 29.5%と最も多くなっている。

図表 I-2-② 就労している理由

		有効回収数 (n)	生活費を得るため	経済的に余裕が欲しいから	生活に張りやりリズムができるから	仕事の都合でやめることができないから	社会の役に立てるから	健康に良いから	友人が欲しいから	その他	無回答 (%)
02	一般40～64歳	(1,161)	76.0	10.0	5.7	1.0	3.1	0.6	0.0	1.9	1.7
01	高齢者一般	(793)	42.0	17.2	15.5	7.2	6.3	6.2	0.1	3.0	2.5

■高齢者一般

年齢別比較	65～69歳	(336)	50.9	18.5	11.6	5.1	6.0	3.0	0.0	3.3	1.8
	70～74歳	(262)	39.3	20.6	16.8	6.9	6.5	5.7	0.0	2.3	1.9
	75～79歳	(120)	35.0	12.5	17.5	10.8	6.7	9.2	0.8	4.2	3.3
	80～84歳	(61)	26.2	8.2	29.5	8.2	8.2	11.5	0.0	3.3	4.9
	85歳以上	(13)	7.7	0.0	7.7	30.8	0.0	46.2	0.0	0.0	7.7

③ 何歳まで働きたいか

問 何歳まで働き続けたいと思いますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号	15-4	14-4																	

働き続ける年齢について、“一般 40～64 歳”では「働き続けられるうちはいつまでも」が 29.3%と最も多く、次いで「65 歳まで」が 20.8%となっている。

“高齢者一般”では「働き続けられるうちはいつまでも」が 42.7%と最も多く、次いで「75 歳まで」が 20.2%となっている。

“高齢者一般”について、年齢別でみると、「働き続けられるうちはいつまでも」が全ての年齢区分で最も多く、高齢になるにつれて多くなる傾向がある。また、80 歳以上になると「わからない」が多くなる傾向がある。

図表 I-2-③ 何歳まで働きたいか

		有効回収数 (n)	定年まで	年金を受給できるようになるまで	60歳未満	60歳まで	65歳まで	70歳まで	75歳まで	80歳まで	働き続けられるうちはいつまでも	わからない	無回答
02	一般40～64歳	(1,161)	11.3	8.3	2.8	6.5	20.8	9.6	2.6	0.5	29.3	8.0	0.3
01	高齢者一般	(793)	1.6	0.1				13.2	20.2	9.5	42.7	12.1	0.5

■高齢者一般

年齢別比較	65～69歳	(336)	3.3	0.3				30.7	17.9	1.8	34.8	10.7	0.6
	70～74歳	(262)	0.8	0.0				0.8	36.3	11.1	39.7	11.5	0.0
	75～79歳	(120)	0.0	0.0				0.0	4.2	32.5	52.5	9.2	1.7
	80～84歳	(61)	0.0	0.0				0.0	0.0	1.6	75.4	23.0	0.0
	85歳以上	(13)	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	69.2	30.8	0.0

④ 近所付き合いの状況

問 あなた（あて名ご本人）は、ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。

（○はひとつ）

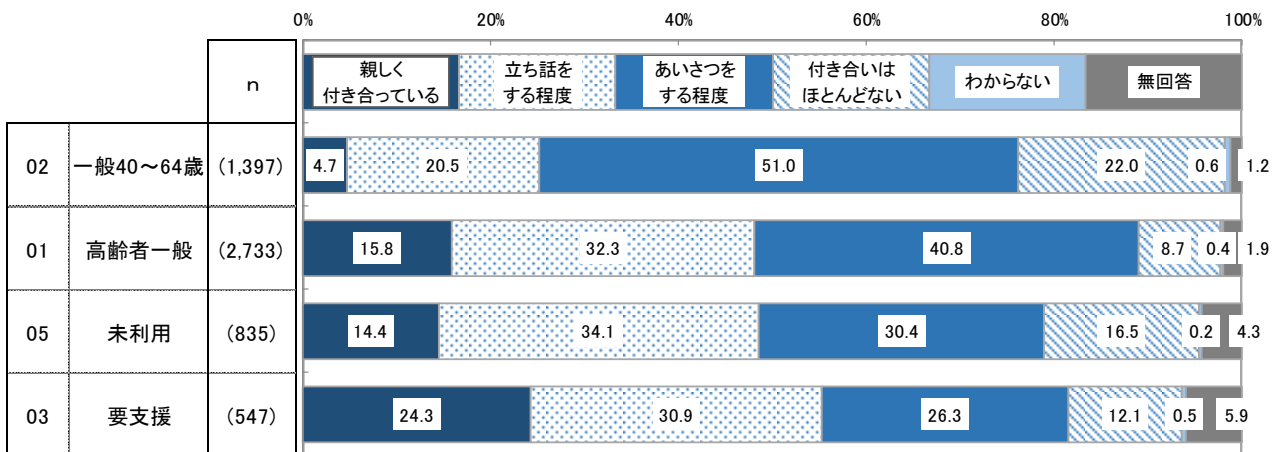
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	24	25	25		22															

近所付き合いの状況について、「親しく付き合っている」は“高齢者一般”で15.8%となっており、“未利用”では14.4%、“要支援”では24.3%となっている。一方で、“一般40～64歳”では「親しく付き合っている」は4.7%となっており、「あいさつをする程度」が51.0%と半数以上を占めている。

過去の結果と比較すると、「親しく付き合っている」は“要支援”で増加しているものの、他の対象者では減少している。

また、「付き合いはほとんどない」は、全ての対象者で、経年で増加傾向にある。

図表 I-2-④ 近所付き合いの状況



【経年比較】

	02 一般40～64歳				01 高齢者一般			
	R4	R1	H28	H25	R4	R1	H28	H25
	2022年	2019年	2016年	2013年	2022年	2019年	2016年	2013年
親しく付き合っている	4.7	8.0	9.3	11.9	15.8	21.2	23.1	30.0
立ち話をする程度	20.5	20.3	25.1	27.9	32.3	34.5	29.7	28.9
あいさつをする程度	51.0	52.8	53.7	49.7	40.8	34.0	36.7	35.3
付き合いはほとんどない	22.0	18.1	10.8	9.1	8.7	7.6	7.3	4.0
わからない	0.6	0.6	0.1	0.5	0.4	0.3	0.4	0.1

	05 未利用				03 要支援			
	R4	R1	H28	H25	R4	R1	H28	H25
	2022年	2019年	2016年	2013年	2022年	2019年	2016年	2013年
親しく付き合っている	14.4	18.5	26.7	26.4	24.3	19.1	30.9	35.8
立ち話をする程度	34.1	31.0	22.4	20.9	30.9	33.3	27.1	22.5
あいさつをする程度	30.4	30.4	31.4	31.0	26.3	30.7	31.1	28.5
付き合いはほとんどない	16.5	14.1	12.8	15.1	12.1	11.6	7.6	8.8
わからない	0.2	0.7	0.5	0.9	0.5	0.4	0.4	0.5

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

⑤ 近所付き合いのない理由

問 付き合いがほとんどない理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	24-1	25-1																		

近所付き合いがほとんどない理由について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「普段付き合い機会がないから」が最も多く、次いで「ご近所と知り合うきっかけがないから」となっている。
年齢別でみると、「普段付き合い機会がないから」は全ての年代で最も多くなっている。

図表 I-2-⑤ 近所付き合いのない理由

		有効回収数 (n)	普段付き合い機会がないから	ご近所と知り合うきっかけがないから	あまり関わりをもちたくないから	気の合う人が近くにいないから	引越してきて間もないから	仕事や家事などで忙しく時間がないから	同世代の人が近くにいないから	特に理由はない	わからない
02	一般40～64歳	(307)	63.5	34.9	21.2	10.7	4.6	32.6	5.5	8.8	0.3
01	高齢者一般	(239)	69.5	31.4	25.5	17.6	13.4	9.6	6.3	8.4	0.8

■年齢別

一般40～64歳	40～44歳	(51)	60.8	27.5	25.5	9.8	5.9	23.5	7.8	9.8	0.0
	45～49歳	(69)	60.9	40.6	24.6	13.0	4.3	43.5	4.3	7.2	0.0
	50～54歳	(79)	57.0	27.8	17.7	12.7	5.1	34.2	6.3	11.4	1.3
	55～59歳	(59)	64.4	27.1	20.3	10.2	0.0	30.5	5.1	10.2	0.0
	60～64歳	(47)	80.9	55.3	19.1	6.4	8.5	25.5	4.3	2.1	0.0
高齢者一般	65～69歳	(63)	73.0	30.2	30.2	14.3	14.3	9.5	0.0	9.5	0.0
	70～74歳	(77)	74.0	33.8	28.6	13.0	11.7	14.3	7.8	10.4	0.0
	75～79歳	(38)	71.1	31.6	23.7	28.9	13.2	7.9	10.5	2.6	2.6
	80～84歳	(41)	61.0	39.0	24.4	29.3	17.1	7.3	7.3	7.3	0.0
	85歳以上	(20)	55.0	10.0	5.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	5.0

⑥ 地域活動への参加状況

問 あなた（あて名ご本人）はこの1年間に、個人・団体で次のような地域活動やボランティアに参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

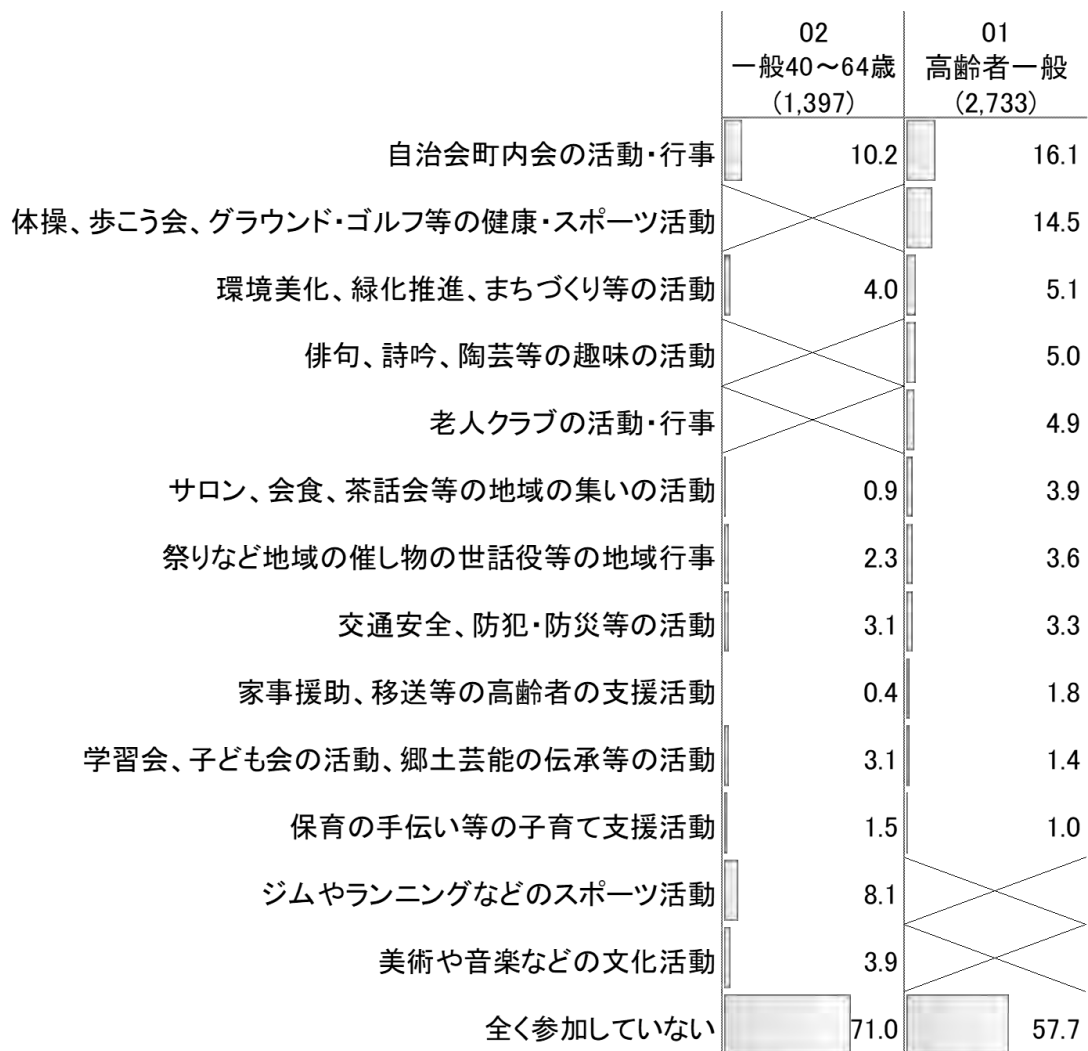
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	26	27																	

この1年で参加した地域活動について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「自治会町内会の活動・行事」が最も高く、次いで、“一般40～64歳”では「ジムやランニングなどのスポーツ活動」、
“高齢者一般”では「体操、歩こう会、グラウンド・ゴルフ等の健康・スポーツ活動」となっている。また、「全く参加していない」は“一般40～64歳”で71.0%、“高齢者一般”で57.7%となっている。

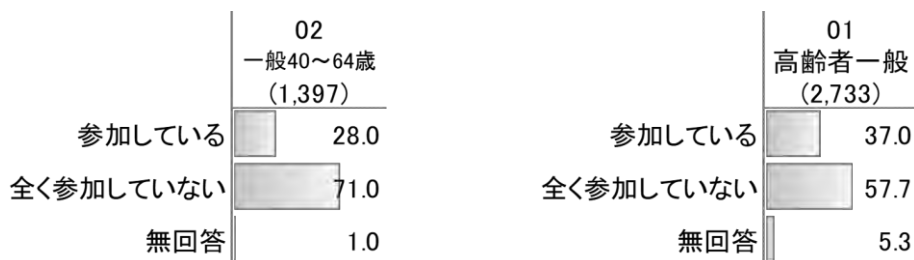
年齢別でみると、「全く参加していない」は高齢になるにつれて低くなる傾向があり、40～44歳で69.5%となっているが、85歳以上では46.3%となっている。

過去の結果と比較すると、「全く参加していない」は“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに前回から大幅に増加している。

図表 I-2-⑥ 地域活動への参加状況



【回答のまとめ】



【年齢別の比較】

		有効回収数 (n)	自治会町内会の活動・行事	体操、歩こう会、グラウンド・ゴルフ等の健康・スポーツ活動	環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動	ジムやランニングなどのスポーツ活動	交通安全、防犯・防災等の活動	祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事	俳句、詩吟、陶芸等の趣味の活動	老人クラブの活動・行事	集いの活動	サロンの活動	能の伝承等の活動	学習会、子ども会の活動、郷土芸能の活動	美術や音楽などの文化活動	保育の手伝い等の子育て支援活動	家事援助、移送等の高齢者の支援活動	全く参加していない (%)
一般40～64歳	40～44歳	(203)	11.3		3.9	5.9	3.9	4.9			1.0	3.9	3.0	1.5	0.0	69.5		
	45～49歳	(275)	10.2		3.6	3.3	4.0	2.2			0.4	6.9	3.6	1.5	0.4	72.7		
	50～54歳	(326)	9.2		3.4	8.3	2.1	1.8			0.3	3.4	3.1	2.1	0.3	72.4		
	55～59歳	(289)	9.3		3.8	9.3	3.5	2.1			0.7	0.7	3.8	0.3	0.7	71.3		
	60～64歳	(301)	11.3		5.3	12.3	2.3	1.3			2.0	1.3	5.6	2.0	0.7	68.8		
高齢者一般	65～69歳	(629)	14.9	8.6	3.8		1.7	3.0	1.6	1.0	2.2	1.9		1.4	1.1	69.2		
	70～74歳	(807)	16.5	12.5	5.2		3.8	4.2	4.6	3.7	3.6	1.5		1.2	1.7	59.7		
	75～79歳	(623)	17.7	17.7	5.8		5.3	4.5	6.9	6.4	5.1	1.4		1.0	2.1	53.5		
	80～84歳	(453)	15.2	20.5	7.1		2.4	2.6	7.9	7.1	4.4	0.7		0.4	2.2	49.7		
	85歳以上	(218)	14.2	17.0	2.8		1.8	2.8	5.5	11.5	5.0	0.5		0.0	1.8	46.3		

【経年比較（全く参加していない）】

		(%)			
		R4	R1	H28	H25
		2022年	2019年	2016年	2013年
02	一般40～64歳	71.0	54.8	58.2	40.8
01	高齢者一般	57.7	38.8	42.8	30.3

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

⑦ 地域活動やボランティアに参加したきっかけ

問 地域活動やボランティアに参加した主なきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	26-1	27-1																		

地域活動やボランティアに参加したきっかけについて、“高齢者一般”では「健康でいたいから」が34.5%と最も多く、次いで「地域や社会貢献したいから」が26.2%となっている。一方で“一般40～64歳”では“地域や社会貢献したいから”が20.7%と最も多く、次いで「内容が楽しそうだったから」が18.2%となっている。

年齢別でみると、「健康でいたいから」は高齢になるにつれて割合が多くなる傾向があり、特に75歳以上の後期高齢者で多くなっている。

また、「地域や社会貢献したいから」は70～74歳で最も多くなっている。

図表 I-2-⑦ 地域活動やボランティアに参加したきっかけ

		有効回収数 (n)	健康でいたいから	地域や社会貢献したいから	以前からの習慣で、自発的に	市の広報紙や回覧板などの情報から	内容が楽しそうだったから	友人・知人からのアドバイス	自分の能力を活かせると思っ	イタリや近所の人からのアドバイス	家族のアドバイスや一言	新聞やテレビ等のマスコミの情報から	ケアマネジャー等の福祉・介護の専門家からの助言	医師等の医療の専門家からの助言
02	一般40～64歳	(391)	14.8	20.7	16.1	10.5	18.2	12.8	10.0	4.6	5.6	1.5	0.8	0.8
01	高齢者一般	(1,012)	34.5	26.2	24.6	18.7	17.6	17.4	16.0	7.5	5.7	5.3	1.4	0.9

■年齢別

一般40～64歳	40～44歳	(56)	8.9	19.6	12.5	8.9	21.4	12.5	8.9	1.8	7.1	0.0	0.0	0.0
	45～49歳	(75)	5.3	24.0	10.7	9.3	24.0	12.0	6.7	9.3	9.3	2.7	1.3	1.3
	50～54歳	(87)	19.5	20.7	13.8	10.3	9.2	13.8	14.9	4.6	3.4	2.3	1.1	0.0
	55～59歳	(79)	12.7	19.0	19.0	6.3	15.2	7.6	2.5	5.1	5.1	0.0	1.3	0.0
	60～64歳	(93)	22.6	20.4	22.6	16.1	21.5	17.2	14.0	2.2	4.3	2.2	0.0	2.2
高齢者一般	65～69歳	(182)	17.0	26.9	19.8	18.7	14.8	11.5	17.6	7.1	2.7	2.2	1.1	0.0
	70～74歳	(298)	30.9	30.9	24.2	16.8	21.1	15.1	14.1	9.1	7.4	5.0	0.7	0.3
	75～79歳	(252)	38.1	24.2	26.6	24.2	19.0	22.2	15.9	6.7	6.0	7.5	2.0	1.2
	80～84歳	(191)	45.5	25.7	26.2	16.8	15.7	17.3	17.8	8.4	7.3	7.3	1.6	1.0
	85歳以上	(87)	49.4	16.1	26.4	12.6	11.5	24.1	16.1	3.4	2.3	2.3	2.3	3.4

⑧ 参加・利用してみたい活動

問 次のうち、参加・利用してみたいと思うものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	28	28																		

参加・利用してみたい活動について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が最も多く、次いで、“高齢者一般”では「仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場」、「一般40～64歳」では「地域貢献となるボランティア」が多くなっている。

年齢別でみると、「地域貢献となるボランティア」は、年齢が若いほど割合が多い傾向がある。

図表 I-2-⑧参加・利用してみたい活動

		有効回収数 (n)	め の 活 動 を 行 う 場	ウ ォ ー キ ン グ や 体 操 教 室 な ど 健 康 維 持 の た め の 活 動 を 行 う 場	仲 間 と 話 を し た り 趣 味 の 活 動 を 行 う サ ロ ン 等 の 場	地 域 貢 献 と な る ボ ラ ン テ ィ ア	き る 場	パ ソ コ ン や イ ン タ ー ネ ッ ト な ど の 学 習 が で きる 場	鑑 賞 等 を 中 心 と し た 仲 間 と 集 まる 場	文 化 （ 書 道 、 俳 句 等 ） 、 芸 術 （ 絵 画 、 美 術 ） を 中 心 と し た 仲 間 と 集 まる 場	ア リ ア の 知 識 や 経 験 を 活 か し た ボ ラ ン テ ィ ア	農 作 業 を 中 心 と し た 仲 間 と の 活 動 の 場	社 会 参 加 な ど 、 セ カ ン ド ラ イ フ の 充 実 に 向 け た 高 齢 者 の た め の 相 談 窓 口	特 に な い	(%)	
02	一般40～64歳	(1,397)	32.6	17.3	30.6	15.5	14.5	16.0	12.7	3.1	33.7					
01	高齢者一般	(2,733)	37.2	18.3	17.7	16.2	13.9	7.8	6.9	2.0	33.1					
■ 年齢別																
一 般 4 0 ～ 6 4 歳	40～44歳	(203)	28.6	14.8	36.9	12.3	12.3	15.8	11.8	2.0	32.5					
	45～49歳	(275)	34.9	17.1	32.4	12.7	15.3	17.5	10.5	4.4	31.6					
	50～54歳	(326)	31.0	19.6	31.6	14.4	14.7	15.3	16.0	3.7	35.6					
	55～59歳	(289)	28.4	14.5	28.4	15.9	11.8	17.3	13.8	2.1	37.4					
	60～64歳	(301)	38.9	18.9	25.9	20.6	17.6	14.3	10.6	3.0	30.9					
高 齢 者 一 般	65～69歳	(629)	42.0	17.3	20.5	18.0	15.6	9.9	8.6	2.4	33.7					
	70～74歳	(807)	36.8	18.8	20.1	18.7	13.8	9.3	7.6	2.5	33.7					
	75～79歳	(623)	39.5	19.9	18.0	13.8	14.9	7.7	5.8	1.6	31.8					
	80～84歳	(453)	31.3	18.1	13.7	15.7	11.9	5.3	7.1	2.0	32.0					
	85歳以上	(218)	30.7	14.7	7.8	9.6	11.0	1.8	2.3	0.5	34.9					

⑨ 地域に対する愛着や考え方

問 地域に対する愛着や考え方について、あなた（あて名ご本人）のお考えにもっとも近いものをお選びください。（それぞれ〇はひとつ）

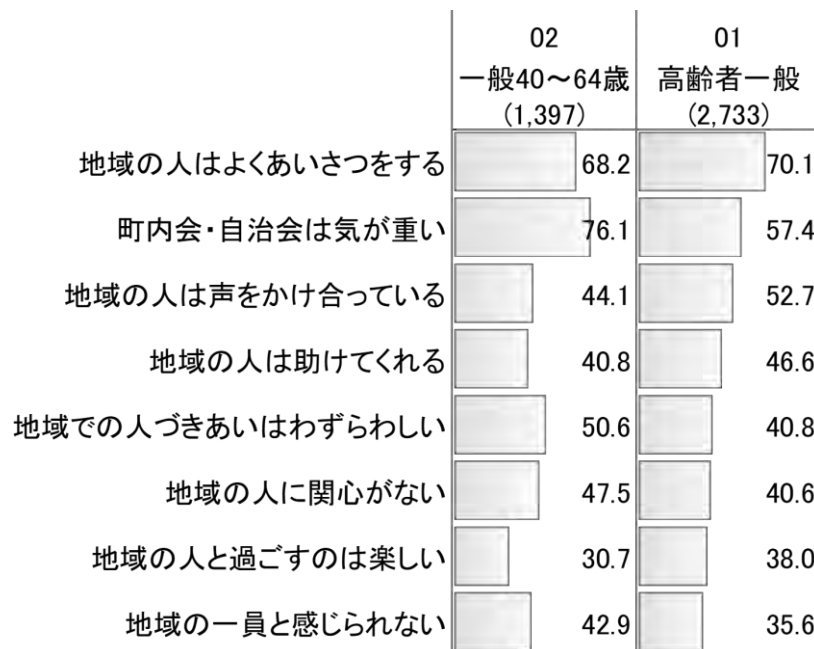
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号	29	29																	

地域に対する愛着や考え方について、“高齢者一般”では、「地域の人をよくあいさつをする」が70.1%と最も多く、“一般40～64歳”でも68.2%となっている。

“一般40～64歳”では、「町内会・自治会は気が重い」が76.1%と最も多く、“高齢者一般”でも半数以上を占めている。

図表 I-2-⑨ 地域に対する愛着や考え方

【とてもそう思う+ややそう思うの合計】



⑩ 月に1回以上行っている取組・活動【新規】

問 あなたが複数人で、月に1回以上行っている取組や活動はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	27	24																		

月に1回以上行っている取組や活動について、「一般40～64歳」「高齢者一般」ともに「共通の趣味嗜好を持つ人との交流」が最も多くなっている。

また、「あてはまるものはない」は「一般40～64歳」で54.4%、「高齢者一般」で46.7%となっており、半数は何らかの取組や活動を行っている。

年齢別でみると、「共通の趣味嗜好を持つ人との交流」は60～64歳で最も多いものの、65歳になると減少し、70歳を超えると再び増加する傾向がある。

また、「あてはまるものはない」についても、60～64歳で45.8%となっているものの、65～69歳で57.2%に増加し、70歳を超えると減少する傾向がある。

図表 I-2-⑩ 月に1回以上行っている取組・活動

		有効回収数 (n)	共通の趣味嗜好を持つ人との交流	健康維持のための活動	楽しめる活動	気分転換やストレス解消のための活動	近所の住民との交流	活動知識や技能を活かせる	社会への貢献度の高い活動	あてはまるものはない (%)
02	一般40～64歳	(1,397)	20.5	16.5	14.5	19.3	4.7	7.8	3.8	54.4
01	高齢者一般	(2,733)	24.2	20.3	13.4	9.1	8.3	6.1	4.4	46.7
■ 年齢別										
一般40～64歳	40～44歳	(203)	16.7	11.8	12.3	16.3	6.4	5.4	3.0	55.2
	45～49歳	(275)	11.6	10.2	11.6	18.5	3.3	4.0	3.6	61.5
	50～54歳	(326)	19.3	14.7	15.0	17.5	2.8	6.1	3.1	57.7
	55～59歳	(289)	22.5	20.8	14.2	21.5	2.4	11.4	3.8	52.6
	60～64歳	(301)	30.2	23.3	18.6	21.9	9.0	11.3	5.3	45.8
高齢者一般	65～69歳	(629)	18.6	16.5	11.4	9.9	5.2	6.7	4.0	57.2
	70～74歳	(807)	25.0	21.1	14.4	10.7	7.3	5.6	5.0	47.7
	75～79歳	(623)	28.1	22.5	14.3	9.3	10.4	7.4	4.8	42.4
	80～84歳	(453)	27.4	21.0	14.6	7.1	10.6	6.4	4.6	38.6
	85歳以上	(218)	20.2	20.6	11.0	5.5	10.1	2.3	2.3	40.8

⑪ 月に1回以上行っている取組や活動の場【新規】

問 あなたはどのような活動に取り組んでいますか。活動にあてはまる場を全てお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	27-1	24-1																	

活動の場について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「仲間同士の集まり」が最も多く、次いで、“一般40～64歳”では「有料の民間サービス」、「高齢者一般」では「自治会などの住民組織の活動」が多くなっている。

年齢別でみると、「自治会などの住民組織の活動」「行政や地域ケアプラザ等が主催する教室やイベントなどの活動」は年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がある。

図表 I-2-⑪ 取組や活動の場

		(%)					
		有効回収数 (n)	仲間同士の集まり	自治会などの住民組織の活動	有料の民間サービス(フィットネスクラブなど)	行政や地域ケアプラザ等が主催する教室やイベントなどの活動	NPOやボランティア団体の活動
02	一般40～64歳	(616)	57.3	8.0	21.8	5.7	5.4
01	高齢者一般	(1,257)	55.9	22.4	22.2	16.2	6.3

■年齢別

年齢別	年齢	有効回収数 (n)	仲間同士の集まり	自治会などの住民組織の活動	有料の民間サービス(フィットネスクラブなど)	行政や地域ケアプラザ等が主催する教室やイベントなどの活動	NPOやボランティア団体の活動
一般40～64歳	40～44歳	(80)	65.0	5.0	21.3	2.5	3.8
	45～49歳	(106)	50.9	6.6	19.8	7.5	8.5
	50～54歳	(133)	60.2	9.0	21.1	3.8	4.5
	55～59歳	(134)	53.0	3.7	20.1	4.5	4.5
	60～64歳	(161)	59.6	13.0	24.8	8.7	5.6
高齢者一般	65～69歳	(257)	56.0	17.1	25.7	11.3	8.2
	70～74歳	(383)	58.7	21.4	24.5	11.7	8.1
	75～79歳	(309)	56.3	25.2	22.0	19.4	4.9
	80～84歳	(222)	51.4	23.9	17.1	24.8	3.6
	85歳以上	(86)	53.5	27.9	15.1	17.4	4.7

⑫ 施設（事業所）のボランティアの受入状況

問 ボランティアの受入頻度とよこはまシニアボランティアポイント事業の実施状況について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									51	49	48									

施設（事業所）のボランティア受入れについて、“老健”ではシニアボランティアを受け入れている施設（事業所）が46.6%と最も多く、次いで“特養”が40.0%となっている。

その他のボランティアについては、全ての対象施設（事業所）で2割から3割程度となっている。

過去の結果と比較すると、“特養”“老健”では「受け入れている」が大幅に減少している。

図表 I-2-⑫ ボランティアの受入状況

			(%)							
			有効回収数 (n)	ほぼ毎日	週1 日程度	月2 回程度	月1 回程度	その他	受け 入れて いない	無 回答
ボ ラ シ ニ ア ボ ラ ン テ ィ ア	09	特養	(100)	4.0	4.0	4.0	3.0	25.0	49.0	11.0
	10	老健	(45)	2.2	13.3	4.4	6.7	20.0	46.7	6.7
	11	居住系	(335)	-	1.8	0.3	0.3	7.2	74.6	15.8
ボ ラ ソ ノ 他 の ボ ラ ン テ ィ ア	09	特養	(100)	3.0	3.0	2.0	4.0	12.0	36.0	40.0
	10	老健	(45)	4.4	2.2	4.4	2.2	15.6	24.4	46.7
	11	居住系	(335)	-	0.9	2.1	5.4	9.9	39.1	42.7

【経年比較（受け入れている）】

			(%)	
			R4	R1
			2022年	2019年
ボ ラ シ ニ ア ボ ラ ン テ ィ ア	09	特養	40.0	73.0
	10	老健	46.6	75.0
	11	居住系	9.6	13.9
ボ ラ ソ ノ 他 の ボ ラ ン テ ィ ア	09	特養	24.0	53.9
	10	老健	28.9	57.5
	11	居住系	18.2	41.0

⑬ 平日の日中の外出頻度

問 あなた（あて名ご本人）は、平日の日中には、どのくらい外出されていますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	31	30	27																

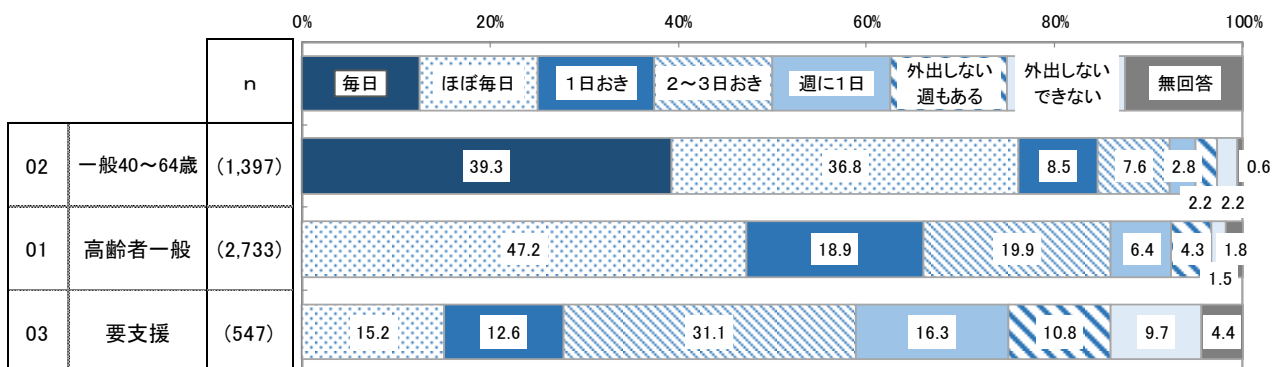
平日の日中の外出頻度について、“高齢者一般”では「ほぼ毎日」が47.2%となっており、「外出しない週もある」「外出しない・できない」の合計は5.8%となっている。一方、“要支援”では「ほぼ毎日」は15.2%となっており、「外出しない週もある」「外出しない・できない」の合計は20.5%となっている。

過去の結果と比較すると、“高齢者一般”では「ほぼ毎日」が減少している。

年齢別でみると、「ほぼ毎日」は“高齢者一般”“要支援”ともに、高齢になると低くなる傾向がある一方で、「2～3日おき」「週に1回」が多くなる傾向がある。

また、“要支援”では、70歳以上になると「外出しない週もある」「外出しない・できない」が増加する傾向がある。

図表 I-2-⑬ 平日の日中の外出頻度



【経年比較】

	01 高齢者一般				03 要支援			
	R4	R1	H28	H25	R4	R1	H28	H25
	2022年	2019年	2016年	2013年	2022年	2019年	2016年	2013年
ほぼ毎日	47.2	54.7	52.8	55.5	15.2	16.3	21.2	18.9
1日おき	18.9	18.7	19.7	20.3	12.6	18.2	15.5	14.0
2～3日おき	19.9	16.1	15.6	14.1	31.1	31.5	32.0	31.9
週に1日	6.4	4.3	4.2	4.2	16.3	16.9	13.4	16.5
外出しない週もある	4.3	2.4	3.0	2.9	10.8	7.9	9.3	9.4
外出しない・できない	1.5	1.1	2.5	0.7	9.7	5.1	6.5	5.3

【年齢別の比較】

			(%)						
		有効回収数 (n)	ほぼ毎日	1日おき	2～3日おき	週に1日	外出しない週もある	外出しない・できない	無回答
高齢者一般	65～69歳	(629)	59.3	17.2	15.3	4.9	2.5	0.5	0.3
	70～74歳	(807)	49.8	19.6	19.5	5.7	4.1	0.5	0.9
	75～79歳	(623)	44.9	20.2	20.9	5.6	4.7	1.4	2.2
	80～84歳	(453)	37.3	18.5	24.3	9.1	5.3	2.6	2.9
	85歳以上	(218)	29.4	18.3	23.9	10.6	6.9	5.5	5.5
要支援	65歳未満	(15)	33.3	20.0	26.7	6.7	0.0	6.7	6.7
	65～69歳	(15)	26.7	33.3	20.0	6.7	0.0	6.7	6.7
	70～74歳	(46)	10.9	15.2	34.8	8.7	13.0	10.9	6.5
	75～79歳	(68)	11.8	17.6	35.3	13.2	13.2	2.9	5.9
	80～84歳	(132)	18.2	11.4	25.0	17.4	15.9	7.6	4.5
	85歳以上	(271)	13.7	10.0	33.2	18.8	8.5	12.5	3.3

⑭ 平日の外出目的

問 平日の外出の主な目的は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	31-1	30-1	27-1																

平日の外出の主な目的について、“高齢者一般”では外出目的は「買い物」が78.0%と最も多く、“要支援”では「通院やりハビリ」が74.0%と最も多くなっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”では高齢になるにつれて「通院やりハビリ」が多くなり、「仕事」が少なくなる傾向がある。

図表 I-2-⑭ 外出目的

			(%)									
		有効回収数 (n)	買い物	散歩	通院やりハビリ	趣味活動	仕事	友人・知人と会う	身内の者と会う	地域活動(地域のイベントへの参加・協力)	ボランティア活動	
02	一般40～64歳	(1,358)	61.3	21.9	11.7	17.5	76.3	17.0	7.6	1.4	1.4	
01	高齢者一般	(2,644)	78.0	44.9	34.3	28.8	24.3	23.2	10.1	6.8	4.1	
03	要支援	(470)	60.4	36.0	74.0	13.4	2.1	15.5	7.9	6.2	2.6	

■年齢別

		有効回収数 (n)	買い物	散歩	通院やりハビリ	趣味活動	仕事	友人・知人と会う	身内の者と会う	地域活動(地域のイベントへの参加・協力)	ボランティア活動
高齢者一般	65～69歳	(624)	75.0	36.5	25.0	25.5	46.0	21.5	10.7	5.1	3.4
	70～74歳	(796)	81.5	46.0	32.0	29.6	26.8	23.0	9.9	6.7	4.8
	75～79歳	(600)	79.3	50.7	41.2	32.0	15.5	27.5	11.3	9.5	5.2
	80～84歳	(428)	75.7	48.1	40.0	28.5	9.3	21.3	8.4	7.2	3.3
	85歳以上	(194)	73.7	42.8	40.7	26.8	4.6	20.6	9.3	4.1	2.6
要支援	65歳未満	(13)	69.2	38.5	76.9	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	(13)	69.2	38.5	61.5	15.4	15.4	30.8	15.4	7.7	0.0
	70～74歳	(38)	71.1	42.1	92.1	7.9	2.6	26.3	7.9	7.9	7.9
	75～79歳	(62)	59.7	38.7	85.5	12.9	0.0	12.9	12.9	6.5	3.2
	80～84歳	(116)	65.5	35.3	72.4	16.4	1.7	16.4	3.4	8.6	3.4
	85歳以上	(228)	55.3	34.2	69.3	12.7	1.3	13.6	8.8	4.8	1.3

⑮ 外出時の移動手段

問 あなた（あて名ご本人）が、ふだん外出する手段はどれですか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	31-3	30-3	27-3																

外出時の移動手段について、全ての対象者で「徒歩」が最も多くなっており、次いで、“一般 40～64 歳”では「自分で運転する自動車・バイク」、「高齢者一般」“要支援”では「バス」が多くなっている。また、“要支援”では「家族等が運転する自動車」「タクシー」「送迎サービス」といった、他人が運転する自動車での移動が多くなっている。

年齢別でみると、「バス」は高齢になるにつれて多くなる傾向があり、一方で、「私鉄」「JR」「市営地下鉄」といった電車の利用は、“要支援”では高齢になるにつれて少なくなる傾向がある。

図表 I-2-⑮ 外出時の移動手段

		有効回収数 (n)	徒歩	バス	車・自分で運転する自動車・バイク	私鉄	JR	市営地下鉄	自転車	自動車	家族等が運転する自動車	タクシー	金沢シーサイドライン	送迎サービス
02	一般40～64歳	(1,358)	70.6	30.8	43.2	38.7	37.4	21.1	22.2	12.4	3.4	1.3	-	
01	高齢者一般	(2,644)	73.1	53.2	30.9	28.5	26.2	25.8	14.9	14.7	6.8	2.8	0.4	
03	要支援	(470)	60.4	51.7	6.2	14.3	11.1	20.6	2.1	33.0	35.7	2.6	29.4	

■年齢別

高齢者一般	65～69歳	(624)	74.5	34.8	42.5	36.2	32.4	14.6	15.2	13.8	3.5	1.6	0.3
	70～74歳	(796)	72.0	51.3	35.9	26.0	27.0	27.3	17.6	17.7	5.4	2.5	0.1
	75～79歳	(600)	75.2	60.5	27.2	27.7	23.3	30.7	14.8	14.2	7.0	4.2	0.3
	80～84歳	(428)	73.6	65.7	18.9	23.6	22.7	32.5	11.9	13.1	11.0	4.4	0.9
	85歳以上	(194)	65.5	70.1	10.8	27.8	19.6	26.3	9.3	10.3	12.9	0.5	0.5
要支援	65歳未満	(13)	38.5	30.8	23.1	30.8	23.1	46.2	7.7	38.5	23.1	0.0	7.7
	65～69歳	(13)	84.6	38.5	15.4	15.4	30.8	30.8	15.4	30.8	53.8	7.7	0.0
	70～74歳	(38)	57.9	50.0	15.8	18.4	13.2	28.9	2.6	47.4	23.7	5.3	21.1
	75～79歳	(62)	66.1	56.5	8.1	14.5	16.1	24.2	3.2	33.9	35.5	3.2	27.4
	80～84歳	(116)	58.6	62.1	5.2	14.7	14.7	19.8	1.7	26.7	35.3	3.4	26.7
	85歳以上	(228)	60.1	47.4	3.1	12.3	5.7	16.7	0.9	33.3	37.7	1.3	35.5

⑩ 敬老パスの所持状況

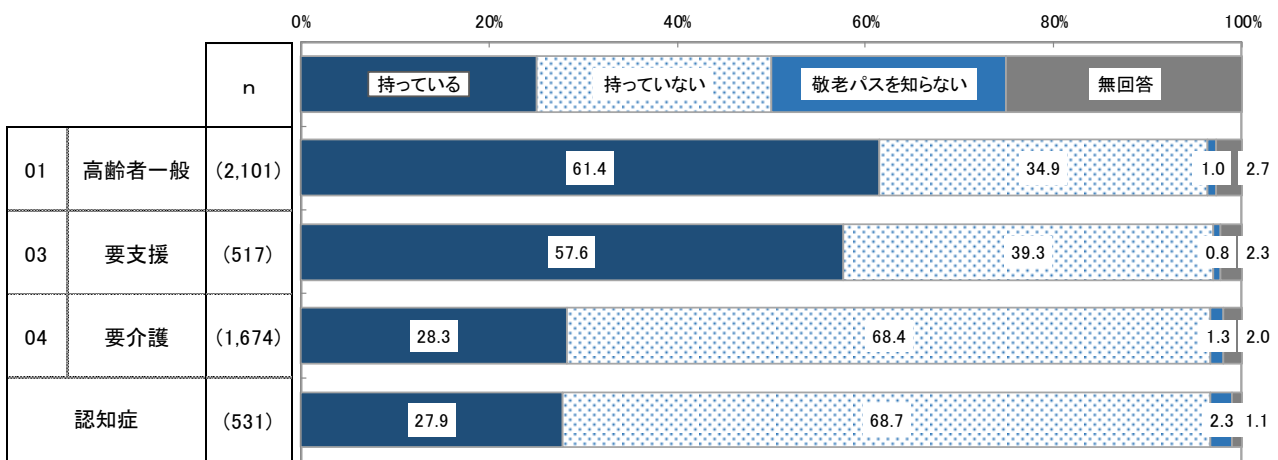
問 あなたは、敬老パス（横浜市敬老特別乗車証）を持っていますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	32		29	22																

敬老パスの所持状況について、“高齢者一般”と“要支援”では「持っている」が約6割となっており、“要介護”では28.3%、“認知症”では27.9%となっている。

過去の結果と比較すると、敬老パスを「持っている」割合が少なくなっている。

図表 I-2-⑩ 敬老パスの所持状況



※70歳以上の回答のみ集計

【経年比較】

	01 高齢者一般			03 要支援			04 要介護		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
持っている	61.4	67.3	68.3	57.6	68.8	21.2	28.3	31.8	
持っていない	34.9	28.4	28.8	39.3	28.0	15.5	68.4	63.4	
敬老パスを知らない	1.0	0.6	0.6	0.8	1.2	6.5	1.3	2.1	

⑰ 買い物の方法【新規】

問 あなたが日常生活における買物（食品・日用品等）をする場合は、どの方法が多いですか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	38	34	16																

買い物の方法について、全ての対象者で「自分で行く」が最も多くなっている。一方で、“要支援”では、「家族に頼む」が59.0%となっており、「自分で行く」とほぼ同じ割合となっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”では高齢になっても「自分で行く」が8割以上を占めている。

図表 I-2-⑰ 買い物の方法

		有効回収数 (n)	(%)					
			自分で行く (手配す)	家族に頼む	介護ヘルパーなどに頼む	友人・知人に頼む	家政婦に頼む、家事代行サービスを利用する	地域のボランティアに頼む
02	一般40～64歳	(1,397)	96.3	22.8	0.1	0.1	0.1	-
01	高齢者一般	(2,733)	93.5	28.0	0.1	0.1	0.1	-
03	要支援	(547)	59.2	59.0	8.0	3.3	0.4	0.2

■年齢別

高齢者一般	65～69歳	(629)	96.2	21.0	0.0	0.2	0.0	0.0
	70～74歳	(807)	95.9	25.7	0.1	0.0	0.0	0.0
	75～79歳	(623)	94.5	30.3	0.0	0.2	0.2	0.0
	80～84歳	(453)	88.7	36.9	0.2	0.4	0.0	0.0
	85歳以上	(218)	84.4	31.7	0.0	0.0	0.5	0.0
要支援	65歳未満	(15)	80.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	(15)	73.3	40.0	26.7	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	(46)	58.7	63.0	4.3	0.0	2.2	0.0
	75～79歳	(68)	52.9	70.6	4.4	5.9	0.0	0.0
	80～84歳	(132)	68.9	45.5	9.8	4.5	0.0	0.8
	85歳以上	(271)	54.2	62.0	7.0	3.0	0.4	0.0

⑱ 外出時に困ること

問 あなた（あて名ご本人）は、外出することについてどのようにお考えですか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	30	31	28																

外出時に困ることについて、全ての対象者で「特に負担は感じない」が最も多くなっている。

“要支援”では、「外出は、なんとなくおっくうである・好きではない」「身体が不自由、あるいは健康面で不安なので、外出しようと思わない・したくてもできない」といった、心身を理由に外出をしない割合が多くなっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”では、「特に負担は感じない」は高齢になるにつれて少なくなる傾向がある。

図表 I-2-⑱ 外出時に困ること

		有効回収数（n）	外出が好き より、家に いて過ごす	行く場所や 用事もない ので外出	外出は、な んとなくお っくうで	自宅の周 りに坂や段 差が多いの で	不安な心 配（失禁な ど）があ る	身体が不 自由、あ るいは健 康面	交通が不 便なので、 外出する の	外での楽 しみがな い	特に負担 には感 じない
02	一般40～64歳	(1,397)	14.1	6.2	9.2	1.9	1.5	0.5	2.1	1.7	75.8
01	高齢者一般	(2,733)	17.5	11.5	8.7	6.1	4.7	4.7	3.4	3.1	63.4
03	要支援	(547)	23.0	15.2	25.6	22.1	24.9	14.3	10.8	7.7	26.5
■年齢別											
高齢者一般	65～69歳	(629)	18.1	9.9	7.0	2.9	1.7	2.4	1.9	2.4	70.9
	70～74歳	(807)	18.1	9.5	8.9	5.5	4.0	5.2	2.6	2.9	66.0
	75～79歳	(623)	16.5	13.3	8.7	5.6	5.0	4.2	4.5	2.9	61.3
	80～84歳	(453)	15.9	13.5	9.1	9.9	7.7	6.4	5.5	4.6	58.1
	85歳以上	(218)	19.3	14.2	12.4	11.5	9.2	7.8	2.8	3.7	48.6
要支援	65歳未満	(15)	33.3	20.0	33.3	6.7	26.7	6.7	6.7	6.7	20.0
	65～69歳	(15)	6.7	6.7	0.0	26.7	20.0	6.7	26.7	6.7	40.0
	70～74歳	(46)	28.3	8.7	30.4	13.0	28.3	10.9	13.0	8.7	19.6
	75～79歳	(68)	25.0	8.8	27.9	14.7	23.5	17.6	10.3	5.9	25.0
	80～84歳	(132)	15.9	14.4	26.5	27.3	23.5	12.1	13.6	6.8	33.3
	85歳以上	(271)	25.5	18.5	24.7	23.6	25.5	15.9	8.5	8.5	24.4

3 生活支援

① 心配・悩みごと

問 あなた（あて名ご本人）は、現在次のような心配ごとや悩みがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	21	21	22	19	19	17	17													

心配や悩み事について、“一般40～64歳”を除くすべての調査対象で「自分の健康のこと」が最も多く6割以上を占めている。“一般40～64歳”では「家族・親族の健康のこと」が55.4%と最も多く、「生活費等経済的なこと」(36.1%)と「精神的なゆとりがないこと」(17.5%)、「時間的なゆとりがないこと」(17.1%)が他の対象者に比べて高くなっている。

過去の結果と比較すると、全ての対象者で「家族・親族の健康のこと」が増加している。一方で、“小多機・看多機”“定期巡回”では「生活費等経済的なこと」が減少している。

図表 I-3-① 心配・悩みごと

													(%)
		有効回収数 (n)	自分の健康のこと	家族・親族の健康のこと	生活費等経済的なこと	ひとり暮らしや孤独になること	人がいない時に面倒を見てくれる	病気などの時に面倒を見てくれる	精神的なゆとりがないこと	趣味や生きがいがないこと	時間的なゆとりがないこと	安心して住める場所がないこと	心配ごとや悩みはない
02	一般40～64歳	(1,397)	49.7	55.4	36.1	10.5	8.9	17.5	8.5	17.1	3.1	13.0	
01	高齢者一般	(2,733)	62.1	46.7	23.6	10.1	8.7	6.5	5.9	4.0	1.8	13.0	
05	未利用	(835)	78.1	43.5	23.1	17.6	13.8	10.9	11.7	3.8	2.8	6.3	
03	要支援	(547)	78.2	38.4	22.5	16.8	15.0	9.7	9.0	2.7	2.4	4.6	
04	要介護	(1,797)	69.7	35.9	22.4	14.2	8.7	11.4	15.0	2.3	2.1	10.5	
06	小多機・看多機	(483)	62.9	31.5	24.4	14.9	7.5	8.7	13.0	1.2	3.3	14.1	
07	定期巡回	(233)	64.4	28.3	24.5	18.9	8.6	9.4	17.6	1.3	3.4	12.4	

【経年比較】

(%)

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			05 未利用		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
自分の健康のこと	49.7	47.5	47.7	62.1	61.0	62.0	78.1	76.7	72.2
家族・親族の健康のこと	55.4	51.1	48.0	46.7	37.3	39.2	43.5	34.5	32.9
生活費等経済的なこと	36.1	36.1	26.7	23.6	23.0	23.0	23.1	21.8	22.1
ひとり暮らしや孤独になること	10.5	11.5	9.0	10.1	9.7	12.7	17.6	14.9	14.5
病気などのときに面倒を見てくれる人がいないこと	8.9	9.4	7.6	8.7	7.9	10.5	13.8	14.4	13.0
心配ごとや悩みはない	13.0	13.0	14.9	13.0	14.1	13.3	6.3	5.9	8.1

	03 要支援			04 要介護			06 小多機・看多機		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
自分の健康のこと	78.2	80.1	75.6	69.7	73.5	72.8	62.9	62.8	
家族・親族の健康のこと	38.4	29.0	35.2	35.9	30.4	29.4	31.5	25.3	
生活費等経済的なこと	22.5	21.9	21.4	22.4	25.3	24.5	24.4	29.7	
ひとり暮らしや孤独になること	16.8	18.0	20.6	14.2	14.8	16.4	14.9	15.5	
病気などのときに面倒を見てくれる人がいないこと	15.0	18.5	17.6	8.7	8.3	11.3	7.5	7.3	
心配ごとや悩みはない	4.6	3.4	5.1	10.5	7.8	8.1	14.1	11.2	

	07 定期巡回		
	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年
自分の健康のこと	64.4	65.5	
家族・親族の健康のこと	28.3	19.0	
生活費等経済的なこと	24.5	31.5	
ひとり暮らしや孤独になること	18.9	22.0	
病気などのときに面倒を見てくれる人がいないこと	8.6	10.5	
心配ごとや悩みはない	12.4	8.0	

② 心配・悩みごとの相談相手

問 あなた（あて名ご本人）は、心配ごとや悩みごとができた場合、誰に（どこで）話を聞いてもらったり、相談したりしますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	21-1	21-1	22-1	19-1	19-1	17-1	17-1												

心配や悩み事の相談相手について、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”では「配偶者」が最も多く 5 割以上となっている。一方で、“未利用”“要支援”“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”では「子ども」が最も多く 6 割以上となっている。

「友人・知人」「その他の家族・親族」は、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”“未利用”“要支援”では一定の割合があるものの、“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”では少なくなっている。

図表 I-3-② 心配・悩みごとの相談相手

(%)

	有効回収数 (n)	配偶者	子ども	友人・知人	その他の家族・親族	かかりつけの医師	となり近所の人	市や区の相談窓口	地域包括支援センター（地域ケアプラザ）	自治会や町内会の人	民生委員・児童委員	相談したりする人はいない
02 一般40～64歳	(1,203)	56.8	24.3	43.9	36.8	7.9	1.6	1.9	1.2	0.3	0.1	10.6
01 高齢者一般	(2,312)	57.4	55.3	28.1	21.0	19.2	4.3	3.8	2.8	1.7	1.5	4.8
05 未利用	(750)	41.2	68.7	15.1	17.1	26.1	4.1	3.3	12.8	0.8	4.1	3.1
03 要支援	(504)	29.6	68.5	20.8	19.8	30.2	6.2	1.4	23.0	2.0	5.2	1.8
04 要介護	(1,539)	37.6	63.6	8.8	13.5	28.9	3.4	2.5	17.6	1.1	3.1	3.1
06 小多機・看多機	(397)	19.9	66.2	7.6	14.1	17.1	1.8	2.5	9.3	1.3	2.3	3.8
07 定期巡回	(191)	16.2	62.8	7.3	14.1	22.5	3.7	4.7	16.8	2.1	5.8	3.7

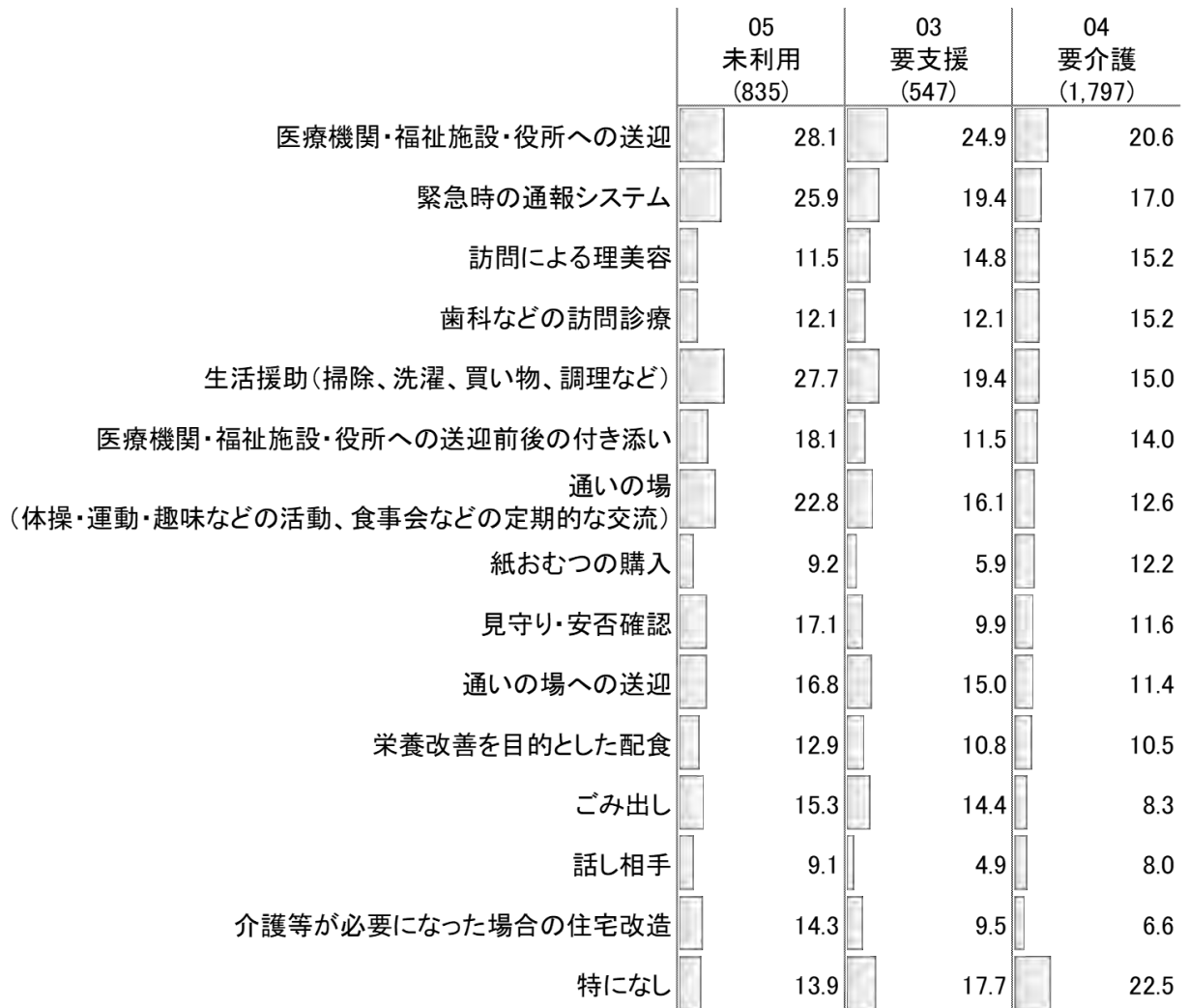
③ 市民が考える今後必要になる生活支援

問 今後必要と考える活動やサービスはありますか。 (〇は5つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号			41	35	31														

今後必要になる支援について、全ての対象者で「医療機関・福祉施設・役所への送迎」が最も多く、次いで“未利用”では「生活援助」、「要介護」では「緊急時の通報システム」が多く、“要支援”では「生活援助」と「緊急時の通報システム」が同数となっている。

図表 I-3-③ 市民が考える今後必要になる生活支援



④ 施設（事業所）が考える今後必要になる生活支援

<調査 12>

問 介護保険以外のサービスで、他の民間事業者で既に行っているサービスの状況も踏まえ、今後、横浜市で充実が必要だと思う活動やサービスはありますか。（〇は5つまで）

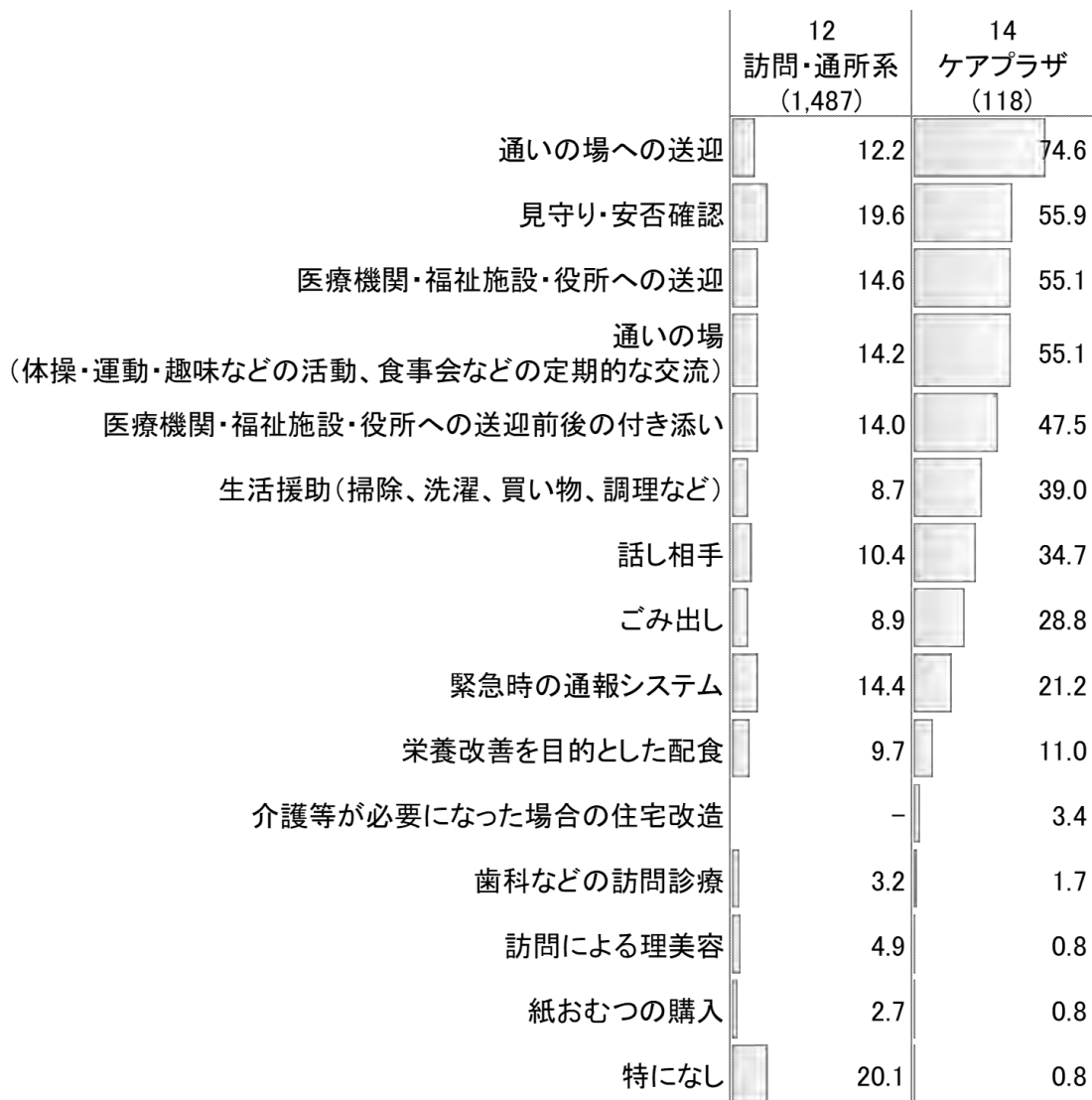
<調査 14>

問 所管する圏域で、今後充実が必要だと思う活動やサービスはありますか。（〇は5つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号												36-2		11					

今後必要になる支援について、“訪問・通所系”では「見守り・安否確認」が最も多く、“ケアプラザ”では「通いの場への送迎」となっている。

図表 I-3-④ 施設（事業所）が考える今後必要になる生活支援



II. 地域生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して

1 在宅介護・リハビリテーション

① 介護が必要になった主な要因

問 あなたに介護が必要となった主な原因は何ですか。 (〇はひとつ)

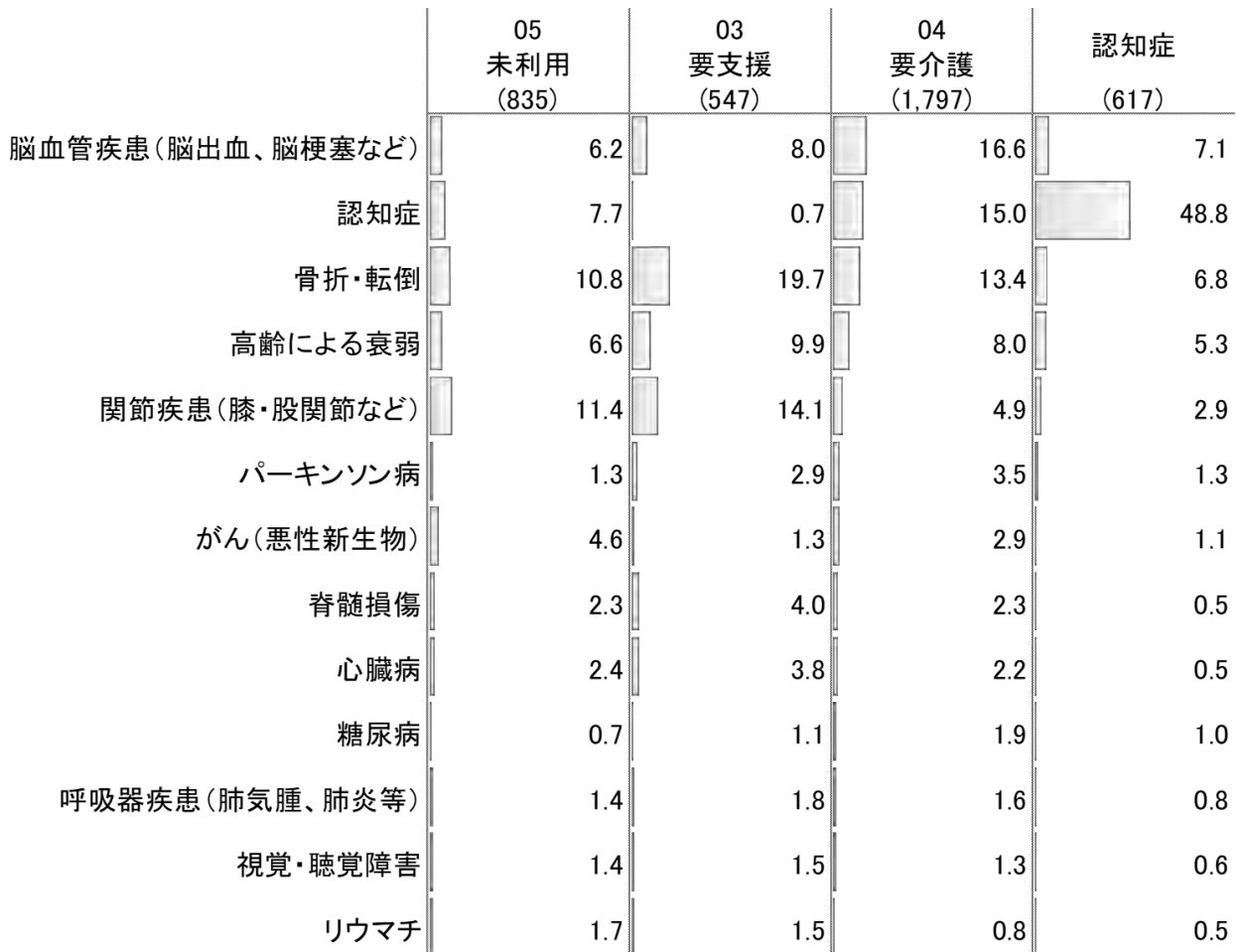
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号			36	26	27														

介護が必要になった主な要因について、“要介護”では「脳血管疾患」が16.6%と最も多く、次いで「認知症」が15.0%となっている。

“未利用”では「関節疾患」、「要支援」では、「骨折・転倒」が最も多くなっている。

“認知症”では「認知症」が48.8%となっている。

図表 II-1-① 介護が必要になった主な要因



② 在宅生活の不安【新規】

問 あなたは現在、在宅で生活する上で、不安を感じることはありますか。

(〇はひとつ)

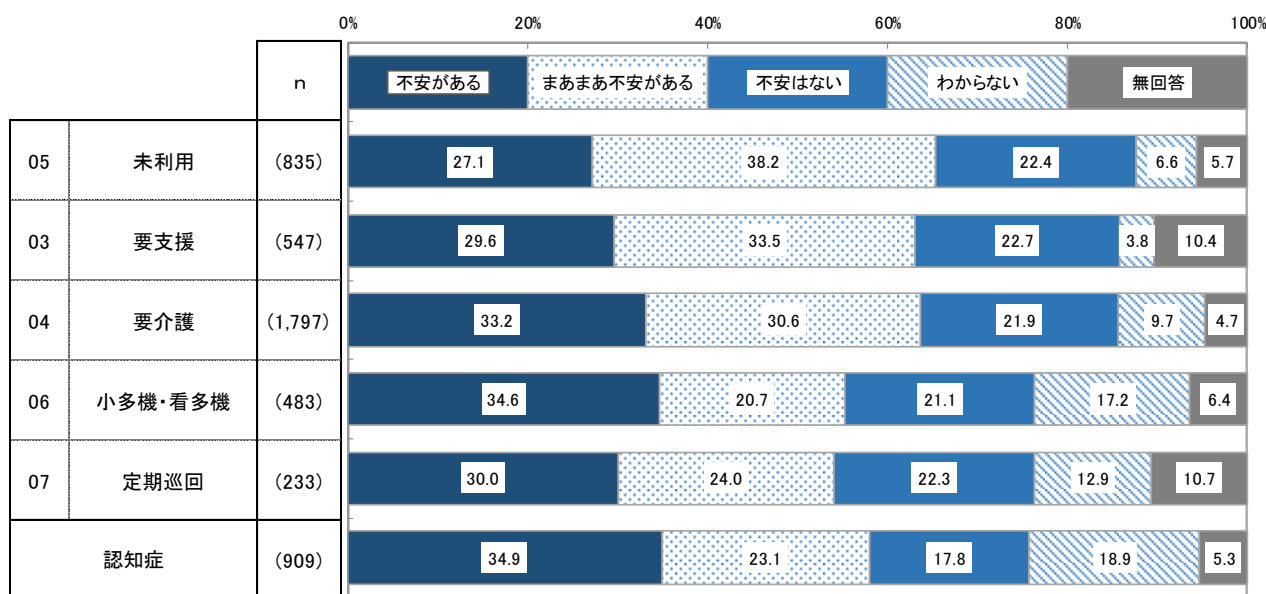
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号			39	29	30	45	40												

在宅での生活の不安について、全ての対象者で「不安がある」「まあまあ不安がある」の合計が半数を上回っている。特に、“未利用”“要支援”“要介護”は6割以上と多くなっている。

また、“認知症”では「不安がある」が34.9%と、全ての対象者の中で最も多くなっている。

一方で、「不安はない」の割合は、全ての対象者で約2割程度となっている。

図表 II-1-② 在宅生活の不安



③ 在宅生活の不安の内容【新規】

問 あなたが在宅生活で不安に感じていることをお答えください。

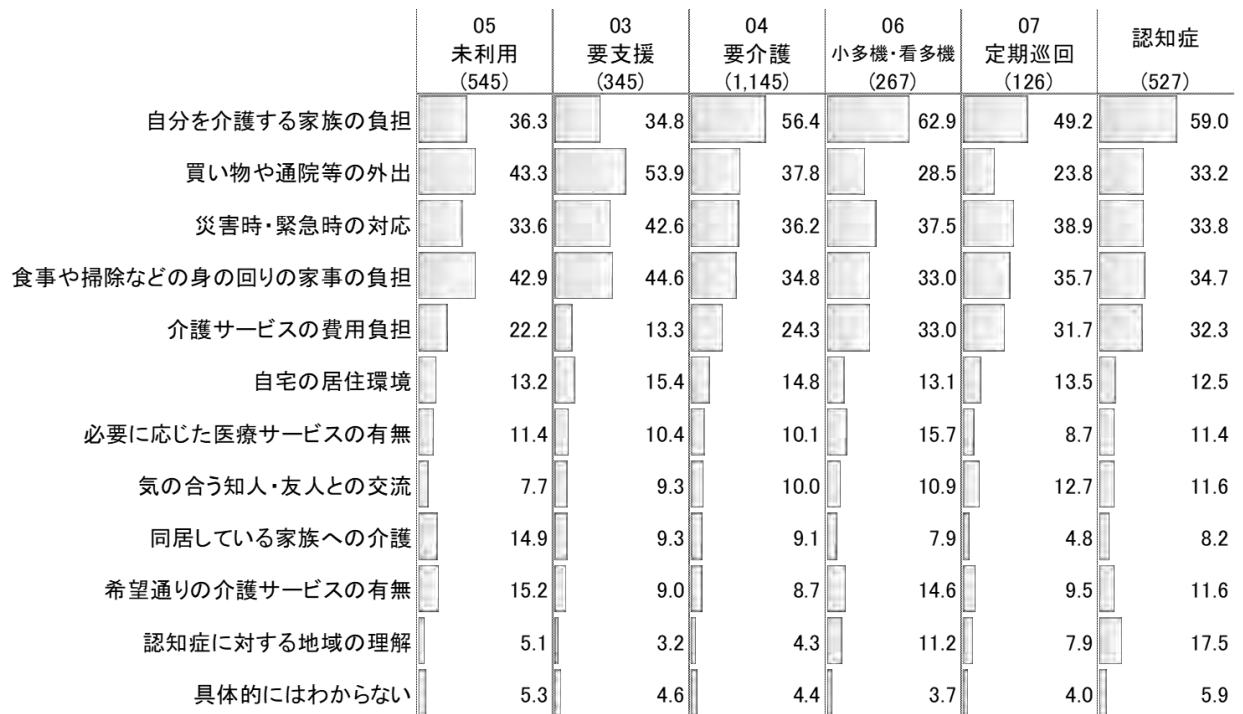
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号			39-1	29-1	30-1	45-1	40-1													

在宅生活の不安の内容について、“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”“認知症”では、「自分を介護する家族の負担」が最も多くなっている。一方で、“未利用”“要支援”では、「買い物や通院等の外出」「食事や掃除などの身の回りの家事の負担」が多くなっている。

また、“認知症”では、「認知症に対する地域の理解」が17.5%と他に比べて多くなっている。

図表 II-1-③ 在宅生活の不安の内容



④ 在宅介護サービスの利用状況

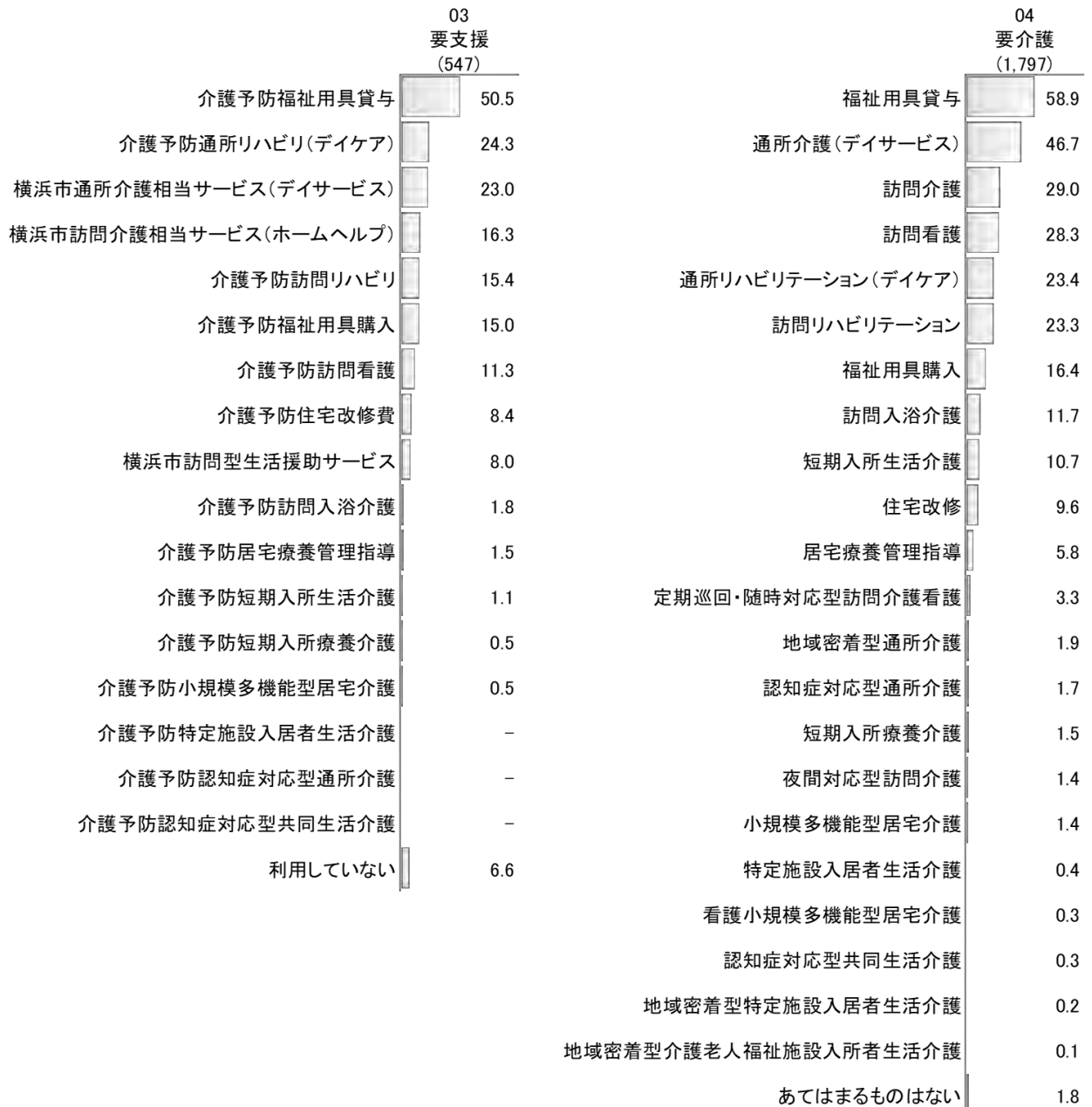
問 介護保険の在宅サービスのうち、令和4年9月に利用したサービスをすべてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号			37	27																

在宅介護サービスの利用状況について、“要支援”では、「介護予防福祉用具貸与」が50.5%と最も多く、次いで「介護予防通所リハビリ」が24.3%となっている。

“要介護”では、「福祉用具貸与」が58.9%と最も多く、次いで「通所介護」が46.7%となっている。

図表 II-1-④ 在宅介護サービスの利用状況



⑤ 介護サービスの満足度

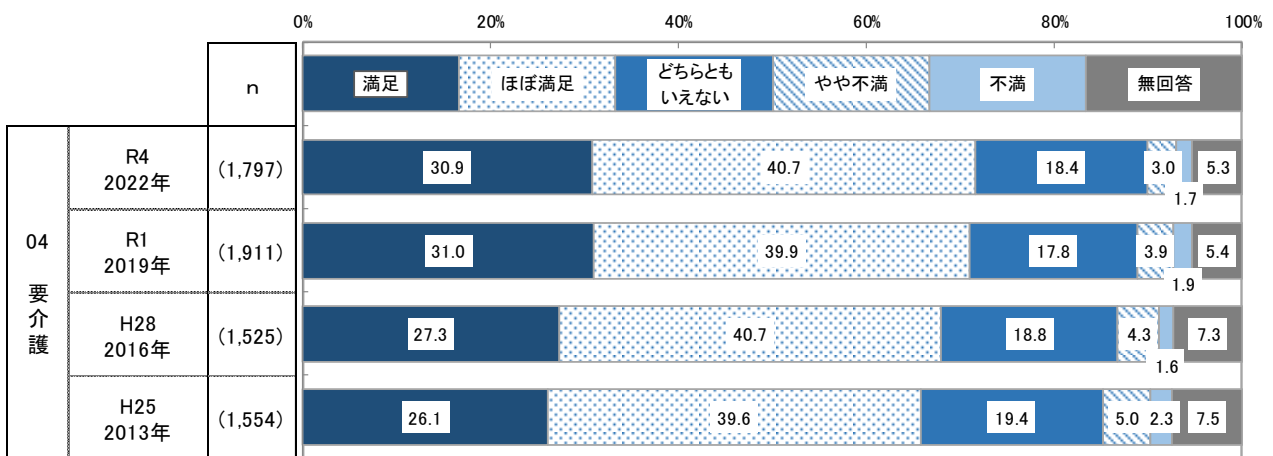
問 現在受けている介護サービスの質に、満足していますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号				34															

現在受けている介護サービスの満足度について、「満足」と「ほぼ満足」を合計した『満足』は、71.6%となっている。

過去の結果と比較すると、『満足』は前回結果から微増となっている。

図表 II-1-⑤ サービスの満足度



⑥ 小規模多機能型居宅介護の利用状況

問 あなた（ご利用者本人）が現在利用している小規模多機能等のサービスは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号						22														

利用している小規模多機能等のサービスについて、「通いサービス」が78.5%と最も高く、次いで「宿泊サービス」が44.5%となっている。

過去の結果と比較すると、「宿泊サービス」の利用が少なくなっており、その他のサービスは横ばいとなっている。

図表 II-1-⑥ 小規模多機能型居宅介護の利用状況

			(%)			
		(有効回収数)	通いサービス	宿泊サービス	訪問サービス	看護サービス
06 小多機・看多機	R4 2022年	(483)	78.5	44.5	25.9	17.2
	R1 2019年	(438)	79.0	49.8	25.8	18.0
	H28 2016年	(473)	84.4	59.2	34.2	26.8
	H25 2013年	(548)	86.9	59.7	31.6	24.5

⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度（通い・訪問・宿泊・看護）

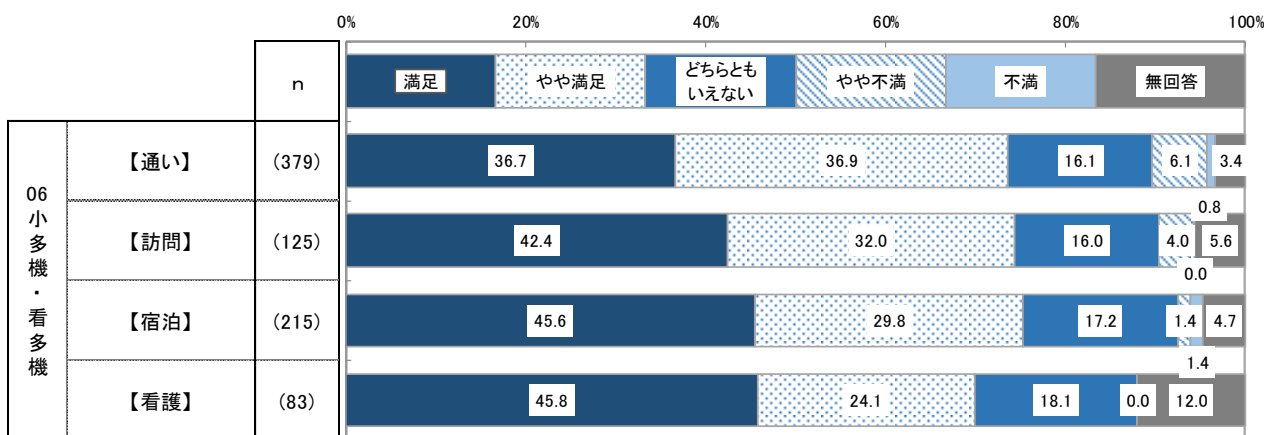
問 あなた（ご利用者本人）は「通い／訪問／宿泊／看護サービス」にどの程度満足していますか。（それぞれ〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号						26 33 37 41													

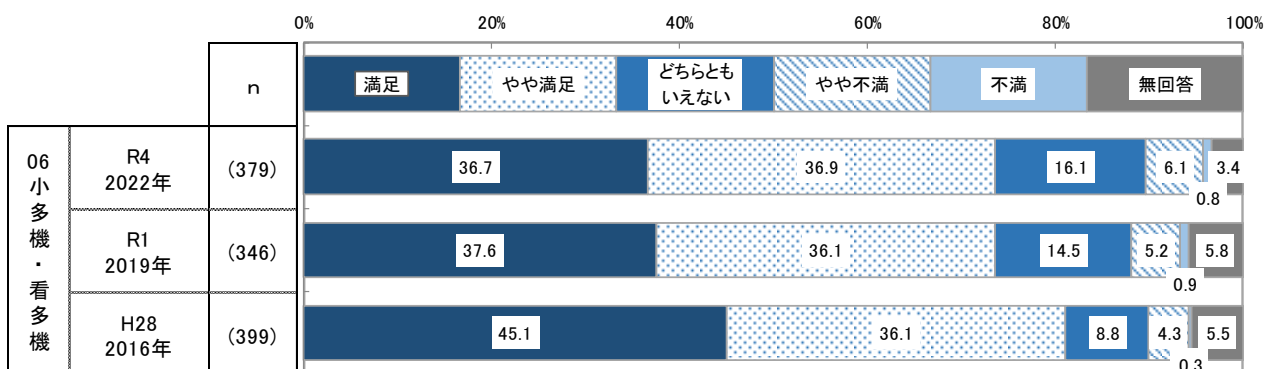
小規模多機能型居宅介護の満足度について、「満足」と「やや満足」を合計した『満足』は、“通い”で73.6%、“訪問”で74.4%、“宿泊”で75.4%、“看護”で69.9%となっている。

過去の結果と比較すると、“宿泊”は『満足』が多くなっているものの、他のサービスは横ばいとなっている。

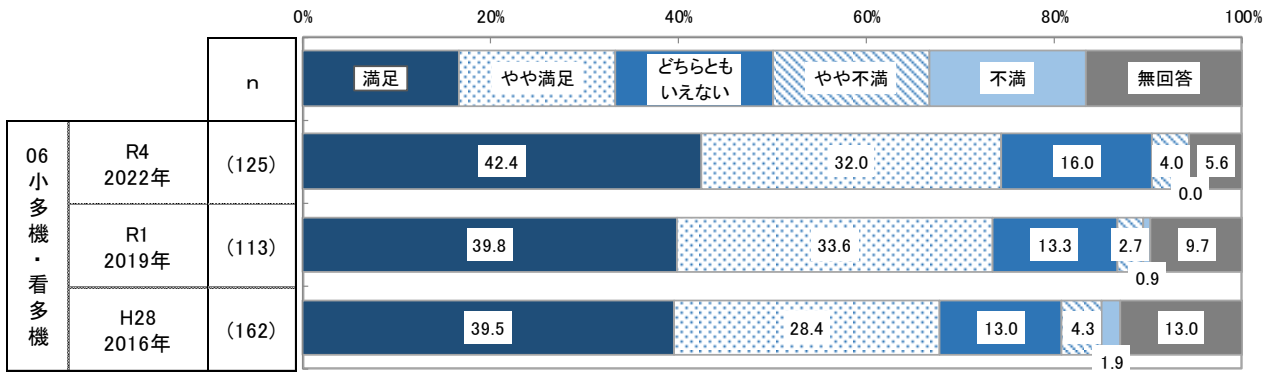
図表 II-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度



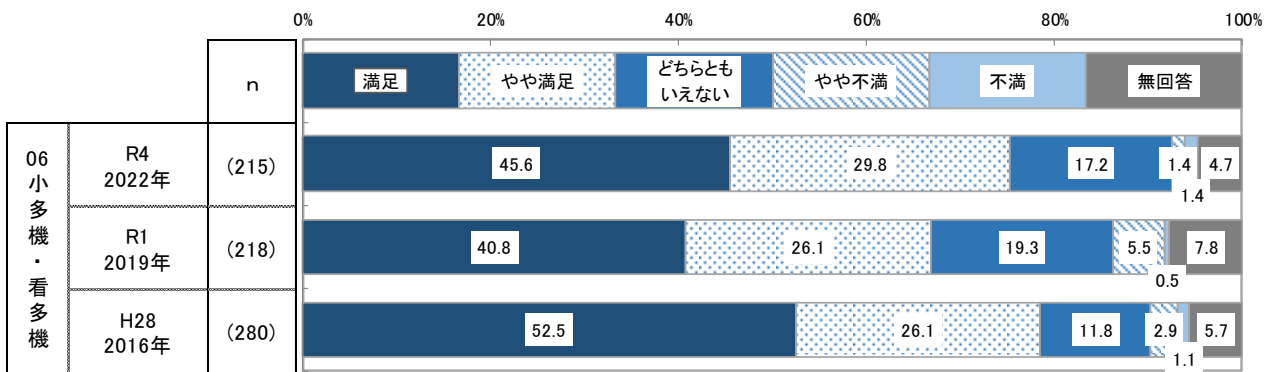
図表 II-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度（経年比較_通い）



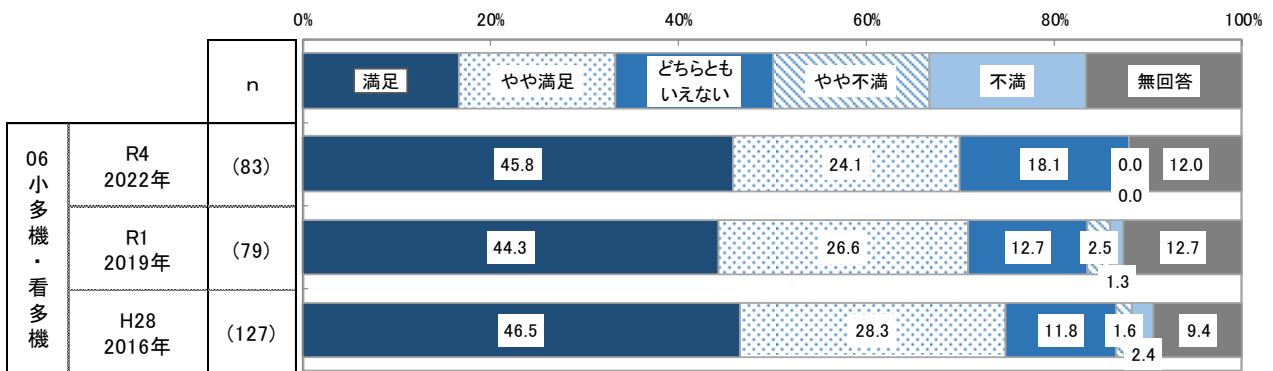
図表 II-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度 (経年比較_訪問)



図表 II-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度 (経年比較_宿泊)



図表 II-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度 (経年比較_看護)



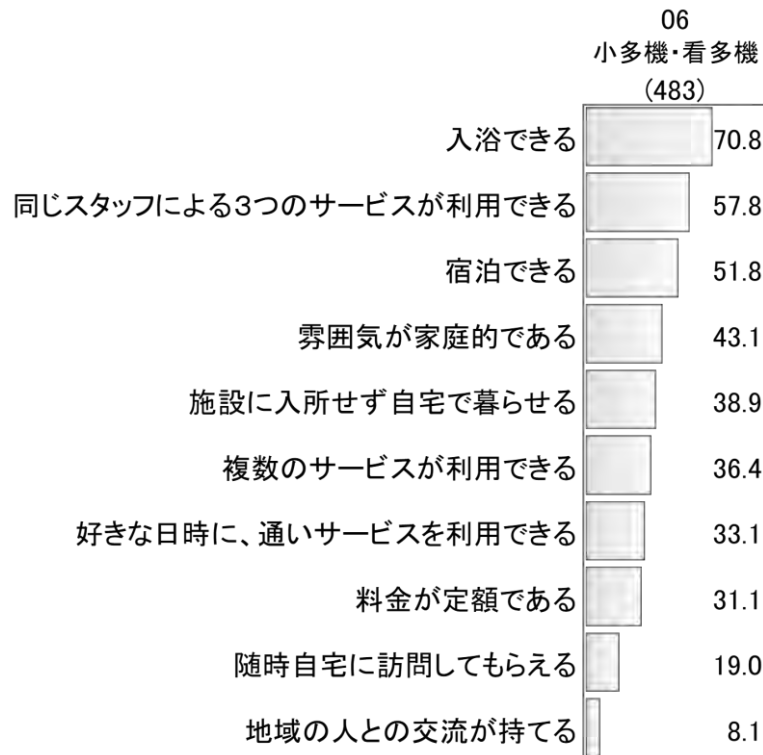
⑧ 小規模多機能型居宅介護を利用して良かったこと

問 これまで小規模多機能等を利用して、「良い」と感じることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号						21													

小規模多機能等のサービスを利用して良かったことについて、「入浴ができる」が70.8%と最も多く、次いで「同じスタッフによる3つのサービスが利用できる」が57.8%となっている。

図表 II-1-⑧ 小規模多機能型居宅介護の良かったこと



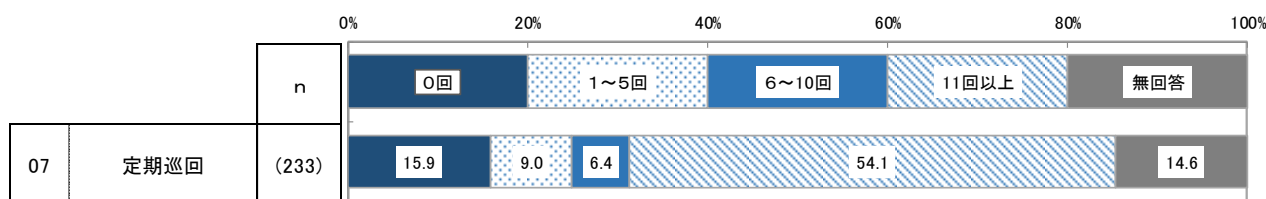
⑨ 定期巡回サービスの訪問看護の利用状況

問 あなたは、1年以内に「訪問看護サービス」を何回利用したことがありますか。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号							34													

訪問看護サービスの利用状況について、「0回」は15.9%となっており、「11回以上」が54.1%と半数を占めている。

図表 II-1-⑨ 訪問看護サービスの利用状況



⑩ 定期巡回サービスの満足度

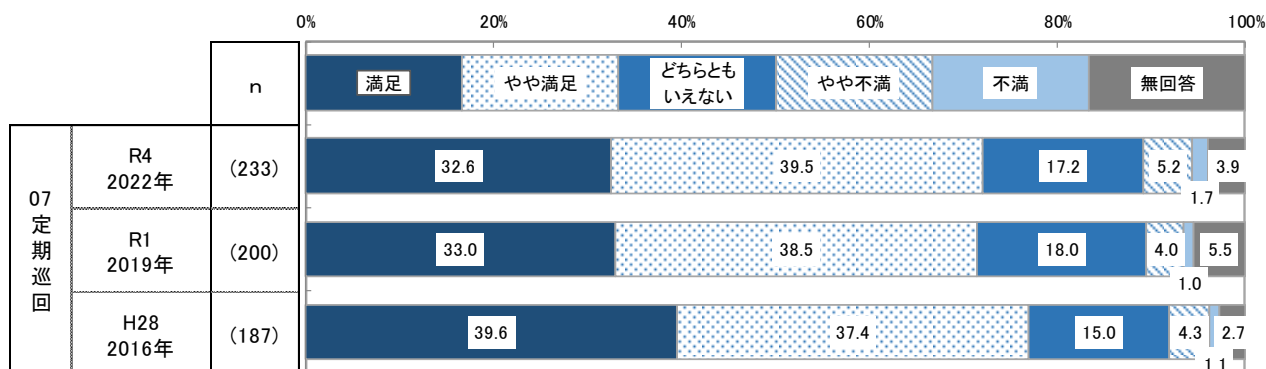
問 あなた（ご利用者本人）は「定期巡回サービス」にどの程度満足していますか。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号							30													

定期巡回サービスの満足度について、「満足」と「やや満足」を合計した『満足』は、72.1%となっている。

過去の結果と比較すると、『満足』は横ばいとなっている。

図表 II-1-⑩ 定期巡回サービスの満足度



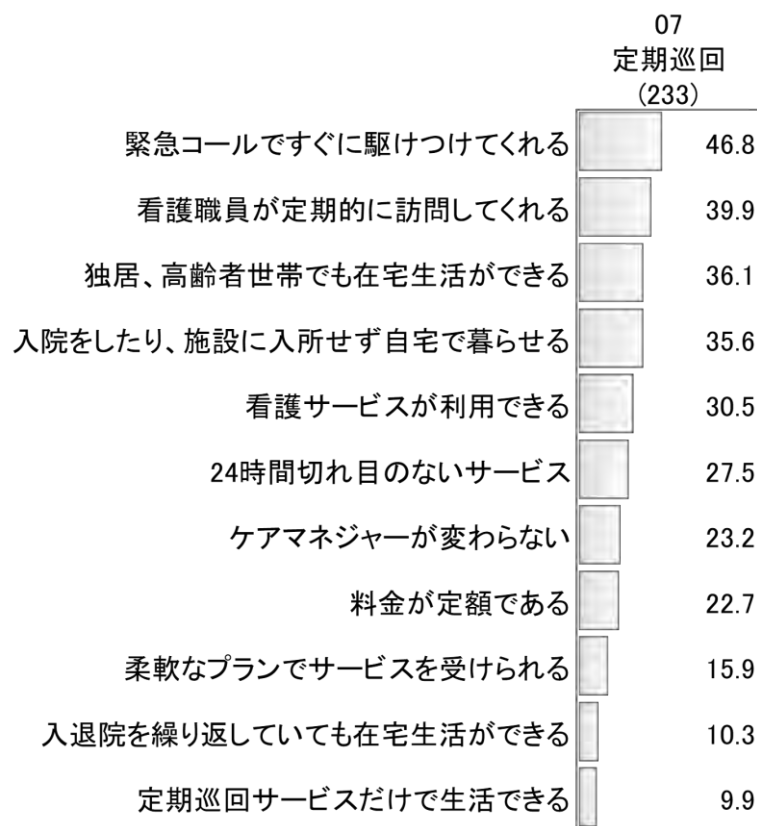
⑪ 定期巡回サービスを利用して良かったこと

問 これまで定期巡回サービスを利用して、「良い」と感じることは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号							23												

定期巡回サービスを利用して良かったことについて、「緊急コールですぐに駆けつけてくれる」が46.8%と最も多く、次いで「看護職員が定期的に訪問してくれる」が39.9%となっている。

図表 II-1-⑪ 定期巡回サービスの良かったこと



⑫ 介護サービス以外に必要なサービス

問 あなた（あて名ご本人）が、安心して在宅で生活をするためには、現在の介護サービス以外に、必要なサービスがありますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号			42-1	36-1																

現在の介護サービス以外に必要なサービスについて、“要介護”では「介護者の入院など、緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること」が32.9%と最も多くなっている。

一方で、“要支援”では「自宅に医師が訪問して診療してくれること」が46.6%となっている。

過去の結果と比較すると、「自宅に医師が訪問して診療してくれること」は“要支援”で増加している傾向があり、その他についてはほぼ横ばいとなっている。

図表 II-1-⑫ 介護サービス以外に必要なサービス

		(%)								
	有効回収数 (n)	利用できること	介護者の入院など、緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	自宅に医師が訪問して診療してくれること	夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	受けられること	入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること	自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	ふだん通っている介護事業所などに希望すれば泊まれること	必要なサービスはない
03	要支援	(221)	18.6	46.6	29.9	28.1	29.9	9.0	16.3	
04	要介護	(977)	32.9	30.4	23.1	21.4	19.1	13.8	21.5	

【経年比較（要支援の上位5項目+必要なサービスはない）】

	(%)					
	03 要支援			04 要介護		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
自宅に医師が訪問して診療してくれること	46.6	40.4	31.6	30.4	29.6	37.0
夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	29.9	32.6	30.0	23.1	25.7	27.7
自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	29.9	27.5	28.4	19.1	20.5	26.7
入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること	28.1	24.8	24.4	21.4	17.8	29.1
介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	18.6	22.9	22.4	32.9	30.1	45.1
必要なサービスはない	16.3	13.3	16.8	21.5	19.3	13.0

⑬ 要介護認定後の状態の回復状況

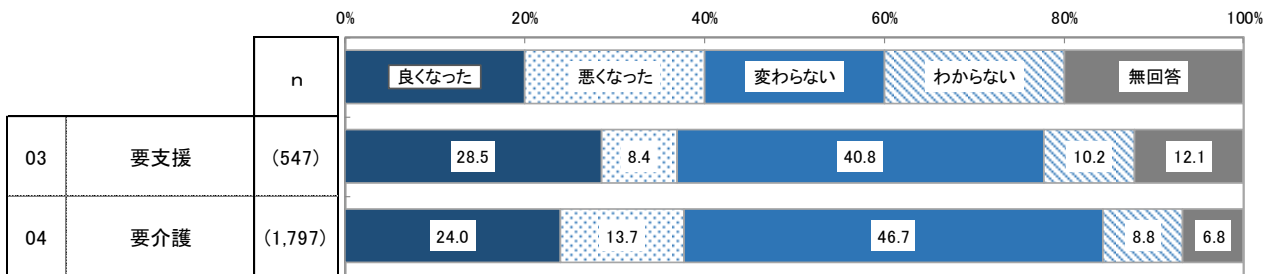
問 直近の要介護認定を受けた後、状態はどのように変わりましたか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号			47	41															

要介護認定を受けた後の回復状況について、“要支援”では「良くなった」は28.5%となっており、「悪くなった」は8.4%となっている。一方で、“要介護”では、「良くなった」は24.0%、「悪くなった」は13.7%となっている。

過去の結果と比較すると、ほぼ横ばいとなっている。

図表 II-1-⑬ 要介護認定後の状態の回復状況



図表 II-1-⑬ 要介護認定後の状態の回復状況（経年比較）

	（％）					
	03 要支援			04 要介護		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
良くなった	28.5	27.0	22.2	24.0	23.3	15.7
悪くなった	8.4	6.9	11.9	13.7	13.7	21.0
変わらない	40.8	42.3	49.6	46.7	46.1	54.8
わからない	10.2	6.2	7.2	8.8	8.1	6.4

⑭ 要介護状態が回復した要因

問 要介護状態が良くなった原因は何だと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号			47-1	41-1																

要介護状態が回復した要因について、全ての対象者で「介護保険サービスを利用し、改善したため」が最も多く半数以上を占めている。また、“要支援”では「自分でできる限り動くようにしたため」「医療機関等で専門家の指導を受けてリハビリを受けたため」が“要介護”に比べて多くなっている。

年齢別でみると、85歳以上になると、「自分でできる限り動くようにしたため」「医療機関等で専門家の指導を受けてリハビリを受けたため」は少なくなる傾向がある。

図表 II-1-⑭ 要介護状態が回復した要因

		有効回収数 (n)	(%)							
			介護保険サービスを利用	自分でできる限り動く	指導を受けたため	医療機関等で専門家の指導を受けたため	折が治ったため	過剰な治療を受けたため	治療を受けたため	安定期が過ぎたため
03	要支援	(156)	55.1	53.2	43.6	26.3	10.9	0.6	-	
04	要介護	(431)	61.3	39.4	35.7	17.6	14.8	4.6	2.1	

■年齢別

	年齢	有効回収数 (n)	(%)							
			介護保険サービスを利用	自分でできる限り動く	指導を受けたため	医療機関等で専門家の指導を受けたため	折が治ったため	過剰な治療を受けたため	治療を受けたため	安定期が過ぎたため
要支援	65歳未満	(5)	60.0	60.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	
	65～69歳	(6)	50.0	50.0	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	70～74歳	(15)	46.7	53.3	46.7	13.3	6.7	0.0	0.0	
	75～79歳	(22)	50.0	59.1	54.5	27.3	13.6	0.0	0.0	
	80～84歳	(51)	56.9	56.9	37.3	37.3	7.8	0.0	0.0	
	85歳以上	(57)	57.9	47.4	40.4	21.1	14.0	1.8	0.0	
要介護	65歳未満	(9)	66.7	33.3	77.8	11.1	33.3	0.0	0.0	
	65～69歳	(16)	68.8	50.0	37.5	12.5	6.3	0.0	0.0	
	70～74歳	(44)	72.7	43.2	40.9	13.6	18.2	0.0	4.5	
	75～79歳	(67)	59.7	46.3	37.3	19.4	9.0	6.0	1.5	
	80～84歳	(92)	57.6	43.5	41.3	17.4	13.0	7.6	1.1	
	85歳以上	(203)	60.1	34.0	29.6	18.7	16.7	4.4	2.5	

⑮ 介護保険のサービスを利用しない理由

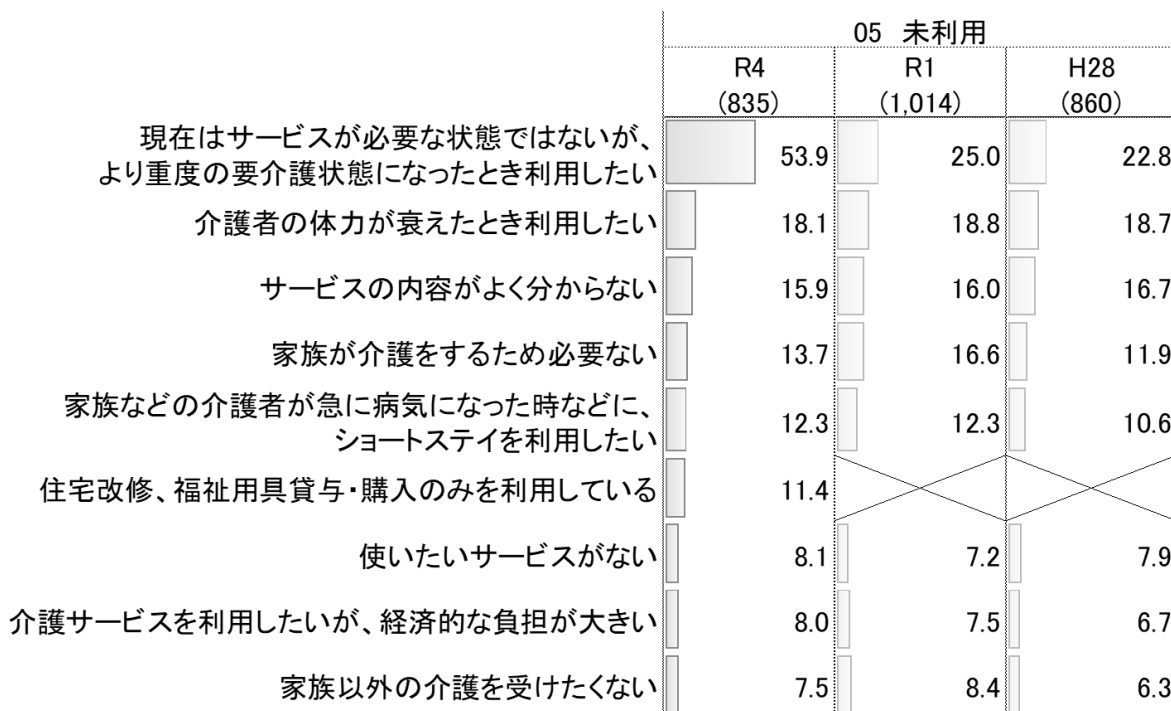
問 令和4年7月時点では介護保険のサービスを全く利用されていませんが、その理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号					29															

介護保険のサービスを利用しない理由について、「現在はサービスが必要な状態ではないが、より重度の要介護状態になったとき利用したい」が53.9%と最も多く、次いで「介護者の体力が衰えたとき利用したい」が18.1%となっている。

過去の結果と比較すると、「現在はサービスが必要な状態ではないが、より重度の要介護状態になったとき利用したい」は前回に比べて大幅に増加している。

図表 II-1-⑮ 介護保険のサービスを利用しない理由



2 在宅医療・看護

① かかりつけ医の有無

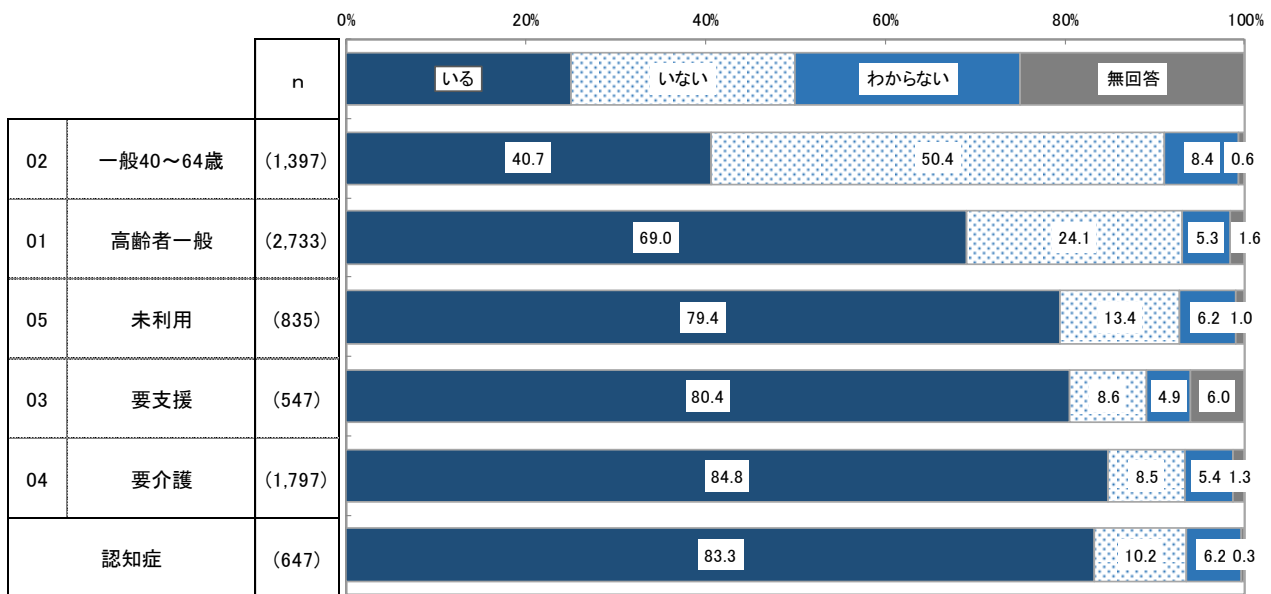
問 あなたには、健康について気軽に相談できる、かかりつけ医がいますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	20	20	21	18	18															

かかりつけ医の有無について、“未利用”“要支援”“要介護”“認知症”では、かかりつけ医が「いる」が約8割を占めているのに対し、“一般40～64歳”では40.7%、“高齢者一般”では69.0%となっている。

過去の結果と比較すると、かかりつけ医が「いる」割合は横ばいとなっている。

図表 II-2-① かかりつけ医の有無



【経年比較（「いる」の割合）】

		R4		R1	
		2022年		2019年	
02	一般40～64歳	40.7	40.6		
01	高齢者一般	69.0	69.8		
05	未利用	79.4	78.2		
03	要支援	80.4	80.9		
04	要介護	84.8	83.6		

② かかりつけ医とケアマネジャーの連携（ケアマネジャー）

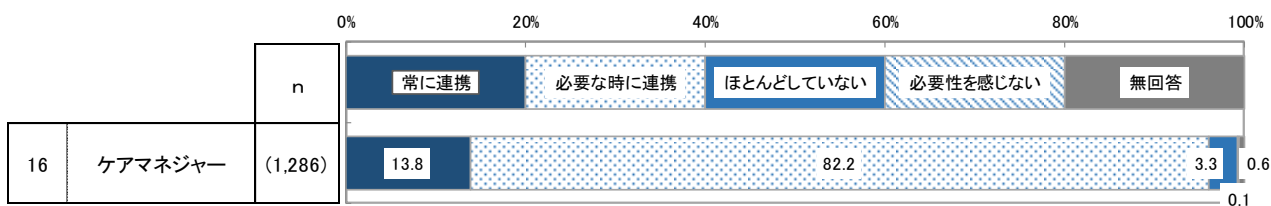
問 かかりつけ医（主治医）との連携状況について教えてください

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																32			

かかりつけ医とケアマネジャーとの連携について、「必要な時に連携」が82.2%と最も多くなっている。また「ほとんどしていない」「必要性を感じない」は合わせて3.4%となっている。

図表 II-2-② かかりつけ医とケアマネジャーの連携



③ ケアプラン作成にあたっての医療機関からの情報収集（ケアマネジャー）

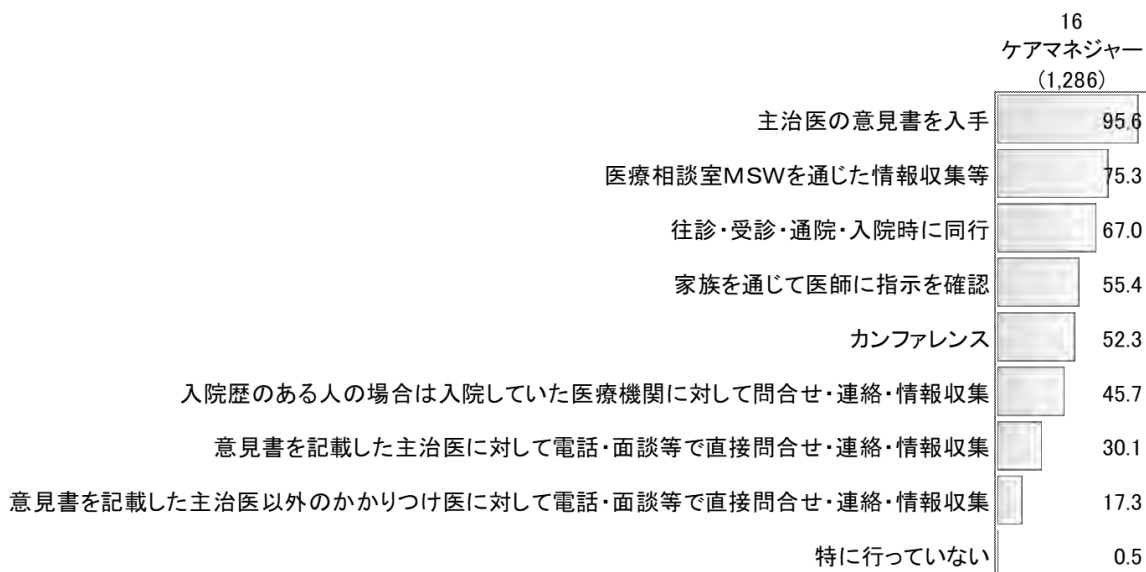
問 ケアプラン作成にあたって、医療機関等からの情報収集などを行っていますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																33			

ケアプラン作成にあたっての医療機関からの情報収集について、「主治医の意見書を入手する」が95.6%と最も多く、次いで「医療相談室MSWを通じた情報収集等」が75.3%となっている。

図表 II-2-③ ケアプラン作成にあたっての医療機関からの情報収集



④ 医療連携を円滑に進めるための工夫（ケアマネジャー）

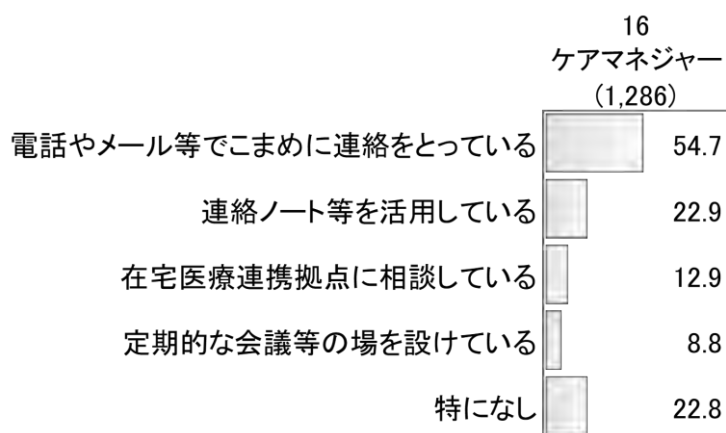
問 医療連携を円滑に進めるために工夫していることはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																34			

医療連携を円滑に進めるための工夫について、「電話やメール等でこまめに連絡をとっている」が54.7%と最も高く、次いで「連絡ノート等を活用している」が22.9%となっている。また、「特になし」が22.8%となっている。

図表 II-2-④ 医療連携を円滑に進めるための工夫



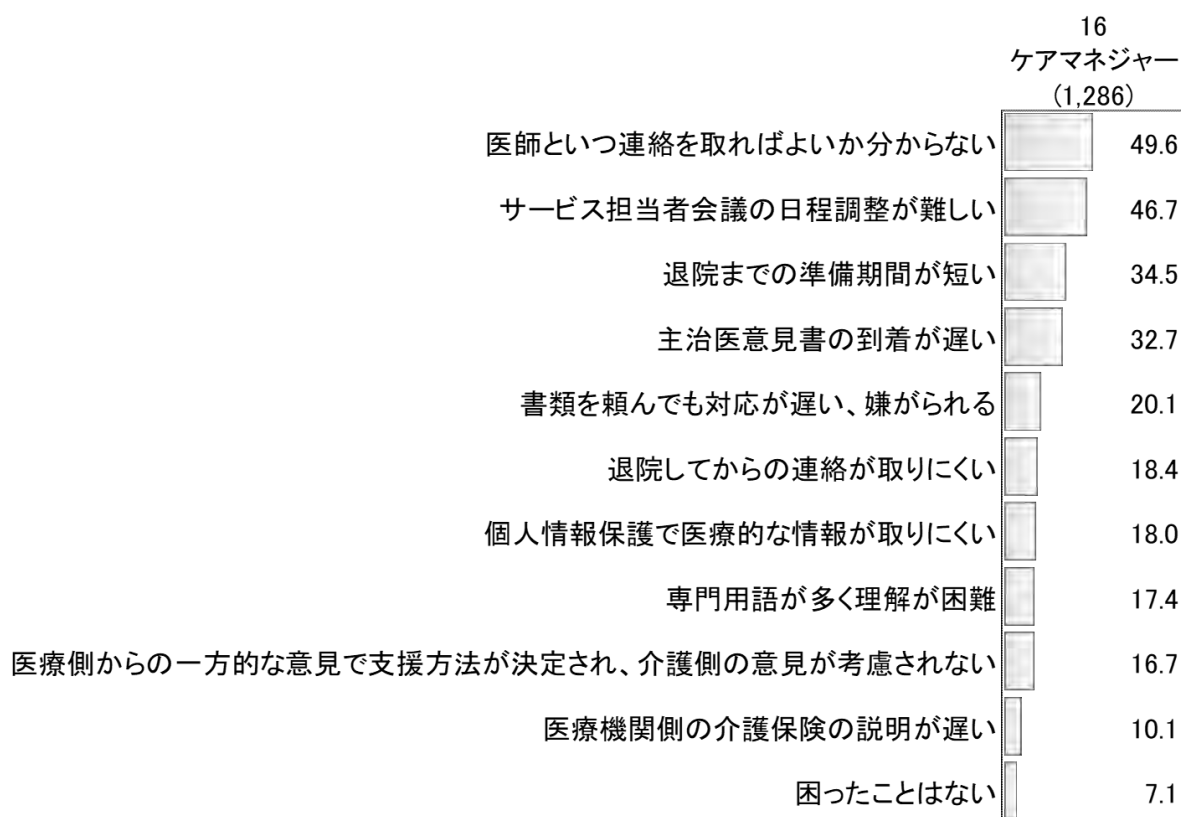
⑤ 医療機関との連携で困っていること（ケアマネジャー）

問 医療機関との連携で困ることがあれば教えてください。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																35			

医療機関との連携で困っていることについて、「医師といつ連絡を取ればよいか分からない」が49.6%と最も多く、次いで「サービス担当者会議の日程調整が難しい」が46.7%となっている。

図表 II-2-⑤ 医療機関との連携で困っていること



⑥ 介護施設（事業所）の医療機関との連携

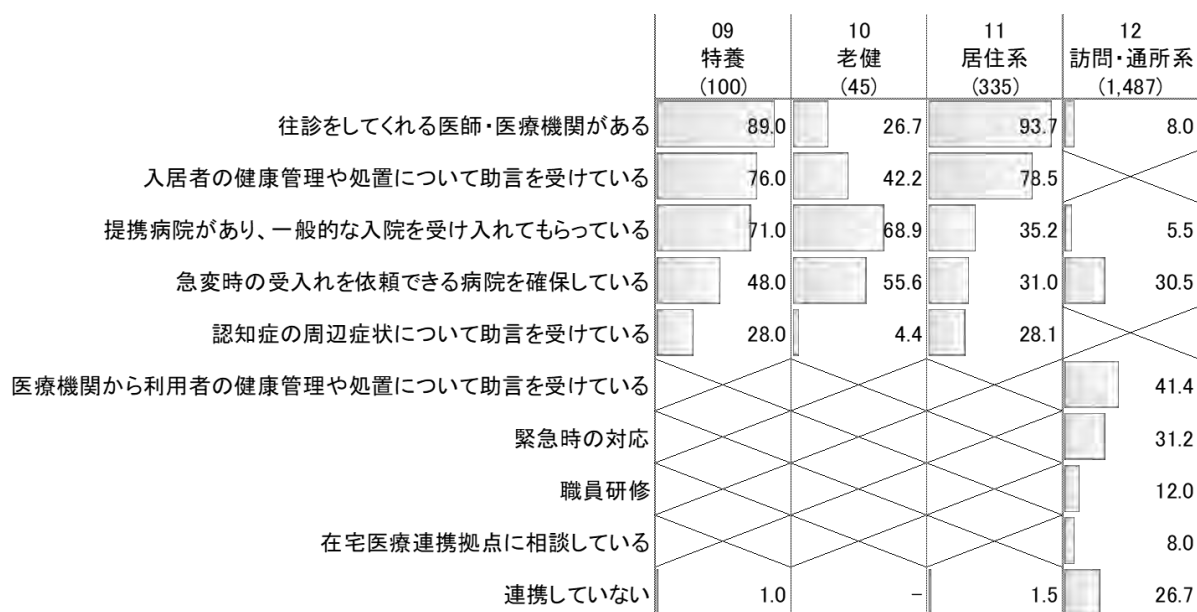
問 医療機関とどのように連携していますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号									43	41	40	30							

介護施設（事業所）の医療機関との連携方法について、“特養”と“居住系”では「往診をしてくれる医師・医療機関がある」が最も多くなっており、“老健”では「提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている」が最も多くなっている。

一方で、“訪問・通所系”では「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」が最も多いものの、「連携していない」も26.7%と他の施設（事業所）に比べて多くなっている。

図表 II-2-⑥ 介護施設（事業所）と医療機関の連携



3 保健・福祉

① 地域ケアプラザの認知度

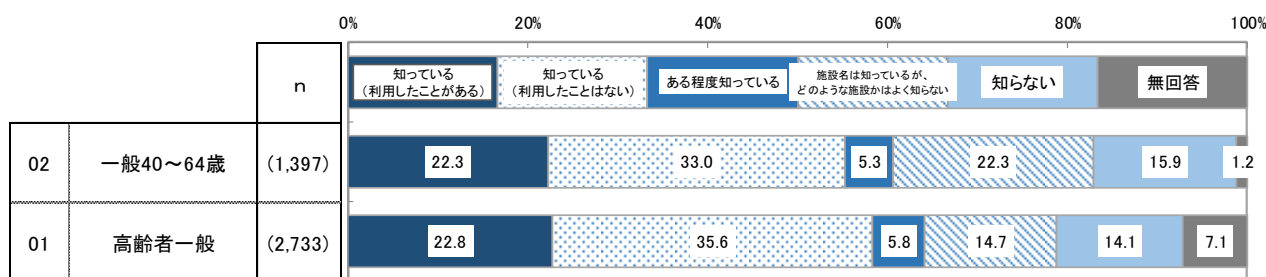
問 あなたは、地域ケアプラザを知っていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	53	51																		

地域ケアプラザの認知度について、「知っている（利用したことがある）」「知っている（利用したことはない）」「ある程度知っている」を合計した『知っている』は、“一般40～64歳”では60.6%、“高齢者一般”では64.2%となっている。

過去の結果と比較すると、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「施設名は知っているが、どのような施設かはよく知らない」「知らない」が減少している。

図表 II-3-① 地域ケアプラザの認知度



【経年比較】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
知っている (利用したことがある)	22.3	17.6	16.4	22.8	20.7	22.4
知っている (利用したことはない)	33.0			35.6		
ある程度知っている	5.3	25.2	30.7	5.8	33.2	24.1
施設名は知っているが、 どのような施設かはよく知らない	22.3	35.8	31.3	14.7	26.6	27.4
知らない	15.9	20.4	20.4	14.1	15.9	16.8

② 知っている地域ケアプラザの活動内容

問 知っている内容をお答えください。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	53-1	51-1																	

知っている地域ケアプラザの活動について、全ての対象者で「講座や催しを行っている」が最も多く、次いで「デイサービスを行っている」となっている。

図表 II-3-② 知っている地域ケアプラザの活動内容

		有効回収数 (n)	(%)				
			講座や催し を行っている	デイサービス を行っている	ボランティア 部屋を貸して いる	地域の活動 を支援する コーデイネ ーターが いる	福祉保健 の相談を 無料で 受けている
02	一般40～64歳	(772)	70.7	51.7	43.8	37.0	35.6
01	高齢者一般	(1,595)	61.1	49.3	34.9	31.6	28.1

③ 地域ケアプラザの業務の達成度の自己評価

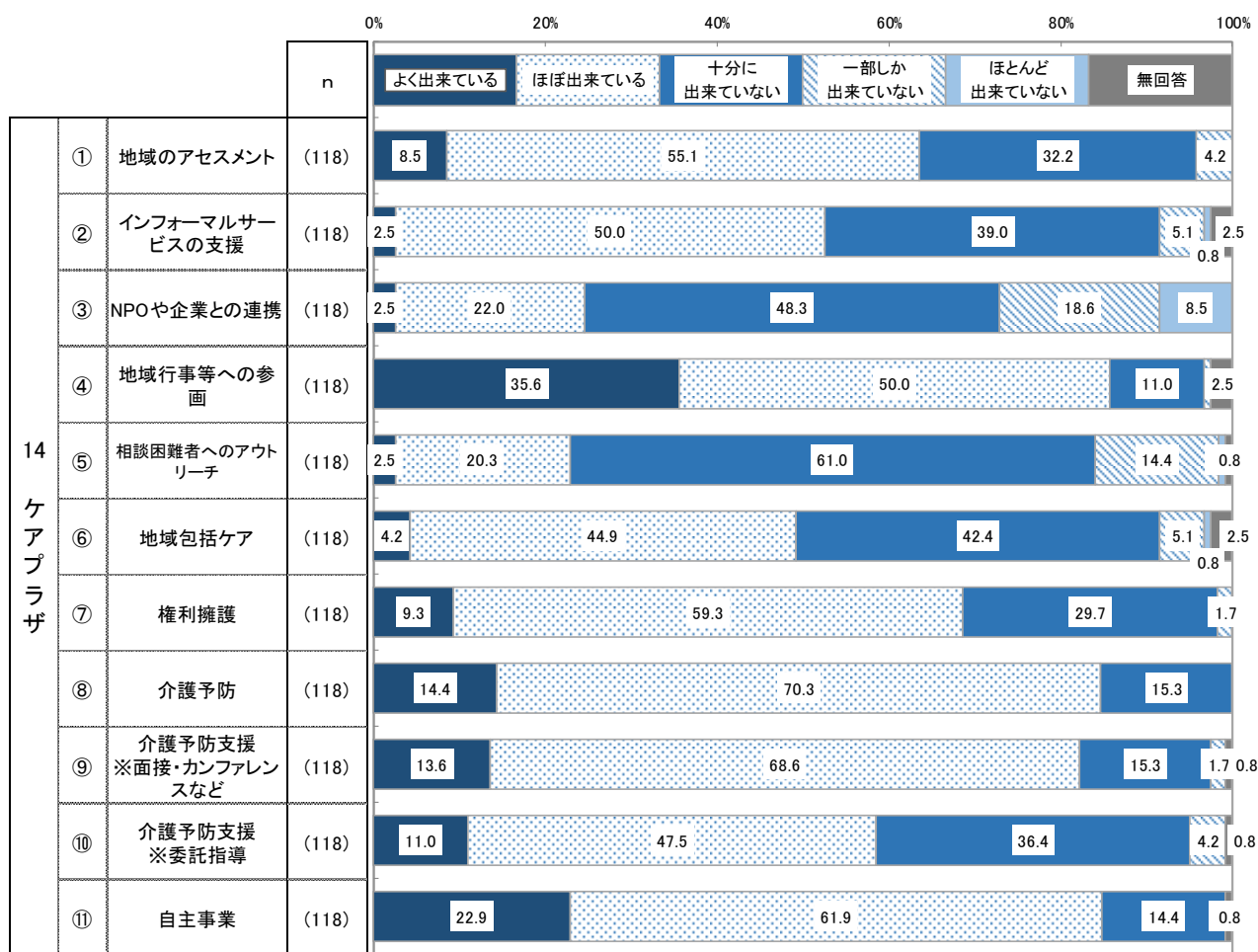
問 各業務の項目ごとに達成度を回答してください。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号														23					

地域ケアプラザの業務の達成度について、「よく出来ている」と「ほぼ出来ている」を合計した『出来ている』は、①地域のアセスメント、④地域行事等への参画、⑦権利擁護、⑧介護予防、⑨介護予防支援（面接など）、⑩自主事業で6割を超えている。

一方で、「十分にできていない」「一部しか出来ていない」「ほとんど出来ていない」を合計した『出来ていない』は、③NPOや企業との連携、⑤相談困難者へのアウトリーチ、で半数を上回っている。

図表 II-3-③ 業務の達成度



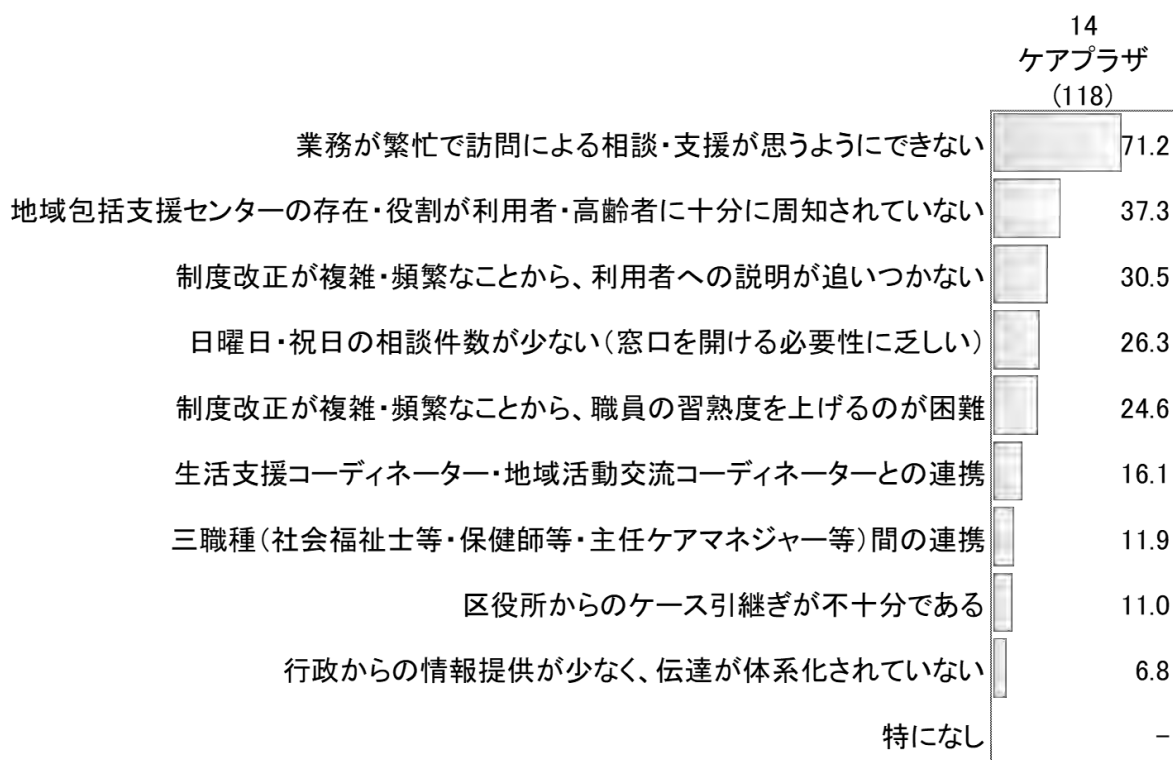
④ 総合相談・支援業務の課題（地域ケアプラザ）

問 総合相談・支援業務の課題と考えることは何ですか。 (〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号														6					

総合相談・支援業務の課題について、「業務が繁忙で訪問による相談・支援が思うようにできない」が71.2%と最も多く、次いで「地域包括支援センターの存在・役割が利用者・高齢者に十分周知されていない」が37.3%となっている。

図表 II-3-④ 総合相談・支援業務の課題



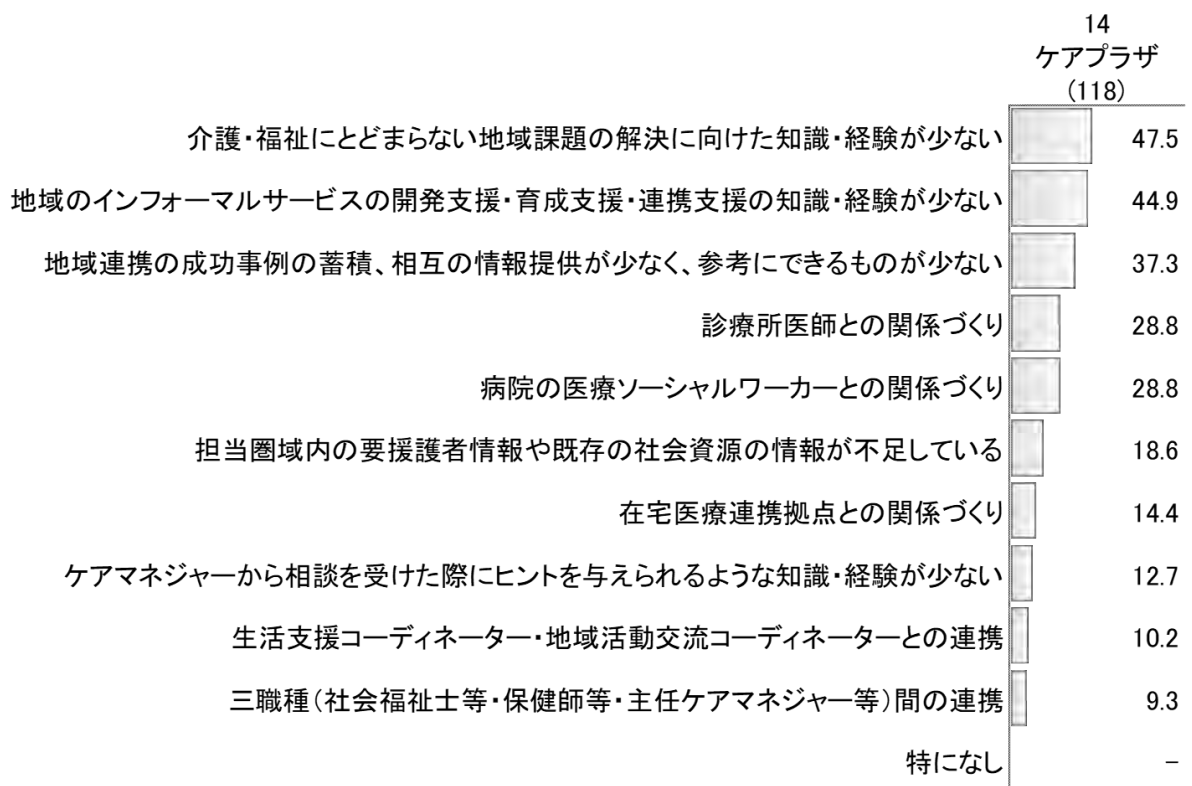
⑤ 包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題（地域ケアプラザ）

問 包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題と考えることは何ですか。（〇は3つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														8					

包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題について、「介護・福祉にとどまらない地域課題の解決に向けた知識・経験が少ない」が47.5%と最も多く、次いで「地域のインフォーマルサービスの開発支援・育成支援・連携支援の知識・経験が少ない」が44.9%となっている。

図表 II-3-⑤ 包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題



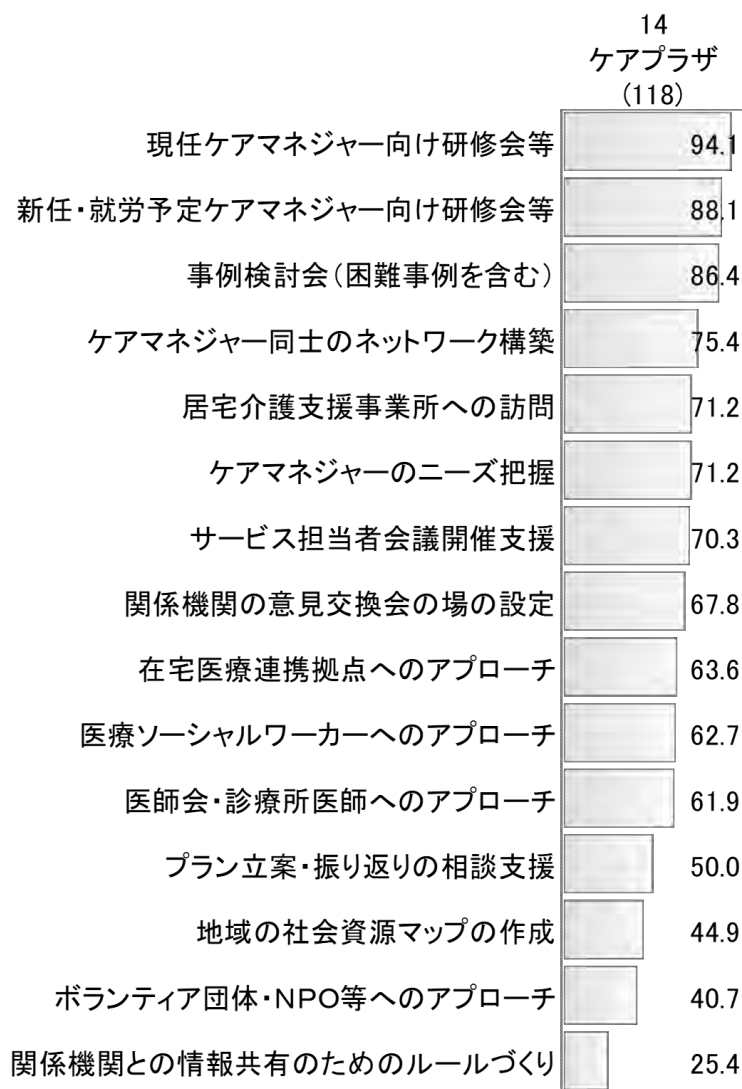
⑥ 実施した包括的・継続的ケアマネジメント支援（地域ケアプラザ）

問 これまでに実施した包括的・継続的ケアマネジメント支援は何ですか。（〇は3つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号														9					

実施した包括的・継続的ケアマネジメント支援について、「現任ケアマネジャー向け研修会等」が94.1%と最も多く、次いで「新任・就労予定ケアマネジャー向け研修会等」が88.1%となっている。

図表 II-3-⑥ 実施した包括的・継続的ケアマネジメント支援



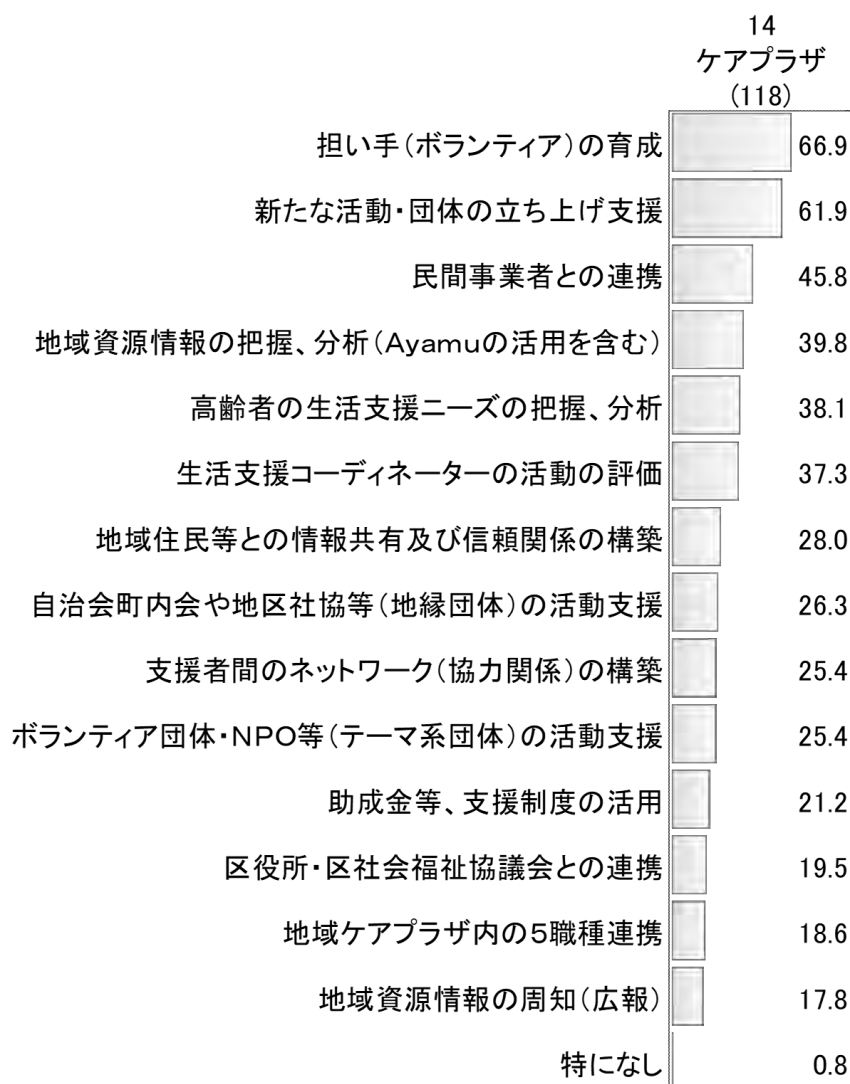
⑦ 生活支援体制整備を進める上での課題（地域ケアプラザ）

問 地域ケアプラザにおいて生活支援体制整備を進めていく上で困難と感じている点は何ですか。
 （あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														19					

生活支援体制整備を進める上での課題について、「担い手の育成」の割合が66.9%と最も多く、次いで「新たな活動・団体の立ち上げ支援」が61.9%となっている。

図表 II-3-⑦ 生活支援体制整備を進める上での課題



⑧ 地域包括支援センターの役割評価（ケアマネジャー）

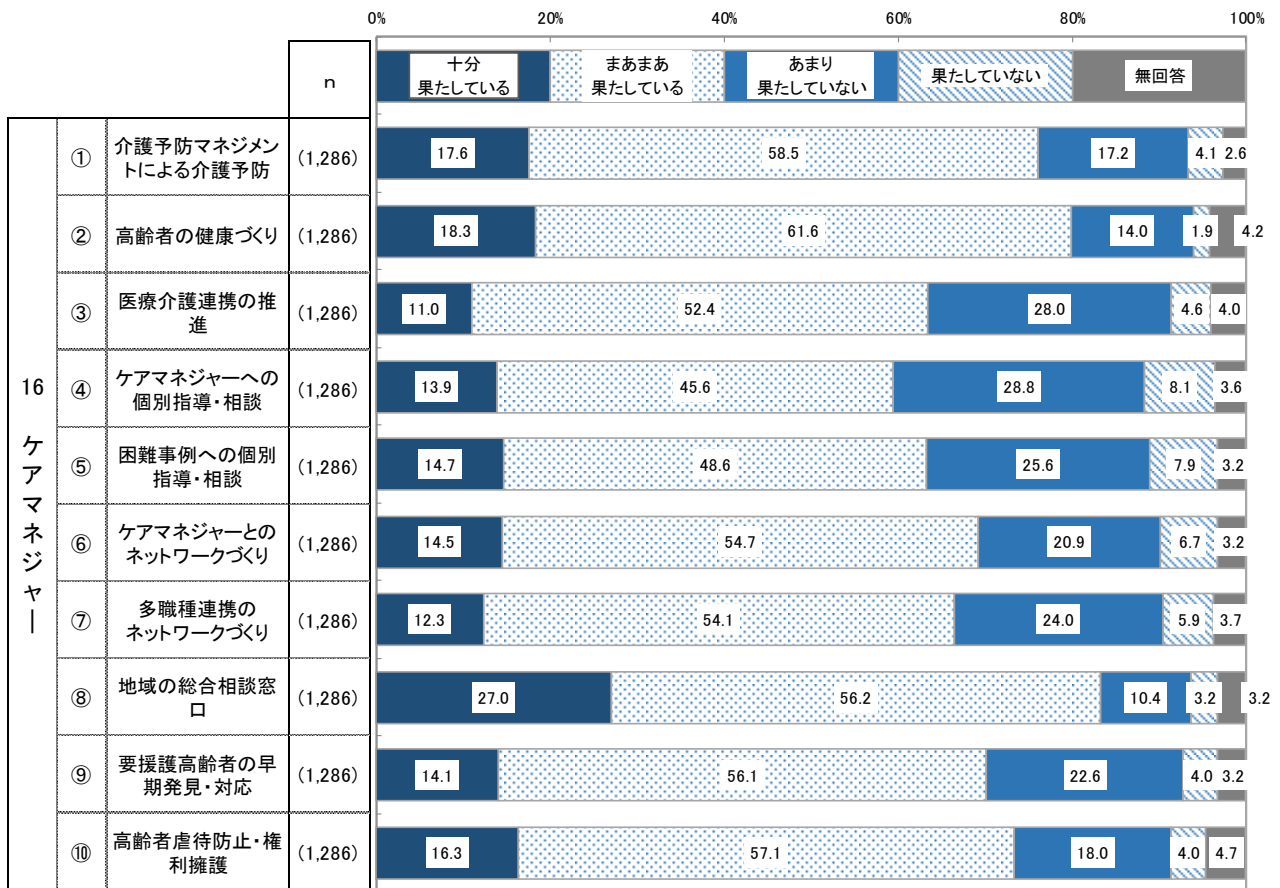
問 地域包括支援センターはその役割を果たしていると思いますか。次の各項目それぞれについてお答えください。（それぞれに○をひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																48			

地域包括支援センターの役割評価について、①から⑩の全ての項目で、「十分果たしている」「まあまあ果たしている」の合計が半数を上回っている。

一方で、③医療介護連携の推進、④ケアマネジャーへの個別指導・相談、⑤困難事例への個別指導・相談については、「果たしていない」「あまり果たしていない」の合計が3割を上回り多くなっている。

図表 II-3-⑧ 地域包括支援センターの評価



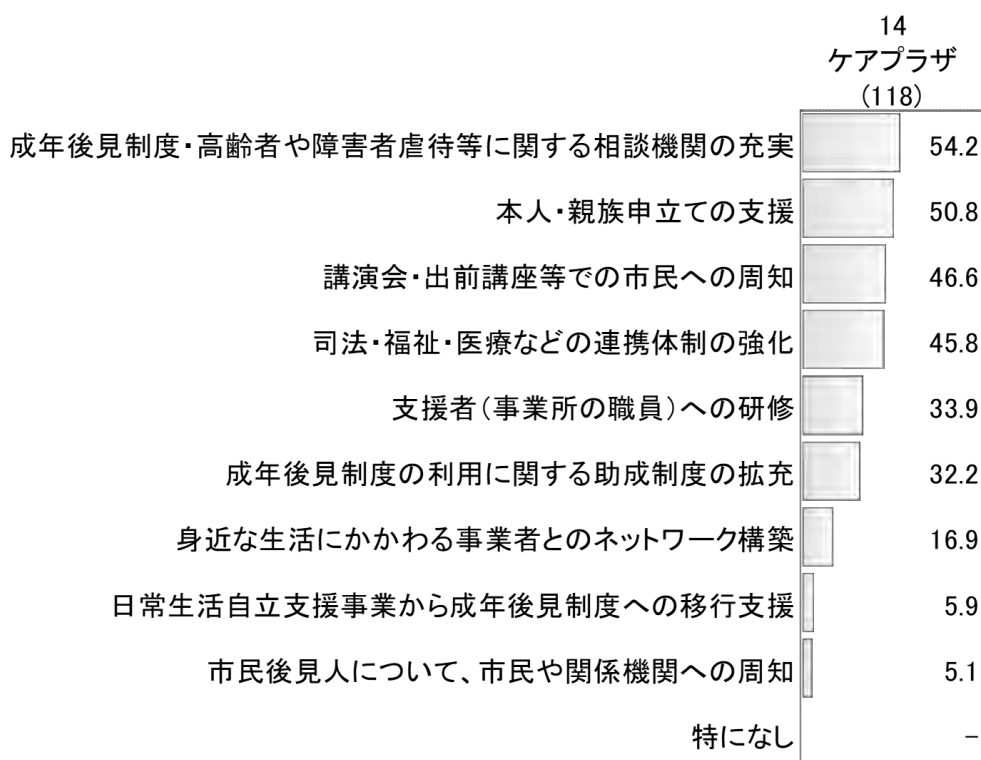
⑨ 成年後見制度の利用促進に必要なこと（地域ケアプラザ）

問 権利擁護業務について、成年後見制度の利用を促進するためにはどのようなことが必要だと思いますか。（該当するもの上位3つまで○をつけてください）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														7					

成年後見制度の利用促進に必要なことについて、「成年後見制度・高齢者や障害者虐待等に関する相談機関の充実」が54.2%と最も多く、次いで「本人・親族申立ての支援」が50.8%、「講演会・出前講座等での市民への周知」が46.6%となっている。

図表 II-3-⑨ 成年後見制度の利用促進に必要なこと



⑩ 介護施設（事業所）の地域との連携

問 地域のどのような組織と連携をとっていますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									42	40	39									

地域組織との連携について、全ての対象施設（事業所）で「自治会・町内会」との連携が最も多く、6割を上回っている。

“特養”では、「ボランティアグループ」や「学校関係」が5割程度となっている。

図表 II-3-⑩ 地域との連携

		有効回収数（n）	自治会・町内会	ボランティアグループ	学校関係	民生委員・児童委員	家族会	企業	連携をとっていない
09	特養	(100)	81.0	46.0	45.0	27.0	16.0	5.0	5.0
10	老健	(45)	68.9	37.8	22.2	24.4	4.4	6.7	15.6
11	居住系	(335)	69.3	25.4	17.6	29.9	11.6	6.3	13.7

⑪ 介護施設（事業所）の地域との連携の内容

問 地域とどのような内容で連携をとっていますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号									42-1	40-1	39-1								

地域との連携の内容について、全ての対象施設（事業所）で「地域の行事への参加」が最も多く、7割以上を占めている。また、「災害対策・避難訓練」「事業所イベントへの招待」が続いている。

図表 II-3-⑪ 地域との連携の内容

		有効回収数（n）	地域の行事への参加	災害対策・避難訓練	事業所イベントへの招待	小学校・中学校の体験学習	地元商店街や企業からの商品購入	講師として指導してもらう	認知症のサポート
09	特養	(89)	73.0	56.2	41.6	40.4	11.2	4.5	2.2
10	老健	(35)	80.0	42.9	45.7	25.7	8.6	8.6	2.9
11	居住系	(267)	74.9	46.8	33.7	16.9	9.4	4.1	8.2

⑫ 主な介護者

問 自宅で主にあなた（あて名ご本人）を介護しているのはどなたですか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号			54	46	41	46	41	42												

主な介護者について、“小多機・看多機”では「子」が52.0%と最も多くなっている。一方で、“未利用”“要支援”“要介護”は「子」と「配偶者」が同程度であり、“未利用”“要支援”は加えて「介護している人はいない」も多くなっている。“定期巡回”“特養申込者”“認知症”では「子」の割合が最も多くなっている。

図表 II-3-⑫ 主な介護者

		有効回収数 (n)	子	配偶者	子の配偶者	兄弟・姉妹	孫	その他（介護の専門職を含まない）	ホームヘルパー等介護の専門職	介護している人はいない	無回答
05	未利用	(835)	23.0	28.1	1.4	1.0	-	1.0	0.6	19.6	25.3
03	要支援	(547)	23.9	22.1	3.1	0.5	-	1.1	7.1	21.0	21.0
04	要介護	(1,797)	35.4	34.1	3.3	1.2	0.2	1.2	6.4	5.2	13.0
06	小多機・看多機	(483)	52.0	17.4	4.1	0.8	0.4	0.6	5.6	5.4	13.7
07	定期巡回	(233)	36.5	12.4	0.4	2.6	1.3	1.7	22.3	3.4	19.3
08	特養申込者	(1,406)	32.8	20.1	4.8	2.3	0.2	2.3	11.7	10.2	15.6
	認知症	(1,811)	39.8	26.7	4.5	1.1	0.3	1.5	7.0	6.4	12.7

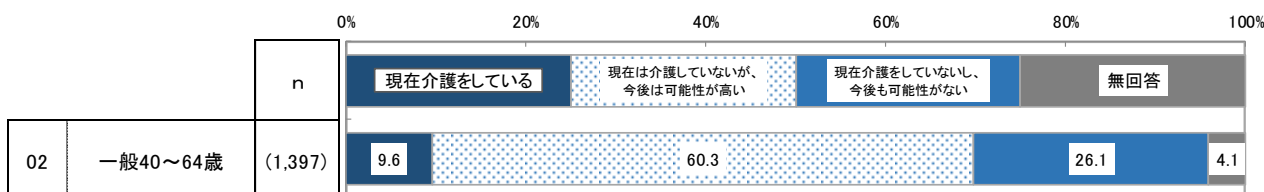
⑬ 自分が介護をしている家族の有無

問 あなた（あて名ご本人）は、ご家族などの介護をしていますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号		46																		

自分が介護をしている家族の有無について、「現在介護をしている」は9.6%となっており、「現在は介護していないが、今後は可能性が高い」は60.3%となっている。

図表 II-3-⑬ 家族への介護の有無



⑭ 介護者の負担感

問 在宅での介護について、困ったり、負担に感じていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号		46-3	60	54	49	50	45	50												

介護者の負担感について、“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”“特養申込者”“認知症”では負担感が強い。また、“小多機・看多機”“定期巡回”“特養申込者”“認知症”“一般40～64歳”では、「仕事との両立が困難」が2～3割となっている。

図表 II-3-⑭ 介護者の負担感

	05 未 利用 (455)	03 要 支 援 (278)	04 要 介 護 (1,356)	06 小 多 機 ・ 看 多 機 (364)	07 定 期 巡 回 (128)	08 特 養 申 込 者 (878)	認 知 症 (1,339)	02 一 般 4 0 ～ 6 4 歳 (134)
精神的なストレスがたまっている	29.0	18.0	47.3	53.6	49.2	69.7	66.5	47.8
日中、家を空けるのを不安に感じる	24.8	18.0	46.2	43.7	41.4	53.5	54.2	25.4
本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	16.9	8.3	31.9	44.5	37.5	62.0	63.3	39.6
自分の用事・都合をすませることができない	14.5	10.8	31.9	40.9	36.7	45.2	44.8	26.1
身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	19.6	14.0	31.3	35.4	28.9	48.3	43.5	13.4
本人の言動が理解できないことがある	16.9	8.6	27.2	36.8	25.0	45.0	47.5	26.1
先々のことを考える余裕がない	16.5	11.2	25.4	30.8	27.3	41.6	38.2	15.7
睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	8.4	2.9	20.0	27.7	20.3	36.7	33.4	7.5
本人に正確な症状を伝えるのが難しい	12.3	5.4	19.6	29.4	30.5	41.7	42.0	22.4
経済的につらいと感じるときがある	9.5	7.6	18.8	25.0	28.9	36.1	30.2	11.9
来客にも気を遣う	7.0	6.1	15.6	14.0	13.3	22.4	21.5	10.4
仕事と介護の両立が困難	6.8	4.7	12.0	29.9	29.7	32.8	28.0	20.9
他の家族等に介護を協力してもらえない	5.7	4.3	10.8	17.3	14.8	23.2	20.2	11.2
介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	4.6	2.5	9.2	9.1	6.3	9.8	11.4	9.7
適切な介護方法がわからない	11.6	4.0	8.0	18.1	17.2	23.3	19.8	16.4
外出中に道に迷うため目が離せない	4.4	1.1	7.2	8.5	1.6	17.1	18.4	8.2
サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	10.3	4.7	6.4	13.7	10.9	13.6	13.4	19.4
誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	9.0	1.8	5.2	9.6	7.0	10.3	9.6	4.5
本人に医療機関の受診を勧めても同意してもらえない	6.2	2.2	4.2	5.5	1.6	10.6	9.3	6.7
介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	2.0	1.8	3.6	4.7	5.5	7.3	7.8	9.0
育児・家事と介護の両立が困難	1.1	1.4	3.5	7.1	6.3	7.7	8.3	6.0
サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	0.7	0.4	3.0	4.9	1.6	9.2	7.8	4.5
サービス事業者やケアマネジャーとの関係がうまくいかない	3.3	0.7	2.1	3.0	6.3	5.1	4.0	2.2
介護することに対して、周囲の理解が得られない	1.5	1.1	1.8	3.6	2.3	4.6	4.0	3.7
特に困っていることはない	22.6	26.6	10.7	6.3	8.6	1.6	1.9	12.7

※「未利用者」～「認知症」は調査対象者を介護している方が回答

※「一般40～64歳」は調査対象者のうち、家族等の介護をしている方が回答

⑮ 介護者の就労状況

<調査 02>

問 あなた（主な介護者）は、現在、仕事をしていますか。 (○はひとつ)

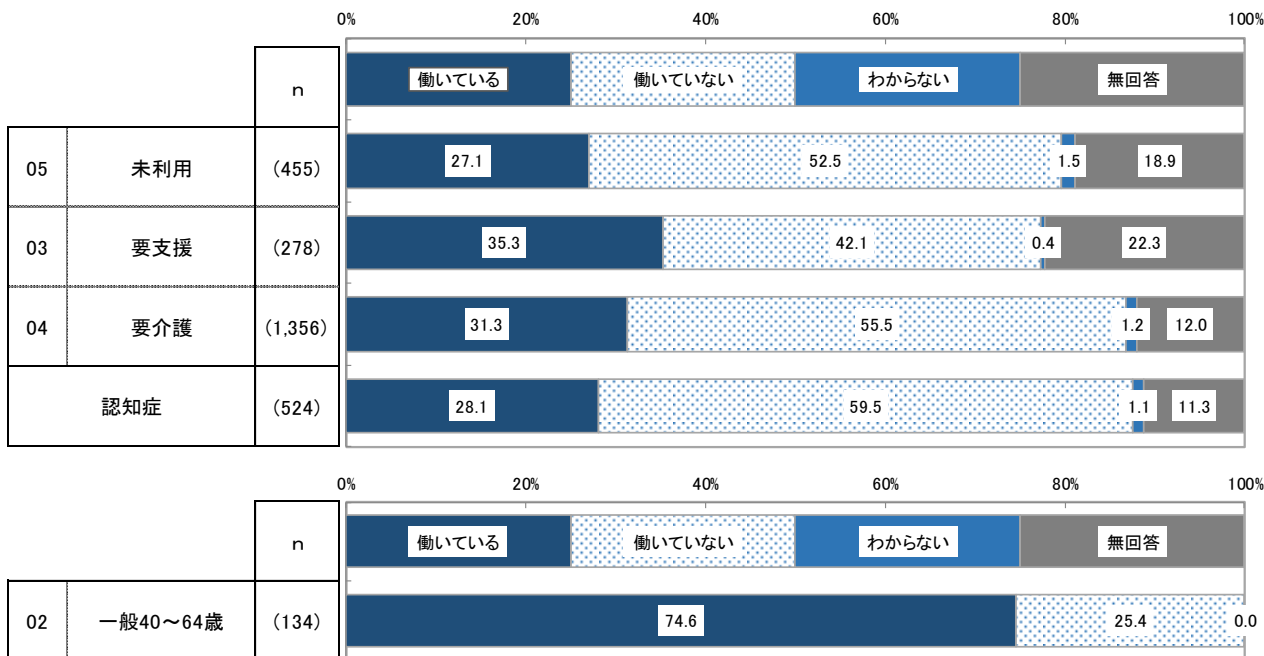
<調査 03～05>

問 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号		14	61	55	50															

介護者の就労状況について、“一般 40～64 歳”では「働いている」が 74.6%となっており、“未利用”“要支援”“要介護”“認知症”では4割を下回っている。

図表 II-3-⑮ 家族介護者の就労状況



※「未利用者」～「認知症」は調査対象者を介護している方が回答

※「一般 40～64 歳」は調査対象者のうち、家族等の介護をしている方が回答

※各調査の選択肢の分類は以下の通り

集計区分	選択肢の内容	
	調査 02	調査 03～05
働いている	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎日仕事をしている ・週に2～3日仕事をしている ・月に数日仕事をしている ・仕事をしているが頻度は決まっていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・フルタイムで働いている ・パートタイムで働いている
働いていない	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事はしていない ・仕事はしたいが働いていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・働いていない
わからない		<ul style="list-style-type: none"> ・わからない

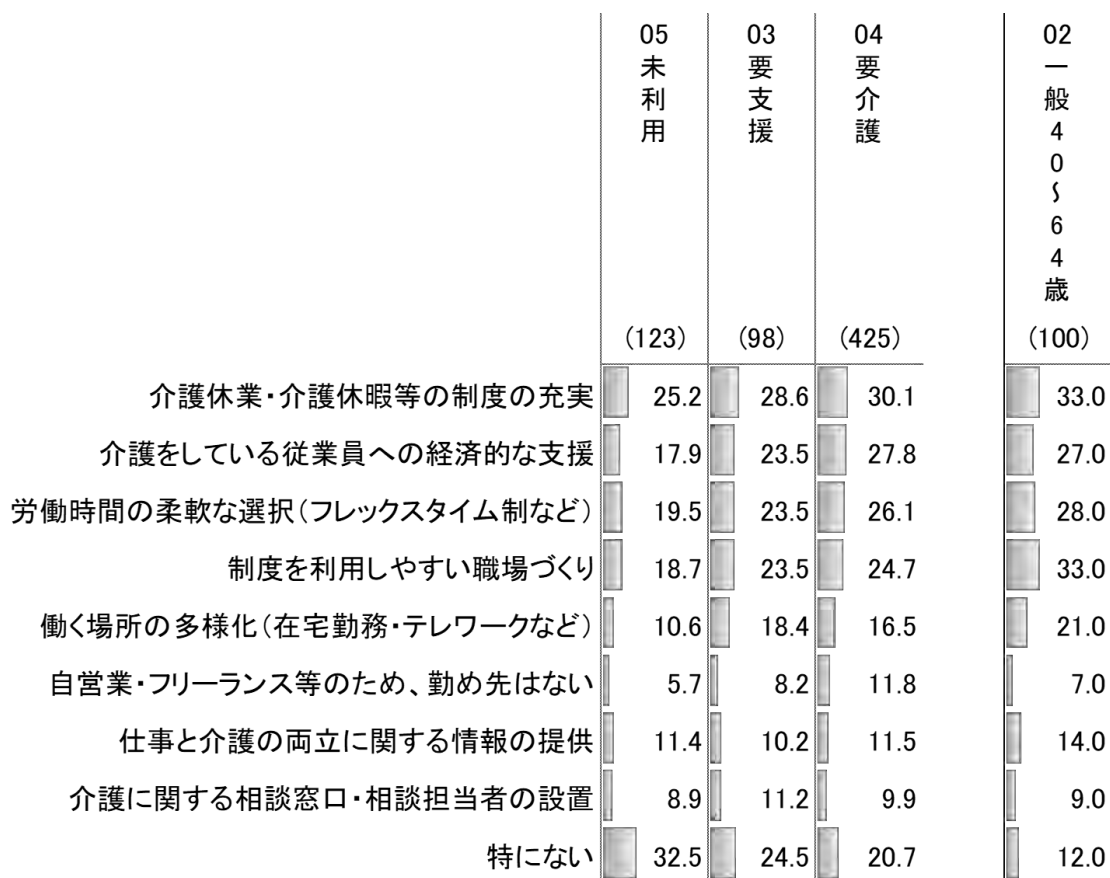
⑩ 介護と仕事の両立に効果的な勤め先からの支援

問 あなたは、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号		46-6	61-2	55-2	50-2															

介護と仕事の両立に効果的な勤め先からの支援について、“要支援”“要介護”“一般 40～64 歳”で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も多くなっている。

図表 II-3-⑩ 介護と仕事の両立に効果的な勤め先からの支援



※ 「未利用者」～「要介護」は調査対象者を介護している方が回答

※ 「一般 40～64 歳」は調査対象者のうち、家族等の介護をしている方が回答

⑰ 介護者の仕事と介護の両立

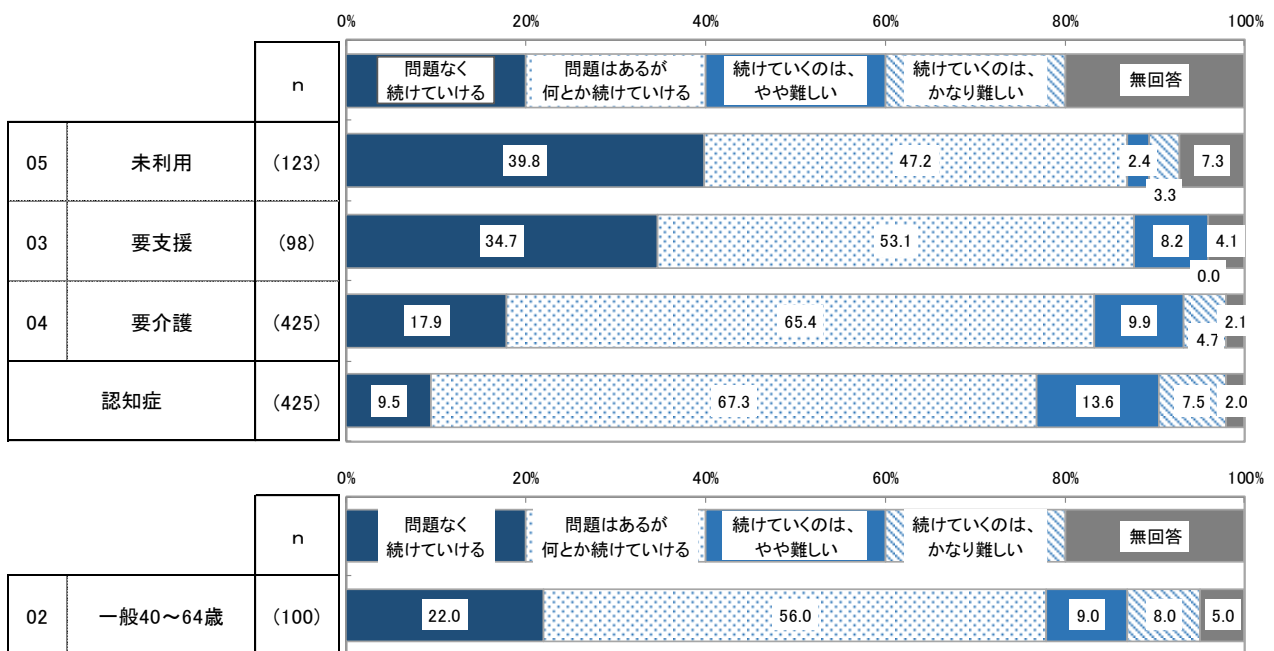
問 今後も働きながら介護を続けていけそうですか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号		46-7	61-3	55-3	50-3															

介護者の仕事と介護の両立について、全ての対象者で「問題はあるが何とか続けていける」が最も多くなっている。

一方で、「続けていくのはかなり難しい」「続けていくのは、やや難しい」の合計は、“認知症”で21.1%と最も多くなっている。

図表 II-3-⑰ 介護者の仕事と介護の両立



※ 「未利用者」～「認知症」は調査対象者を介護している方が回答

※ 「一般 40～64 歳」は調査対象者のうち、家族等の介護をしている方が回答

4 医療・介護・保健福祉の連携

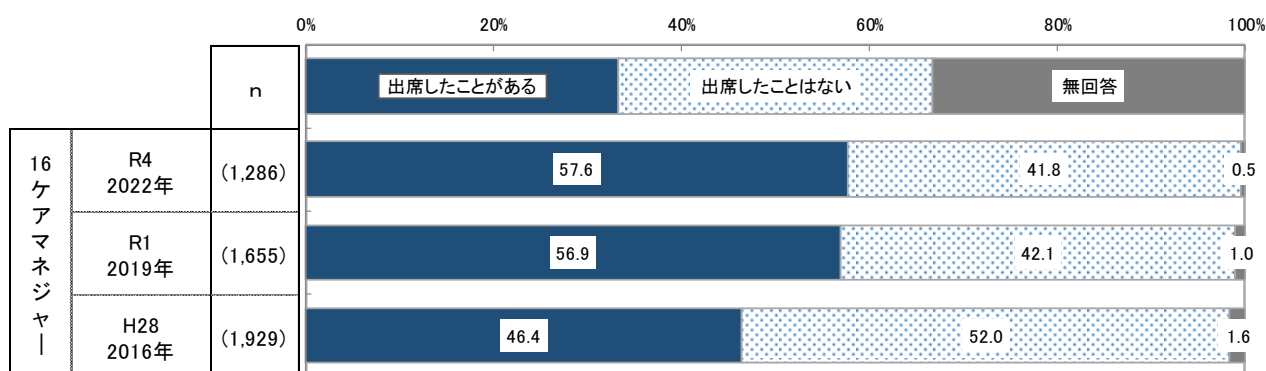
① ケアマネジャーの地域ケア会議への参加状況

問 横浜市の地域ケア会議（個別ケース、包括レベル）に出席したことはありますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																39			

地域ケア会議への参加状況について、「出席したことがある」が57.6%となっている。
過去の結果と比較すると、前回調査からは横ばいとなっている。

図表 II-4-① ケアマネジャーの地域ケア会議への参加状況



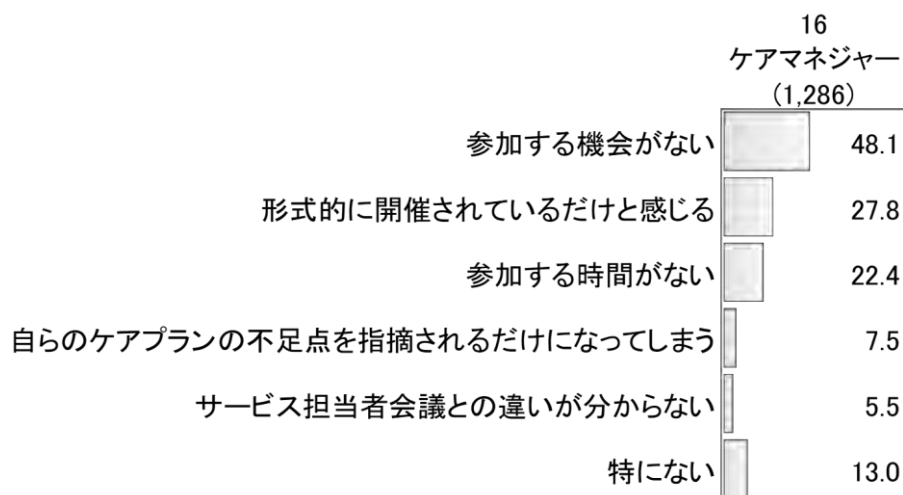
② ケアマネジャーが感じる地域ケア会議の課題

問 現時点で、地域ケア会議で課題に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																41			

ケアマネジャーが感じる地域ケア会議の課題について、「参加する機会がない」が48.1%と最も多く、次いで「形式的に開催されているだけと感じる」が27.8%となっている。

図表 II-4-② ケアマネジャーが感じる地域ケア会議の課題



③ 地域ケアプラザにおける地域ケア会議の課題

問 現時点で、地域ケア会議（個別ケース、包括レベル）で課題に思うことは何ですか。

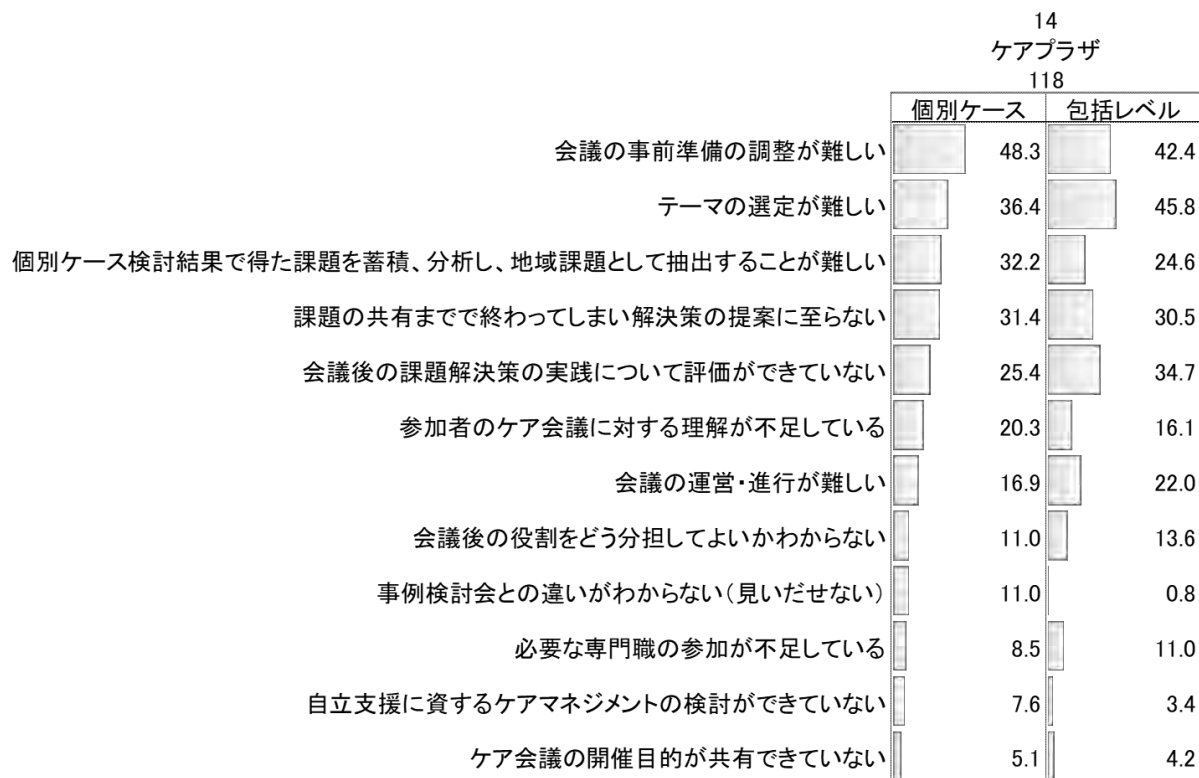
（個別ケース、包括レベルそれぞれ、○は3つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号														18					

地域ケアプラザにおける地域ケア会議の課題について、個別ケースでは「会議の事前準備の調整が難しい」が48.3%と最も多く、次いで「テーマの選定が難しい」が36.4%となっている。

包括レベルでは「テーマの選定が難しい」が45.8%と最も多く、次いで「会議の事前準備の調整が難しい」が42.4%となっている。

図表 II-4-③ 地域ケア会議の課題



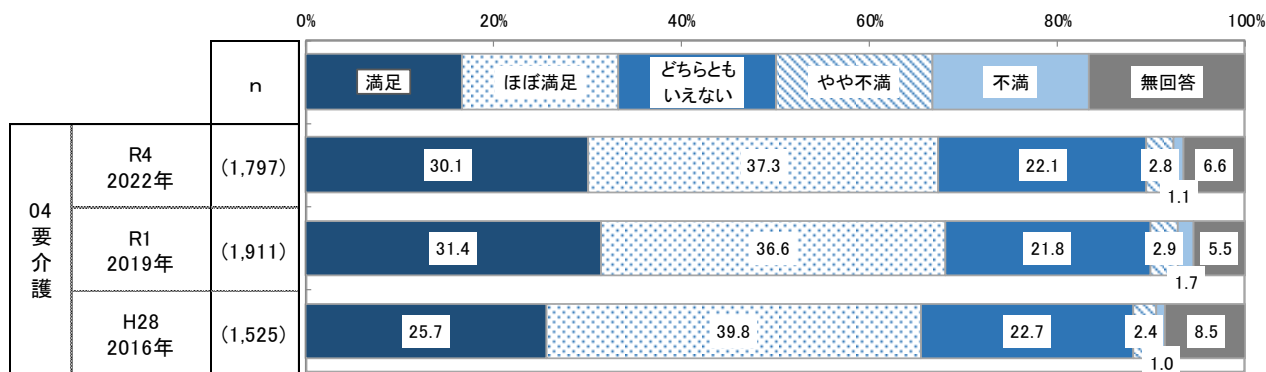
④ ケアプランの満足度

問 ケアプランの内容について、満足していますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号				33																

ケアプランの満足度について、「満足」と「ほぼ満足」の合計が約7割を占めている。
過去の結果と比較すると、横ばいとなっている。

図表 II-4-④ ケアプランの満足度



⑤ 地域ケアプラザにおける介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題

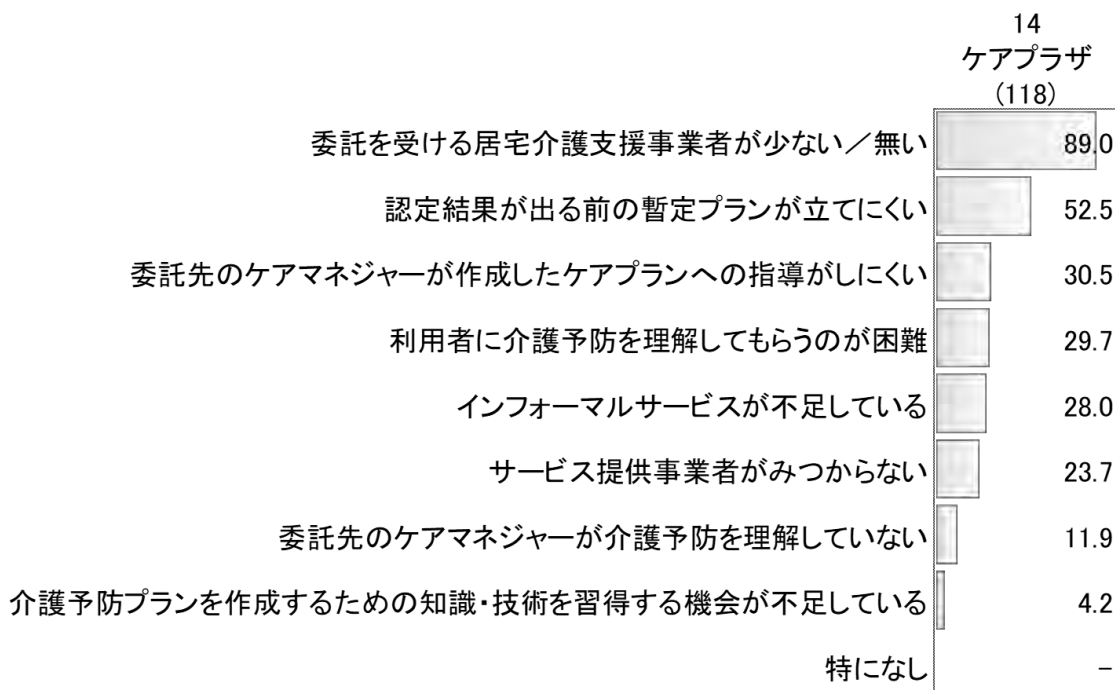
問 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題と考えることは何ですか。

(〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														5					

地域ケアプラザにおける介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題について、「委託を受ける居宅介護支援事業者が少ない／無い」が89.0%と最も多く、次いで「認定結果が出る前の暫定プランを立てにくい」が52.5%となっている。

図表 II-4-⑤ 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題



⑥ ケアマネジャーが考える介護予防ケアマネジメントの効果

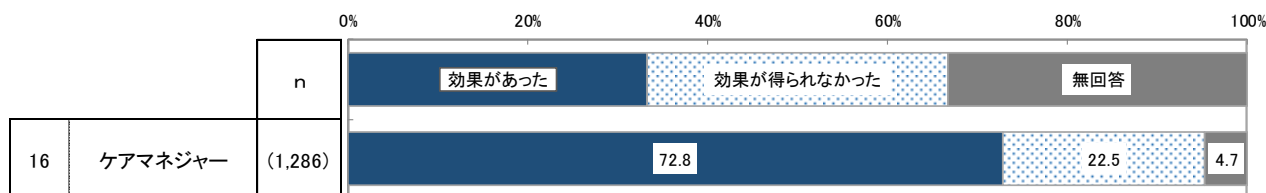
問 介護予防ケアマネジメントが利用者の状態の改善や生活機能の向上に効果的であったと思いますか。

(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																50			

介護予防ケアマネジメントの効果について、「効果があった」が72.8%となっている。

図表 II-4-⑥ 介護予防ケアマネジメントの効果



⑦ 地域ケアプラザからのケアマネジャーの業務内容への評価

問 所管する圏域を営業エリアとする居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、その業務を適切に行っていると思いますか。次の各項目についてお答えください。

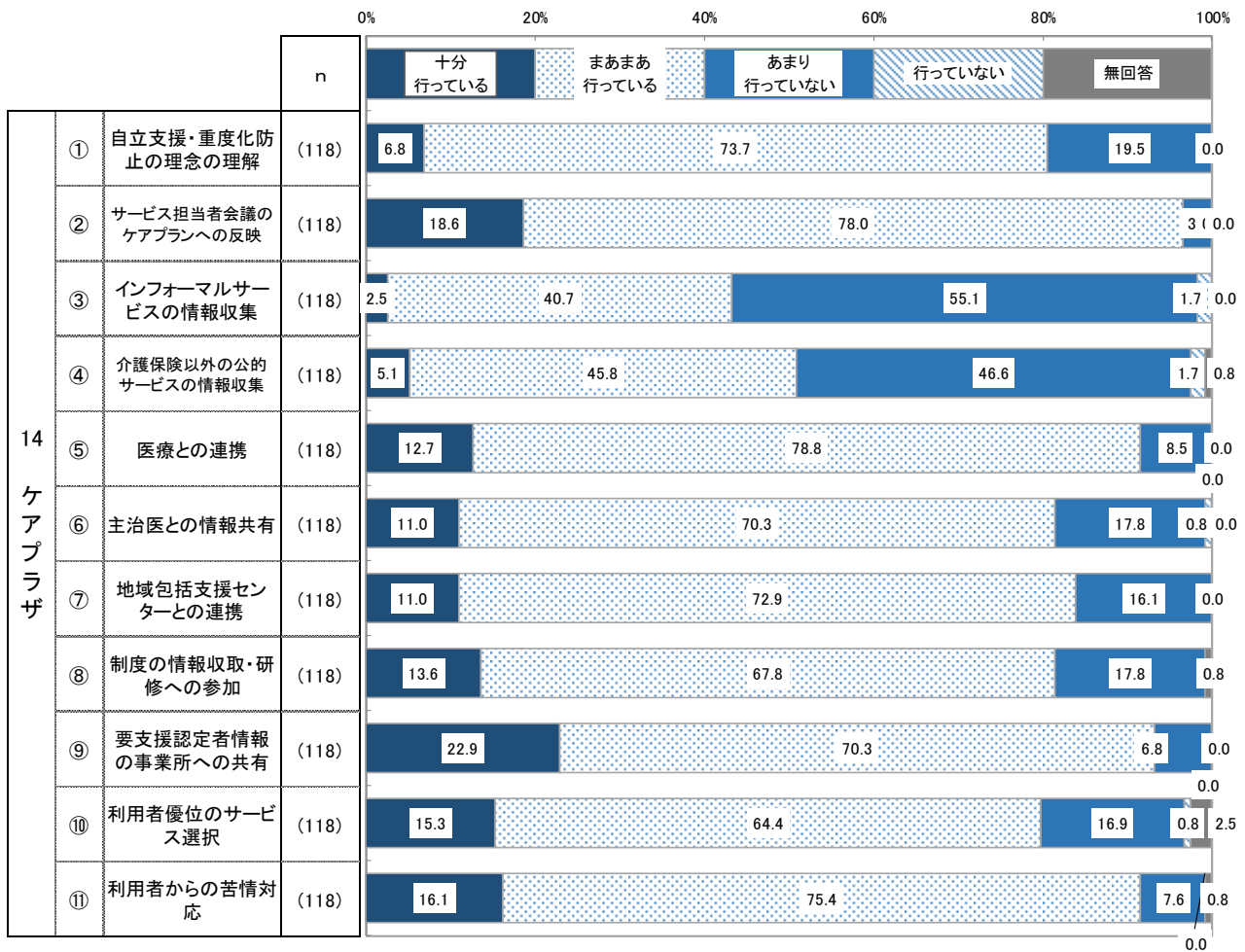
(それぞれあてはまる番号に○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														13					

ケアマネジャーの業務評価について、③インフォーマルサービスの情報収集、④介護保険以外の公的サービスの情報収集は「行っていない」「あまり行っていない」の合計が約半数を占めている。

一方で、他の業務については、「十分行っている」「まあまあ行っている」の合計が約8割から9割を占めている。

図表 II-4-⑦ ケアマネジャーの業務内容の評価



⑧ 介護事業所におけるケアマネジャーと連携する上での課題

問 ケアマネジャー（予防の担当職員を含む）との連携で、課題がありますか。

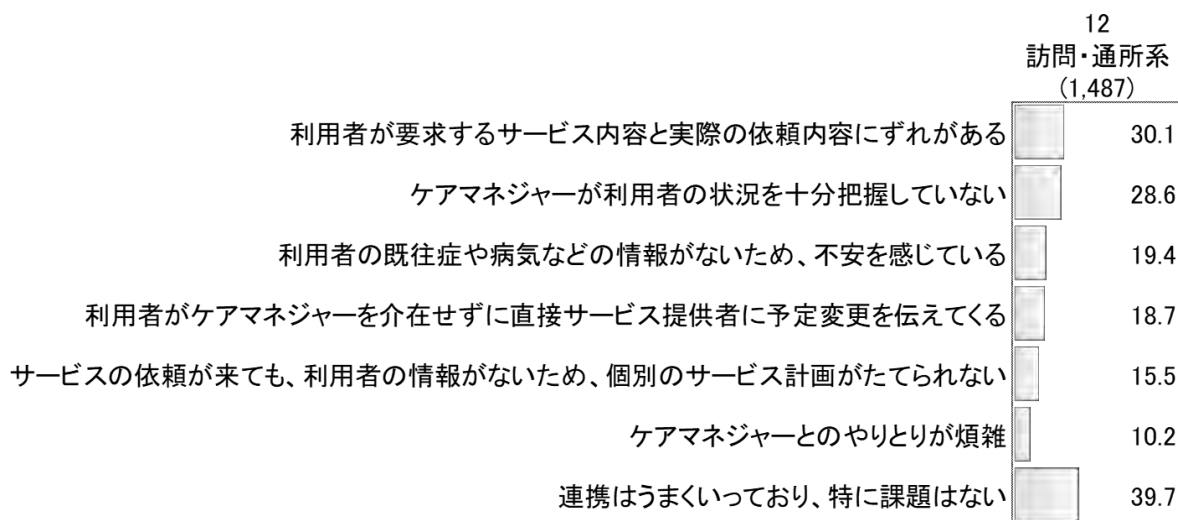
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号												29							

介護事業所におけるケアマネジャーと連携する上での課題について、「利用者が要求するサービス内容と実際の依頼内容にずれがある」が30.1%と最も多く、次いで「ケアマネジャーが利用者の状況を十分把握していない」が28.6%となっている。

また、「連携はうまくいっており、特に課題はない」が39.7%となっている。

図表 II-4-⑧ ケアマネジャーと連携する上での課題



⑨ ケアマネジャー自身が業務を行う上での課題

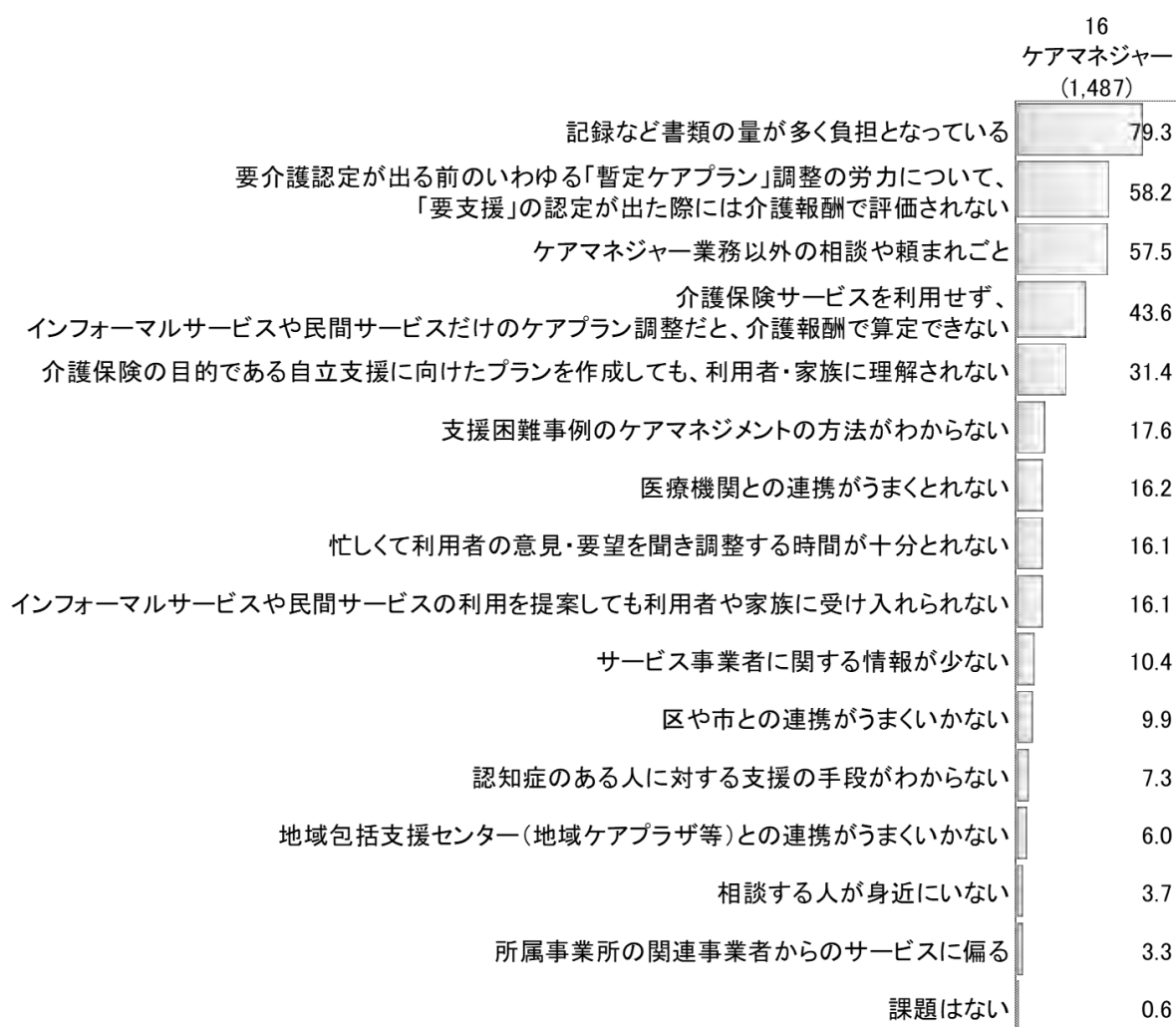
問 ケアマネジャー業務を行う上で、課題として考えているのはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																42			

ケアマネジャー自身が業務を行う上での課題について、「記録など書類の量が多く負担となっている」が79.3%で最も多く、次いで「要介護認定が出る前のいわゆる「暫定ケアプラン」調整の労力について、「要支援」の認定が出た際には介護報酬で評価されない」が58.2%となっている。

図表 II-4-⑨ ケアマネジャー自身が業務を行う上での課題



⑩ ケアマネジャー業務の中で負担になっていること

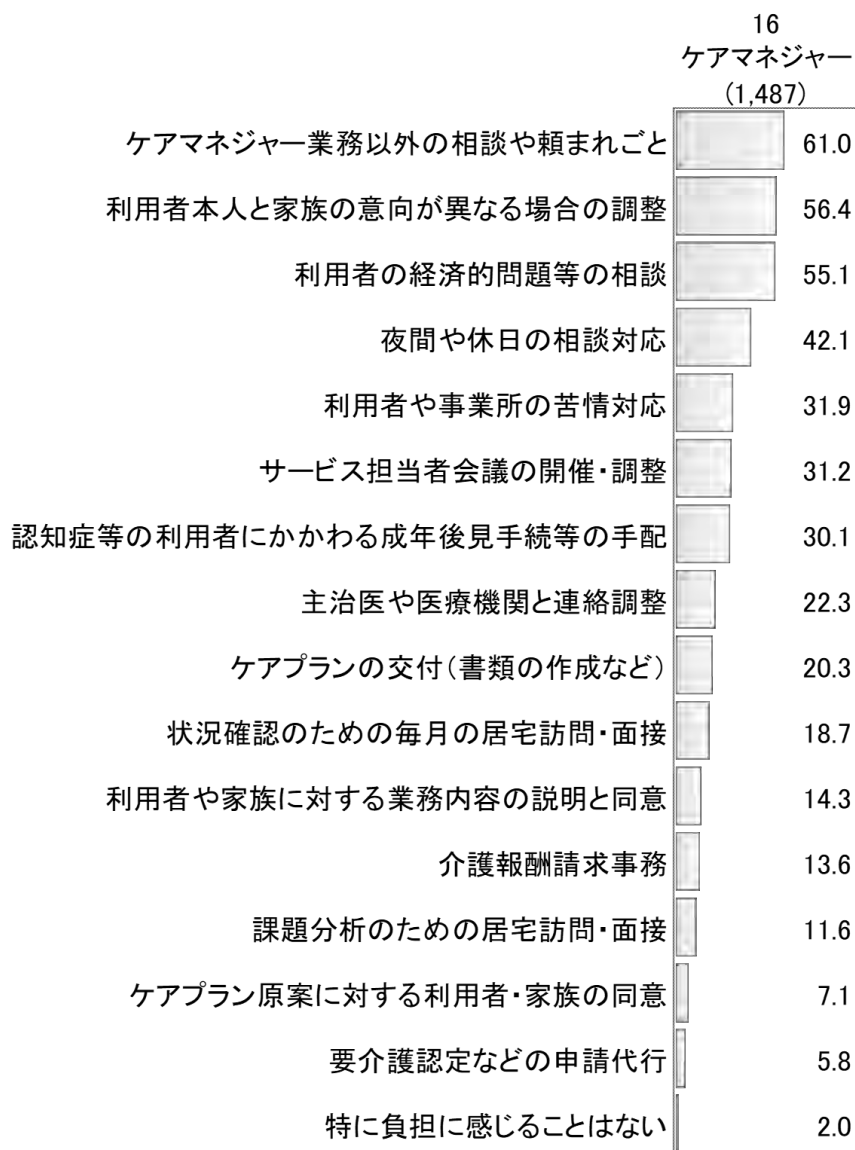
問 ケアマネジャー業務の中で、どのようなことに負担感を感じますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																43			

ケアマネジャー業務の中で負担になっていることについて、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」が61.0%と最も多く、次いで「利用者本人と家族の意向が異なる場合の調整」が56.4%、「利用者の経済的問題等の相談」が55.1%となっている。

図表 II-4-⑩ ケアマネジャー業務の中で負担になっていること



III. ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して

1 個々の状況に応じた施設・住まいの整備・供給

① 介護が必要になった場合の暮らし方の希望

問 あなた（あて各ご本人）は、介護サービスの利用と住まいについて、どのようにお考えですか。最も近いものをお選びください。（〇はひとつ）

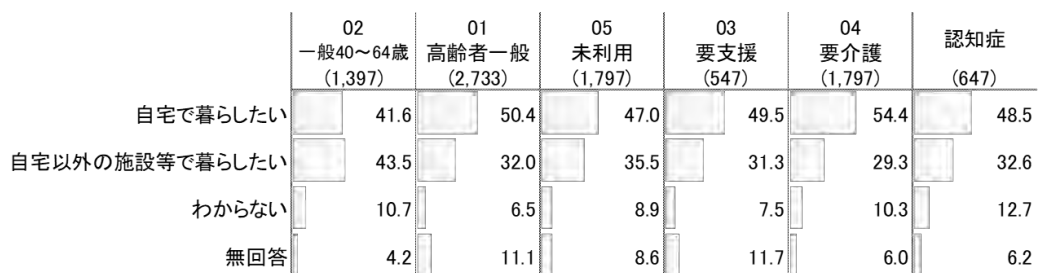
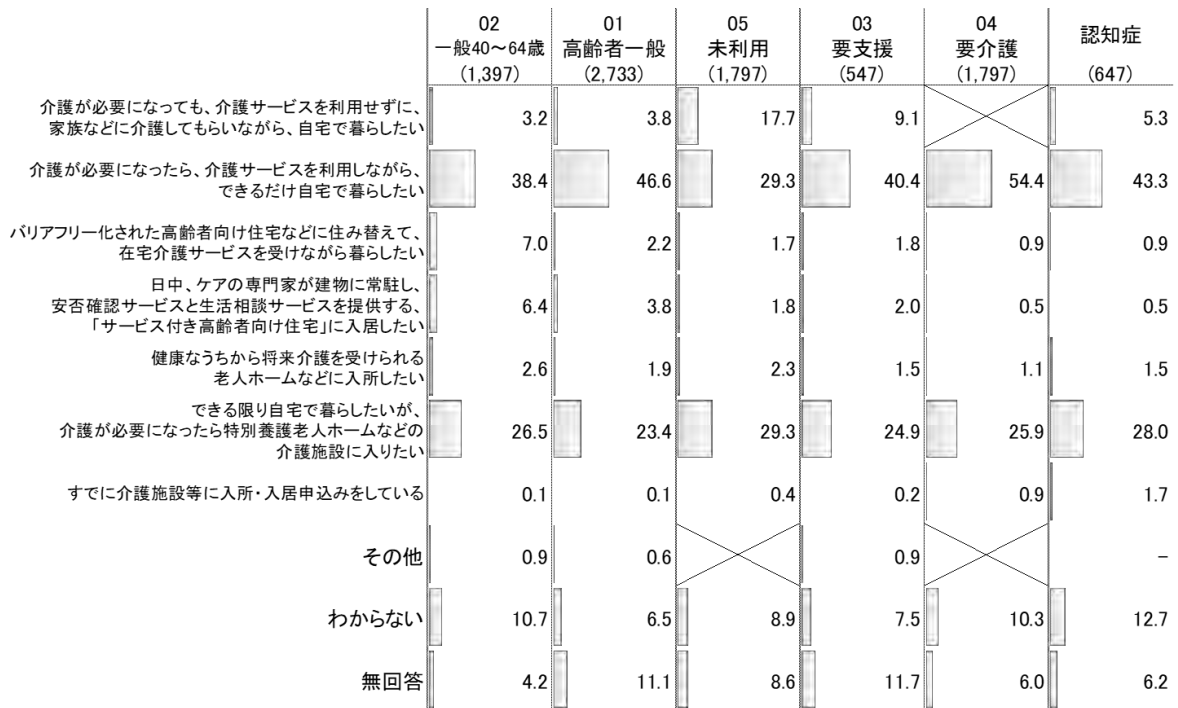
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	49	47	42	36	32															

介護が必要になった場合の暮らし方について、「一般 40～64 歳」「高齢者一般」「要支援」「要介護」「認知症」ともに「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が最も多く、「要介護」では 54.4%となっている。次いで「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が 2～3 割となっている。

“未利用”では、「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」と「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が同数となっている。

過去の結果と比較すると、“未利用”では「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が減少しているものの、他は横ばいとなっている。

図表 III-1-① 介護が必要になった場合の暮らし方の希望



【経年比較】

(%)

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			05 未利用		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
介護が必要になっても、介護サービスを利用せずに、 家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	3.2	2.7	4.2	3.8	4.3	8.0	17.7	15.2	
介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、 できるだけ自宅で暮らしたい	38.4	39.1	49.6	46.6	46.1	51.1	29.3	35.2	
バリアフリー化された高齢者向け住宅などに住み替えて、 在宅介護サービスを受けながら暮らしたい	7.0	7.1	6.7	2.2	2.9	4.0	1.7	2.1	
「サービス付き高齢者向け住宅」に入居したい	6.4	6.3	5.9	3.8	4.0	3.7	1.8	1.8	
健康なうちから将来介護を受けられる 老人ホームなどに入所したい	2.6	3.7	1.9	1.9	2.1	1.6	2.3	1.9	
できる限り自宅で暮らしたいが、 介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	26.5	24.9	21.7	23.4	20.1	20.8	29.3	25.9	
すでに介護施設等に入所・入居申込みをしている	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.3	
その他	0.9	0.6	0.4	0.6	0.8	1.0			
わからない	10.7	10.7	8.6	6.5	6.4	5.9	8.9	8.5	

	03 要支援			04 要介護		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
介護が必要になっても、介護サービスを利用せずに、 家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	9.1	4.5	4.9			
介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、 できるだけ自宅で暮らしたい	40.4	40.8	47.3	54.4	54.2	71.6
バリアフリー化された高齢者向け住宅などに住み替えて、 在宅介護サービスを受けながら暮らしたい	1.8	1.9	1.9	0.9	1.4	2.1
「サービス付き高齢者向け住宅」に入居したい	2.0	1.5	1.3	0.5	1.0	1.0
健康なうちから将来介護を受けられる 老人ホームなどに入所したい	1.5	2.2	2.1	1.1	1.0	1.3
できる限り自宅で暮らしたいが、 介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	24.9	29.4	22.2	25.9	26.4	6.8
すでに介護施設等に入所・入居申込みをしている	0.2	0.7	0.2	0.9	1.7	1.2
その他	0.9	0.7	0.8			
わからない	7.5	8.1	3.2	10.3	9.1	5.7

※ “一般 40～64 歳” は、H28 調査以前は 55～64 歳が対象

② 特別養護老人ホームへの申込時期

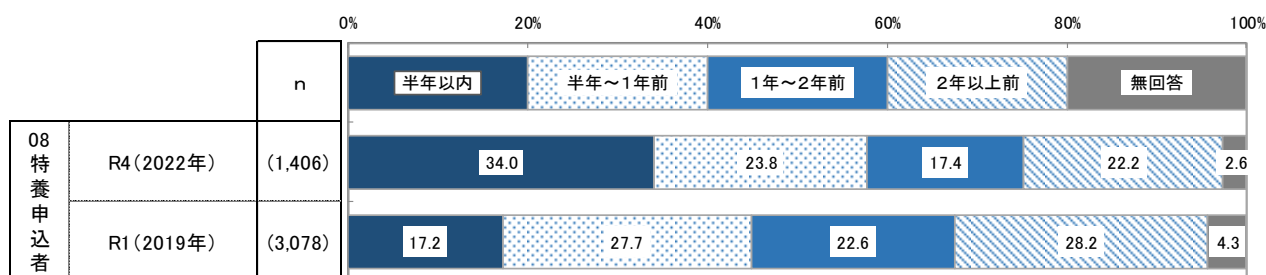
問 最初に特別養護老人ホームに申込みをしたのはいつですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号								29												

特別養護老人ホームへの入所申込時期について、「半年以内」が 34.0%と最も多く、次いで「半年～1年前」が 23.8%となっている。なお、「2年以上前」は 22.2%となっている。

過去の結果と比較すると、「半年以内」が増加しており、一方で、「1年～2年前」「2年以上前」の合計が減少し全体の半数以下となっている。

図表 III-1-② 特別養護老人ホームへの申込時期



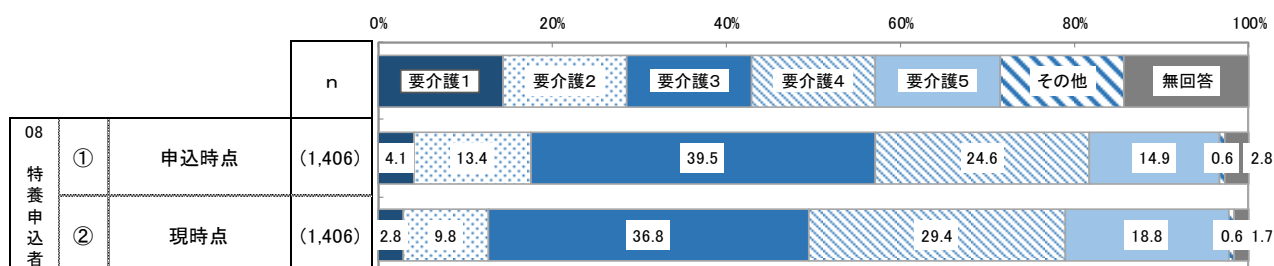
③ 特別養護老人ホーム申込時点と現在の要介護度

問 申込み時点と令和4年10月1日現在のあなた（特養入所希望者）の要介護度は、どのような状態でしたか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号								30 16												

特別養護老人ホームへの申込時と現在の要介護度について、申込時点では「要介護度3」以上は 79.0%であったが、現時点では 85.0%に増加している。

図表 III-1-③ 申込時点と現在の要介護度



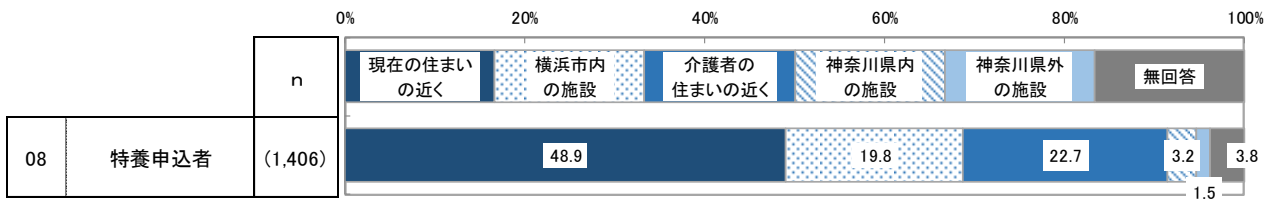
④ 特別養護老人ホームへの入所を希望する地域

問 どちらの場所にある特別養護老人ホームへの入所を希望しますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号								31												

特別養護老人ホームへの入所希望地域について、「現在の住まいの近く」が48.9%と最も多く、次いで「介護者の住まいの近く」が22.7%となっている。
市外の施設への希望は4.7%となっている。

図表 III-1-④ 入所希望地域



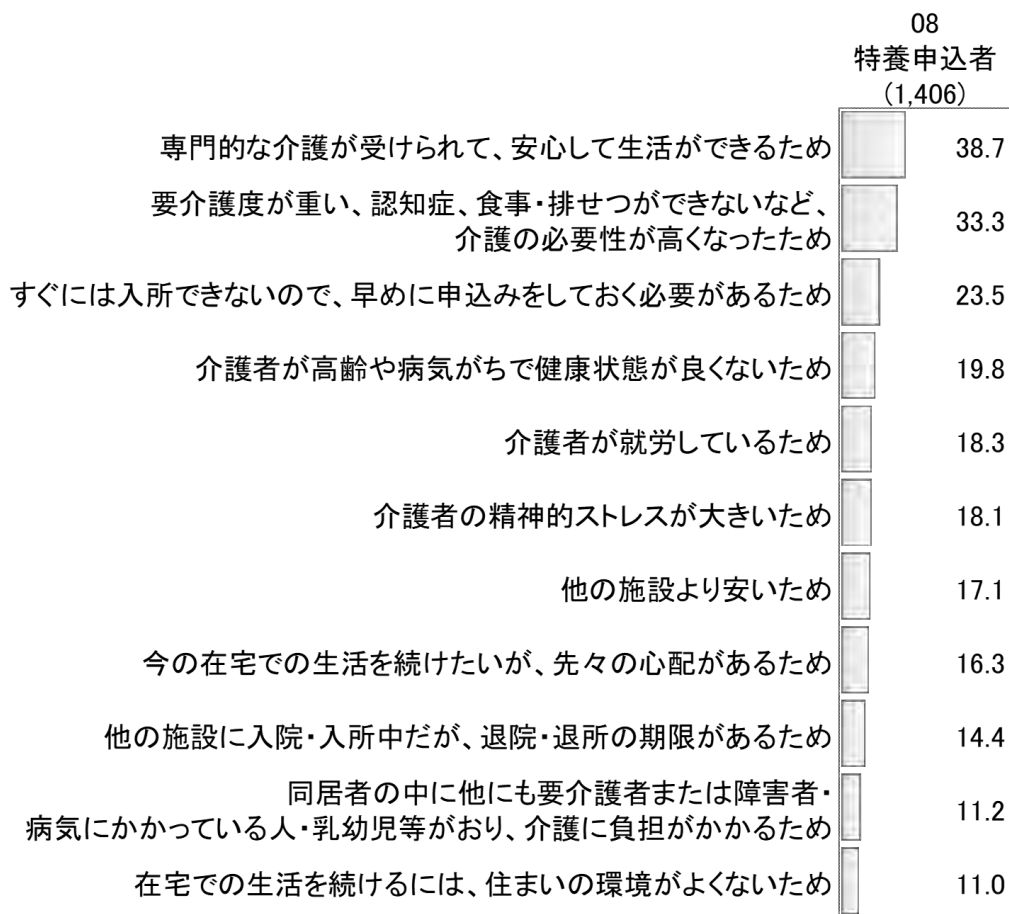
⑤ 特別養護老人ホームを希望する理由

問 特別養護老人ホームに入所の申込をした理由は何ですか。あてはまる理由を3つまでお選びください。(〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号								32											

特別養護老人ホームを入所希望する理由について、「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」が38.7%と最も多く、次いで「要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため」が33.3%となっている。

図表 III-1-⑤ 特別養護老人ホームを希望する理由



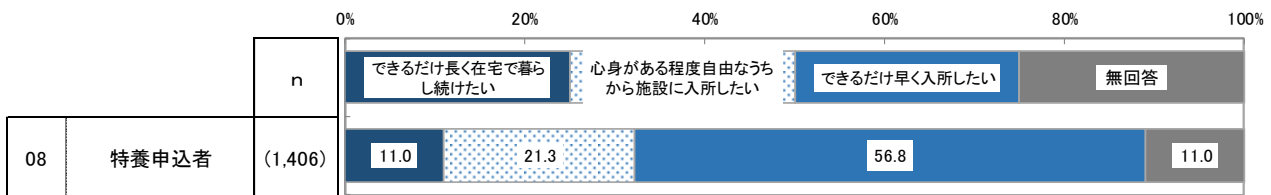
⑥ 特別養護老人ホームへの入所に対する考え方

問 あなた(特養入所希望者)の施設への入所に対する考えは、どれに最も近いですか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								33												

特別養護老人ホームへの入所に対する考えについて、「できるだけ早く入所したい」が56.8%と最も多く、次いで「心身がある程度自由なうちから施設に入所したい」が21.3%となっている。

図表 III-1-⑥ 特別養護老人ホームへの入所に対する考え方



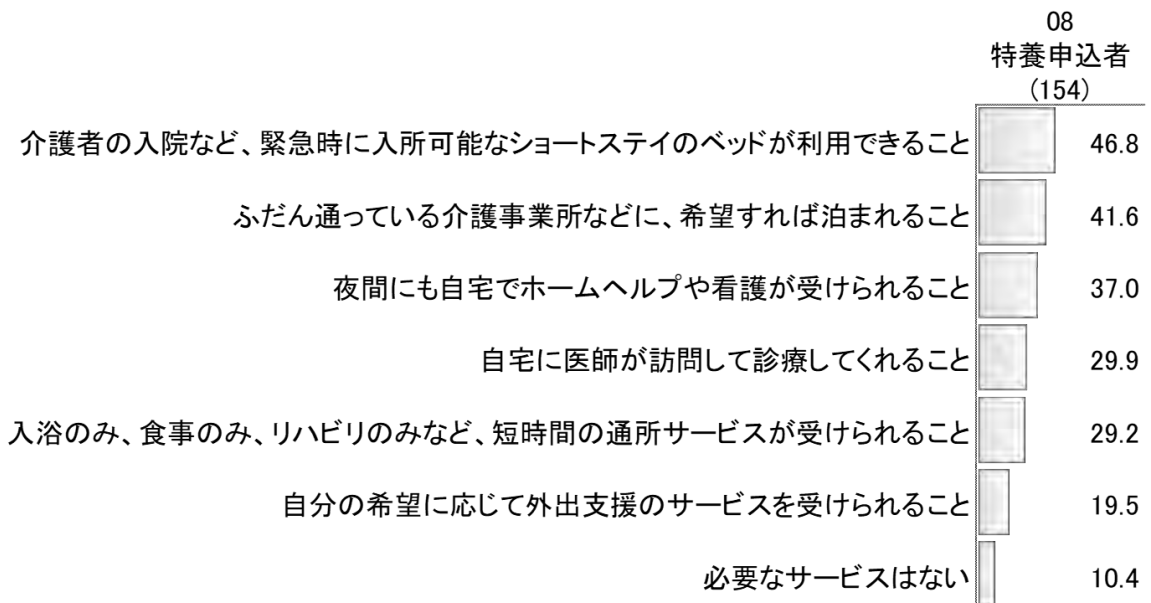
⑦ 特別養護老人ホームを希望する人が在宅生活のために必要なこと

問 あなた(特養入所希望者)が、安心して在宅で生活をするためには、現在の介護サービス以外に、必要なサービスがありますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								33-1												

特別養護老人ホームを希望する人が在宅での生活をするために必要なことについて、「介護者の入院など、緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること」が46.8%と最も多く、次いで「ふだん使っている介護事業所などに、希望すれば泊まれること」が41.6%となっている。

図表 III-1-⑦ 在宅生活に必要なこと



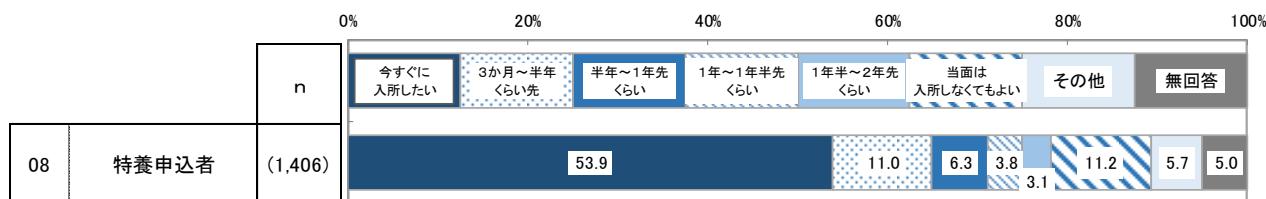
⑧ 特別養護老人ホームに入所を希望する時期

問 特別養護老人ホームに入所したい時期はいつ頃ですか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号								34												

特別養護老人ホームに入所したい時期について、「今すぐに入所したい」が53.9%と最も多く、次いで「当面は入所しなくてもよい」が11.2%となっており、「今すぐ入所したい」「3か月～半年くらい先」「半年～1年先くらい」の合計が71.2%を占めている。

図表 III-1-⑧ 特別養護老人ホームに入所を希望する時期



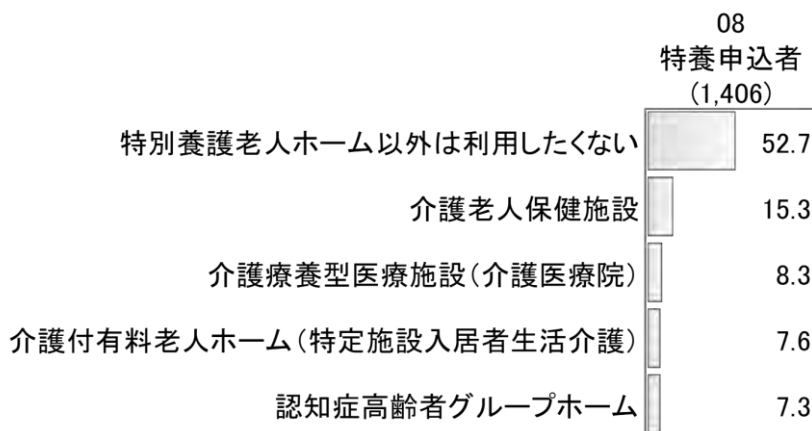
⑨ 特別養護老人ホーム以外で利用したいサービス

問 特別養護老人ホーム以外で利用したいサービスがありますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号								23												

特別養護老人ホーム以外で利用したいサービスについて、「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」が52.7%と最も多く、「介護老人保健施設」が15.3%、「介護療養型医療施設」が8.3%となっている。

図表 III-1-⑨ 特別養護老人ホーム以外のサービスの希望



⑩ 特別養護老人ホーム以外を利用したくない理由

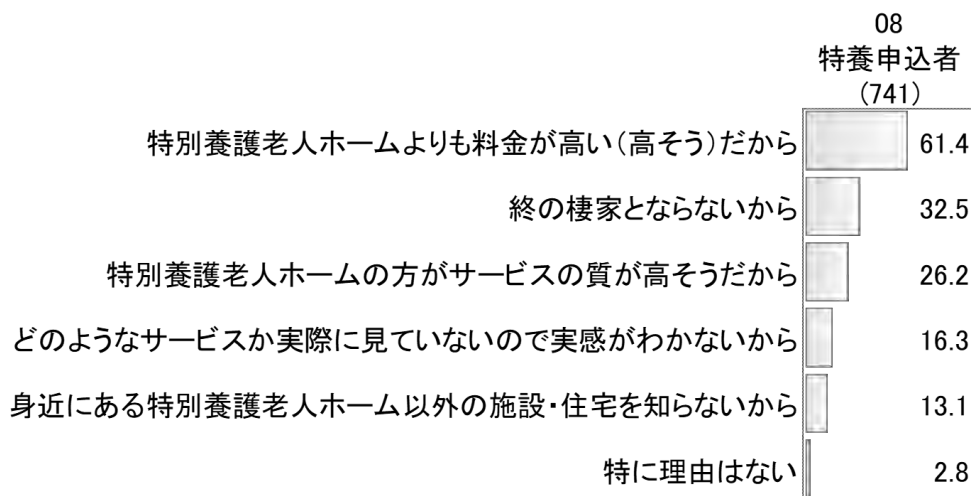
問 特別養護老人ホーム以外のサービスを利用したくない理由は何ですか

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								23-1												

特別養護老人ホーム以外を利用したくない理由について、「特別養護老人ホームよりも料金が
高い(高そう)だから」が61.4%と最も多く、次いで「終の棲家とにならないから」が32.5%となっ
ている。

図表 III-1-⑩ 特別養護老人ホーム以外を利用したくない理由



⑪ 重視して欲しい特別養護老人ホームへの入所の判断基準

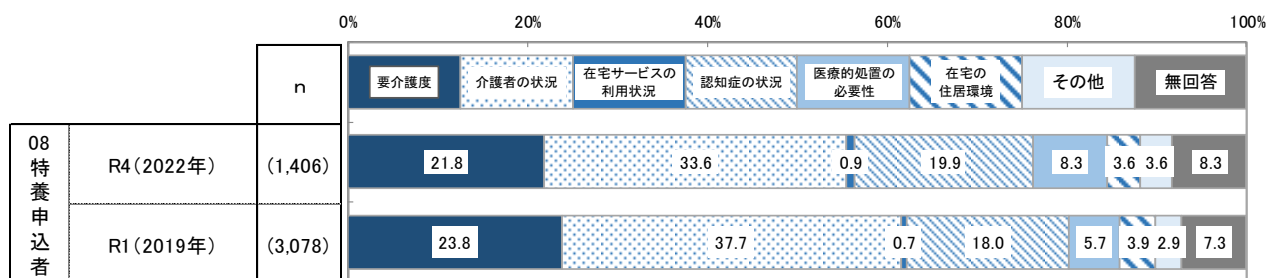
問 横浜市特別養護老人ホームへの入所の必要性を判断する上で、最も重視すべき点はど
のようなことだと思いますか。(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								38												

特別養護老人ホームの入所判断で重視して欲しい基準について、「介護者の状況」が33.6%と最
も多く、次いで「要介護度」が21.8%となっている。

過去の結果と比較すると、「認知症の状況」は18.0%から19.9%に、「医療的処置の必要性」は
5.7%から8.3%となった。

図表 III-1-⑪ 特別養護老人ホームへの入所判断で重視して欲しい基準



⑫ 特養入所希望者の医療的ケアの状況

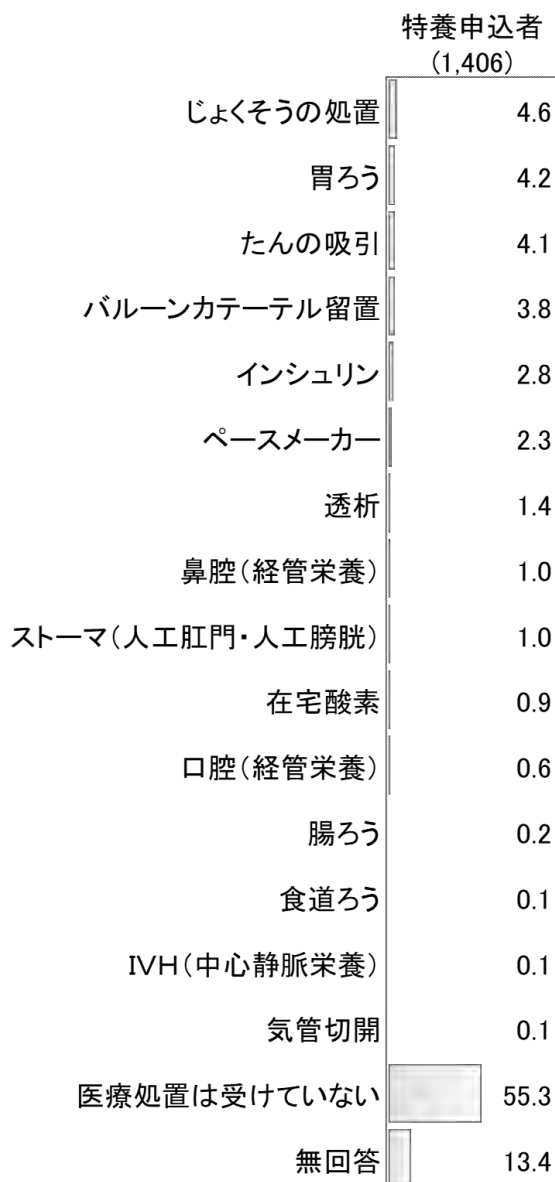
問 あなた（特養入所希望者）は、現在、次のような医療を受けていますか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号								18											

現在受けている医療的ケアについて、「じょくそうの処置」等、何らかの医療的ケアを受けている方が31.3%となっている。

また、「医療処置は受けていない」は55.3%と半数を占めている。

図表 III-1-⑫ 特養入所希望者の医療的ケアの状況



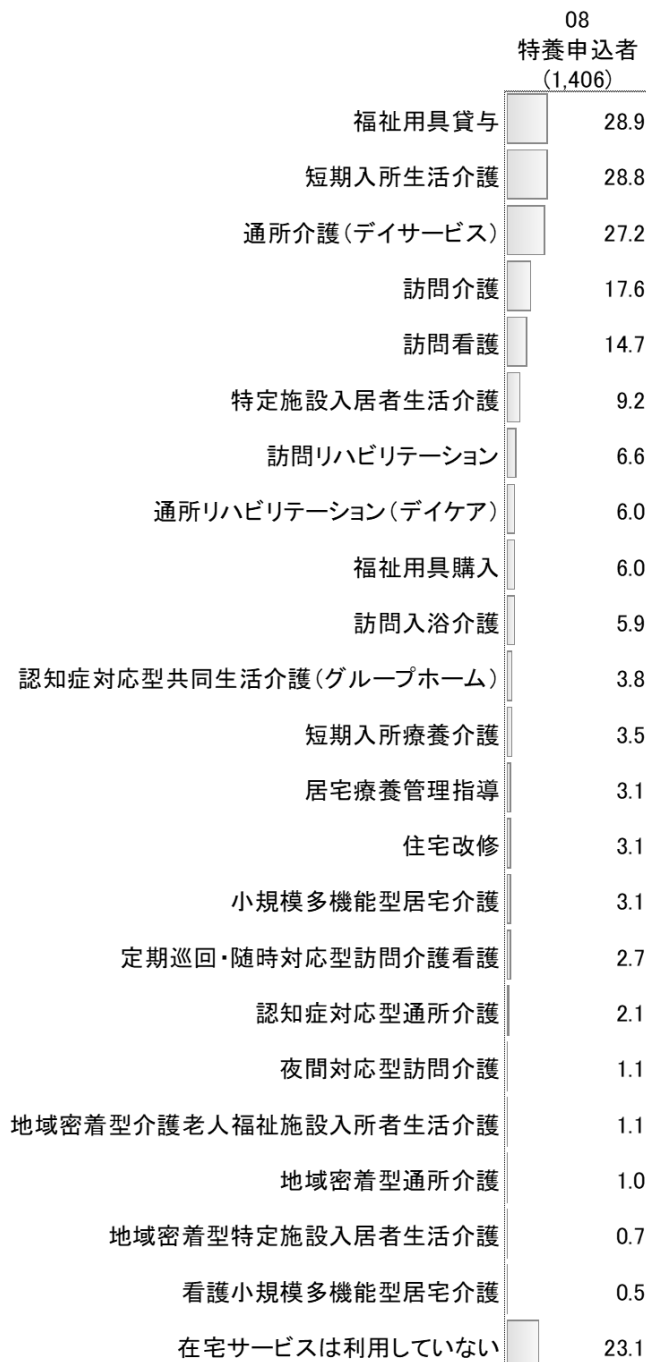
⑬ 特養入所希望者が利用した、令和4年9月に利用した介護サービス

問 介護保険の在宅サービスのうち、令和4年9月に利用したサービスすべてに○をつけてください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号								19												

令和4年9月に利用した介護サービスについて、「福祉用具貸与」が28.9%と最も多く、次いで「短期入所生活介護」が28.8%となっている。
一方で、「在宅サービスは利用していない」は23.1%となっている。

図表 III-1-⑬ 介護サービスの利用状況



2 相談体制・情報提供の充実

① 高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況

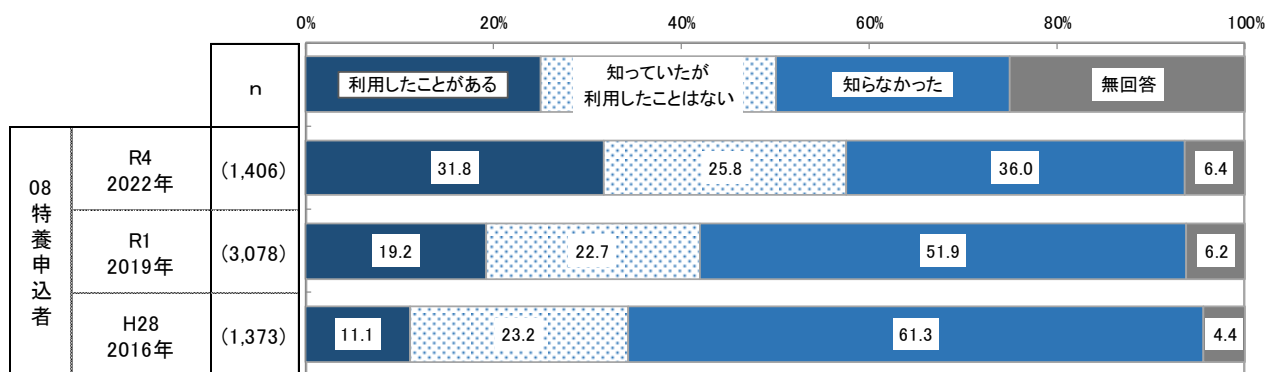
問 「高齢者施設・住まいの相談センター」で高齢者の施設や住まいについての相談を受け付けています。利用したことがありますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								39												

高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況について、「利用したことがある」は31.8%となっており、「知らなかった」は36.0%となっている。

過去の結果と比較すると、「利用したことがある」は前回から増加している。

図表 III-2-① 高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況



② 高齢者施設・住まいの相談センターを利用しない理由

問 利用したことはない理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号								39-1												

高齢者施設・住まいの相談センターを利用しない理由について、「どういった情報を得られるのかわからないから」が38.8%と最も多く、次いで「忙しくて相談する時間がないから」が20.4%となっている。

過去の結果と比較すると、「自宅から遠いから」が増加し、「相談することがないから」が減少している。

図表 III-2-② 高齢者施設・住まいの相談センターを利用しない理由

		有効回収 (n)	困わど がわら かいら ないか らない から ないか ら(相 談で れる の範 か	ら忙 しく て相 談す る時 間が ない か	自 宅 か ら 遠 い か ら	て相 談す るこ とが ない から (困 っ	平 日 し か 受 け 付 け て い な い か ら	付日 け中 て(9 時 5 分 1 7 時)し か 受 け
08 特 養 申 込 者	R4 2022年	(363)	38.8	20.4	16.0	14.9	14.3	13.5
	R1 2019年	(699)	35.9	17.3	9.6	21.9	13.0	10.0
	H28 2016年	(318)	39.9	21.1	9.7	22.0	13.2	10.7

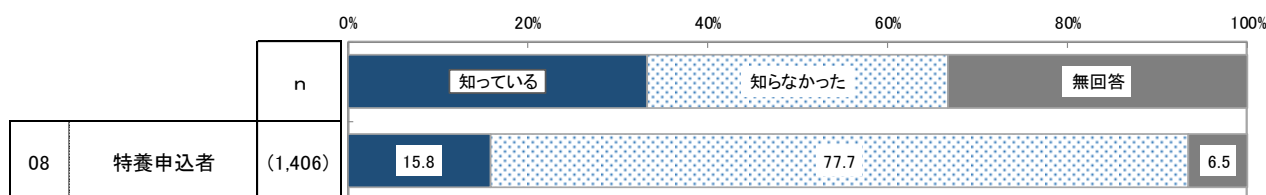
③ 出張相談の認知度【新規】

問 港南区を除く 18 区の地域ケアプラザ等で「高齢者施設・住まいの相談センター」が「出張相談」を行っていることを知っていますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号								40												

出張相談の認知度について、「知っている」は 15.8%となっており、「知らなかった」は 77.7%となっている。

図表 III-2-③ 出張相談の認知度



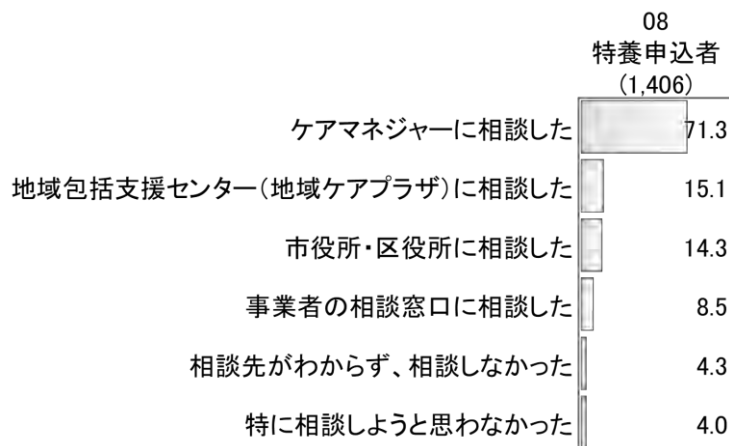
④ 特別養護老人ホームの申込みに関する相談先（高齢者施設・住まいの相談センター以外）

問 特別養護老人ホームの入所申込について、「高齢者施設・住まいの相談センター」以外に、どちらかに相談しましたか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号								41												

特別養護老人ホームの申込みに関する相談先について、「ケアマネジャーに相談した」が 71.3%と最も多く、次いで「地域包括支援センターに相談した」が 15.1%となっている。

図表 III-2-④ 特別養護老人ホームの申込みに関する相談先



IV. 安心の介護を提供するために

1 新たな介護人材の確保

① 施設（事業所）を運営する上での課題

問 貴施設（事業所）を運営する上での問題点はどれですか。

調査 09～12（○は3つまで）

調査 13（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									52	50	49	37	13						

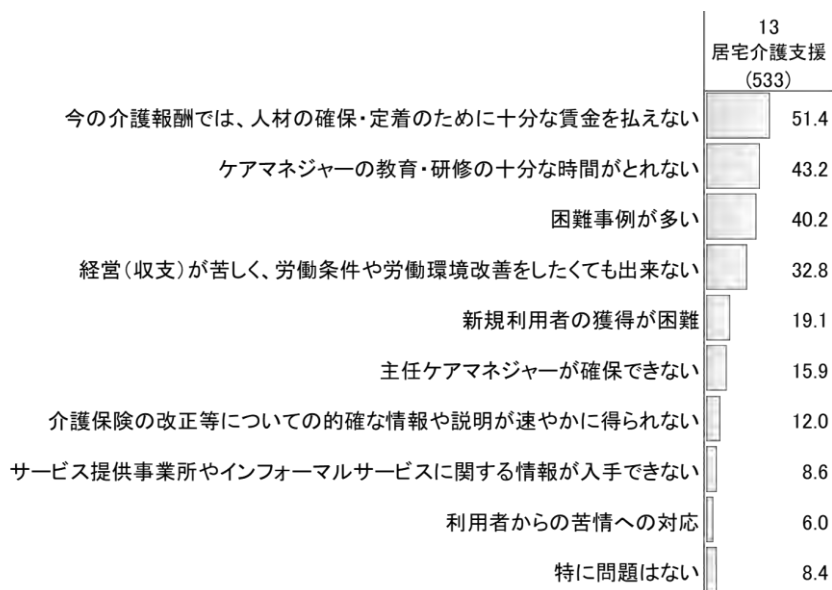
施設（事業所）を運営する上での課題について、「良質な人材の確保が難しい」は“特養”“老健”“居住系”“訪問・通所系”で最も多くなっており、次いで「今の介護報酬では、人材の確保・定着のために十分な賃金を払えない」となっている。

“居宅介護支援”では、「今の介護報酬では、人材の確保・定着のために十分な賃金を払えない」が最も多くなっており、全ての対象施設（事業所）で『人材の確保』に関連する課題が上位となっている。

図表 IV-1-① 施設（事業所）を運営する上での課題（特養、老健、居住系、訪問・通所系）

	09 特養 (100)	10 老健 (45)	11 居住系 (335)	12 訪問・通所系 (1,487)
良質な人材の確保が難しい	75.0	64.4	62.4	52.7
今の介護報酬では、人材の確保・定着のために十分な賃金を払えない	42.0	40.0	31.9	43.8
新規利用者の確保が難しい	42.0	37.8	20.0	25.2
教育・研修の時間が十分に取れない	31.0	17.8	26.9	21.7
経営(収支)が苦しく、労働条件や労働環境改善をしたくても出来ない	27.0	37.8	14.9	25.8
指定介護サービス提供に関する書類作成が煩雑で、時間に追われている	15.0	11.1	10.1	23.3
介護従事者の介護業務に関する知識や技術が不足している	13.0	17.8	22.1	9.0
介護従事者の介護業務に臨む意欲や姿勢に問題がある	9.0	4.4	13.1	4.1
介護従事者間のコミュニケーションが不足している	9.0	4.4	4.8	3.1
利用者や利用者の家族の介護サービスに対する理解が不足している	6.0	6.7	7.8	8.3
特に問題はない	-	2.2	3.9	5.1

図表 IV-1-① 事業所を運営する上での課題（居宅介護支援）



② 施設（事業所）職員の不足状況（全体）

問 貴施設（事業所）では、従業員の過不足の状況はいかがですか。「不足している」とは、募集を必要としていることを指します。 (〇はひとつ)

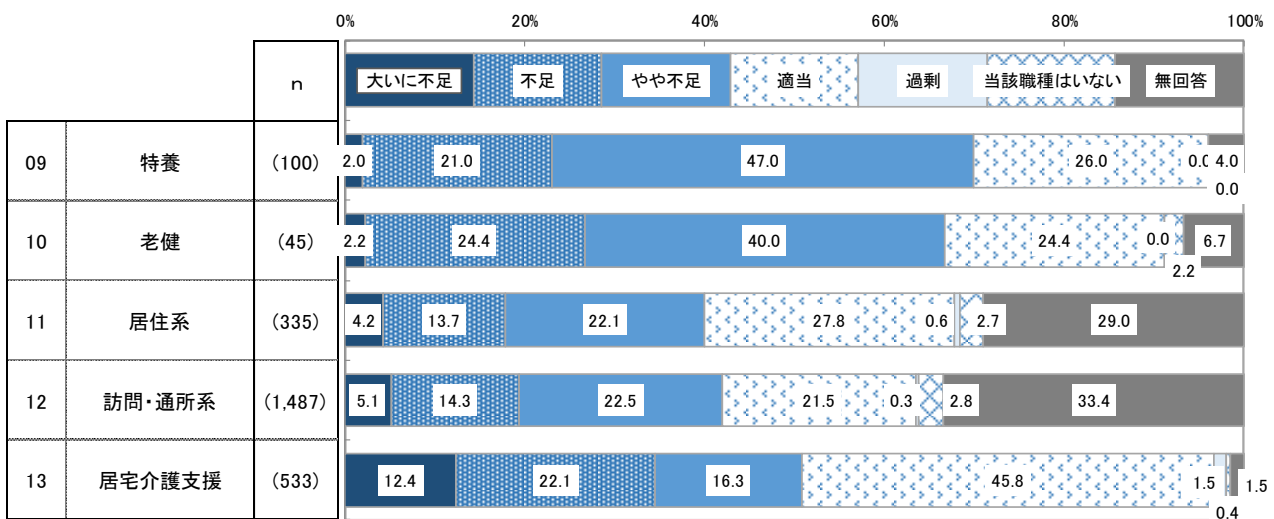
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									6⑦	5⑦	6⑦	7⑦	7						

施設（事業所）職員の不足状況について、“特養”“老健”では、「大いに不足」「不足」「やや不足」を合計した『不足』が、約7割と大半を占めている。一方で、“居宅介護支援”では、『不足』は50.8%と“特養”“老健”に比べて少ないものの、「大いに不足」が12.4%と全ての対象施設（事業所）の中で最も多くなっている。

“居住系”“訪問・通所系”では『不足』が半数を下回っているものの、「無回答」が約3割となっている。

過去の結果と比較すると、「大いに不足」「不足」「やや不足」の合計は、“老健”“居住系”“訪問・通所系”では減少しているものの、“居宅介護支援”では大幅に増加している。

図表 IV-1-② 施設（事業所）職員の不足状況



【経年比較（大いに不足・不足・やや不足の合計）】

		（％）	
		R4	R1
		2022年	2019年
09	特養	70.0	67.4
10	老健	66.6	72.5
11	居住系	40.0	50.3
12	訪問・通所系	41.9	48.8
13	居宅介護支援	50.8	31.8

③ 施設（事業所）職員が不足している理由

問 不足している理由はどれですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号									6-1	5-1	6-1	7-1	7-1						

施設（事業所）職員の不足理由について、全ての対象施設（事業所）で「採用が困難である」が8割以上を占めている。

また、“特養”“老健”“居住系”“訪問・通所系”では「離職率が高い」が2～3割となっているものの、“居宅介護支援”では1割程度となっている。

図表 IV-1-③ 不足している理由

		(%)			
		有効回収数 (n)	採用が困難である	低い離職率が高い (定着率が)	数事業拡大によつて必要人
09	特養	(70)	94.3	28.6	5.7
10	老健	(30)	96.7	30.0	10.0
11	居住系	(134)	82.8	32.8	8.2
12	訪問・通所系	(624)	86.1	21.6	10.9
13	居宅介護支援	(271)	80.8	10.7	15.1

④ 施設（事業所）での職員採用の工夫

問 貴施設（事業所）では職員の採用に際し、どのような工夫を行っていますか。

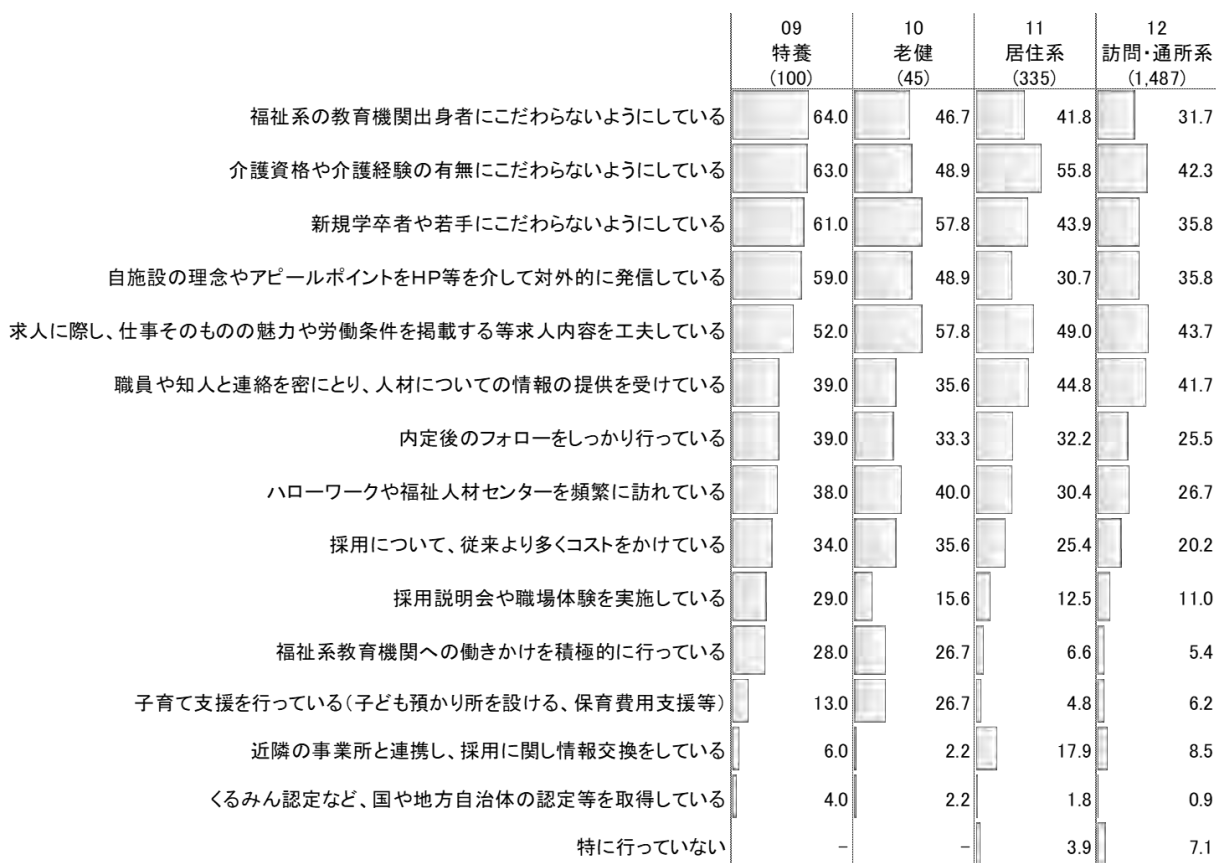
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号									8	7	8	9								

施設（事業所）での職員採用の工夫について、“特養”では「福祉系の教育機関出身者にこだわらない」「介護資格や介護経験の有無にこだわらない」「新規学卒者や若手にこだわらない」が約6割となっている。

一方で、“特養”以外の対象施設（事業所）では、「福祉系の教育機関出身者にこだわらない」は半数以下となっている。

図表 IV-1-④ 職員採用の工夫



⑤ 介護職のイメージ【新規】

問 介護職に対するイメージとしてあてはまるものを選択してください。

(あてはまるものすべてに○)

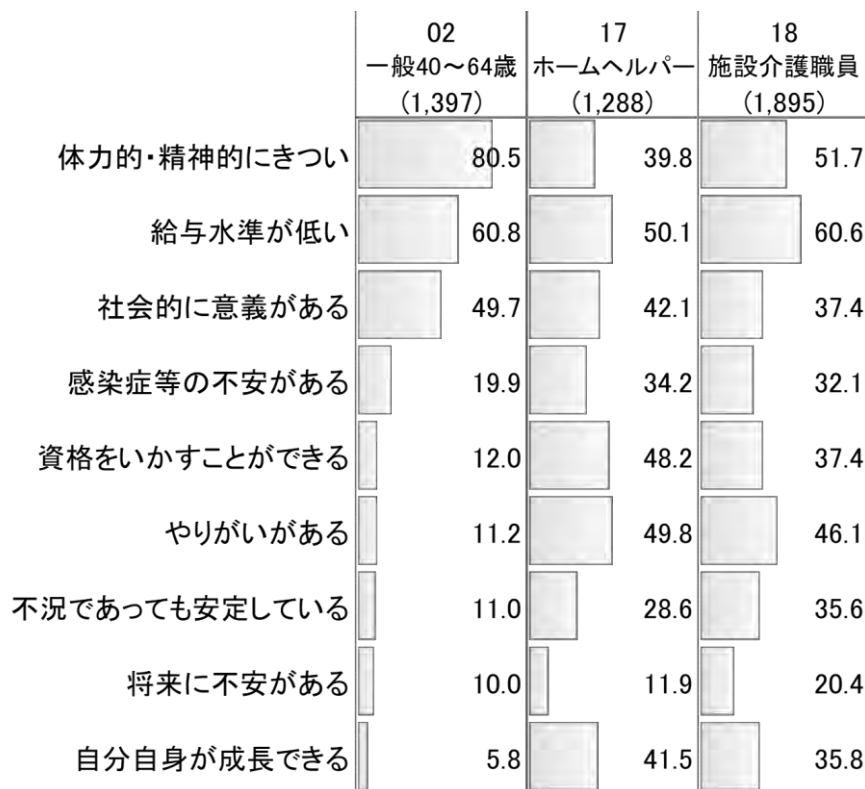
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号		16															16	17	

介護職のイメージについて、“一般40～64歳”では「体力的・精神的にきつい」が80.5%と最も多く、次いで「給与水準が低い」が60.8%となっている。

一方で、“ホームヘルパー”“施設介護職員”では「体力的・精神的にきつい」は4割～5割程度となっており、市民とのギャップが伺える。

また、「資格をいかすことができる」「やりがいがある」「自分自身が成長できる」についても、“一般40～64歳”と、“ホームヘルパー”“施設介護職員”ではギャップが伺える。

図表 IV-1-⑤ 介護職のイメージ



⑥ 外国人介護職員の採用状況

問 貴施設（事業所）における外国人介護職員の採用人数についてご記入ください。

（令和4年10月1日現在）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号									5-1	4-1	5-1	5-1								

介護施設（事業所）における外国人介護職員の採用状況について、“特養”では「技能実習」が41.0%と最も多く、次いで「特定技能1号」となっている。

“老健”では「介護」が22.2%と最も多く、次いで「特定技能1号」が17.8%となっている。

平均人数について、“特養”は6.2人と最も多く、“老健”が5.7人、“居住系”“訪問・通所系”は3人未満となっている。

過去の結果と比較すると、“特養”“老健”“居住系”では「技能実習」「特定技能1号」が増加している一方で、「留学」は減少しており、特に“老健”では採用している施設がゼロとなっている。

図表 IV-1-⑥ 外国人介護職員の採用状況

		（％）							（人）
	有効回収数（n）	定（EPA活動）（経済連携協）	「介護」	「技能実習」（介護）	「特定技能1号」（介護）	「留学」	その他	平均人数（施設当たり※）	
09	特養	(100)	20.0	20.0	41.0	31.0	8.0	14.0	6.2
10	老健	(45)	13.3	22.2	15.6	17.8	-	17.8	5.7
11	居住系	(335)	2.4	9.0	9.3	9.9	1.5	8.1	2.8
12	訪問・通所系	(1,487)	0.5	3.8	1.1	1.1	0.2	2.6	2.5

※平均人数は、外国人介護職員数÷外国人介護職員を採用している施設（事業所）数

【経年比較】

	09 特養		10 老健		11 居住系	
	R4	R1	R4	R1	R4	R1
	2022年	2019年	2022年	2019年	2022年	2019年
特定活動	20.0	22.5	13.3	22.5	2.4	3.0
介護	20.0	9.0	22.2	22.5	9.0	6.8
技能実習	41.0	14.6	15.6	7.5	9.3	4.1
特定技能1号	31.0	4.5	17.8	7.5	9.9	3.0
留学	8.0	14.6	0.0	12.5	1.5	3.3
その他	14.0	14.6	17.8	25.0	8.1	5.6

(%)

※在留資格の説明

1	『特定活動』(経済連携協定(EPA))	経済連携協定(EPA)(日本と相手国との経済活動の連携強化を図るもの)等に基づき、インドネシア、フィリピン、ベトナムの3カ国から来日した外国人、及び、同制度で来日後に介護福祉士資格を取得した外国人。
2	『介護』	介護福祉士の国家資格を取得し、『介護』の在留資格で働く外国人。
3	『技能実習』(介護)	技能実習制度に基づく技能実習生として来日した外国人のうち、介護の職種での就労を目的とした外国人。
4	『特定技能1号』(介護)	平成31年4月から始まった特定技能制度に基づき、介護の職種での就労を目的とした外国人。
5	『留学』	介護福祉士を目指し、日本語学校や介護福祉士養成校に通う外国人留学生。

⑦ 今後の外国人介護職員の採用予定

問 今後、外国人介護職員を採用する予定はありますか。採用する予定がある場合、どの区分での受入れを考えていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									14	13	14	15							

今後の外国人介護職員の採用予定について、“特養”では「特定技能1号」が35.0%と最も多く、次いで「技能実習」が22.0%となっている。

“老健”では「技能実習」が20.0%と最も多く、「特定技能1号」が15.6%となっている。

採用予定がある施設（事業所）は、“特養”で55.0%、“老健”で42.2%となっており、“居住系”では27.2%、“訪問・通所系”では11.4%と、事業所区分によって差が大きくなっている。

過去の結果と比較すると、“特養”“老健”では「特定技能1号」の採用予定が増加している一方で、「技能実習」「留学」は減少している。

また、外国人介護職員の採用予定がある施設（事業所）は前回から減少している。

図表 IV-1-⑦ 今後の外国人介護職員の採用予定

		有効回収数 (n)	(%)							(%)	
			携「特定技能1号」 協定活動 (EPA) (経済連)	「介護」	「技能実習」 (介護)	「特定技能1号」 (介護)	「留学」	「在留資格にこだわらな い」	「その他」	受け入れ予定がある	ない
09	特養	(100)	11.0	16.0	22.0	35.0	11.0	9.0	3.0	55.0	45.0
10	老健	(45)	8.9	11.1	20.0	15.6	2.2	4.4	4.4	42.2	57.8
11	居住系	(335)	6.0	11.3	10.7	12.5	3.3	4.2	2.7	27.2	72.8
12	訪問・通所系	(1,487)	2.9	6.8	4.2	3.5	2.2	4.4	1.5	11.4	88.6

【経年比較】

(%)

	09 特養		10 老健		11 居住系	
	R4	R1	R4	R1	R4	R1
	2022年	2019年	2022年	2019年	2022年	2019年
特定活動	11.0	19.1	8.9	10.0	6.0	7.8
介護	16.0	10.1	11.1	5.0	11.3	16.2
技能実習	22.0	40.4	20.0	25.0	10.7	20.5
特定技能1号	35.0	19.1	15.6	10.0	12.5	10.4
留学	11.0	16.9	2.2	7.5	3.3	3.5
在留資格に こだわらない	9.0		4.4		4.2	
その他	3.0	4.5	4.4	15.0	2.7	6.1
予定がある	55.0	68.5	42.2	55.0	27.2	36.2
ない	45.0	22.5	57.8	32.5	72.8	42.5

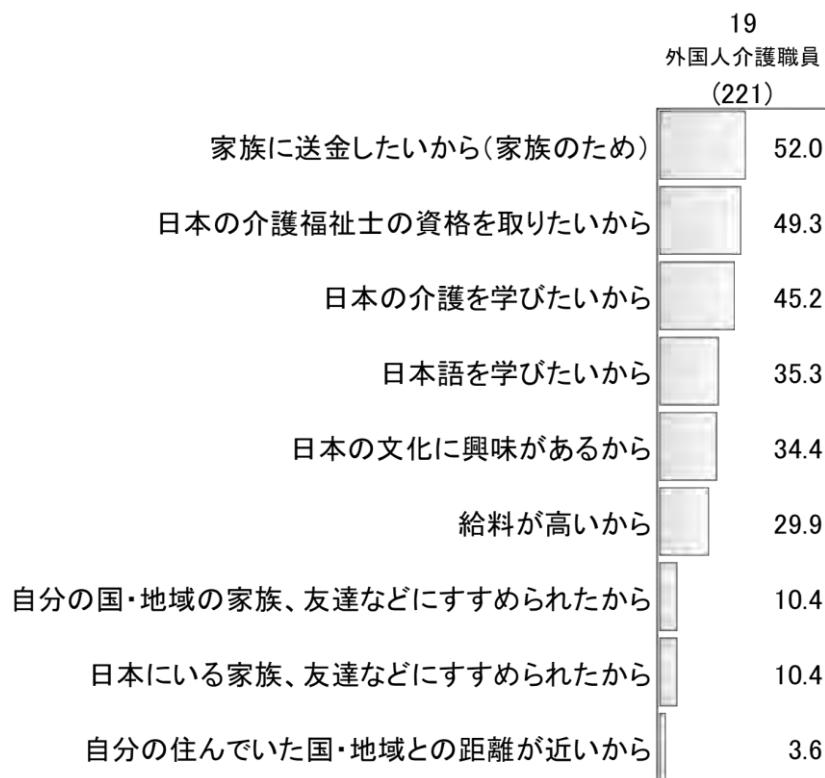
⑧ 外国人介護職員が介護職員になった理由

問 あなたはなぜ日本で介護の仕事をしようと思いましたか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																			20

外国人介護職員が介護職員になった理由について、「家族に送金したいから」が 52.0%と最も多く、次いで「日本の介護福祉士の資格を取りたいから」が 49.3%となっている。

図表 IV-1-⑧ 外国人介護職員が介護職員になった理由



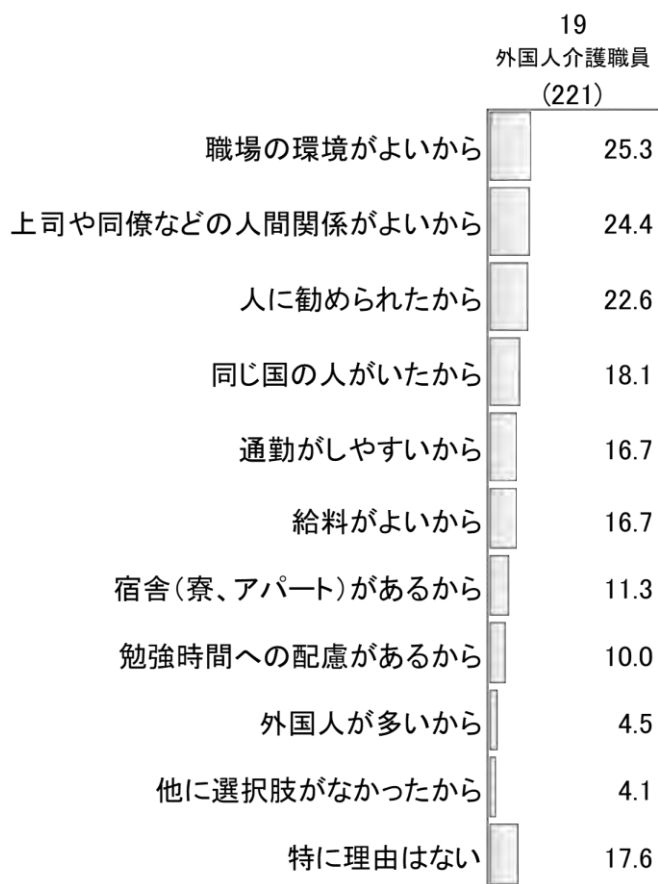
⑨ 外国人介護職員が現在の職場を選んだ理由

問 あなたが今の職場を選んだ理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号																				22

外国人介護職員が現在の職場を選んだ理由について、「職場の環境がよいから」が 25.3%と最も多く、次いで「上司や同僚などの人間関係がよいから」が 24.4%となっている。

図表 IV-1-⑨ 外国人介護職員が現在の職場を選んだ理由



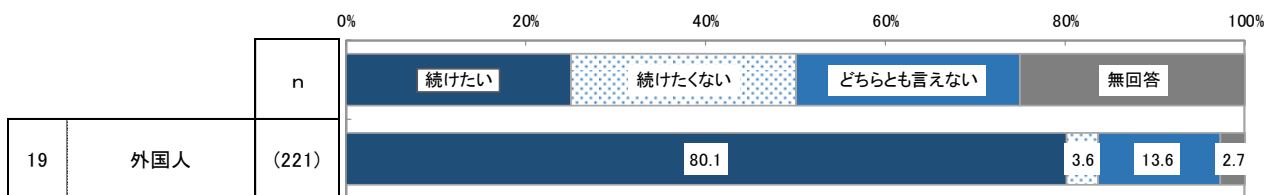
⑩ 外国人介護職員の今後の就労継続意向

問 あなたは日本で介護の仕事が続けたいですか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号																				23

外国人介護職員の今後の就労継続意向について、就労を「続けたい」が80.1%と大半を占めており、「続けたくない」は3.6%となっている。

図表 IV-1-⑩ 外国人介護職員の今後の就労継続意向



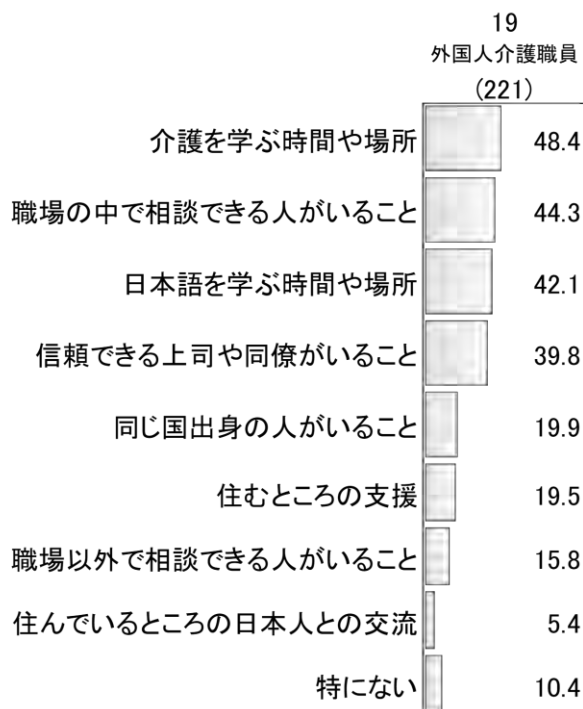
⑪ 外国人介護職員が今後も介護の仕事をするために必要なこと

問 あなたが今の職場で介護の仕事をしていくためには、何が大事ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号																				28

外国人介護職員が介護の仕事をするために必要なことについて、「介護を学ぶ時間や場所」が48.4%と最も多く、次いで「職場の中で相談できる人がいること」が44.3%となっている。

図表 IV-1-⑪ 外国人介護職員が今後も介護の仕事をするために必要なこと



⑫ 介護施設（事業所）が新規人材の確保に効果的だと思う取組【新規】

問 介護職員の人材不足に対し、新たな人材の確保に向けた自治体の取組として、効果的と考えるものは次のうちどれですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号									12	11	12	13							

新規人材の確保に効果的だと思う取組について、全ての対象施設（事業所）で「若い世代に向けた介護業界のイメージアップ」が最も多くなっており、次いで「新たに介護業界へ就職をする者が資格取得等に関する研修参加をする際の支援」「子育て世代が働きやすい環境の整備への支援」が上位となっている。

図表 IV-1-⑫ 新規人材の確保のための取組

	09 特養 (100)	10 老健 (45)	11 居住系 (335)	12 訪問・通所系 (1,487)
若い世代に向けた介護業界のイメージアップ	79.0	73.3	69.3	64.9
新たに介護業界へ就職をする者が資格取得等に関する研修参加をする際の支援	63.0	53.3	49.9	43.3
子育て世代が働きやすい環境の整備への支援	59.0	53.3	46.9	47.5
ロボット・ICT活用による職員の負担軽減への支援	57.0	40.0	29.3	17.0
多様な働き方(時短、夜間のみ、週休3日)の導入支援	47.0	40.0	55.5	41.4
職場体験を実施する施設への支援	46.0	31.1	35.2	29.6
介護福祉士養成施設に対する財政的支援	45.0	33.3	21.5	19.3
潜在介護福祉士の(再)就職支援	41.0	37.8	22.7	19.6
介護助手の受入れ支援	33.0	31.1	17.9	9.5
合同就職相談会の実施	29.0	11.1	8.1	8.9
元気高齢者(ボランティア等)の受入れ支援	14.0	33.3	27.5	21.5
自治体からの支援がなくても人材の確保ができています	2.0	2.2	1.2	2.1

2 介護人材の定着支援

① 現在の職場での悩みや不満の有無

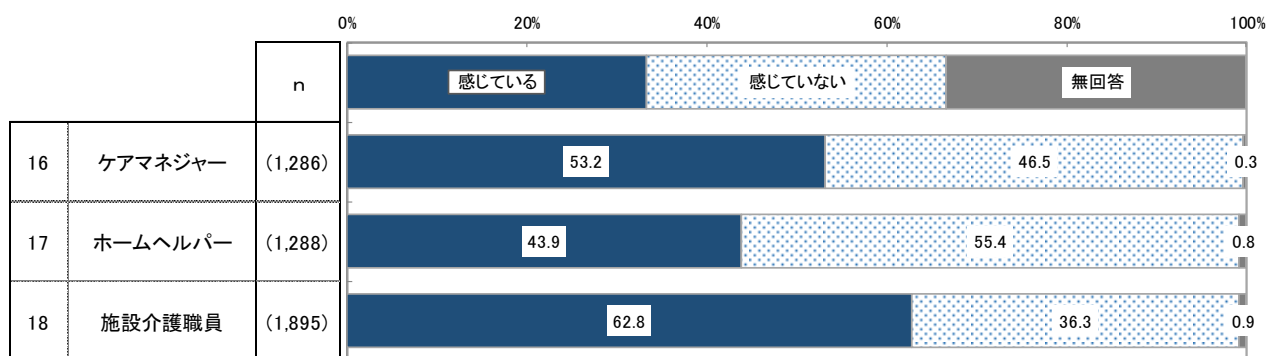
問 あなたは、現在の職場の労働条件や労働環境に対して、悩みや不満を感じていますか。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																13	13	14	

現在の職場での悩みや不満の有無について、“ケアマネジャー”“施設介護職員”では「感じている」が半数を上回っている。一方で、“ホームヘルパー”では「感じていない」が半数を上回っている。

過去の結果と比較すると、全ての職種で悩みを「感じている」割合が減少している。

図表 IV-2-① 現在の職場での悩みや不満の有無



【経年比較（悩みや不満を感じている）】

(%)

		R4	R1	H28
		2022年	2019年	2016年
16	ケアマネジャー	53.2	63.3	63.0
17	ホームヘルパー	43.9	56.1	53.9
18	施設介護職員	62.8	73.8	82.1

② 労働条件や労働環境で抱えている悩みの内容

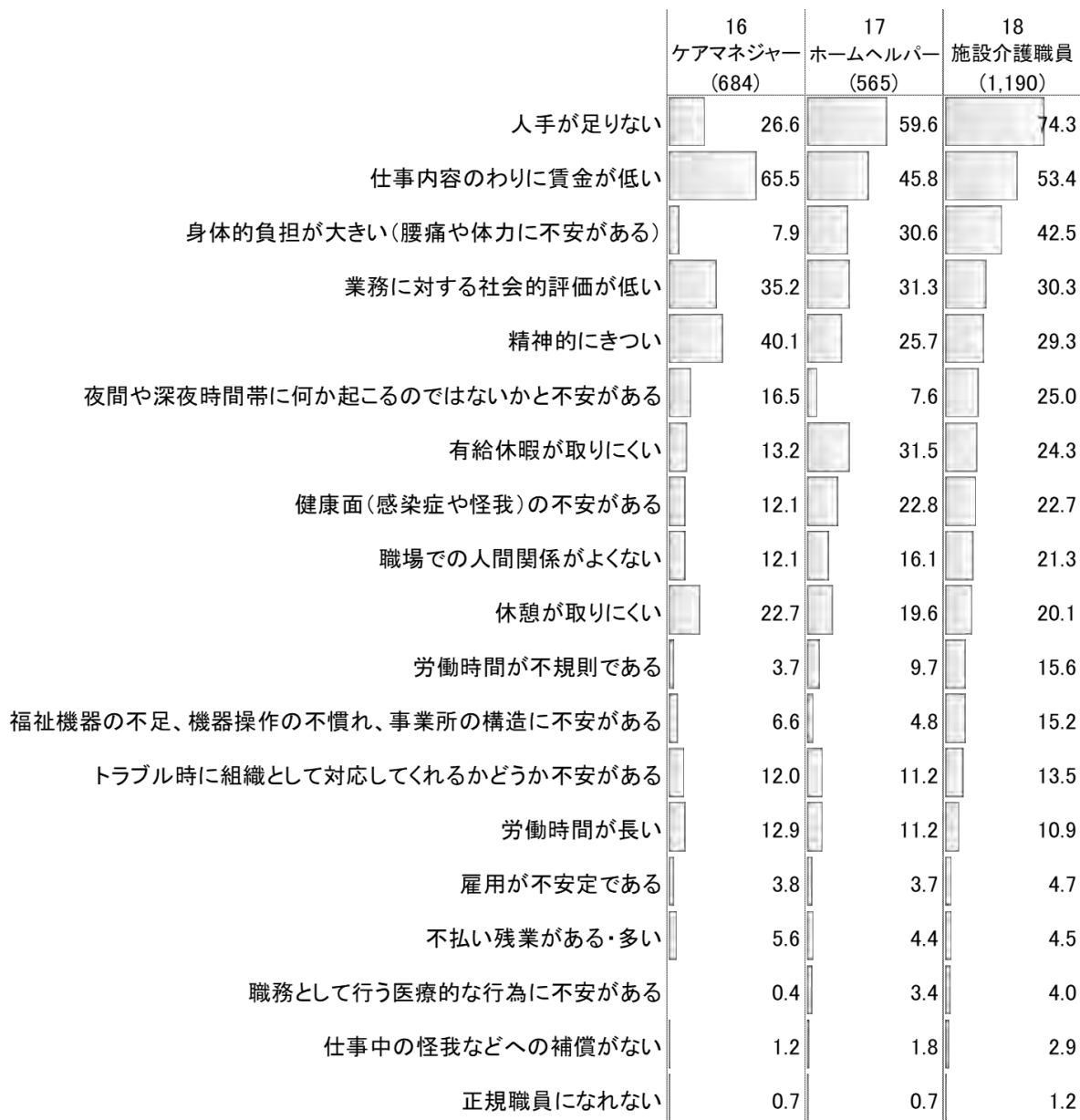
問 労働条件や労働環境のどこに悩みや不満を感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																13-1	13-1	14-1	

悩みや不満の内容について、“ケアマネジャー”では「仕事内容のわりに賃金が低い」が65.5%と最も多く、次いで「精神的にきつい」が40.1%となっている。

“ホームヘルパー”“施設介護職員”では、「人手が足りない」が約6～7割と最も多く、次いで「仕事内容のわりに賃金が低い」が約5割となっている。

図表 IV-2-② 労働条件や労働環境で抱えている悩みの内容



③ 今後の転職意向

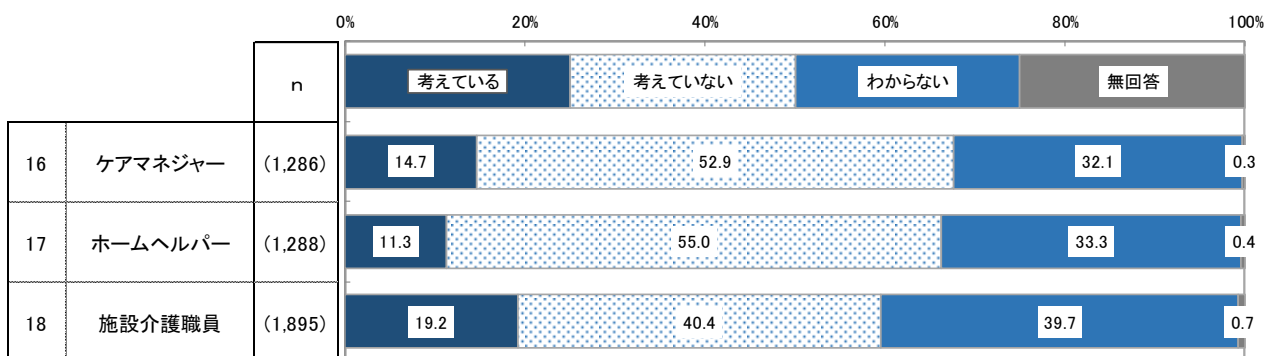
問 あなたは、今後、他の職場へ転職することを考えていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																15	15	16	

今後の転職意向について、“施設介護職員”では「考えている」が19.2%と他の職種と比べて多くなっている。

一方で、“ケアマネジャー”“ホームヘルパー”では「考えていない」が半数を占めている。

図表 IV-2-③ 今後の転職意向



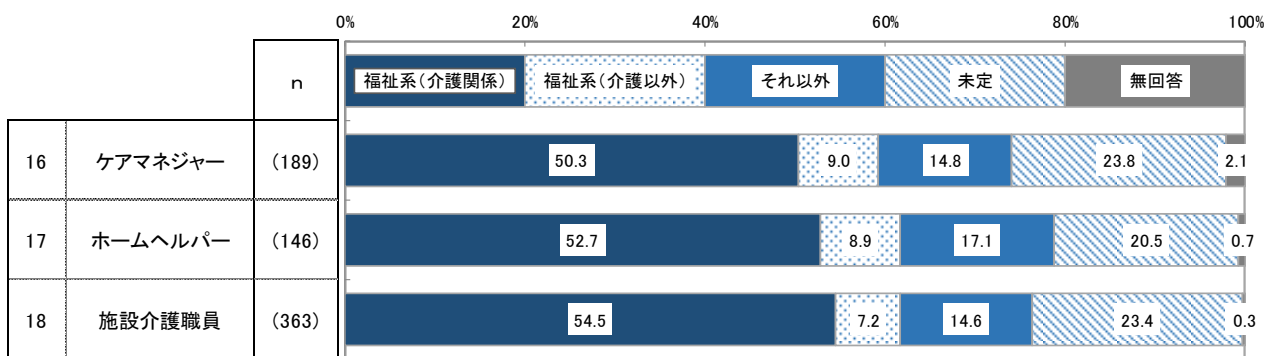
④ 転職先として検討している業界

問 今後どのような分野への転職を考えていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																15-1	15-1	16-1	

転職先として検討している業界について、全ての職種で「福祉系(介護関係)」が半数を占めている。

図表 IV-2-④ 転職先として検討している業界



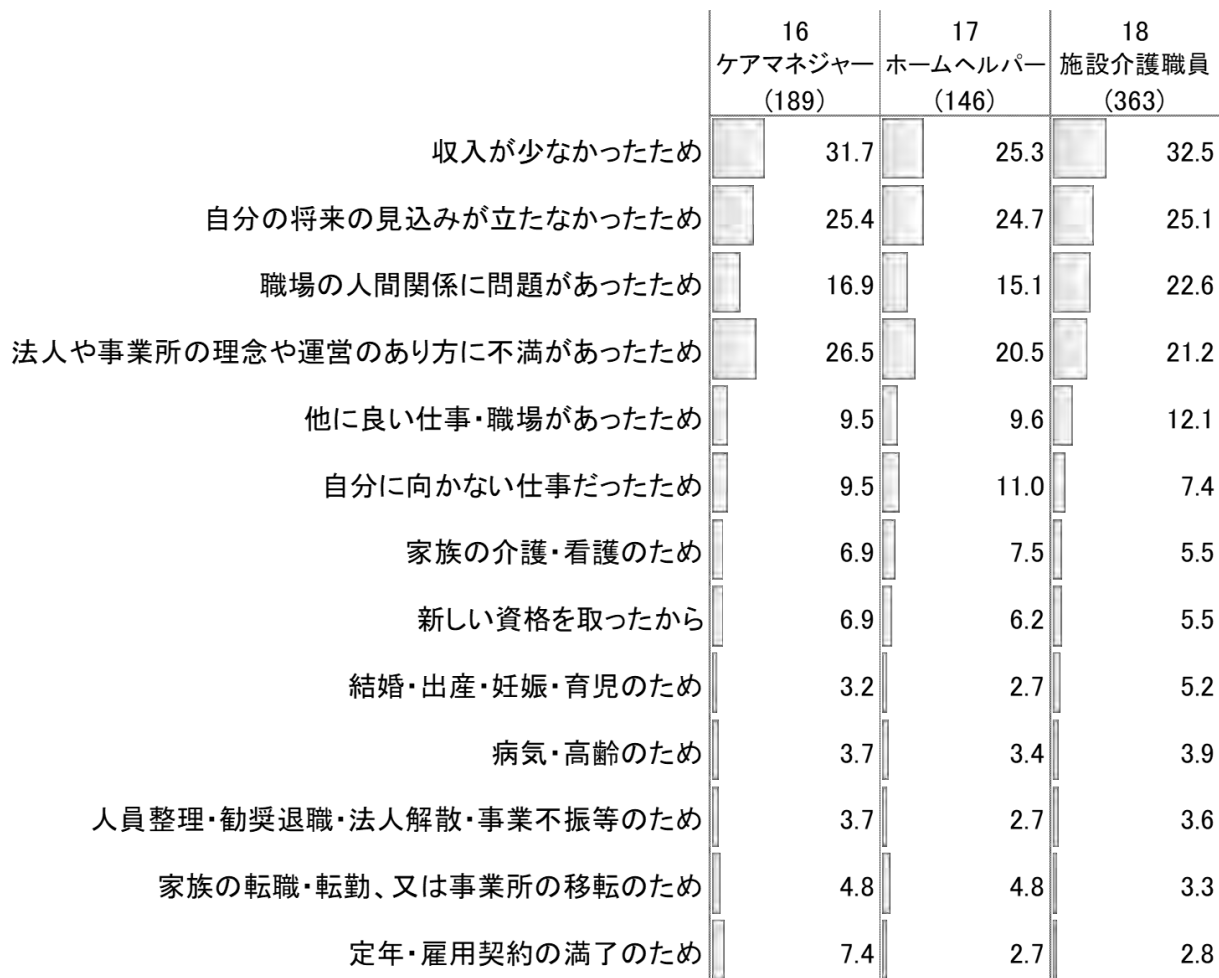
⑤ 転職を検討している理由

問 他の職場へ転職することを考えている理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																15-2	15-2	16-2	

転職を検討している理由について、全ての職種で「収入が少なかったため」が最も多くなっており、「自分の将来の見込みが立たなかったため」「法人や事業所の理念や運営のあり方に不満があったため」が全ての職種で2割を上回っている。

図表 IV-2-⑤ 転職を検討している理由



⑥ 待遇面で法人等に希望する取組

問 法人や施設（事業所）に待遇面で取り組んでほしいことは何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																	31	30	

待遇面で法人等に希望する取組について、全ての職種で「賃金、労働時間等の労働条件を改善してほしい」が最も多く、次いで「能力や仕事を評価し、配置や処遇に反映してほしい」となっている。

“ホームヘルパー”では「特にない」が22.0%となっており“施設介護職員”と比較して多くなっている。

図表 IV-2-⑥ 待遇面で法人等に希望する取組



⑦ 利用者や利用者家族に対しての悩みや不安

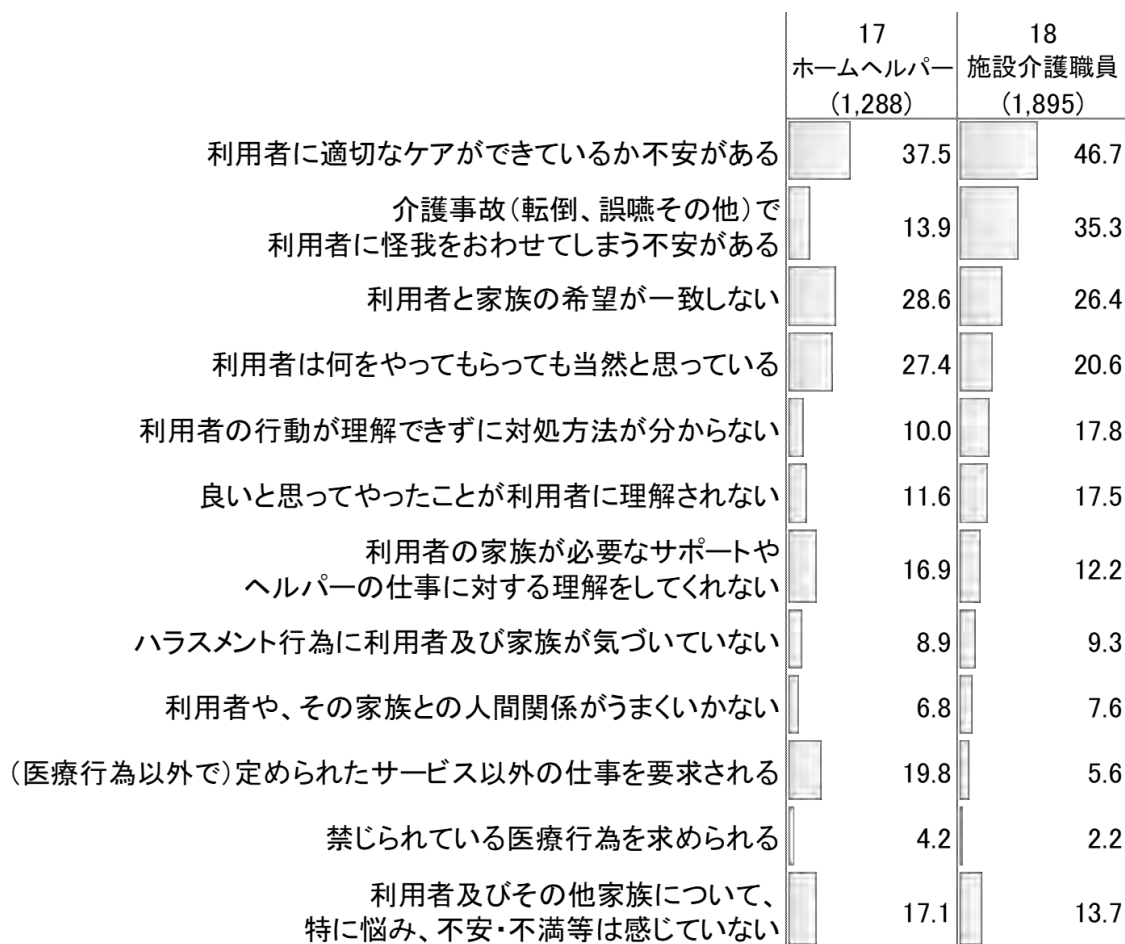
問 あなたが利用者及び利用者の家族について、悩み、不安・不満等を感じていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																	36	35	

利用者や利用者家族に対しての悩みや不安について、全ての職種で「利用者に適切なケアができているか不安がある」が最も多くなっている。

“ホームヘルパー”では「利用者と家族の希望が一致しない」が28.6%と続いており、“施設介護職員”では「介護事故で利用者に怪我をおわせてしまう不安がある」が35.3%となっている。

図表 IV-2-⑦ 利用者や利用者家族に対しての悩みや不安



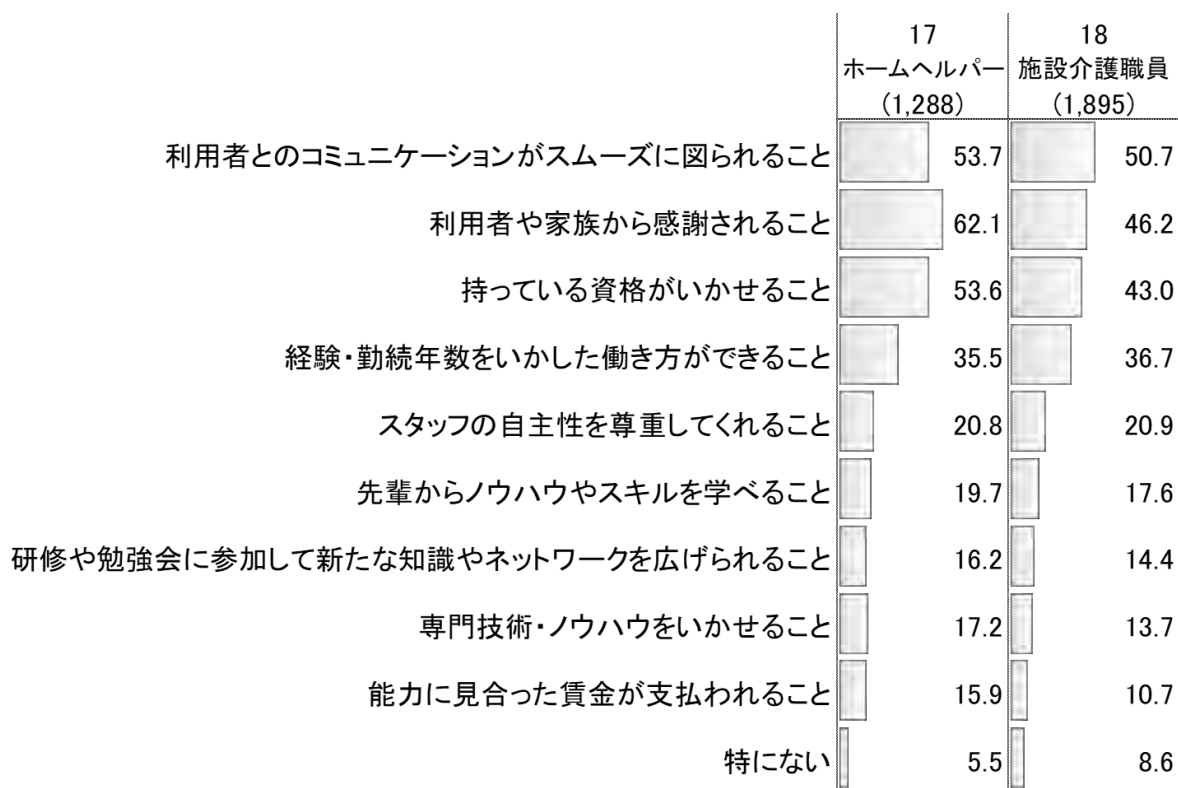
⑧ 介護職でやりがいを感じることに

問 あなたは、現在の施設（事業所）で就業してやりがい（働きがい）を感じるのはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																	35	34	

介護職でやりがいを感じることに、**“ホームヘルパー”**では「利用者や家族から感謝されること」が62.1%と最も多く、**“施設介護職員”**では「利用者とのコミュニケーションがスムーズに図られること」が50.7%と最も多くなっている。

図表 IV-2-⑧ 介護職でやりがいを感じることに



⑨ 施設（事業所）が職員の早期離職防止や定着のために実施している取組

問 職員の早期離職防止や定着促進を図るために、実施しているものを教えてください。

（あてはまるものすべてに○）

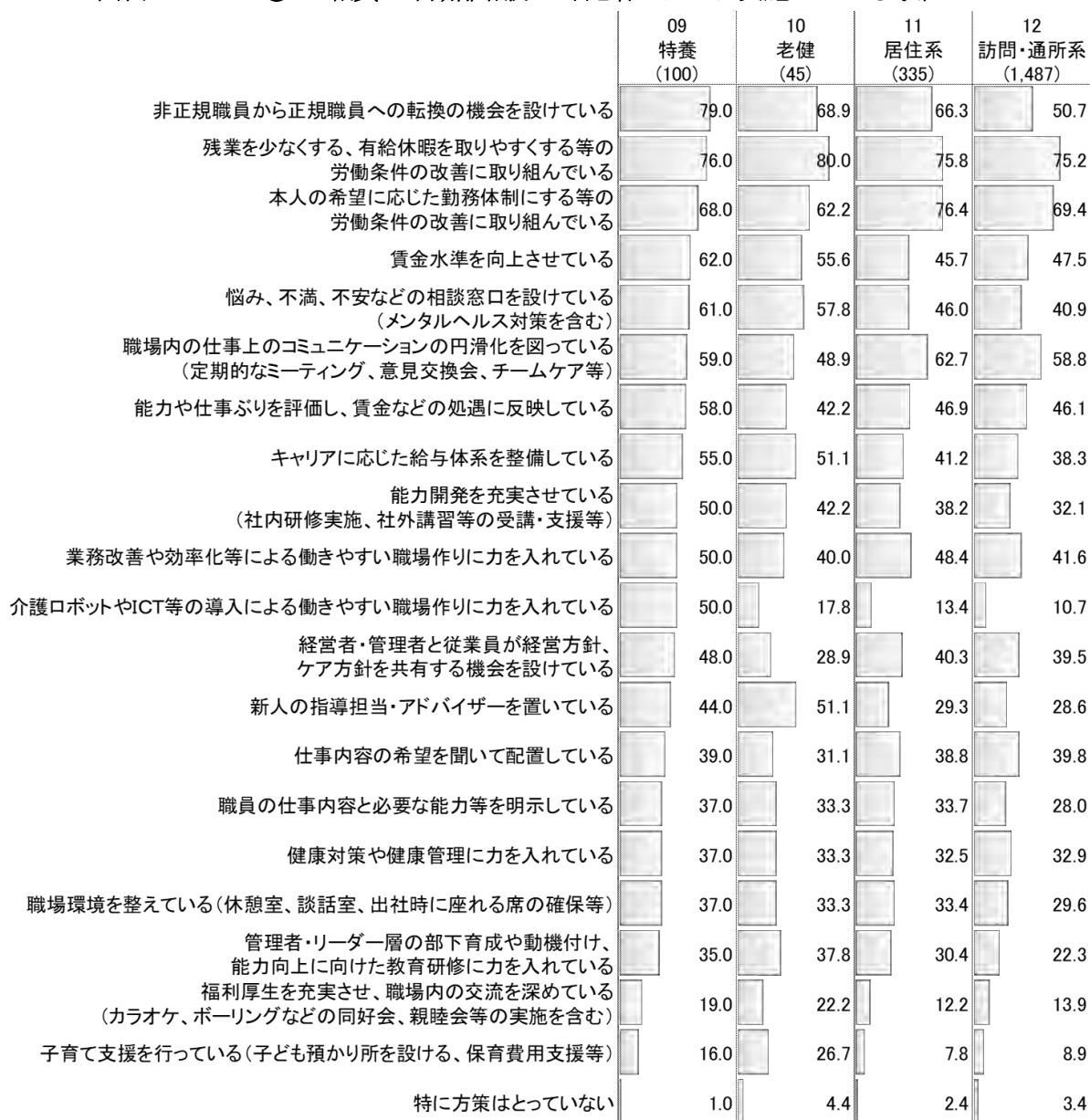
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									20	19	20	21								

職員の早期離職防止や定着のために実施している取組について、“特養”では「非正規職員から正規職員への転換」が79.0%と最も多くなっている。

“老健”“訪問・通所系”では「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善」が最も多く、“居住系”では「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善」が最も多くなっている。

一方で、「賃金水準を向上させている」「能力や仕事ぶりを評価し、賃金などの処遇に反映している」といった賃金に関する取組について、取り組んでいる施設（事業所）は4割から6割程度になっている。

図表 IV-2-⑨ 職員の早期離職防止や定着のために実施している取組



⑩ 介護職員処遇改善加算等の届出状況

問 貴施設（事業所）における介護職員処遇改善加算（現行加算）、介護職員等特定処遇改善加算（特定加算）及び介護職員等ベースアップ等支援加算（ベースアップ等加算）の届出状況について、教えてください。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									21	20	21	22								

介護職員処遇改善加算等の届出状況について、“特養”と“老健”では現行加算と特定加算、ベースアップ等の「全てを届出」が約9割となっている。一方で“居住系”では73.1%、“訪問・通所系”が63.6%となっている。

過去の結果と比較すると、全ての対象施設（事業所）で現行加算以外の届出が進んでいる。

図表 IV-2-⑩ 介護職員処遇改善加算等の届出状況

		有効回収数（n）	（％）				
			現行加算・特定加算・ベースアップ等加算全ての届出をしている（届出予定を含む）	現行加算と特定加算の届出をしている（届出予定を含む）	現行加算のみ届出をしている（届出予定を含む）	どちらも届出をしていない	対象外である
09	特養	(100)	97.0	3.0	-	-	
10	老健	(45)	86.7	11.1	2.2	-	
11	居住系	(335)	73.1	6.9	3.6	2.1	9.9
12	訪問・通所系	(1,487)	63.6	4.2	10.6	4.8	11.7

【経年比較】

	09 特養		10 老健		11 居住系		12 訪問・通所系	
	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1
	2022年	2019年	2022年	2019年	2022年	2019年	2022年	2019年
現行加算・特定加算・ベースアップ等加算全ての届出をしている（届出予定を含む）	97.0		86.7		73.1		63.6	
現行加算と特定加算の届出をしている（届出予定を含む）	3.0	89.9	11.1	90.0	6.9	67.1	4.2	43.7
現行加算のみ届出をしている（届出予定を含む）	0.0	5.6	2.2	5.0	3.6	12.7	10.6	23.6
どちらも届出をしていない	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	1.8	4.8	6.1
対象外である					9.9	7.3	11.7	13.4

⑪ 最も多い離職理由【新規】

問 貴施設（事業所）で、直近1年での離職者について、最も多かった離職理由を選択してください。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号									23	22	23	24							

最も多い離職理由について、全ての対象施設（事業所）で「他に良い仕事・職場があったため」が最も多くなっている。

また、“特養”では「職場の人間関係に問題があったため」が他の施設（事業所）に比べて多くなっている。

図表 IV-2-⑪ 最も多い離職理由

	09 特養 (100)	10 老健 (45)	11 居住系 (335)	12 訪問・通所系 (1,487)
他に良い仕事・職場があったため	35.0	44.4	18.2	14.0
職場の人間関係に問題があったため	19.0	13.3	13.4	6.2
自分(離職者)に向かない仕事だったため	8.0	2.2	9.3	10.3
病気・高齢のため	7.0	6.7	13.1	12.2
法人や施設の理念や運営のあり方に不満があったため	6.0	6.7	3.3	1.6
定年・雇用契約の満了のため	5.0	-	2.1	3.7
自分(離職者)の将来の見込みが立たなかったため	3.0	2.2	2.1	2.2
家族の介護・看護のため	3.0	-	7.2	8.3
家族の転職・転勤、又は事業所の移転のため	2.0	-	4.2	4.4
収入が少なかったため	1.0	6.7	3.6	3.8
法人の都合	-	-	-	0.3

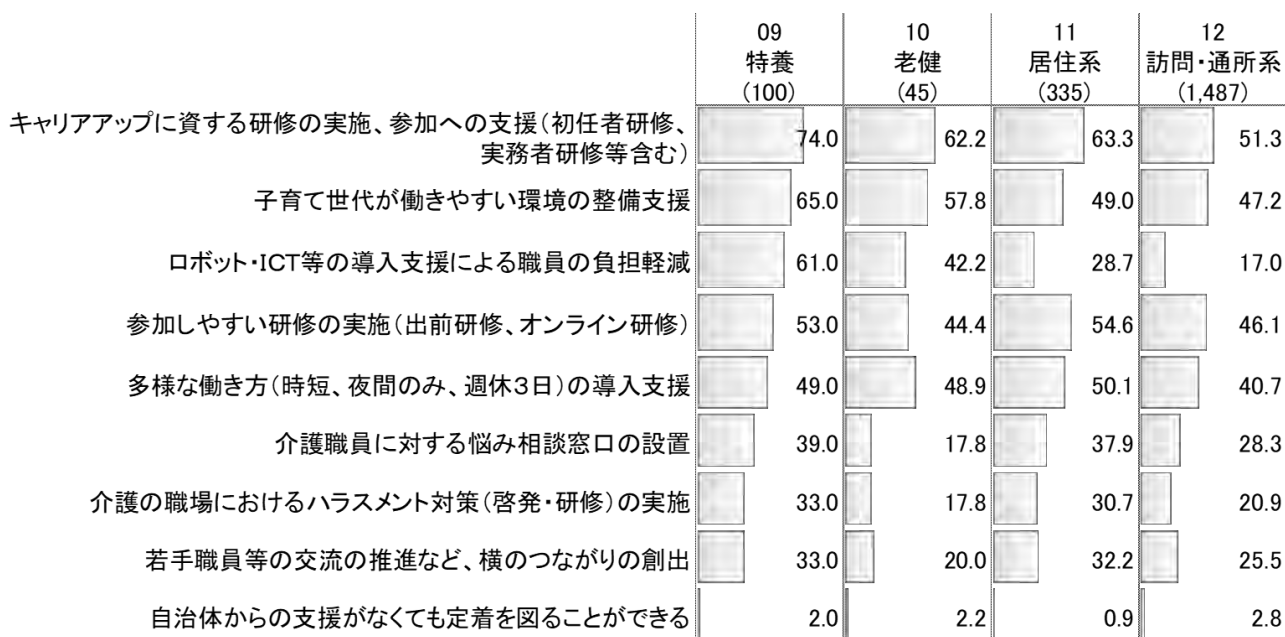
⑫ 在職職員の定着に効果的だと思う自治体の取組【新規】

問 介護職員の人材不足に対し、在職している職員の定着のための自治体の取組として、効果的
と考えるものは次のうちどれですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									13	12	13	14							

職員の定着に効果的だと思う自治体の取組について、全ての対象施設（事業所）で「キャリアアップに資する研修の実施・参加への支援」が最も多く、“特養”“老健”“訪問・通所系”では「子育て世代が働きやすい環境の整備」が続き、“居住系”では「参加しやすい研修の実施」が続いている。

図表 IV-2-⑫ 在職職員の定着のための取組



3 専門性の向上

① 施設での医療処置の実施状況

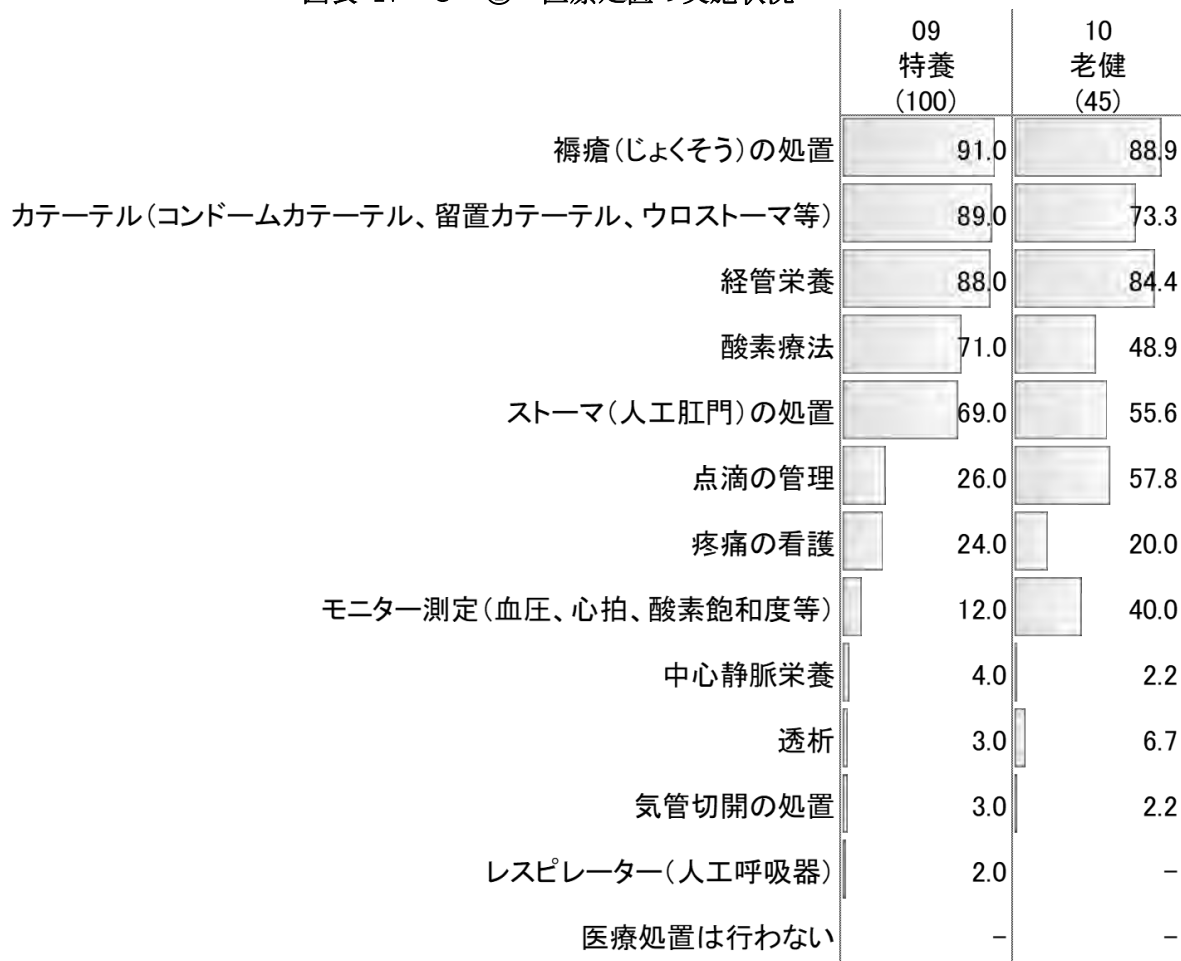
問 現在、貴施設で行っている医療処置は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									27	26									

実施している医療処置について、全ての対象施設で「褥瘡（じょくそう）の処置」が最も多く約9割の施設で実施されている。また、「カテーテル」「経管栄養」についても7割から9割の施設で実施されている。

“特養”では「酸素療法」「ストーマの処置」が“老健”に比べて多く、“老健”では「点滴の管理」「モニター測定」が“特養”に比べて多くなっている。

図表 IV-3-① 医療処置の実施状況



② 看取りの実施状況

問 入所者が亡くなる際に施設（事業所）内で看取りを行っていますか。

(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号									36	34	33									

施設（事業所）内での看取りの実施状況について、全ての対象施設（事業所）で「希望者全ての看取りを行っている」が最も多く、“特養”で61.0%、“居住系”で53.1%となっている。

一方で、「施設内では看取りは行わず、医療機関に移ってもらっている」は“特養”で6.0%、“居住系”で7.2%となっている。

過去の結果と比較すると、全ての対象施設（事業所）で、「希望者全ての看取りを行っている」が増加しており、“特養”では「施設内では看取りは行わず、医療機関に移ってもらっている」が1割以下に減少している。

図表 IV-3-② 看取りの実施状況

		有効回収数（n）	希望者全ての看取りを行っている	特定の条件がそろった一部の入所者のみ看取りを行っている	看取りを行う用意はあるが、希望者がいない	施設内では看取りは行わず、医療機関に移ってもらっている	その他	無回答
09	特養	(100)	61.0	31.0	-	6.0	1.0	1.0
10	老健	(45)	44.4	31.1	2.2	22.2	-	-
11	居住系	(335)	53.1	33.1	1.8	7.2	2.4	2.4

【経年比較】

(%)

	09 特養			10 老健			11 居住系		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
希望者全ての看取りを行っている	61.0	55.1	49.2	44.4	35.0	29.5	53.1	45.6	42.1
特定の条件がそろった一部の入所者のみ看取りを行っている	31.0	30.3	30.0	31.1	42.5	49.2	33.1	35.2	37.0
看取りを行う用意はあるが、希望者がいない	0.0	1.1	0.8	2.2	2.5	0.0	1.8	3.3	3.0
施設内では看取りは行わず、医療機関に移ってもらっている	6.0	12.4	18.3	22.2	20.0	19.7	7.2	10.9	11.3
その他	1.0	0.0	0.8	0.0	0.0	1.6	2.4	3.5	4.9

③ 施設（事業所）での職員研修や資格取得のための取組

問 職員の研修や資格取得について、次の取組を行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									39	37	36	26							

職員研修や資格取得のための取組について、全ての対象施設（事業所）で「自施設で研修を実施している」が最も多く、“特養”“老健”で9割、“居住系”“訪問・通所系”で約8割となっている。一方で、「外部研修への参加を奨励している」は、“特養”“老健”では半数を上回っているものの、“居住系”“訪問・通所系”では半数以下となっている。

図表 IV-3-③ 職員研修や資格取得のための取組

	09 特養 (100)	10 老健 (45)	11 居住系 (335)	12 訪問・通所系 (1,487)
自施設で研修を実施している	90.0	91.1	80.0	77.3
外部の研修への参加を奨励している（費用は施設負担）	76.0	60.0	44.8	42.4
外部の研修機関に委託して実施している（費用は施設負担）	38.0	33.3	19.7	14.3
外部の研修への参加費（自己負担）の補助を行っている	36.0	31.1	26.3	24.8
特に行っていない	-	2.2	3.0	4.7

④ 介護職員のキャリアアップのために必要なこと

問 あなたは、ご自身のキャリアアップのためには、何が必要と考えますか。

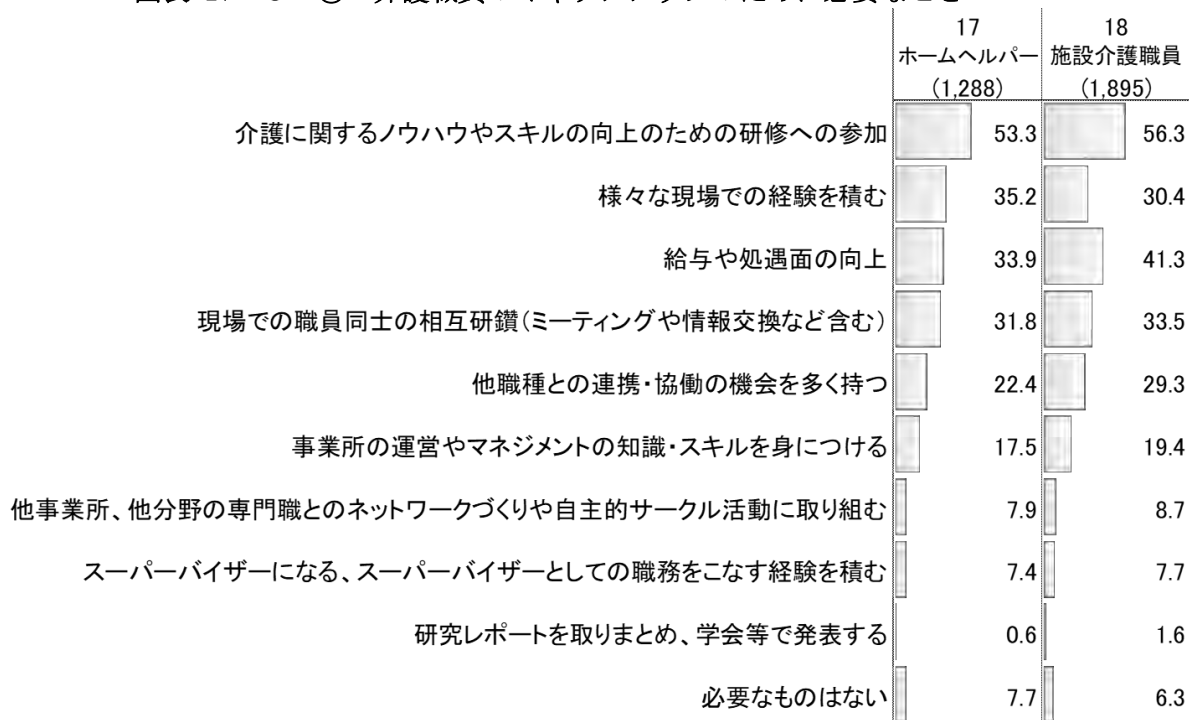
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																	19	22	

介護職員のキャリアアップのために必要なことについて、全ての職種で「介護に関するノウハウやスキルの向上のための研修への参加」が半数以上と最も多くなっている。

“ホームヘルパー”では「様々な現場での経験を積む」が35.2%と続いており、“施設介護職員”では「給与や処遇面の向上」が41.3%となっている。

図表 IV-3-④ 介護職員のキャリアアップのために必要なこと



⑤ 介護職員の研修への参加状況

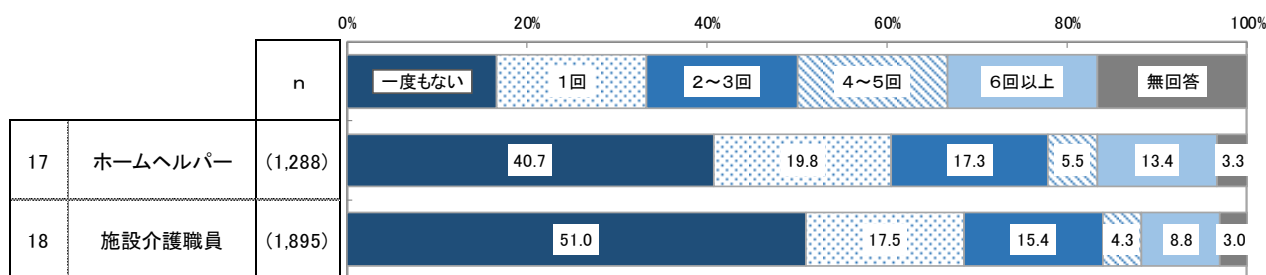
問 あなたは、今の施設（事業所）で過去1年間に外部研修に参加したことはありますか。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																	33	32	

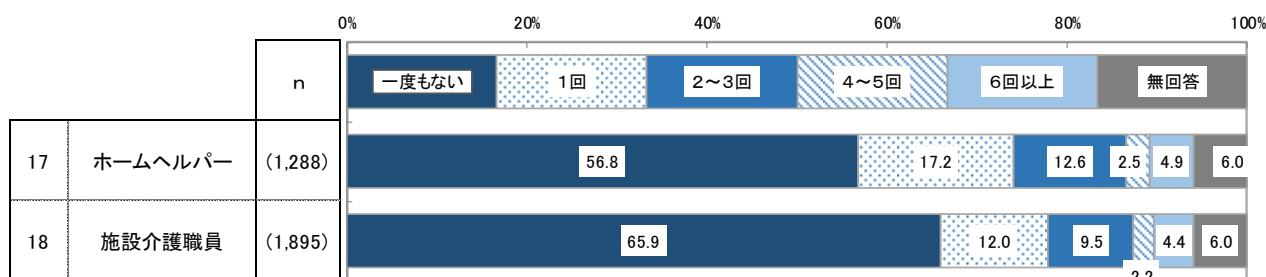
介護職員の外部研修への参加状況について、事業所指定の研修では、「一度もない」が“ホームヘルパー”で40.7%、“施設介護職員”で51.0%となっており、『1～3回』が“ホームヘルパー”では37.1%、“施設介護職員”では32.9%となっている。

自主参加の研修では、「一度もない」が約6割となっており、事業所指定の研修に比べて参加自体が少なくなっている。

図表 IV-3-⑤ 介護職員の研修への参加状況
【事業所指定の研修】



【自主参加の研修】



⑥ 職場での悩みや不安等の解消の取組

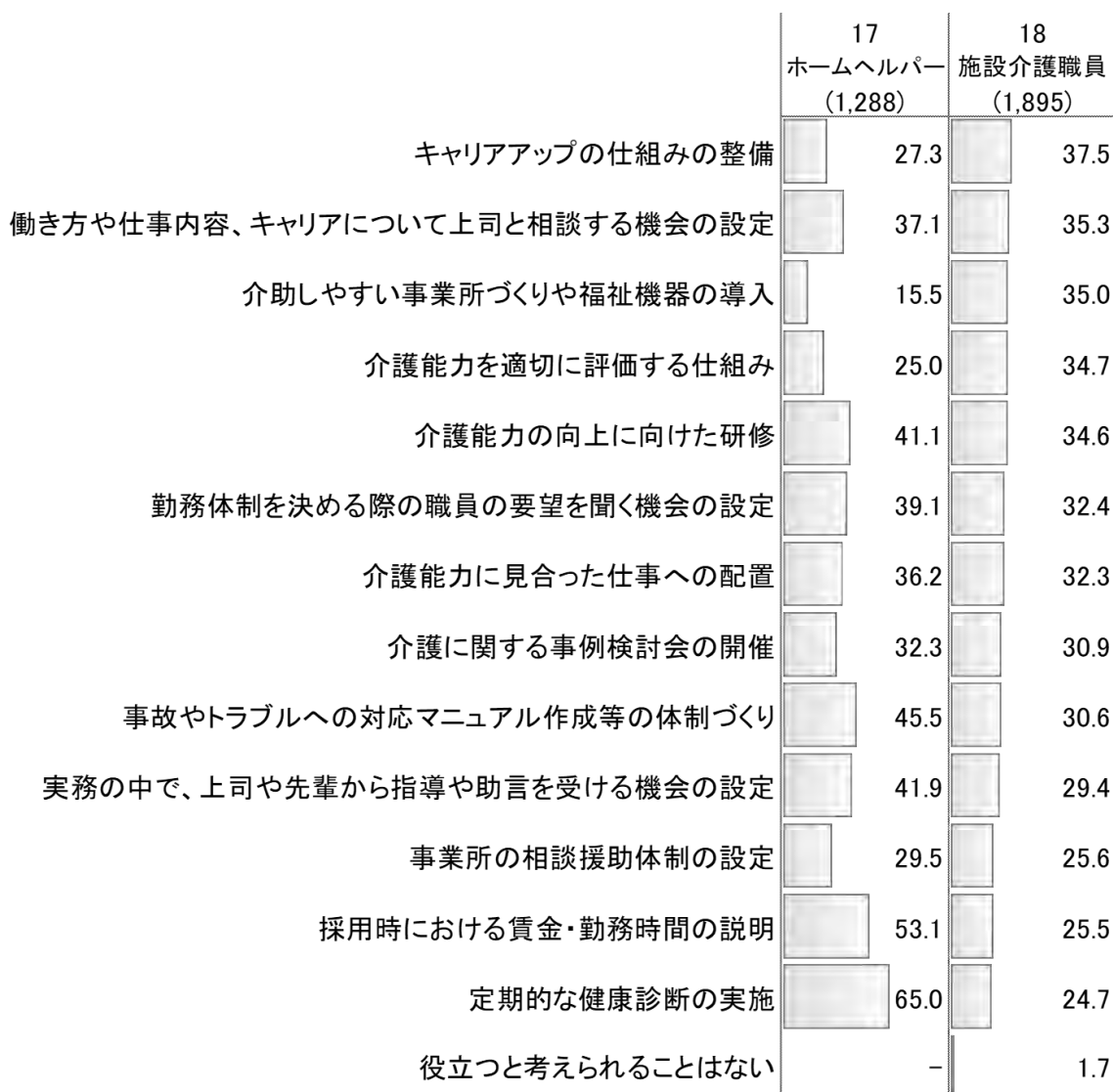
問 あなたの職場では下記に掲げる取組が十分行われていますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																	30	29	

職場で行われている悩みや不安解消の取組について、“施設介護職員”では「キャリアアップの仕組みの整備」が37.5%と最も多く、次いで「働き方や仕事内容、キャリアについて上司と相談する機会の設定」が35.3%となっている。

一方で、“ホームヘルパー”では「定期的な健康診断の実施」が65.0%と最も多く、次いで「採用時における賃金・勤務時間の説明」が53.1%となっている。

図表 IV-3-⑥ 職場での悩みや不安等の解消の取組



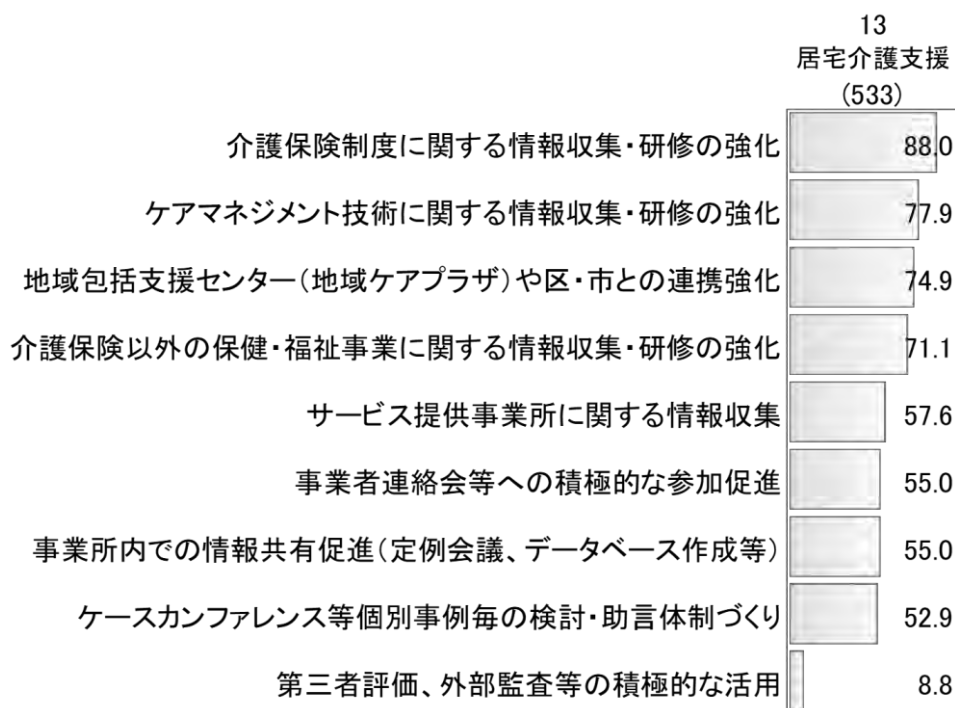
⑦ 居宅介護支援事業所が考えるケアマネジャーの質の向上のための取組

問 今後、ケアマネジャー業務の質の向上を図るために、どのような取組をしようと思っ
ていますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号													11						

居宅介護支援事業所がケアマネジャー業務の質の向上のために行いたい取組について、「介護保険制度に関する情報収集・研修の強化」が88.0%と最も多く、次いで「ケアマネジメント技術に関する情報収集・研修の強化」が77.9%となっている。

図表 IV-3-⑦ ケアマネジャーの質の向上のための取組



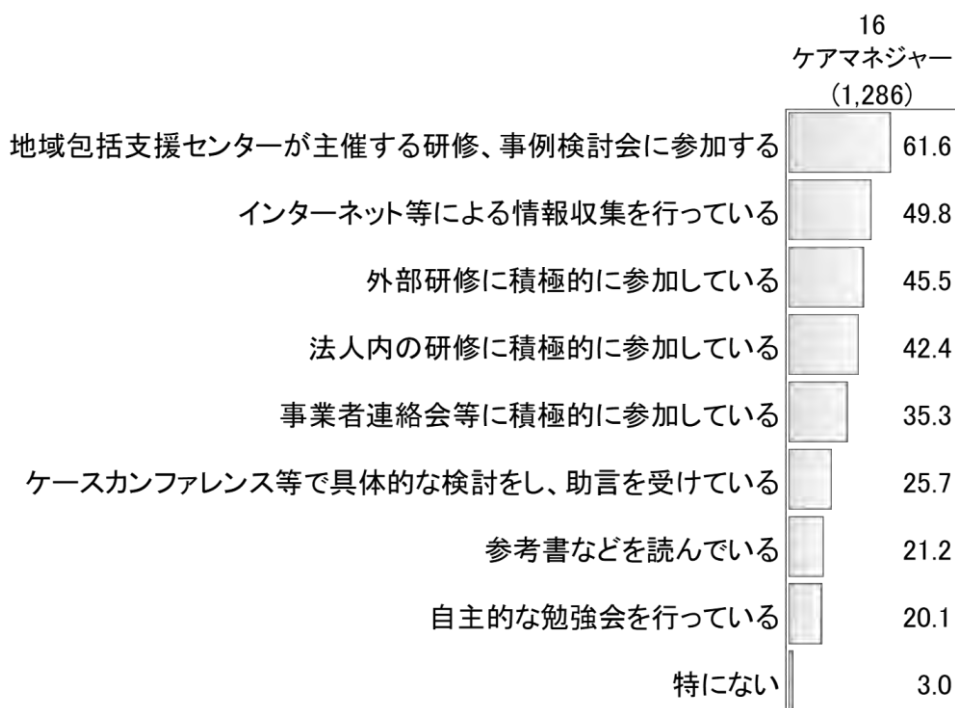
⑧ ケアマネジャーがスキルアップのために取り組んでいること

問 自分自身の「ケアマネジャー業務のレベルアップ」のために、現在、どのような取組を行っていますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																46			

ケアマネジャーが自身のスキルアップのために取り組んでいることについて、「地域包括支援センターが主催する研修、事例検討会に参加する」が61.6%で最も多く、次いで「インターネット等による情報収集を行っている」が49.8%となっている。

図表 IV-3-⑧ ケアマネジャーがスキルアップのために取り組んでいること



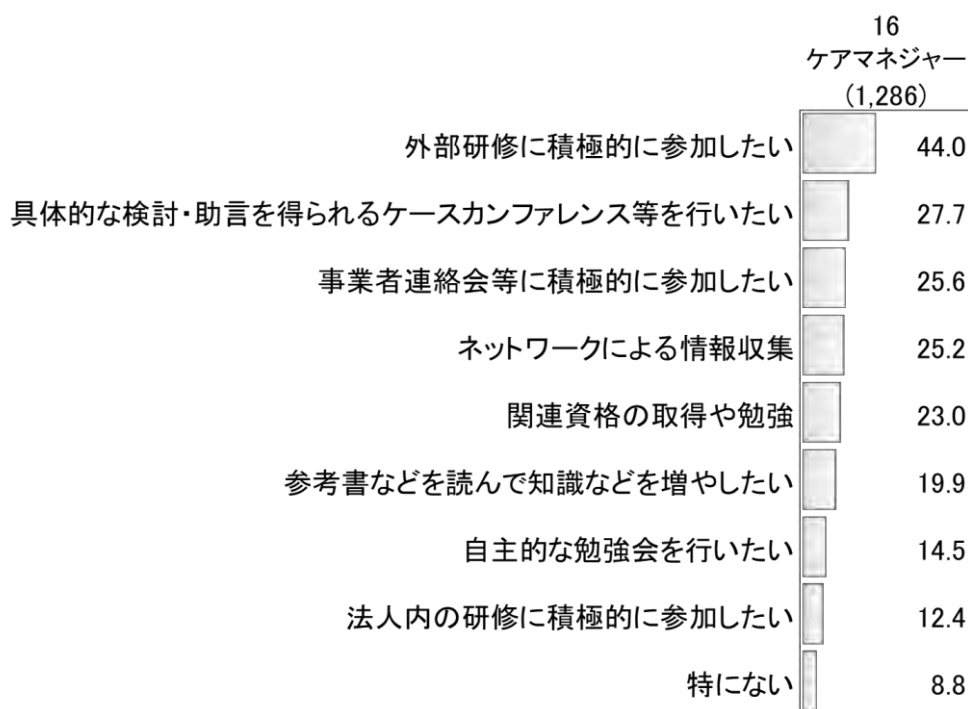
⑨ ケアマネジャーがスキルアップのために今後取り組みたいこと

問 自分自身の「ケアマネジャー業務のレベルアップ」のために、現在は行っていないが、今後始めたいと思っている取組はありますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																47			

ケアマネジャーが自身のスキルアップのために今後取り組みたいことについて、「外部研修に積極的に参加したい」が44.0%と最も多く、次いで「具体的な検討・助言を得られるケースカンファレンス等を行いたい」が27.7%となっている。

図表 IV-3-⑨ ケアマネジャーがスキルアップのために今後取り組みたいこと



⑩ ケアマネジャー業務を行う上で必要な情報

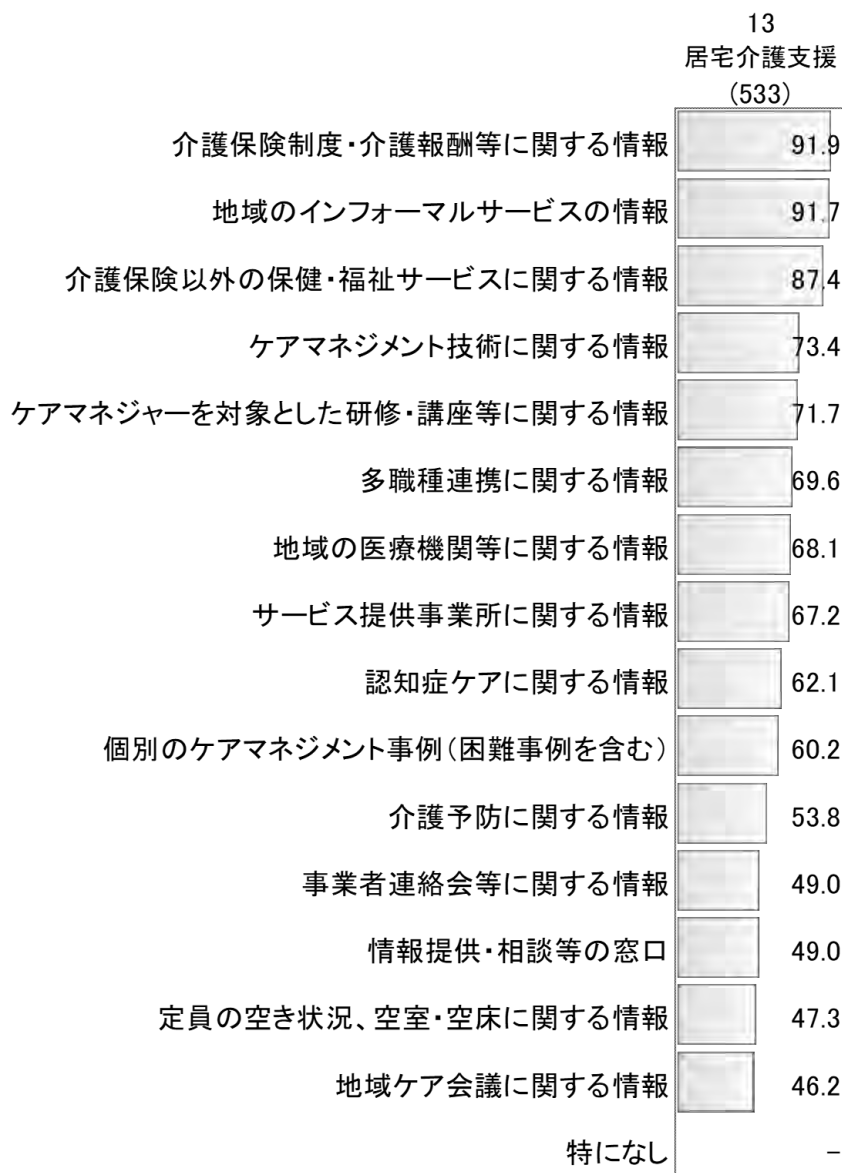
問 ケアマネジャー業務を行う上で、どのような情報が必要ですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号													12						

ケアマネジャー業務を行う上で必要な情報について、「介護保険制度・介護報酬等に関する情報」が91.9%と最も多く、次いで「地域のインフォーマルサービスの情報」が91.7%となっている。

図表 IV-3-⑩ ケアマネジャー業務を行う上で必要な情報



V. 地域包括ケア実現のために

1 高齢期の暮らしについて、準備・行動できる市民を増やすために

① 老後の生活への意識

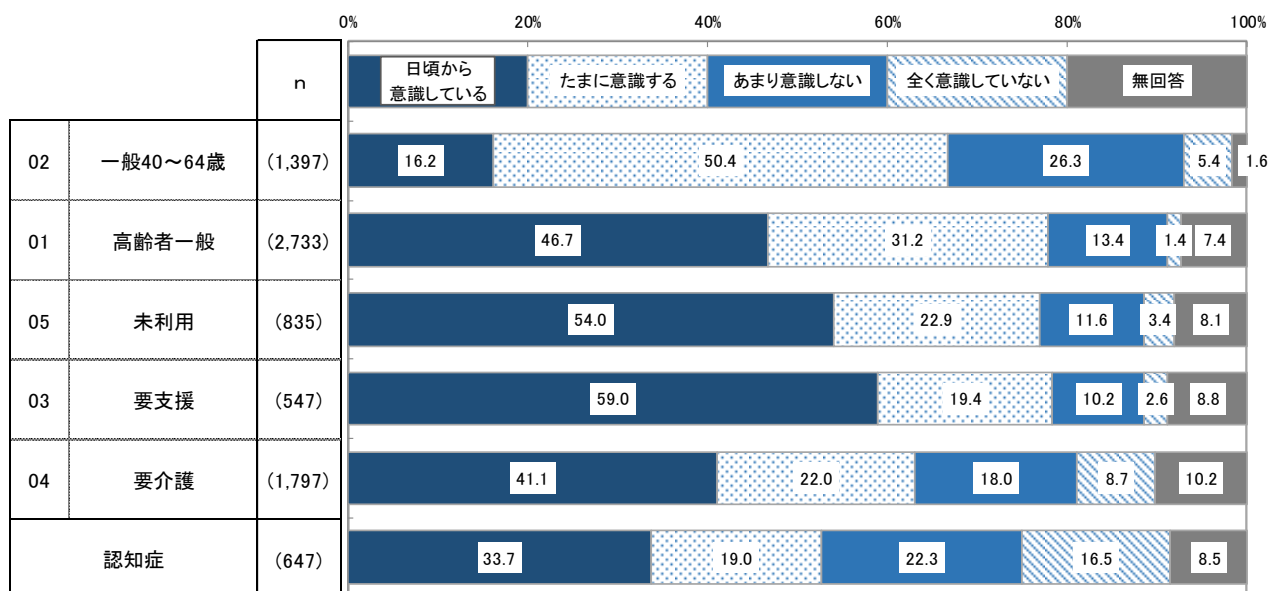
問 今後（老後）の生活について、どの程度意識していますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号	54	52	43	37	33															

老後の生活への意識について、「日頃から意識している」は“未利用”“要支援”で半数を上回っており、“高齢者一般”で46.7%、“要介護”で41.1%、“認知症”で33.7%となっている。

一方で、“一般40～64歳”では16.2%と最も少なく、「全く意識していない」「あまり意識していない」の合計が31.7%となっている。

図表 V-1-① 老後への意識



【経年比較（日頃から意識している・たまに意識するの合計）】

※前回調査時は意識することが「ある」「ない」の選択肢

		R4		R1	
		2022年		2019年	
02	一般40～64歳	66.6	62.3		
01	高齢者一般	77.9	75.3		
05	未利用	76.9	69.3		
03	要支援	78.4	75.5		
04	要介護	63.1	55.4		

② 老後の生活を意識したきっかけ

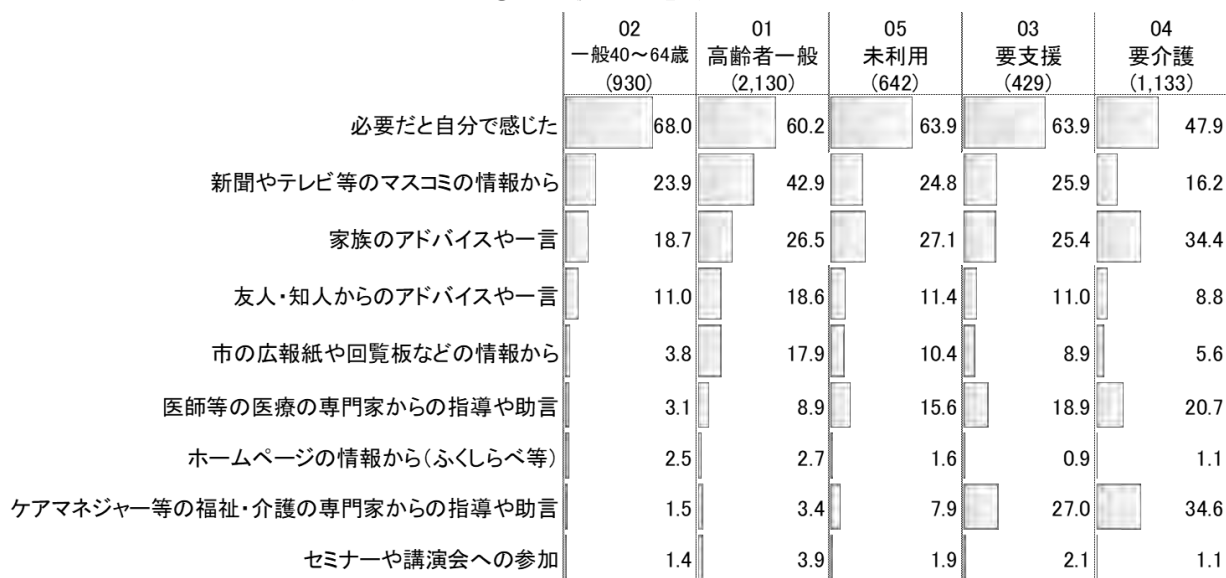
問 意識したきっかけは何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	54-1	52-1	43-1	37-1	33-1														

老後の生活を意識したきっかけについて、全ての対象者で「必要だと自分で感じた」が最も多くなっている。

また、“高齢者一般”では「新聞やテレビ等のマスコミの情報から」が42.9%となっているのに対して、“要介護”では「家族のアドバイスや一言」「ケアマネジャー等の福祉・介護の専門家からの指導や助言」が多くなっている。

図表 V-1-② 老後への意識のきっかけ



③ 高齢期のイメージ【新規】

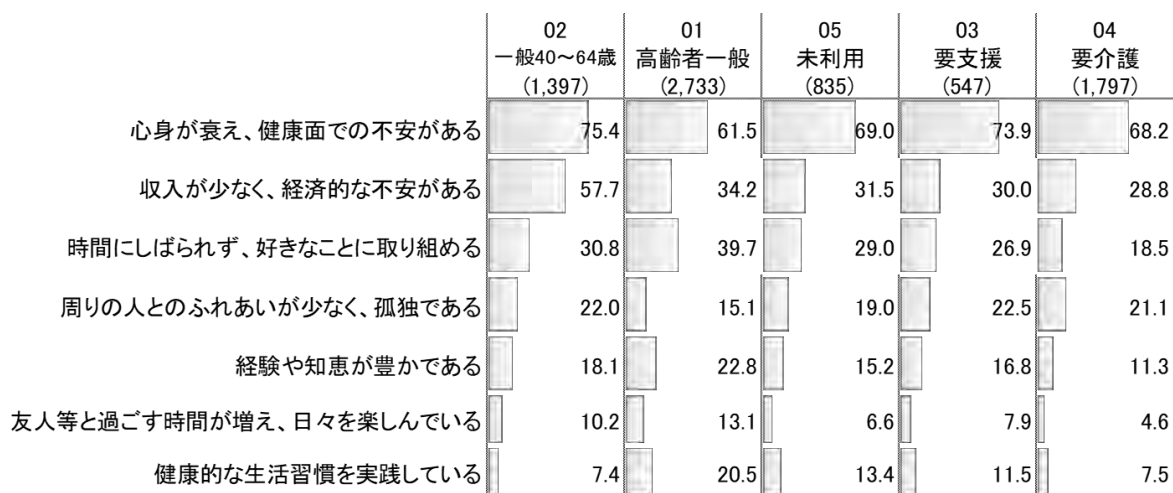
問 あなた（あて名ご本人）が「高齢期」と聞いて思い浮かべることは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	55	53	44	38	34														

高齢期のイメージについて、全ての対象者で「心身が衰え、健康面での不安がある」が最も多くなっているが、“一般40～64歳”では「収入が少なく、経済的な不安がある」が57.7%となっているのに対し、それ以外の対象者では3割前後となっている。

また、「時間にしばられず、好きなことに取り組める」や「健康的な生活習慣を実践している」は“高齢者一般”で多くなっているのに対し、「周りの人とのふれあいが少なく、孤独である」は“高齢者一般”で少なくなっている。

図表 V-1-③ 高齢期のイメージ



④ 孤独死に対する意識

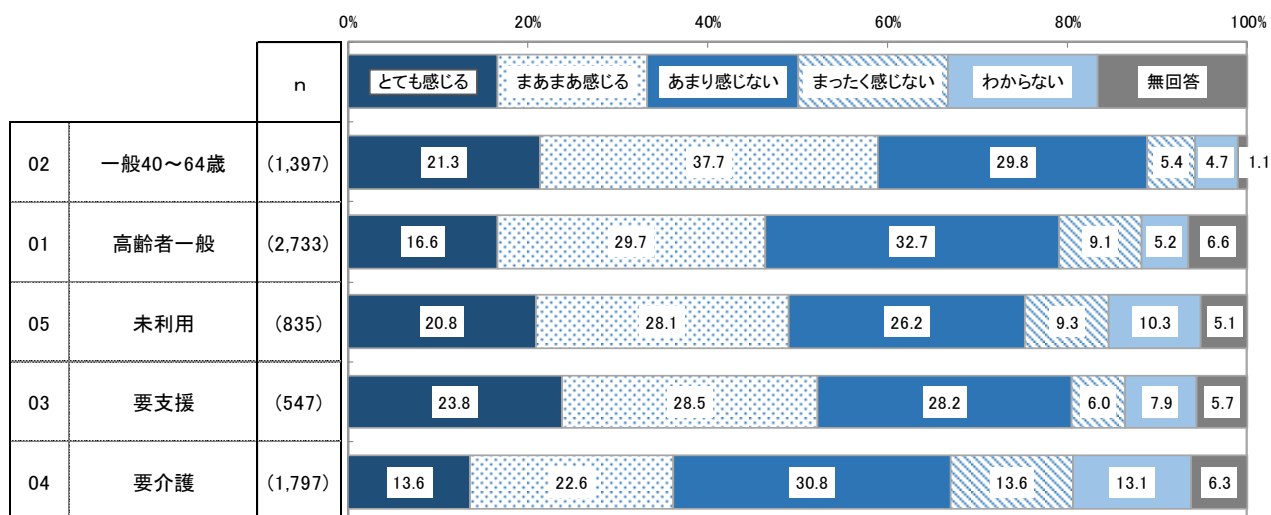
問 孤独死（誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死）について、身近な問題だと感じますか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号	56	54	45	39	35														

孤独死に対する意識について、「とても感じる」と「まあまあ感じる」を合計した『感じる』は、“一般40～64歳”“要支援”で半数を超えている。一方で、“要介護”では「まったく感じない」「あまり感じない」の合計が『感じる』を上回っている。

過去の結果と比較すると、「とても感じる」が前回から減少している傾向があり、「あまり感じない」が増加している傾向がある。

図表 V-1-④ 孤独死に対する意識



【経年比較】

(%)

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			05 未利用		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
とても感じる	21.3	25.2	17.5	16.6	25.0	19.2	20.8	27.7	
まあまあ感じる	37.7	36.6	35.3	29.7	30.6	27.5	28.1	22.1	
あまり感じない	29.8	26.7	32.7	32.7	27.7	31.3	26.2	22.9	
まったく感じない	5.4	5.8	7.1	9.1	7.9	7.7	9.3	8.9	
わからない	4.7	3.7	5.1	5.2	4.7	6.0	10.3	7.3	

	03 要支援			04 要介護		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
とても感じる	23.8	29.8		13.6	20.1	
まあまあ感じる	28.5	27.3		22.6	20.8	
あまり感じない	28.2	18.5		30.8	26.2	
まったく感じない	6.0	6.0		13.6	12.5	
わからない	7.9	8.1		13.1	12.2	

※ “一般 40～64 歳” は、H28 調査以前は 55～64 歳が対象

⑤ 人生の最終段階に向けた心づもり

問 あなたは、病気で意思疎通ができなくなった場合や死が近い場合に備えて、延命措置や看取りなどに関するご自身の希望について、どのように意思表示をしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

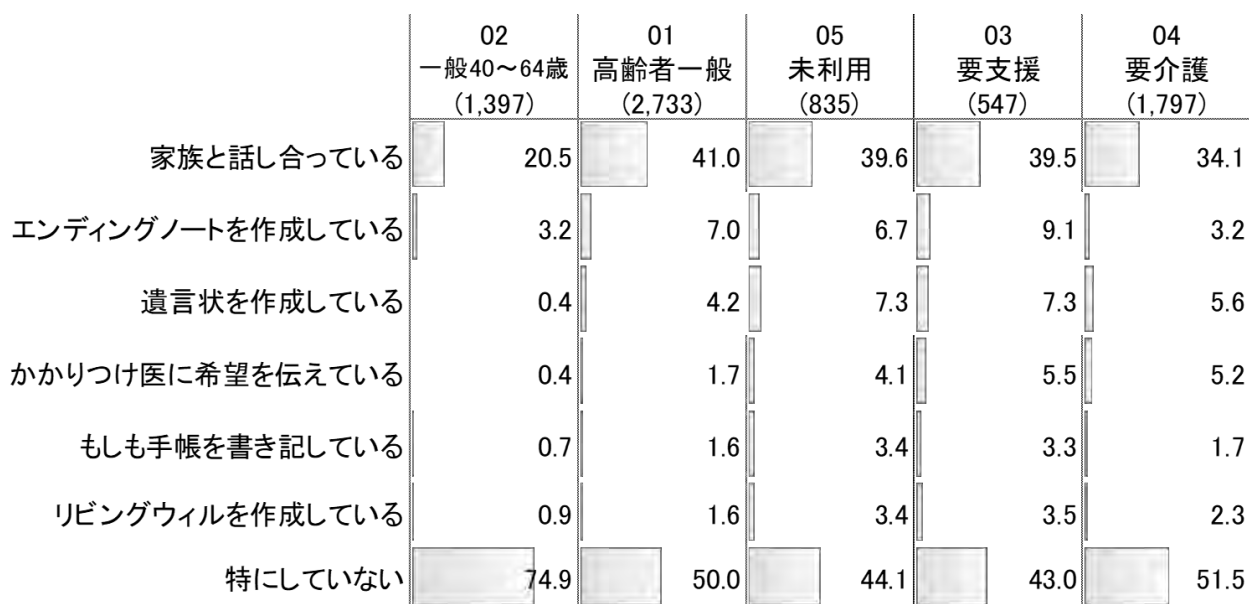
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	57	55	46	40	36														

人生の最終段階に向けた心づもりについて、全ての対象者で「特にしていない」が最も多くなっている。実施されている取組の中では、「家族と話し合っている」が最も多く、“高齢者一般”で41.0%、“未利用”で39.6%となっている。

年齢別で見ると、高齢になるにつれて何らかの意思表示をしている割合が増えるものの、“要介護”は他の対象者に比べて同じ年齢でも取り組んでいる割合が少なくなっている。

過去の結果と比較すると、“要支援”では「特にしていない」が増加しており、その他の対象者においても「特にしていない」が微増傾向にある。一方で、他の意思表示の手段については横ばいとなっている。

図表 V-1-⑤ 人生の最終段階に向けた心づもり



【年齢別の比較】

		(%)							
		有効回収数 (n)	家族と話し合っている	かかりつけ医に希望を伝えている	エンディングノートを作成している	もしも手帳を書き記している	リビングウイールを作成している	遺言状を作成している	特にしていない
一般 40 5 6 4 歳	40～44歳	(203)	20.2	0.0	2.5	1.0	1.5	0.5	76.8
	45～49歳	(275)	14.9	0.4	3.3	1.1	0.7	0.4	80.7
	50～54歳	(326)	15.6	0.0	2.5	0.3	0.9	0.0	80.7
	55～59歳	(289)	23.9	1.0	3.1	0.3	0.0	0.3	72.0
	60～64歳	(301)	27.6	0.3	4.7	1.0	1.3	0.7	64.8
高齢者 一般	65～69歳	(629)	35.0	0.6	4.5	0.3	0.2	2.1	59.3
	70～74歳	(807)	39.9	1.1	6.3	2.4	1.6	4.0	52.2
	75～79歳	(623)	44.5	1.4	8.7	1.6	1.4	4.3	47.2
	80～84歳	(453)	47.5	4.4	6.6	1.5	2.6	5.5	41.1
	85歳以上	(218)	39.0	1.8	13.3	2.3	4.1	7.8	41.7
未利用	65歳未満	(12)	16.7	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	66.7
	65～69歳	(28)	21.4	10.7	3.6	0.0	0.0	0.0	67.9
	70～74歳	(66)	37.9	1.5	9.1	3.0	4.5	3.0	54.5
	75～79歳	(126)	36.5	4.8	5.6	2.4	2.4	4.0	50.8
	80～84歳	(239)	41.0	4.6	6.7	3.3	4.6	7.9	42.3
	85歳以上	(362)	42.5	3.3	6.9	3.9	3.0	9.7	38.4
要支援	65歳未満	(15)	20.0	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0	73.3
	65～69歳	(15)	26.7	6.7	6.7	0.0	6.7	13.3	53.3
	70～74歳	(46)	37.0	2.2	6.5	2.2	2.2	0.0	47.8
	75～79歳	(68)	41.2	5.9	4.4	4.4	1.5	4.4	45.6
	80～84歳	(132)	40.9	4.5	9.1	5.3	3.0	6.1	42.4
	85歳以上	(271)	40.6	6.3	11.1	2.6	4.1	10.0	39.5
要介護	65歳未満	(51)	15.7	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	66.7
	65～69歳	(69)	20.3	1.4	4.3	0.0	1.4	1.4	60.9
	70～74歳	(167)	30.5	1.8	1.8	1.2	0.0	1.2	60.5
	75～79歳	(214)	37.9	5.6	3.3	1.4	0.9	5.6	48.6
	80～84歳	(359)	34.8	4.7	3.1	1.9	1.9	5.0	53.5
	85歳以上	(934)	35.7	6.4	3.6	2.0	3.3	7.2	48.3

【経年比較】

(%)

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			05 未利用者		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
家族と話し合っている	20.5	23.9	28.3	41.0	42.4	33.9	39.6	42.3	
かかりつけ医に希望を伝えている	0.4	0.3	0.4	1.7	2.2	2.6	4.1	3.6	
エンディングノートを作成している	3.2	1.7	3.5	7.0	7.6	6.2	6.7	7.1	
もしも手帳を書き記している	0.7	0.2		1.6	2.4		3.4	2.8	
リビングウィルを作成している	0.9	0.5	1.4	1.6	2.5	3.5	3.4	3.2	
遺言状を作成している	0.4	0.6	1.6	4.2	4.4	4.0	7.3	7.4	
その他	1.7	1.1	1.7	1.5	1.5	1.6	2.0	1.2	
特にしていない	74.9	72.1	65.0	50.0	45.7	50.0	44.1	40.8	

	03 要支援			04 要介護		
	R4	R1	H28	R4	R1	H28
	2022年	2019年	2016年	2022年	2019年	2016年
家族と話し合っている	39.5	42.5		34.1	35.1	
かかりつけ医に希望を伝えている	5.5	5.6		5.2	5.6	
エンディングノートを作成している	9.1	7.3		3.2	4.1	
もしも手帳を書き記している	3.3	3.0		1.7	1.4	
リビングウィルを作成している	3.5	4.3		2.3	2.2	
遺言状を作成している	7.3	9.7		5.6	6.3	
その他	2.6	1.7		1.8	2.0	
特にしていない	43.0	36.9		51.5	48.5	

2 高齢者にやさしい安心のまちづくり・ICTを活用した環境整備

① 施設（事業所）で導入している介護ロボットなどの介護福祉機器

問 介護職員の身体的負担軽減や腰痛の予防、緩和等に効果があると思われるものについて、貴施設（事業所）で導入している介護福祉機器をお答えください。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									44	42	44								

導入している介護ロボットなどの介護福祉機器について、“特養”“老健”では「車いす体重計」が約9割となっており、次いで「ストレッチャー」「ベッド」「特殊浴槽」が上位となっている。また、「いずれも導入していない」はゼロとなっている。

“居住系”では「ベッド」が68.4%と最も多いものの、その他の機器は半数以下となっている。過去の結果と比較すると、“居住系”では「車いす体重計」「ストレッチャー」「ベッド」といった“特養”“老健”の大半で導入されている介護福祉機器が増加している。

図表 V-2-① 導入している介護ロボットなどの介護福祉機器

	09 特養		10 老健		11 居住系	
	R4年 (100)	R1年 (89)	R4年 (45)	R1年 (40)	R4年 (335)	R1年 (395)
車いす体重計	91.0	92.1	86.7	82.5	43.6	31.9
ストレッチャー (入浴用に使用するものを含む)	86.0	89.9	71.1	85.0	23.9	18.0
ベッド (傾斜角度、高さが調整できるもの。マットレスは除く)	85.0	88.8	82.2	77.5	68.4	61.8
特殊浴槽 (移動用リフトと共に稼動するもの、側面が開閉可能なもの)	75.0	82.0	77.8	87.5	24.5	24.8
自動車用車いすリフト (福祉車両の場合は、車両本体を除いたリフト部分のみ)	58.0	74.2	46.7	57.5	26.9	22.8
シャワーキャリー	58.0	64.0	48.9	57.5	42.4	37.5
移動用リフト (立位補助機(スタンディングマシン)を含む)	21.0	13.5	11.1	20.0	1.8	2.8
昇降装置 (人の移動に使用するものに限る)	8.0	16.9	6.7	12.5	7.8	6.1
座面昇降機能付車いす	5.0	11.2	2.2	10.0	3.3	2.5
いずれも導入していない	-		-		3.3	

② 施設（事業所）での ICT 機器の導入状況【新規】

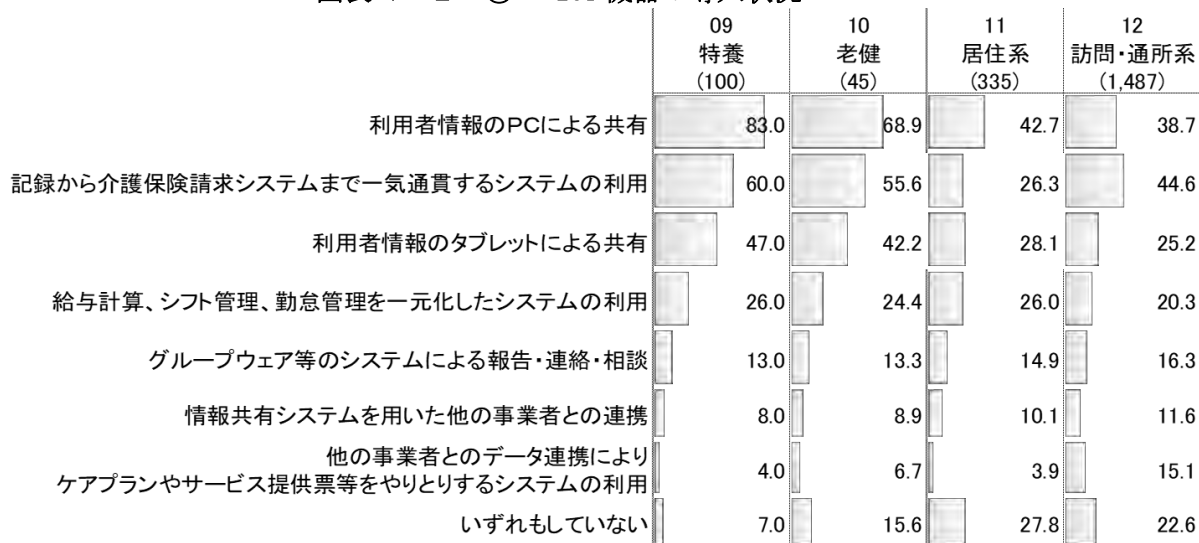
問 次のような ICT 機器等を活用した取組をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									46	44	46	31								

ICT 機器の導入状況について、施設（事業所）では、「利用者情報の PC による共有」が“特養”で 83.0%、“老健”で 68.9%の一方で、“居住系”“訪問・通所系”では半数を下回っている。

また、「記録から介護保険請求システムまで一気通貫するシステムの利用」は、“特養”“老健”で半数を上回っているものの、“居住系”“訪問・通所系”では半数を下回っている。

図表 V-2-② ICT 機器の導入状況



③ 介護ロボット・ICT 機器の導入の課題

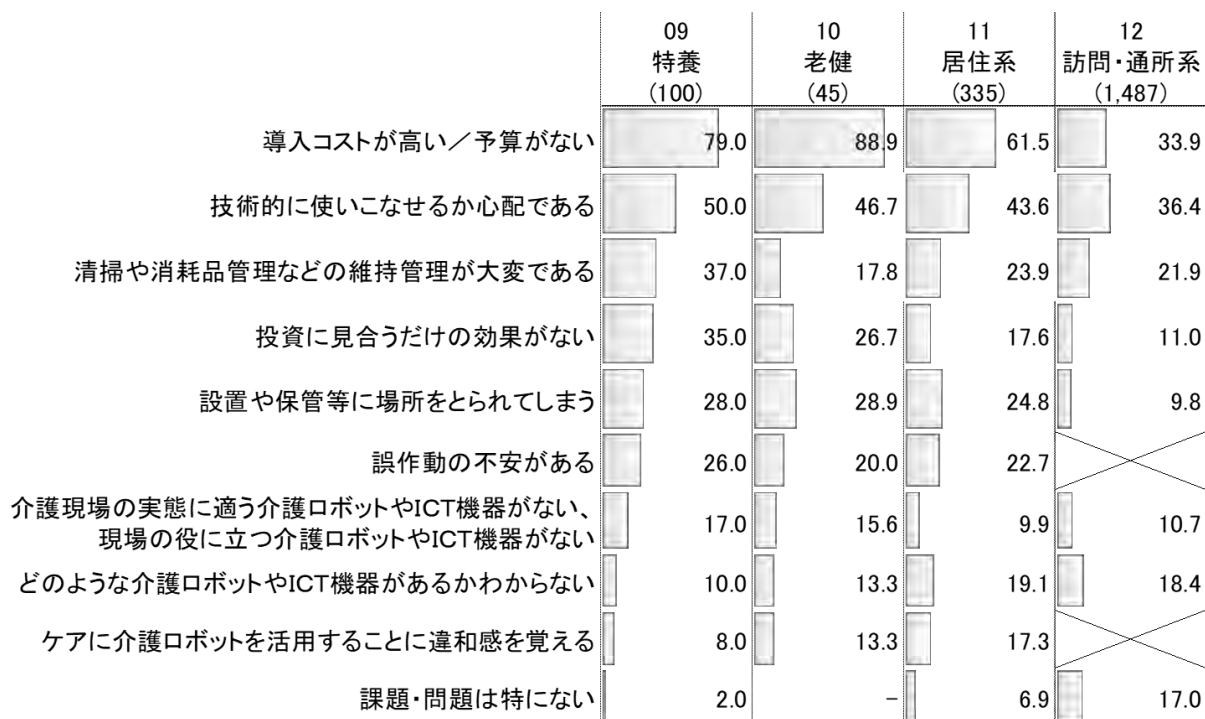
問 介護ロボット等、ICT 機器の導入や利用についてどのような課題・問題があるとお考えですか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号									47	45	47	32							

介護ロボットなどの導入の課題について、“特養”“老健”“居住系”で「導入コストが高い/予算がない」が最も多くなっている。また、次いで「技術的に使いこなせるか心配である」が多くなっている。

訪問・通所系では、「技術的に使いこなせるか心配である」が 36.4%と最も多くなっている。

図表 V-2-③ 介護ロボット・ICT 機器の導入の課題



3 介護サービスの適正な量の提供及び質の向上

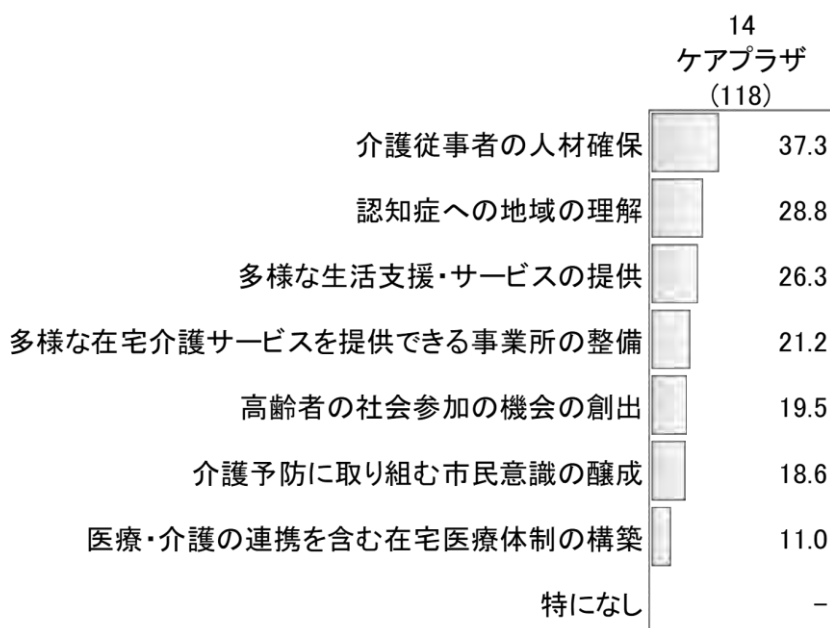
① 地域ケアプラザが考える地域包括ケアシステムの構築に向けた優先課題

問 地域包括ケアシステムの構築に向けて優先度の高いと思う課題は何ですか。(〇は2つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号														16					

地域包括ケアシステムの優先課題について、「介護従事者の人材確保」が37.3%と最も多く、次いで「認知症への地域の理解」が28.8%となっている。

図表 V-3-① 地域包括ケアの優先課題



② 介護施設（事業所）での利用者や家族の要望を取り入れるための取組

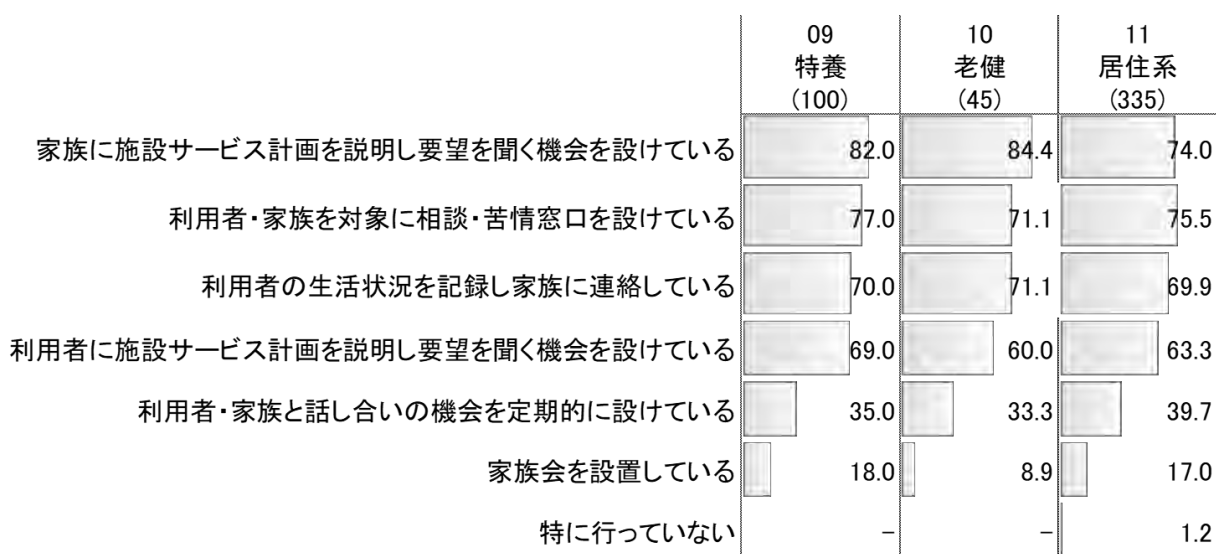
問 利用者や家族の要望を積極的に取り入れるため、次の取組を行っていますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									37	35	34								

利用者や家族の要望を取り入れるための取組について、“特養”“老健”では「家族に施設サービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている」が8割以上と最も多く、“居住系”では「利用者・家族を対象に相談・苦情窓口を設けている」が75.5%と最も多くなっている。

図表 V-3-② 利用者・家族の要望を取り入れるための取組



③ 介護施設（事業所）でのサービスの質の向上のための取組

問 サービスの質の向上のために、次の取組を行っていますか。

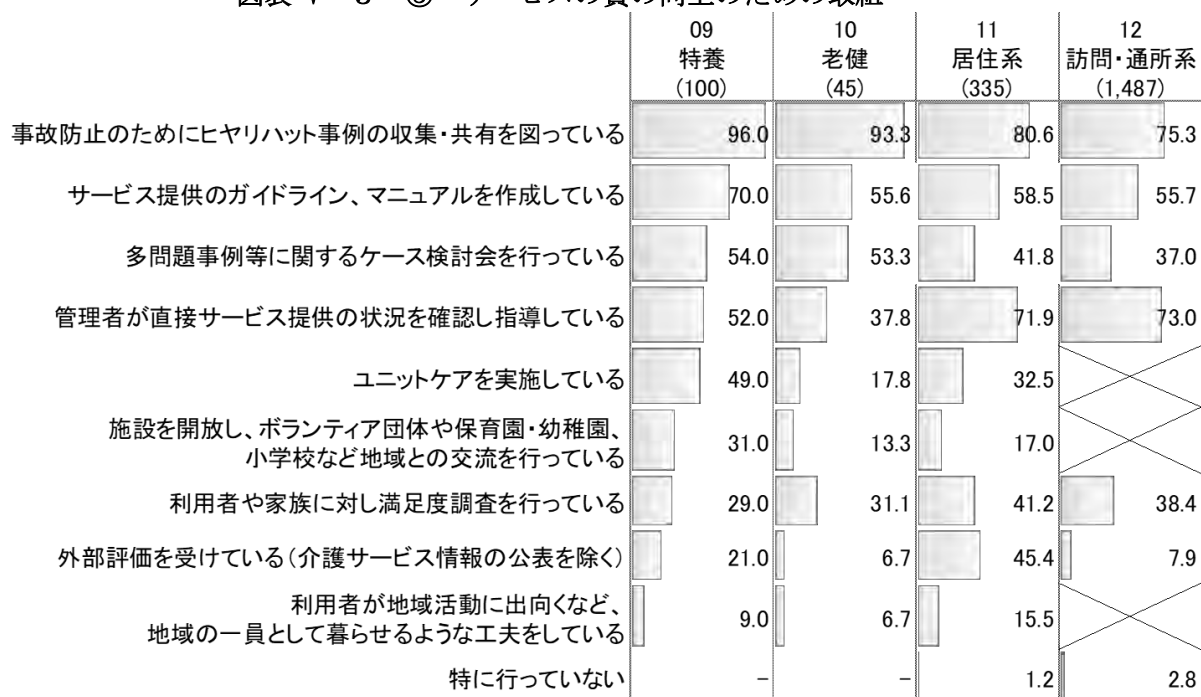
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									38	36	35	25								

サービスの質の向上のための取組について、全ての対象施設（事業所）で「事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている」が最も多くなっている。

次いで、“特養”“老健”では「サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している」が多く、“居住系”“訪問・通所系”では「管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している」が多くなっている。

図表 V-3-③ サービスの質の向上のための取組



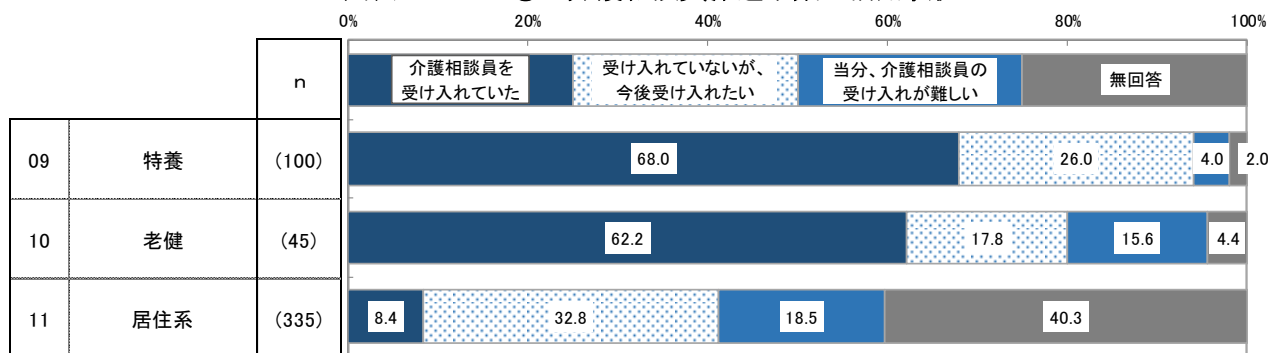
④ 介護施設（事業所）での介護相談員派遣事業の活用状況

問 横浜市各区が派遣する介護相談員の受入状況についてお伺いします。（〇はひとつ）
※令和2年2月21日以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため派遣を中止しております。設問は派遣が再開された場合を想定しご回答ください。

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									53	51	50								

介護相談員派遣事業の活用状況について、“特養”“老健”では「介護相談員を受け入れていた」が6割を上回っている。“居住系”では「介護相談員を受け入れていた」は8.4%となっているものの、「今後受け入れたい」は32.8%となっている。

図表 V-3-④ 介護相談員派遣事業の活用状況



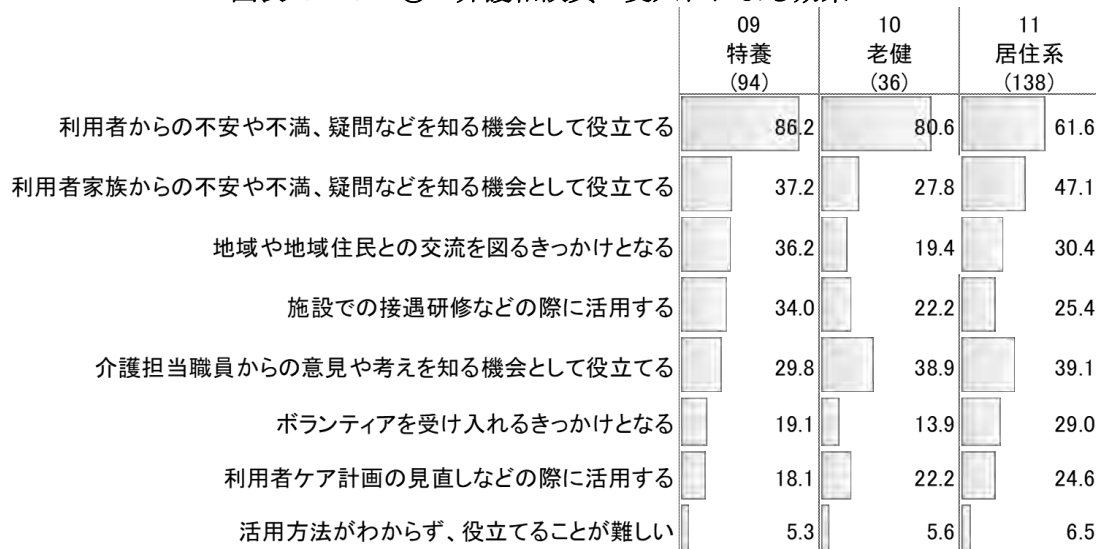
⑤ 介護相談員の受入れによる効果

問 横浜市介護相談員派遣事業について、施設（事業所）での活用方法や受入れによる効果について、お伺いします。（あてはまるものすべてに〇）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									53-1	51-1	50-1								

介護相談員の受入れによる効果について、全ての対象施設（事業所）で「利用者からの不安や不満、疑問などを知る機会として役立てる」が最も多くなっている。

図表 V-3-⑤ 介護相談員の受入れによる効果



4 高齢者が適切な制度・サービスを選択できるための広報、情報提供

① 健康づくり・医療・介護の情報入手先

問 あなた（あて名ご本人）は、健康づくり、医療、介護について、どのようにして知識や情報を得ていますか。知識や情報の入手先をお答えください。
 （あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	50	48																	

健康づくり等の情報入手先について、“一般40～64歳”では「インターネット」が68.6%と最も多く、“高齢者一般”では「テレビ・ラジオ」が77.7%と最も多くなっている。

過去の結果と比較すると、「インターネット」は全ての対象者で増加している。一方で、“一般40～64歳”では「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌・書籍」「家族・親族」「友人・知人」が減少している。“高齢者一般”では「自治会・町内会」が減少しているものの、「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌・書籍」「市や区の広報誌、パンフレット等」「かかりつけ医などの医療機関」などで増加している。

図表 V-4-① 健康づくり等の情報入手先



※R1の調査結果は「健康づくり」に関する情報の入手先

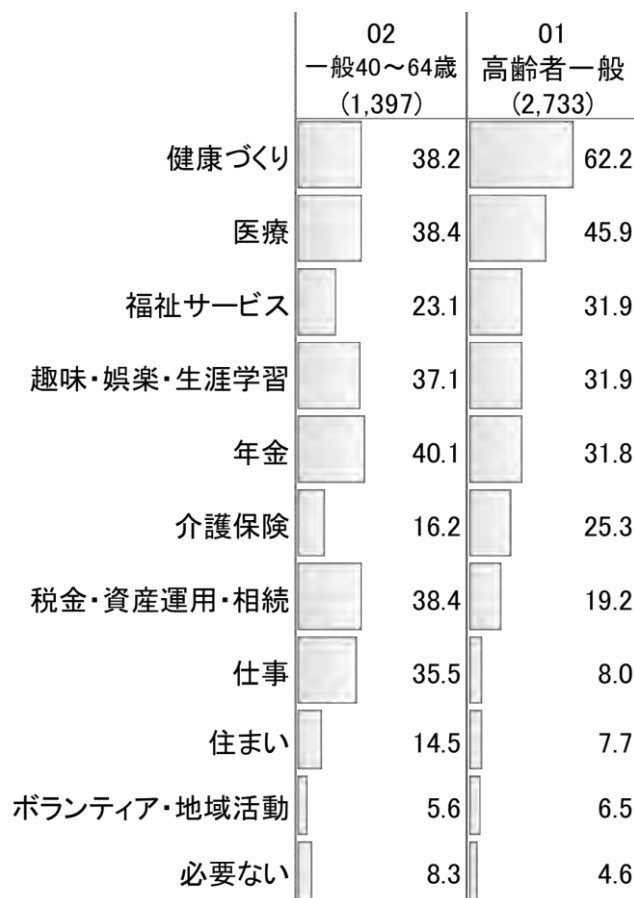
② 普段の生活に必要な情報

問 あなた（あて名ご本人）はふだん暮らしていくうえでどんな情報を必要としていますか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	51	49																	

普段の生活に必要な情報について、“一般40～64歳”では「年金」が40.1%と最も多く、次いで「医療」「税金・資産運用・相続」が38.4%となっている。“高齢者一般”では「健康づくり」が62.2%と最も多くなっている。

図表 V-4-② 普段の生活に必要な情報



③ デジタル機器の使用経験【新規】

問 あなた（あて名ご本人）は、デジタル機器（パソコン・タブレット・スマートフォン）を使った経験がありますか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	52	50	17	15	15	14	14													

デジタル機器の使用経験について、“一般 40～64 歳”では5つの項目で8割を上回っており、特に「メール」については95.6%と高い割合となっている。

一方で、“高齢者一般”では、「メール」は72.4%となっており、5割を上回っている項目は2つとなっている。また、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”以外の対象者では、5割を上回る項目はなかった。

図表 V-4-③ デジタル機器の使用経験

	02 一般40～64歳 (1,397)	01 高齢者一般 (2,733)	05 未利用 (835)	03 要支援 (547)	04 要介護 (1,797)	06 小多機・看多機 (483)	07 定期巡回 (233)
メール	95.6	72.4	42.8	45.0	26.3	20.1	16.3
LINE(ライン)等の無料通話アプリ	89.8	57.6	28.3	34.9	15.4	13.5	8.2
近所の病院や歯科医院などの検索	81.4	39.9	16.5	11.5	7.0	3.7	2.1
ネットショッピング	85.0	34.9	11.3	10.6	6.6	3.9	2.1
アプリの取得	82.4	32.5	8.1	7.3	4.5	2.5	0.9
行政のオンライン申請・申込 (新型コロナウイルスワクチン接種の予約など)	69.4	31.2	7.7	5.7	4.6	1.0	1.7
フリーWi-Fiへの接続	69.6	27.1	8.1	7.1	4.6	1.9	2.1
二次元バーコードの表示・読み取り	78.5	27.0	5.7	5.5	2.9	1.2	0.9
地域防災拠点など防災に関する検索	37.8	13.2	5.1	3.1	2.1	0.8	0.4

5 苦情相談体制の充実

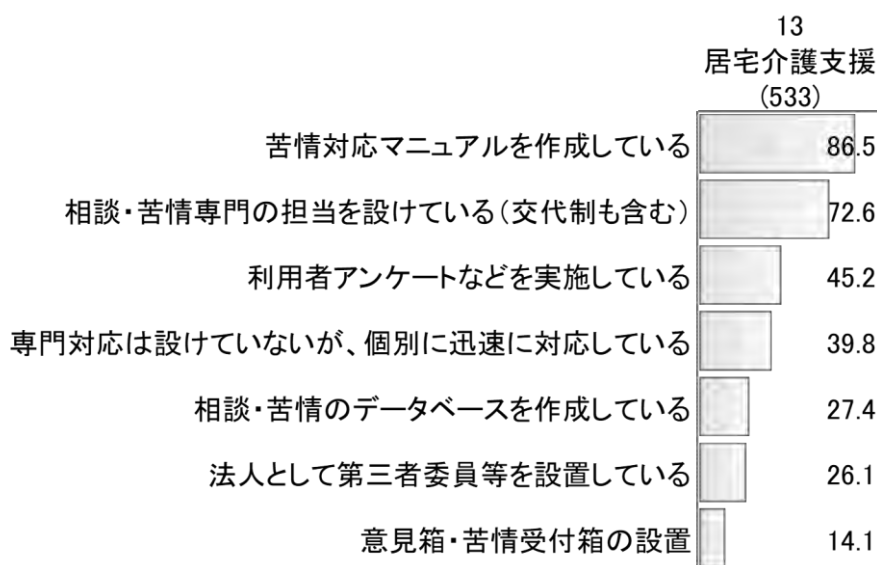
① 居宅介護支援事業所における相談・苦情等の対応

問 貴事業所では、利用者からの相談や苦情についてどのように対応していますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号													10						

居宅介護支援事業所における相談・苦情等の対応について、「苦情対応マニュアルを作成している」が86.5%と最も多く、次いで「相談・苦情専門の担当を設けている」が72.6%となっている。

図表 V-5-① 居宅介護支援事業所における相談・苦情等の対応



② 職員による利用者へのハラスメント防止の取組

問 職員による利用者への虐待やハラスメントを防止するため、どのような工夫を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									48	46	41	33							

職員による虐待・ハラスメント防止のための取組について、全ての対象施設（事業所）で「研修などへの参加を促すとともに、研修内容を全職員に展開している」が最も多くなっている。

図表 V-5-② 職員による虐待・ハラスメント防止のための取組

	09 特養 (100)	10 老健 (45)	11 居住系 (335)	12 訪問・通所系 (1,487)
研修などへの参加を促すとともに、 研修内容を全職員に展開している	85.0	71.1	80.3	64.6
全職員のストレス状況を把握し、 未然防止に役立っている	56.0	51.1	45.1	32.2
気軽に相談ができる窓口を整えている	48.0	44.4	43.0	36.2
ミーティング時に虐待防止マニュアル等を 全職員で確認している	37.0	33.3	68.7	54.8
講師を招いて、研修を行うなど 全職員への啓発活動をおこなっている	16.0	13.3	9.9	6.3
他施設での事例等を全職員間で分析し、 要因について共有する研修を行っている	14.0	11.1	15.5	8.5
特に行っていない	1.0	2.2	1.2	4.4

③ 利用者による暴力・ハラスメント防止のための取組

問 利用者による職員への暴力やハラスメントを防止するため、どのような工夫を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									49	47	42	34							

利用者による暴力・ハラスメント防止のための取組について、“特養”“老健”では「暴力やハラスメントがあった場合は、施設として対応できる環境を整えている」が最も多く、“居住系”“訪問・通所系”では「日々の声かけなど小さな変化をとらえ情報を共有できる環境を整えている」が最も多くなっている。

図表 V-5-③ 利用者による暴力・ハラスメント防止のための取組

	09 特養 (100)	10 老健 (45)	11 居住系 (335)	12 訪問・通所系 (1,487)
暴力やハラスメントがあった場合は、施設として対応できる環境を整えている	63.0	62.2	46.9	42.2
日々の声かけなど小さな変化をとらえ情報を共有できる環境を整えている	62.0	55.6	72.2	63.2
気軽に相談できる窓口を整えている	52.0	51.1	48.1	41.8
契約条項などにハラスメントに対する対処方法等を明記・説明し、未然防止に努めている	51.0	51.1	53.1	44.2
複数人対応を基本としている	28.0	26.7	29.6	24.2
特に行っていない	-	4.4	1.5	4.2

VI. 自然災害・感染症対策

1 緊急時に備えた体制整備・物資調達

① 平時から実施している防災対策【新規】

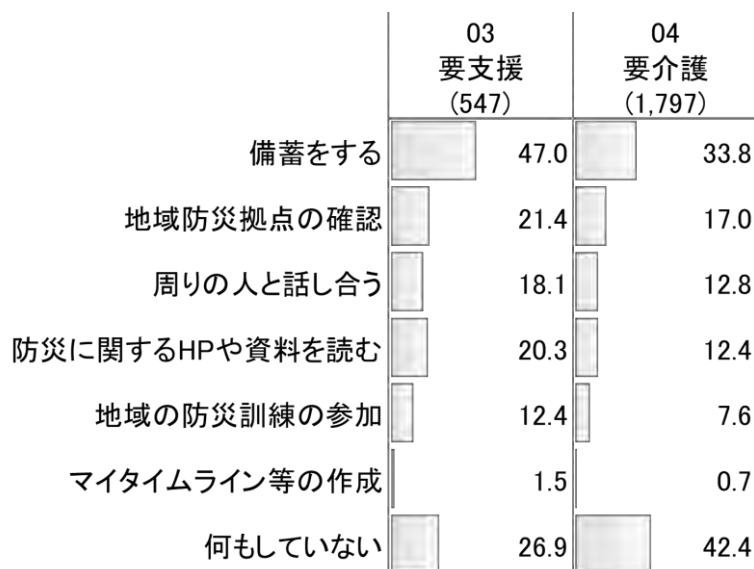
問 平時から実施している防災対策は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号			18	16															

平時から実施している防災対策について、“要支援”では「備蓄をする」が最も多く、次いで「何もしていない」となっている。

「何もしていない」は“要支援”で26.9%に対し、“要介護”では42.4%となっている。

図表 VI-1-① 平時から実施している防災対策



※マイタイムラインとは、台風や大雨の水害等、これから起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域環境に合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画のこと。

認知症施策の推進

1 正しい知識・理解の普及

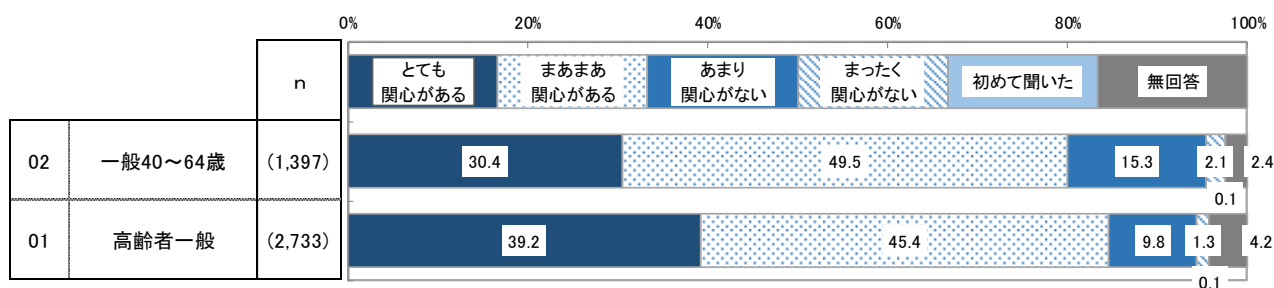
① 認知症への関心度

問 あなた（あて名ご本人）は、認知症について、どの程度関心がありますか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	43	39																		

認知症の関心度について、「とても関心がある」と「まあまあ関心がある」を合計した『関心がある』は、“一般40～64歳”では79.9%、“高齢者一般”では84.6%となっている。

図表 認知症－1－① 認知症への関心度



【経年比較（とても関心がある・まあまあ関心があるの合計）】

		（％）	
		R4	R1
		2022年	2019年
02	一般40～64歳	79.9	82.4
01	高齢者一般	84.6	87.1

② 認知症に対する理解

問 あなた（あて名ご本人）は、認知症について、どのように考えていますか。

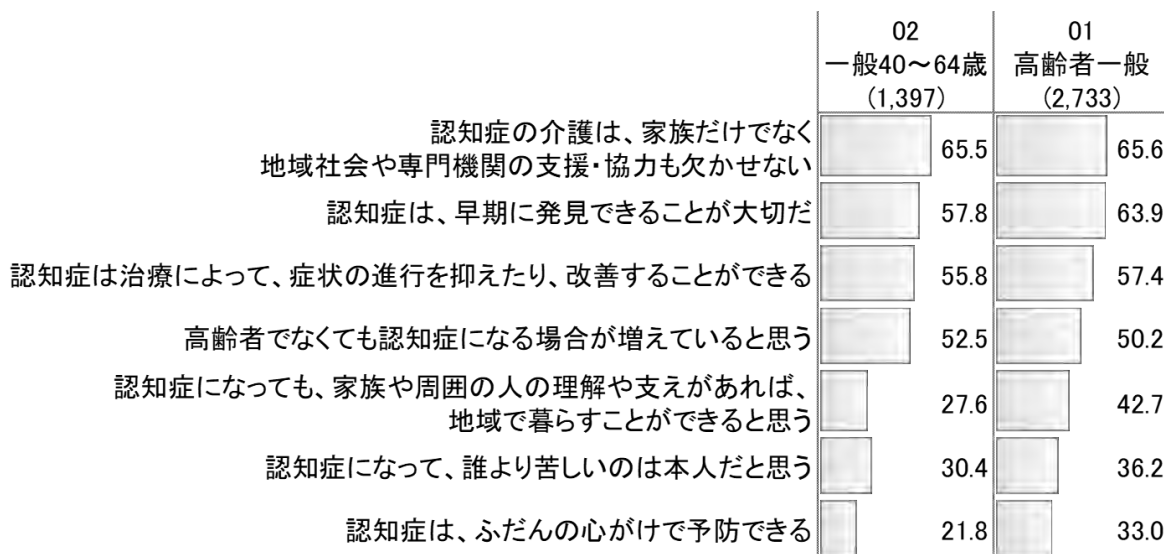
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号	44	40																	

認知症に対する理解について、全ての対象者で「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が最も多く、次いで「認知症は、早期に発見できることが大切だ」となっている。

一方で、「認知症は、ふだんの心がけで予防できる」「認知症になって、誰よりも苦しいのは本人だと思う」「認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う」は半数を下回っている。

図表 認知症－1－② 認知症に対する理解



③ 認知症に関する情報

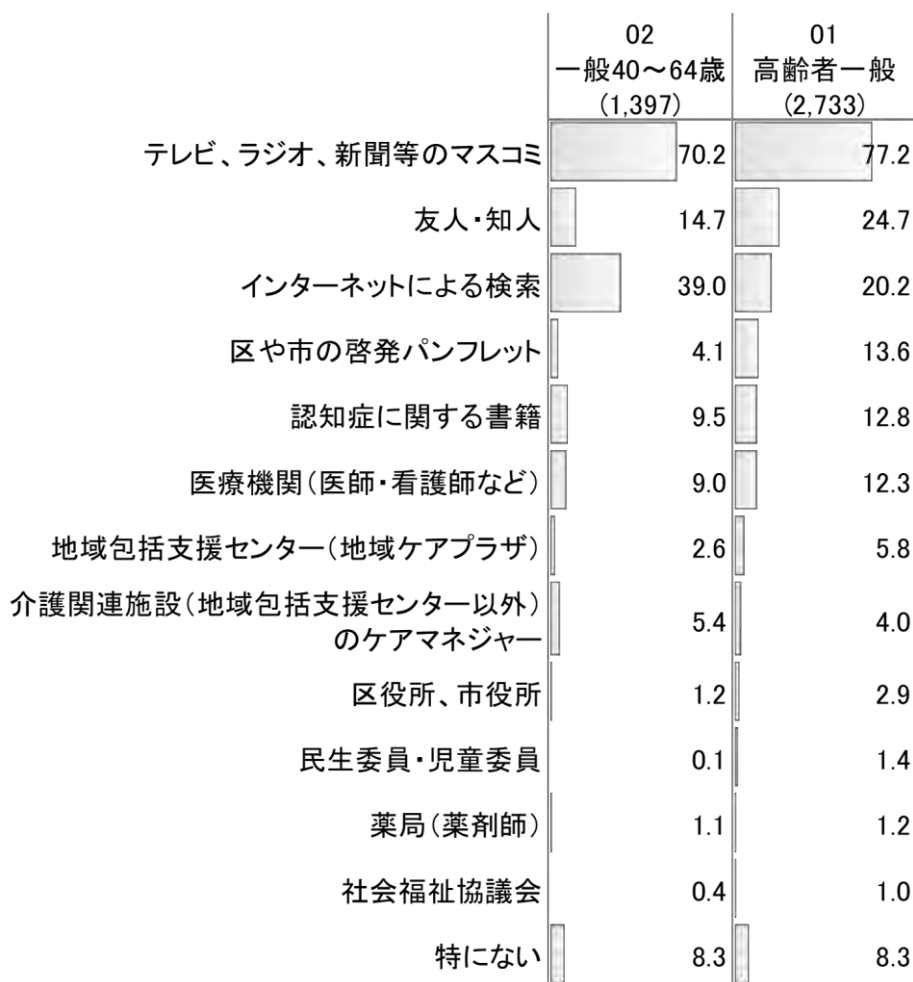
問 あなた（あて名ご本人）は、認知症に関する情報を何から入手していますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	46	43																	

認知症に関する情報について、全ての対象者で「テレビ、ラジオ、新聞等のマスコミ」が最も多くなっている。次いで、“一般40～64歳”では「インターネットによる検索」、「高齢者一般」では「友人・知人」が多くなっている。

図表 認知症－1－③ 認知症に関する情報



2 予防・社会参加

① 認知症に関する取組の認知度

問 認知症に関する取組について知っているものをお選びください。

(あてはまるものすべてに○)

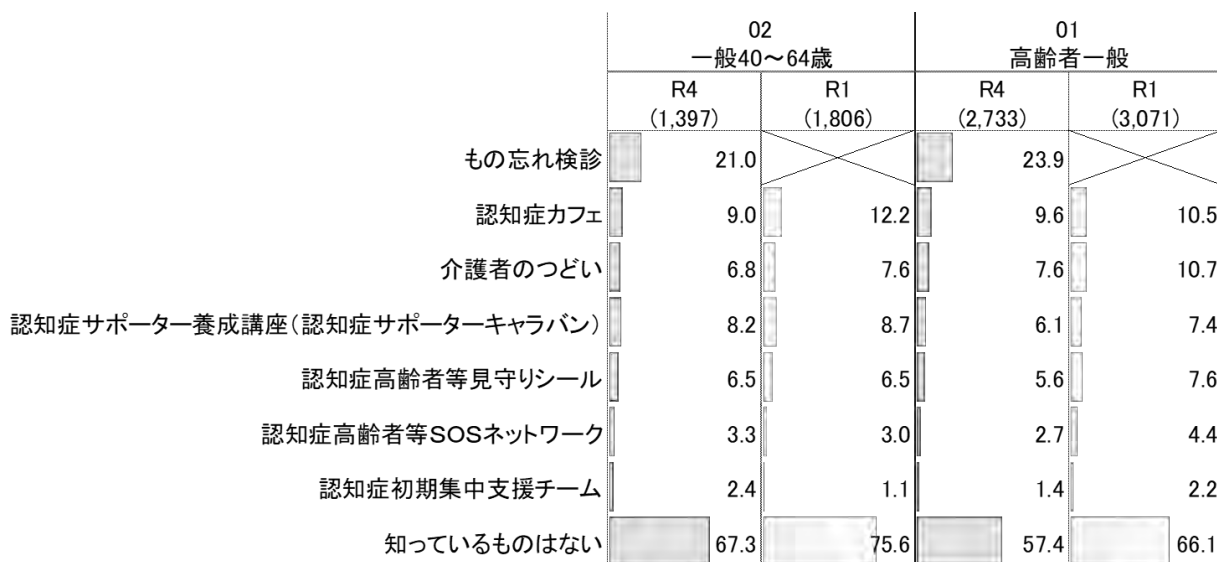
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号	48	45																	

認知症に関する取組の認知度について、全ての対象者で「もの忘れ検診」が約2割と最も多く、その他の取組については1割以下となっている。

また、「知っているものはない」は“一般40～64歳”で67.3%、“高齢者一般”で57.4%と半数を上回っている。

過去の結果と比較すると、「知っているものはない」は減少している。

図表 認知症－2－① 認知症に関する取組の認知度



② 認知症の人の基本チェックリストの状況

問 次の各項目について、それぞれ「はい（している）」、「いいえ（していない）」のどちらかをお選びください。
(それぞれ○はひとつ)

※認知機能に該当する項目を抜粋（詳細はP7【認知症の人の回答の集計方法について】参照）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	23	23	24	21	21														

認知症の人の基本チェックリストの認知機能に関する回答について、全体では3つの項目全てであてはまる割合が7割を超えている。

年齢別でみると、「周りの人からいつも同じことを聞くなどの物忘れがあると言われる」が高齢になるにつれて増加する傾向があるものの、他の2項目については年齢による大きな差はない。

要介護度別でみると、要介護度が重い方があてはまる割合が多くなる傾向があり、特に「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていない」は要介護度3～5で9割を超える。

図表 認知症－2－② 基本チェックリストでの認知機能の状況

		有効回収数（n）	どりの物忘れがある（％）	自分で電話番号を調べて、電話をかける（％）	今日が何月何日かわからない時がある（％）
認知症の人(全体)		(647)	71.9	75.0	77.4
年齢別	65歳未満	(5)	40.0	80.0	80.0
	65～69歳	(11)	54.5	81.8	72.7
	70～74歳	(33)	51.5	81.8	72.7
	75～79歳	(77)	55.8	70.1	76.6
	80～84歳	(168)	73.2	69.6	76.8
	85歳以上	(352)	77.8	77.8	78.4
要介護度	認定なし	(30)	66.7	50.0	63.3
	要支援	(50)	56.0	48.0	62.0
	要介護1～2	(367)	76.8	70.6	80.4
	要介護3～5	(200)	67.5	93.5	78.0

④ 若年性認知症の認知度

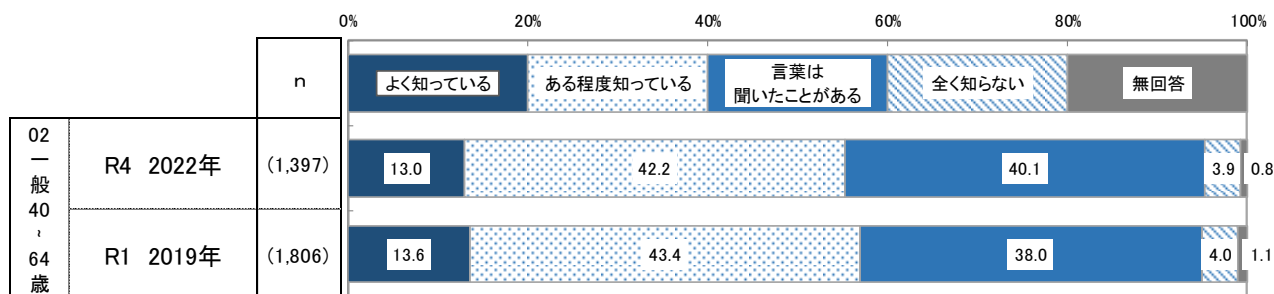
問 あなた（あて名ご本人）は65歳未満で発症する「若年性認知症」のことを知っていますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号		42																	

若年性認知症の認知度について、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合計した『知っている』は、55.2%となっている。

過去の結果と比較すると、認知度は横ばいとなっている。

図表 認知症－2－④ 若年性認知症の認知度



3 医療・介護

① 認知症の人の特別養護老人ホームへの申込状況

問 特別養護老人ホームへの入所申込みをしていますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号				32															

認知症の人の特別養護老人ホームへの申込状況について、全体では「申込みをしていない」が93.9%を占めており、年齢別・要介護度別でも、「申込みをしていない」が9割以上となっている。

図表 認知症－3－① 特別養護老人ホームの申込状況

		有効回収数 (n)	入所申込み をしている	入所申込み をしていない	無回答
			(%)		
認知症の人(全体)		(493)	2.8	93.9	3.2
年齢別	65歳未満	(4)	-	100.0	-
	65～69歳	(4)	-	100.0	-
	70～74歳	(23)	4.3	95.7	-
	75～79歳	(54)	1.9	94.4	3.7
	80～84歳	(118)	2.5	93.2	4.2
	85歳以上	(290)	3.1	93.8	3.1
要介護度	認定なし				
	要支援				
	要介護1～2	(300)	2.0	94.7	3.3
	要介護3～5	(193)	4.1	92.7	3.1

② 地域ケアプラザでの認知症に関する取組

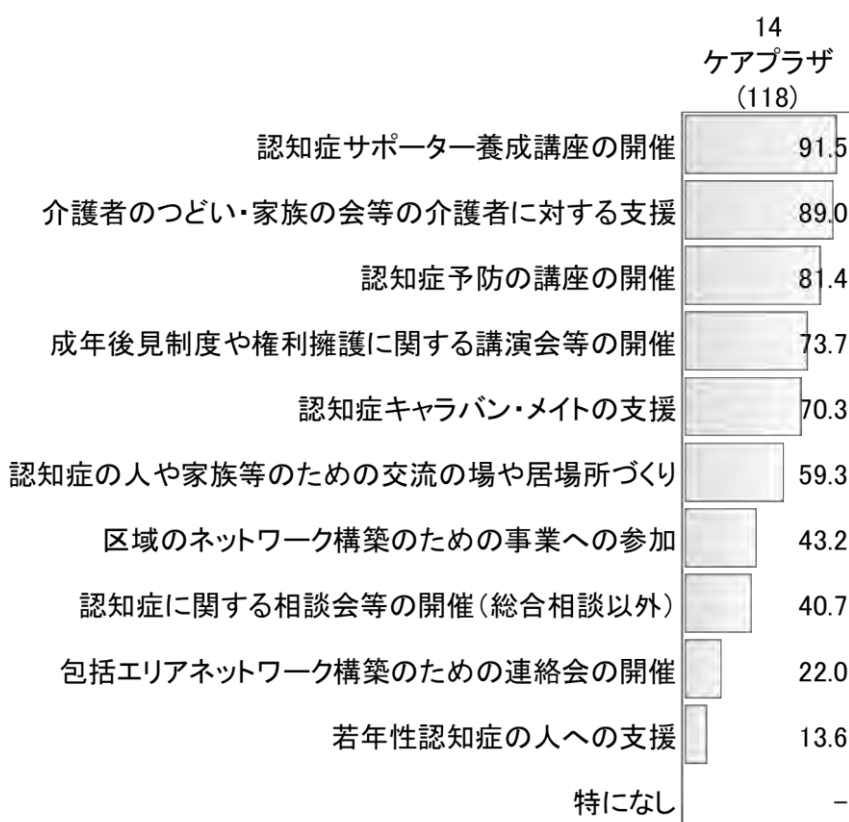
問 認知症に関してどのような取組を行なっていますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号														20					

地域ケアプラザでの認知症に関する取組について、「認知症サポーター養成講座の開催」が91.5%と最も多く、次いで「介護者のつどい・家族の会等の介護者に対する支援」が89.0%となっている。

一方で、「若年性認知症の人への支援」は13.6%、「包括エリアネットワーク構築のための連絡会の開催」は22.0%となっている。

図表 認知症－3－② 地域ケアプラザでの認知症の取組



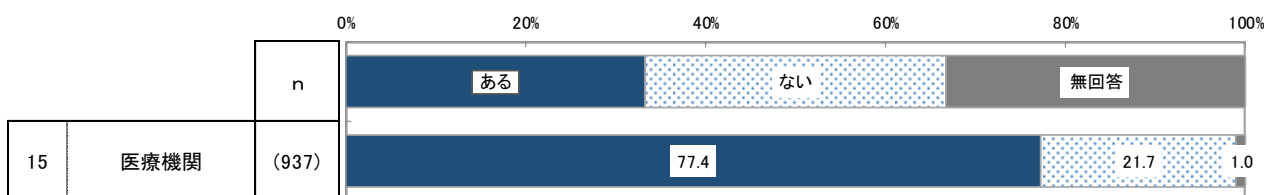
③ 医療機関での認知症患者への対応状況

問 診療で認知症（疑い含む）の人に対応することはありますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号															1				

医療機関での認知症の人への対応状況について、「ある」が77.4%となっている。

図表 認知症－3－③ 医療機関での認知症患者への対応



④ 医療機関での認知症患者等への支援

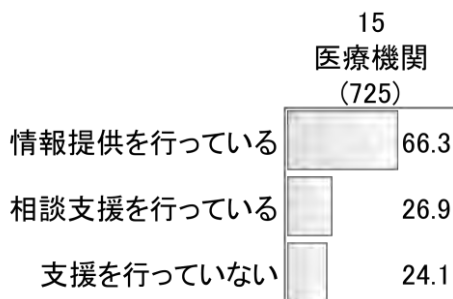
問 認知症患者への支援について、本人や家族等にどのような支援を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号															3				

医療機関で実施している認知症の人への支援について、「情報提供を行っている」が66.3%と最も多く、「相談支援を行っている」が26.9%となっている。

一方で、「支援を行っていない」は24.1%となっている。

図表 認知症－3－④ 医療機関での認知症患者等への支援



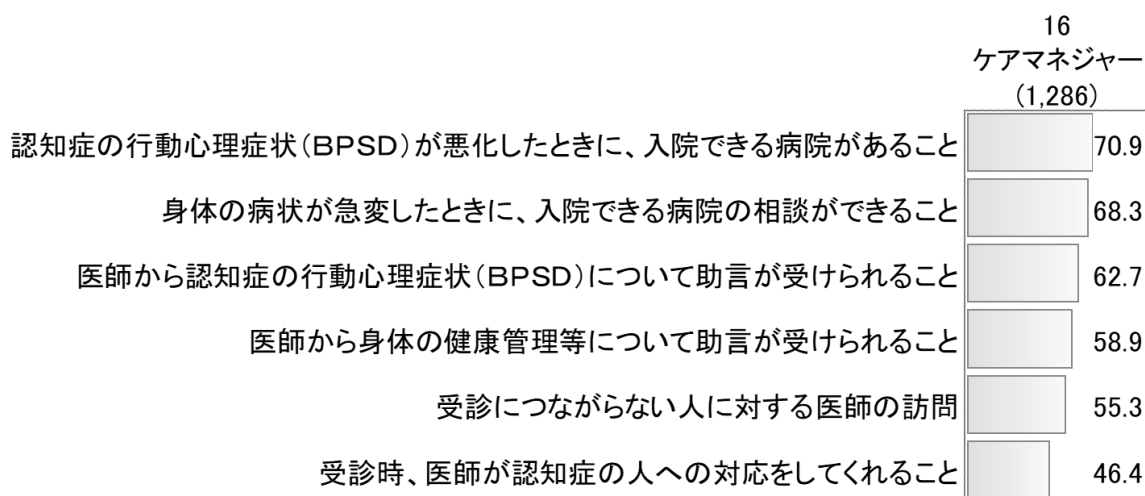
⑤ ケアマネジャーにおける認知症高齢者の対応に向けて必要な医療連携

問 認知症の人の医療連携を進める上で必要なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																37			

ケアマネジャーにおける認知症高齢者の対応に向けて必要な医療連携について、「認知症の行動心理症状が悪化したときに、入院できる病院があること」が70.9%と最も多く、次いで「身体の病状が急変したときに、入院できる病院の相談ができること」が68.3%となっている。

図表 認知症－3－⑤ 認知症高齢者の対応に向けて必要な医療連携



4 認知症の人の権利

① 認知症の人の老後の生活を相談した経験

問 ご自身の今後（老後）の暮らしについて、誰かに話したり、何かに書いたりしましたか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	54-2	52-2	43-2	37-2	33-2														

認知症の人の老後の生活を相談した経験について、全体では「家族に話した」が43.7%と最も多く、次いで「ケアマネジャー等の福祉・介護の専門家に話した」が17.9%となっている。また、「特にしていない」は8.5%となっている。

年齢別でみると、「家族に話した」は高齢になるにつれて多くなる傾向がある。また、85歳以上は「特にしていない」が5.9%と最も少ない。

図表 認知症－4－① 老後の生活についての相談等

		有効回収数（n）	家族に話した	ケアマネジャー等の福祉・介護の専門家に話した	友人・知人に話した	医師等の医療の専門家に話した	エンディングノートに書いた	となり近所の人に話した	特にしていない
認知症の人(全体)		(341)	43.7	17.9	7.6	5.6	4.4	1.8	8.5
年齢別	65歳未満	(4)	-	25.0	-	-	-	-	50.0
	65～69歳	(3)	33.3	-	-	-	-	-	33.3
	70～74歳	(20)	30.0	15.0	5.0	10.0	5.0	-	-
	75～79歳	(52)	34.6	5.8	5.8	3.8	3.8	-	11.5
	80～84歳	(92)	45.7	16.3	5.4	3.3	3.3	3.3	10.9
	85歳以上	(169)	48.5	23.1	10.1	6.5	5.3	1.8	5.9
要介護度	認定なし	(16)	37.5	6.3	6.3	-	-	-	-
	要支援	(33)	48.5	12.1	12.1	6.1	3.0	-	21.2
	要介護1～2	(194)	42.8	17.0	7.7	4.6	4.6	2.1	9.8
	要介護3～5	(98)	44.9	23.5	6.1	8.2	5.1	2.0	3.1

5 認知症に理解ある共生社会の実現

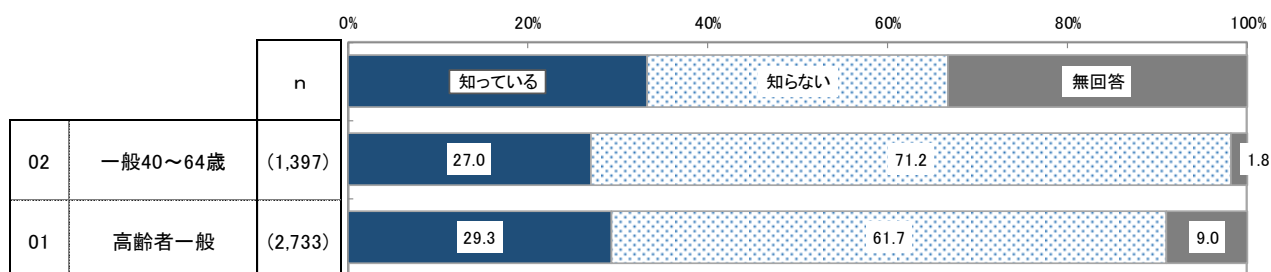
① 認知症に関する相談先の認知度

問 あなた（あて名ご本人）は、あなたやご家族が認知症になった時の相談先を知っていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	47	44																		

自身や家族が認知症になった時の相談先の認知度について、「知っている」は“一般 40～64 歳”で 27.0%、“高齢者一般”で 29.3%となっており、「知らない」が大きく上回っている。

図表 認知症－5－① 認知症に関する相談先の認知度



【経年比較（知っている）】

		(%)	
		R4	R1
		2022年	2019年
02	一般(40～64歳)	27.0	26.4
01	高齢者一般	29.3	32.3

② 認知症に関する相談先

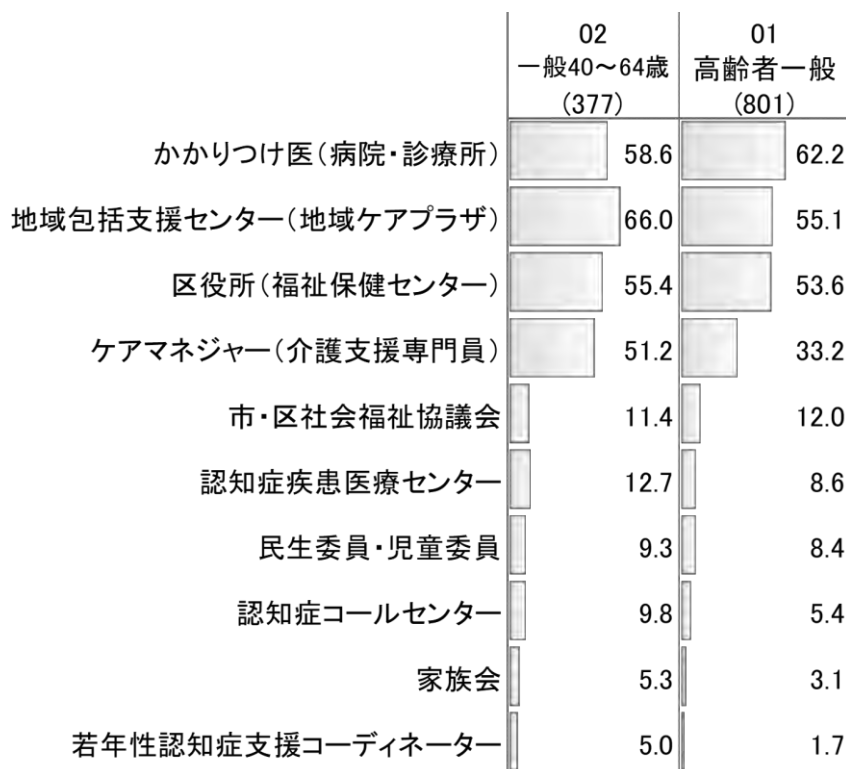
問 相談先として知っているものをお選びください。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号	47-1	44-1																	

認知症の相談先で知っているものについて、“一般40～64歳”では「地域包括支援センター」が66.0%と最も多く、次いで「かかりつけ医」が58.6%となっている。

“高齢者一般”では「かかりつけ医」が62.2%と最も多く、次いで「地域包括支援センター」が55.1%となっている。

図表 認知症－5－② 認知症に関する相談先



③ 医療機関で紹介している相談窓口

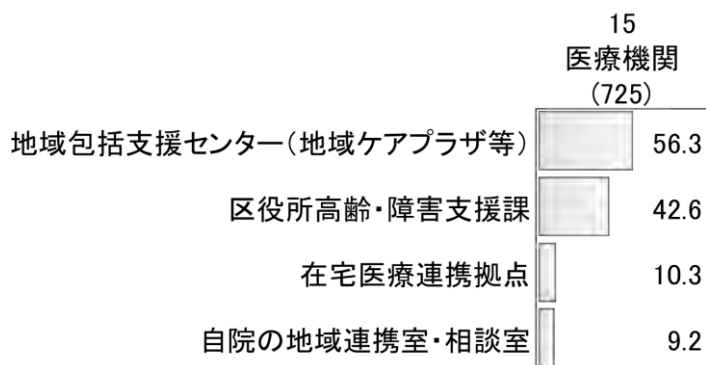
問 認知症患者の相談窓口として、どこを紹介していますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号															2				

医療機関で紹介している相談窓口について、「地域包括支援センター」が56.3%と最も多く、次いで「区役所高齢・障害支援課」が42.6%となっている。

図表 認知症－5－③ 医療機関で紹介している相談窓口



④ 医療機関における市の認知症施策の認知度

問 横浜市の取組として、知っているものを選んでください。

(○はひとつ)

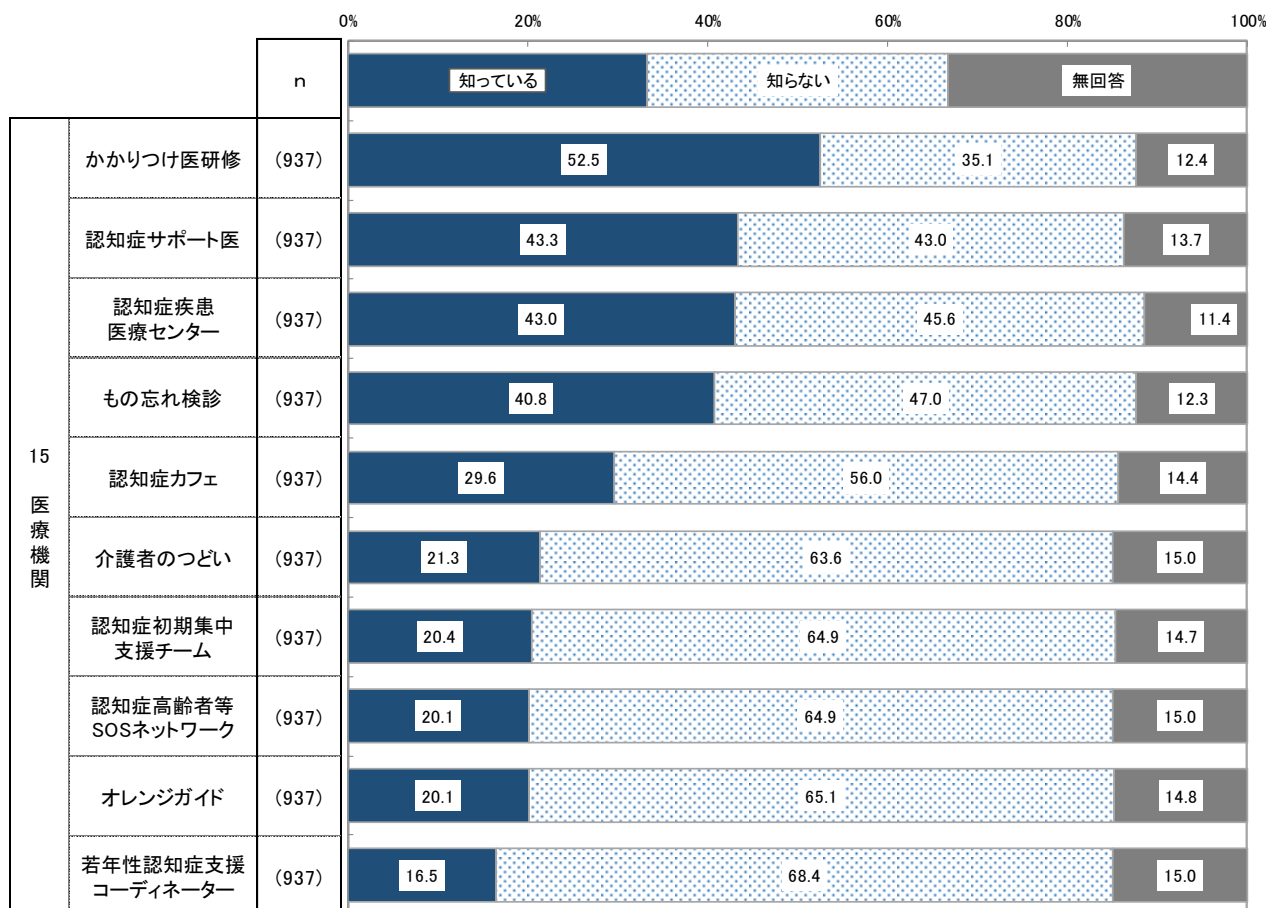
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号															7				

医療機関における市の認知症施策の認知度について、「知っている」が最も多いのは「かかりつけ医研修」で52.5%となっており、次いで「認知症サポート医」「認知症疾患医療センター」「もの忘れ検診」といった医療機関に関連の強い施策となっている。

一方で、「認知症カフェ」「介護者のつどい」「認知症高齢者等 SOS ネットワーク」といった福祉的側面の施策については3割以下となっている。

過去の結果と比較すると、「認知症高齢者等 SOS ネットワーク」「若年性認知症支援コーディネーター」が増加している。

図表 認知症－5－④ 市の認知症施策の認知度



【経年比較（知っている施策）】

	(%)	
	15 医療機関	
	R4	R1
	2022年	2019年
かかりつけ医研修	52.5	X
認知症サポート医	43.3	40.6
認知症疾患医療センター	43.0	38.6
もの忘れ検診	40.8	X
認知症カフェ	29.6	28.1
介護者のつどい	21.3	17.9
認知症初期集中支援チーム	20.4	22.5
認知症高齢者等SOSネットワーク	20.1	15.1
オレンジガイド	20.1	19.2
若年性認知症支援コーディネーター	16.5	11.1

横浜市高齢者実態調査 調査結果報告書

令和5年3月

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

横浜市 健康福祉局 高齢健康福祉部 高齢健康福祉課

電話 045(671)3412 FAX 045(550)3613